

第 4 章 調査結果の分析

第4章 調査結果の分析

4.1 クロス集計軸の設定

調査結果の単純集計と属性や関連する質問項目間のクロス集計を行うため、社会的受容性の判断に影響を与えると考えられる個人的特性（性別・年齢・居住地・知識・社会性価値観、情報獲得行動等）を中心にクロス集計軸を7つ設定した。

表16「クロス集計軸1～3の内容」

集計軸1	集計軸2	集計軸3
【地域】 ・北海道・東北 ・関東 ・中部・北陸 ・近畿 ・中国・四国・九州	【職業】 ・農林漁業 ・自営・商工業 ・自由業 ・管理職 ・事務・技術職 ・労務・技能職 ・パート・アルバイト ・主婦専業 ・学生 ・無職	【男性】 ・男性小計 ・15～19才 ・20～29才 ・30～39才 ・40～49才 ・50～59才 ・60～69才 ・70～79才
【都市規模】 ・21大都市 ・15万以上の都市 ・15万未満の都市 ・郡部	【世帯年収】 ・300万円未満 ・～400万円未満 ・～500万円未満 ・～600万円未満 ・～700万円未満 ・～800万円未満 ・～1000万円未満 ・～1200万円未満 ・1200万円以上	【女性】 ・女性小計 ・15～19才 ・20～29才 ・30～39才 ・40～49才 ・50～59才 ・60～69才 ・70～79才
【性別】 ・男性 ・女性		
【年齢】 ・15～19才 ・20～29才 ・30～39才 ・40～49才 ・50～59才 ・60～69才 ・70～79才		

※全質問にクロス

表 17 「クロス集計軸 4 の内容」

集計軸 4																																											
<p>【子どもの有無】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子供あり ・ 小さい子供あり（0～14 歳） ・ 子供なし 																																											
<p>【原子力発電所隣接（30km 圏内）・原子力発電所非隣接】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 隣接地域：30km 圏内（UPZ:Urgent Protective action planning Zone 圏内） ・ 非立地県：上記以外 <p>●原子力発電所の緊急時防護措置準備区域（UPZ・30km圏内）に含まれる市町村</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>北海道</td> <td>泊村、共和町、岩内町、神恵内村、寿都町、蘭越町、ニセコ町、倶知安町、積丹町、古平町、仁木町、余市町、赤井川村</td> </tr> <tr> <td>青森県</td> <td>東通村、むつ市、野辺地町、横浜町、六ヶ所村</td> </tr> <tr> <td>宮城県</td> <td>女川町、石巻市、登米市、東松島市、涌谷町、美里町、南三陸町</td> </tr> <tr> <td>福島県</td> <td>いわき市、田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯館村</td> </tr> <tr> <td>新潟県</td> <td>柏崎市、刈羽村、長岡市、上越市、小千谷市、十日町市、見附市、燕市、出雲崎町</td> </tr> <tr> <td>茨城県</td> <td>東海村、日立市、那珂市、ひたちなか市、常陸太田市、常陸大宮市、城里町、水戸市、茨城町、大洗町、高萩市、大子町、笠間市、鉾田市</td> </tr> <tr> <td>静岡県</td> <td>御前崎市、牧之原市、菊川市、掛川市、吉田町、袋井市、焼津市、藤枝市、島田市、森町、磐田市</td> </tr> <tr> <td>富山県</td> <td>水見市</td> </tr> <tr> <td>石川県</td> <td>志賀町、七尾市、輪島市、羽咋市、かほく市、宝達志水町、中能登町、穴水町</td> </tr> <tr> <td>岐阜県</td> <td>揖斐川町</td> </tr> <tr> <td>福井県</td> <td>敦賀市、美浜町、小浜市、おおい町、高浜町、福井市、鯖江市、越前市、越前町、池田町、南越前町、若狭町</td> </tr> <tr> <td>滋賀県</td> <td>長浜市、高島市</td> </tr> <tr> <td>京都府</td> <td>舞鶴市、京都市、福知山市、綾部市、宮津市、南丹市、京丹波町、伊根町</td> </tr> <tr> <td>鳥取県</td> <td>米子市、境港市</td> </tr> <tr> <td>島根県</td> <td>松江市、出雲市、安来市、雲南市</td> </tr> <tr> <td>山口県</td> <td>上関町</td> </tr> <tr> <td>愛媛県</td> <td>伊方町、八幡浜市、大洲市、西予市、宇和島市、伊予市、内子町</td> </tr> <tr> <td>福岡県</td> <td>糸島市</td> </tr> <tr> <td>佐賀県</td> <td>玄海町、唐津市、伊万里市</td> </tr> <tr> <td>長崎県</td> <td>松浦市、佐世保市、平戸市、壱岐市</td> </tr> <tr> <td>鹿児島県</td> <td>薩摩川内市、いちき串木野市、阿久根市、鹿児島市、出水市、日置市、姶良市、さつま町、長島町</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right; font-size: small;">出典：原子力規制委員会「原子力災害対策について」</p>		北海道	泊村、共和町、岩内町、神恵内村、寿都町、蘭越町、ニセコ町、倶知安町、積丹町、古平町、仁木町、余市町、赤井川村	青森県	東通村、むつ市、野辺地町、横浜町、六ヶ所村	宮城県	女川町、石巻市、登米市、東松島市、涌谷町、美里町、南三陸町	福島県	いわき市、田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯館村	新潟県	柏崎市、刈羽村、長岡市、上越市、小千谷市、十日町市、見附市、燕市、出雲崎町	茨城県	東海村、日立市、那珂市、ひたちなか市、常陸太田市、常陸大宮市、城里町、水戸市、茨城町、大洗町、高萩市、大子町、笠間市、鉾田市	静岡県	御前崎市、牧之原市、菊川市、掛川市、吉田町、袋井市、焼津市、藤枝市、島田市、森町、磐田市	富山県	水見市	石川県	志賀町、七尾市、輪島市、羽咋市、かほく市、宝達志水町、中能登町、穴水町	岐阜県	揖斐川町	福井県	敦賀市、美浜町、小浜市、おおい町、高浜町、福井市、鯖江市、越前市、越前町、池田町、南越前町、若狭町	滋賀県	長浜市、高島市	京都府	舞鶴市、京都市、福知山市、綾部市、宮津市、南丹市、京丹波町、伊根町	鳥取県	米子市、境港市	島根県	松江市、出雲市、安来市、雲南市	山口県	上関町	愛媛県	伊方町、八幡浜市、大洲市、西予市、宇和島市、伊予市、内子町	福岡県	糸島市	佐賀県	玄海町、唐津市、伊万里市	長崎県	松浦市、佐世保市、平戸市、壱岐市	鹿児島県	薩摩川内市、いちき串木野市、阿久根市、鹿児島市、出水市、日置市、姶良市、さつま町、長島町
北海道	泊村、共和町、岩内町、神恵内村、寿都町、蘭越町、ニセコ町、倶知安町、積丹町、古平町、仁木町、余市町、赤井川村																																										
青森県	東通村、むつ市、野辺地町、横浜町、六ヶ所村																																										
宮城県	女川町、石巻市、登米市、東松島市、涌谷町、美里町、南三陸町																																										
福島県	いわき市、田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯館村																																										
新潟県	柏崎市、刈羽村、長岡市、上越市、小千谷市、十日町市、見附市、燕市、出雲崎町																																										
茨城県	東海村、日立市、那珂市、ひたちなか市、常陸太田市、常陸大宮市、城里町、水戸市、茨城町、大洗町、高萩市、大子町、笠間市、鉾田市																																										
静岡県	御前崎市、牧之原市、菊川市、掛川市、吉田町、袋井市、焼津市、藤枝市、島田市、森町、磐田市																																										
富山県	水見市																																										
石川県	志賀町、七尾市、輪島市、羽咋市、かほく市、宝達志水町、中能登町、穴水町																																										
岐阜県	揖斐川町																																										
福井県	敦賀市、美浜町、小浜市、おおい町、高浜町、福井市、鯖江市、越前市、越前町、池田町、南越前町、若狭町																																										
滋賀県	長浜市、高島市																																										
京都府	舞鶴市、京都市、福知山市、綾部市、宮津市、南丹市、京丹波町、伊根町																																										
鳥取県	米子市、境港市																																										
島根県	松江市、出雲市、安来市、雲南市																																										
山口県	上関町																																										
愛媛県	伊方町、八幡浜市、大洲市、西予市、宇和島市、伊予市、内子町																																										
福岡県	糸島市																																										
佐賀県	玄海町、唐津市、伊万里市																																										
長崎県	松浦市、佐世保市、平戸市、壱岐市																																										
鹿児島県	薩摩川内市、いちき串木野市、阿久根市、鹿児島市、出水市、日置市、姶良市、さつま町、長島町																																										
<p>【原子力やエネルギーに関する知識：問 4 の選択肢合計】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 知識が高い層 「よく知っている」、「ある程度、知っている」の選択肢を選択した合計が 11～15 つ ・ 知識が中程度の層 「よく知っている」、「ある程度、知っている」の選択肢を選択した合計が 4～10 つ ・ 知識が低い層 「よく知っている」、「ある程度、知っている」の選択肢を選択した合計が 1～3 つ ・ 知識がない層 「その他」、「特になし／わからない」を選択 																																											

※全質問にクロス

表 18 「クロス集計軸 5 の内容」

集計軸 5	
<p>【今後利用・活用していくべきエネルギー：問 5】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 石炭火力発電 ・ 石油火力発電 ・ 天然ガス火力発電 ・ 原子力発電 ・ 水力発電 ・ 地熱発電 ・ 風力発電 ・ 太陽光発電 ・ 廃棄物発電 ・ バイオマス発電 ・ その他 ・ あてはまるものはない 	<p>【原子力発電の利用：問 6-1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 増やす ・ 震災以前を維持 ・ しばらく利用、徐々に廃止 ・ 即時、廃止 ・ その他 ・ わからない ・ あてはまるものはない
<p>【原子力発電所の再稼働に関する考え：問 6-2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対策や審査を経れば認める ・ 電力はまなかえている ・ 理解が得られていない ・ 安定供給、温暖化対策 ・ 廃棄物処分の見通し ・ 大事故の不安 ・ 雇用や経済に貢献 ・ 防災体制が不十分 ・ 政府の全面にでる姿勢 ・ 電力会社を信じる ・ 交付金のより良い使い方 ・ 地元住民は静観している ・ 火山の噴火が心配 ・ 電気代を下げしてほしい ・ その他 ・ わからない ・ あてはまるものはない 	

※全質問にクロス

表 19 「クロス集計軸 6 の内容」

集計軸 6
<p>【原子力の専門家に対する信頼：問 9-1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 信頼できる層 信頼できる＋どちらかといえば信頼できる ・ どちらともいえない層 ・ 信頼できない層 信頼できない＋どちらかといえば信頼できない
<p>【国に対する信頼：問 10-1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 信頼できる層 信頼できる＋どちらかといえば信頼できる ・ どちらともいえない層 ・ 信頼できない層 信頼できない＋どちらかといえば信頼できない

※全質問にクロス

表 20 「クロス集計軸 7 の内容」

集計軸 7	
<p>【情報収集への積極性：問 1（情報収集）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館等へ出掛ける ・ インターネット検索 ・ PCでインターネット ・ 携帯でインターネット ・ メールを送る ・ 自分のHPを所有 ・ メルマガ受け取る ・ SNSへの積極参加 ・ 毎日、新聞を読む ・ 折込チラシをチェック ・ テレビを観る ・ ラジオ聞く ・ 雑誌の定期購読あり ・ 自治体広報紙を読む ・ 路上でチラシ受け取る ・ 交通広告をよく見る ・ 情報交換に出掛ける ・ あてはまるものはない 	
<p>【情報収集への積極性：問 1（情報収集）の選択肢合計】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報収集への積極性が高い層 選択肢の合計が 5～17 ・ 情報収集への積極性が中程度の層 選択肢の合計が 2～4 ・ 情報収集への積極性が低い層 選択肢の合計が 1 ・ 情報収集への積極性がない層 「その他」「特にない／わからない」を選択 	
<p>【社会性価値観：問 2（情報収集）の選択肢合計】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会性が高い層 選択肢の合計が 8～15 つ ・ 社会性が中程度の層 選択肢の合計が 3～7 つ ・ 社会性が低い層 選択肢の合計が 1～2 つ ・ 社会性がない層 「その他」、「特にない／わからない」を選択 	

※全質問にクロス

4.2 調査結果の分析

個別訪問留置調査（全国）、Web調査（全国）、Web調査（薩摩川内地域）の3つの単純集計結果と属性や関連する質問項目間のクロス集計の調査結果を基に分析を行った。また、経年的・定点的变化を観察するにあたり、10ポイント以上の差をより特徴的な差が出ているものとみなした。

◆2015年度調査の結果分析

個別訪問留置調査（全国）の単純集計結果と属性や関連する質問項目間のクロス集計結果を基に分析を行った。

○単純集計結果による分析

○経年変化の観察による分析

福島第一原子力発電所の事故後の変化を中心に単純集計結果の経年変化を観察

○クロス集計結果による分析

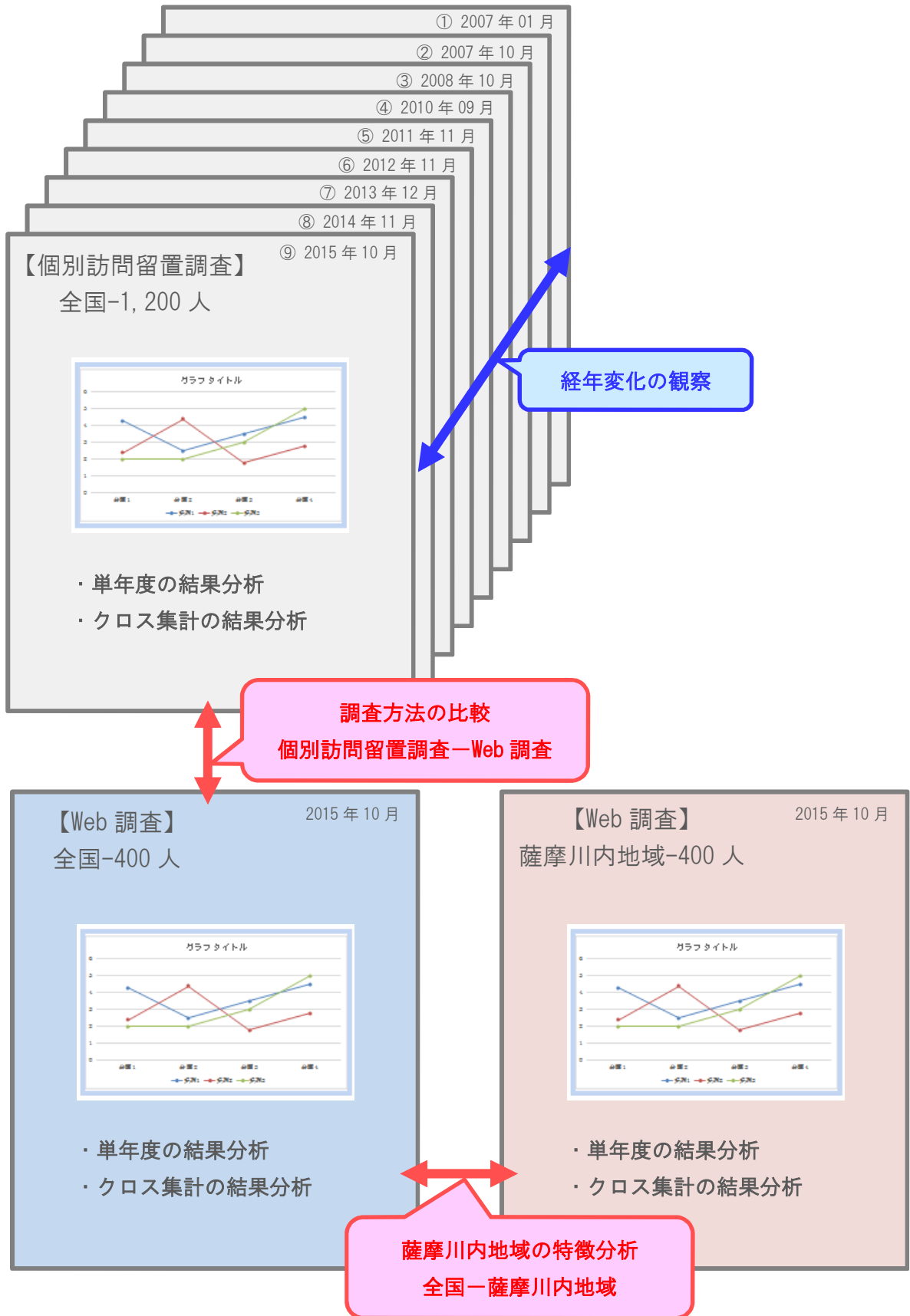
◆参考：調査方法の比較

個別訪問留置調査（全国）とWeb調査（全国）の単純集計結果を比較し、調査方法によってどのような差が見られるかを分析した。

◆参考：薩摩川内地域の特徴分析

Web調査（全国）とWeb調査（薩摩川内地域）の単純集計結果を比較し、地域によってどのような差が見られるかを分析した。

図2 「世論調査結果の分析方法」



**原子力利用に関する世論調査結果
(2015年度)**

調査概要

<個別訪問留置調査(全国)>

- 調査地域 : 全国
- 調査対象者 : 15～79歳男女個人
- サンプリング : 住宅地図データベースから世帯を抽出し、個人を割当
- 標本数の配分 : 200地点(1地点6サンプル)を地域・市郡規模別の各層に比例配分
- 調査方法 : 個別訪問留置調査
- サンプル数 : 1200人
- 実査期間 : 2015年10月2日(金)～10月14日(水)

<Web調査(全国)>

- 調査地域 : 全国
- 調査対象者 : 15～79歳男女個人
- サンプリング : オンラインパネル登録者へのランダム配信
- 標本数の配分 : 全国人口構成比に合うように性・年代・地域で割付
- 調査方法 : Web調査
- 質問内容 : 個別訪問留置調査と同じ質問
- サンプル数 : 400人
- 実査期間 : 2015年10月6日(火)～10月19日(月)

<Web調査(薩摩川内地域)>

- 調査地域 : 川内原子力発電所30km圏内
(鹿児島県 薩摩川内市、出水市、阿久根市、いちき串木野市、日置市、さつま町、鹿児島市、姶良市、長島町)
- 調査対象者 : 15～79歳男女個人(川内原子力発電所30km圏内市町在住)
- サンプリング : オンラインパネル登録者へのランダム配信
- 標本数の配分 : 割付なし
- 調査方法 : Web調査
- 質問内容 : 個別訪問留置調査と同じ質問
- サンプル数 : 400人
- 実査期間 : 2015年10月6日(火)～10月15日(木)

I 章 回答者の属性

<個別訪問留置調査(全国)>

1. 性別

	(%)	
	男性	女性
全体(N=1200)	49.7	50.3

2. 年代

	(%)						
	10代 (15~19歳)	20代	30代	40代	50代	60代	70代
全体(N=1200)	6.0	12.4	16.2	17.8	15.2	18.3	14.2

3. 居住地(原子力発電所隣接(30km圏内)・原子力発電所非隣接)

	(%)	
	30km圏内*	30km圏外
全体(N=1200)	7.0	93.0

*下記参照

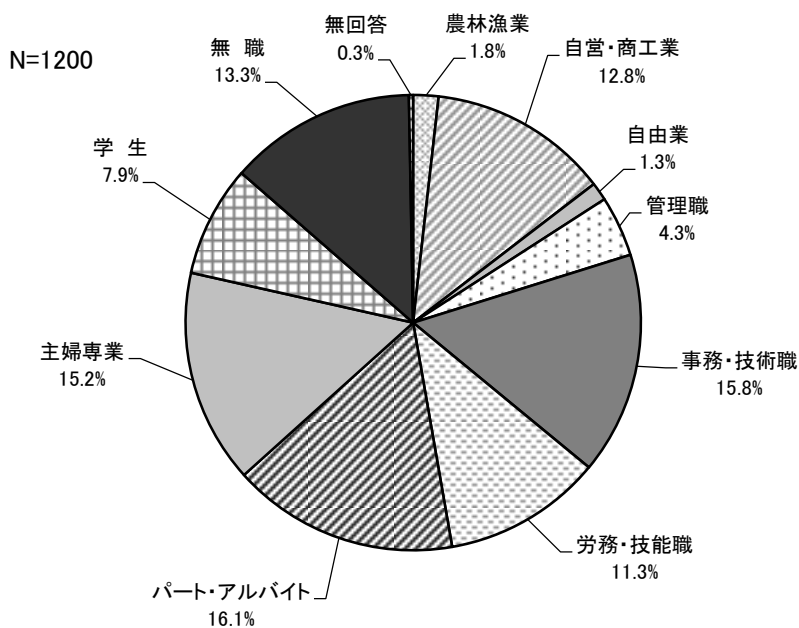
●原子力発電所の緊急時防護措置準備区域(UPZ・30km圏内)に含まれる市町村

北海道	泊村、共和町、岩内町、神恵内村、寿都町、蘭越町、ニセコ町、倶知安町、積丹町、古平町、仁木町、余市町、赤井川村
青森県	東通村、むつ市、野辺地町、横浜町、六ヶ所村
宮城県	女川町、石巻市、登米市、東松島市、涌谷町、美里町、南三陸町
福島県	いわき市、田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯館村
新潟県	柏崎市、刈羽村、長岡市、上越市、小千谷市、十日町市、見附市、燕市、出雲崎町
茨城県	東海村、日立市、那珂市、ひたちなか市、常陸太田市、常陸大宮市、城里町、水戸市、茨城町、大洗町、高萩市、大子町、笠間市、鉾田市
静岡県	御前崎市、牧之原市、菊川市、掛川市、吉田町、袋井市、焼津市、藤枝市、島田市、森町、磐田市
富山県	氷見市
石川県	志賀町、七尾市、輪島市、羽咋市、かほく市、宝達志水町、中能登町、穴水町
岐阜県	揖斐川町
福井県	敦賀市、美浜町、小浜市、おおい町、高浜町、福井市、鯖江市、越前市、越前町、池田町、南越前町、若狭町
滋賀県	長浜市、高島市
京都府	舞鶴市、京都市、福知山市、綾部市、宮津市、南丹市、京丹波町、伊根町
鳥取県	米子市、境港市
島根県	松江市、出雲市、安来市、雲南市
山口県	上関町
愛媛県	伊方町、八幡浜市、大洲市、西予市、宇和島市、伊予市、内子町
福岡県	糸島市
佐賀県	玄海町、唐津市、伊万里市
長崎県	松浦市、佐世保市、平戸市、壱岐市
鹿児島県	薩摩川内市、いちき串木野市、阿久根市、鹿児島市、出水市、日置市、姶良市、さつま町、長島町

出典：原子力規制委員会「原子力災害対策について」

<個別訪問留置調査(全国)>

4. 職業



5. 未婚

	(%)					
	既婚	別居	離婚	死別	未婚	無回答
全体(N=1200)	70.8	0.3	3.7	4.7	20.3	0.2

6. 学歴

	(%)		
	短大卒以下	大学卒以上	無回答
全体(N=1200)	73.7	25.5	0.8

7. 子どもの有無

	(%)			
	子どもあり	小さい子どもあり*	子どもなし	無回答
全体(N=1200)	60.3	25.2	31.8	7.9

*0~14歳の子ども

<Web調査(全国)>

1. 性別

(%)		
	男性	女性
全体(N=400)	49.8	50.3

2. 年代

(%)							
	10代 (15~19歳)	20代	30代	40代	50代	60代	70代
全体(N=400)	5.8	12.8	15.8	18.0	15.5	27.3	5.0

3. 居住地(原子力発電所隣接(30km圏内)・原子力発電所非隣接)

(%)		
	30km圏内*	30km圏外
全体(N=400)	6.5	93.5

*下記参照

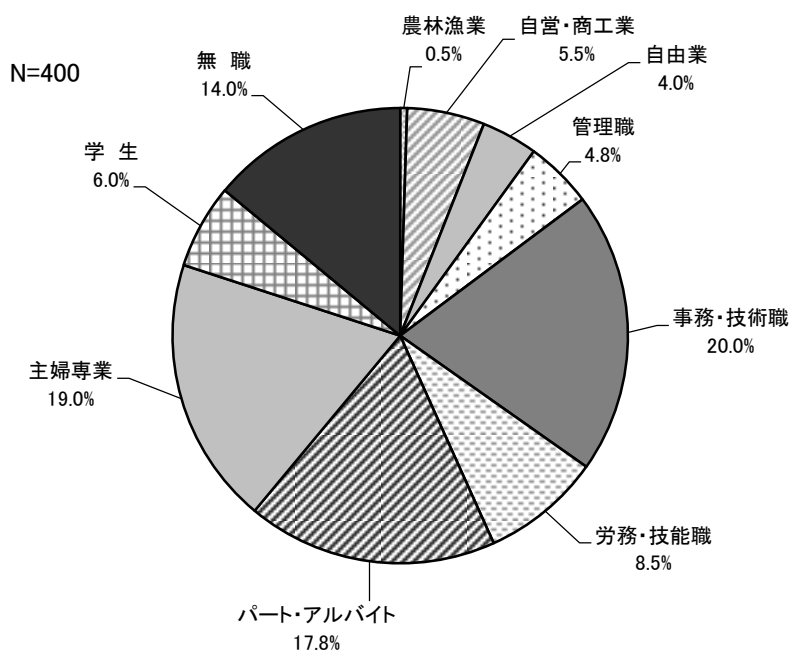
●原子力発電所の緊急時防護措置準備区域(UPZ・30km圏内)に含まれる市町村

北海道	泊村、共和町、岩内町、神恵内村、寿都町、蘭越町、二セコ町、倶知安町、積丹町、古平町、仁木町、余市町、赤井川村
青森県	東通村、むつ市、野辺地町、横浜町、六ヶ所村
宮城県	女川町、石巻市、登米市、東松島市、涌谷町、美里町、南三陸町
福島県	いわき市、田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯館村
新潟県	柏崎市、刈羽村、長岡市、上越市、小千谷市、十日町市、見附市、燕市、出雲崎町
茨城県	東海村、日立市、那珂市、ひたちなか市、常陸太田市、常陸大宮市、城里町、水戸市、茨城町、大洗町、高萩市、大子町、笠間市、鉾田市
静岡県	御前崎市、牧之原市、菊川市、掛川市、吉田町、袋井市、焼津市、藤枝市、島田市、森町、磐田市
富山県	氷見市
石川県	志賀町、七尾市、輪島市、羽咋市、かほく市、宝達志水町、中能登町、穴水町
岐阜県	揖斐川町
福井県	敦賀市、美浜町、小浜市、おおい町、高浜町、福井市、鯖江市、越前市、越前町、池田町、南越前町、若狭町
滋賀県	長浜市、高島市
京都府	舞鶴市、京都市、福知山市、綾部市、宮津市、南丹市、京丹波町、伊根町
鳥取県	米子市、境港市
島根県	松江市、出雲市、安来市、雲南市
山口県	上関町
愛媛県	伊方町、八幡浜市、大洲市、西予市、宇和島市、伊予市、内子町
福岡県	糸島市
佐賀県	玄海町、唐津市、伊万里市
長崎市	松浦市、佐世保市、平戸市、壱岐市
鹿児島県	薩摩川内市、いちき串木野市、阿久根市、鹿児島市、出水市、日置市、姶良市、さつま町、長島町

出典:原子力規制委員会「原子力災害対策について」

<Web調査(全国)>

4. 職業



5. 未既婚

	既婚	別居	離婚	死別	未婚	無回答
全体(N=400)	55.5	0.8	6.0	3.0	34.8	-

6. 学歴

	短大卒以下	大学卒以上	無回答
全体(N=400)	55.1	45.0	-

7. 子どもの有無

	子どもあり	小さい子どもあり*	子どもなし	無回答
全体(N=400)	50.8	13.5	42.0	7.2

*0~14歳の子ども

<Web調査(薩摩川内地域)>

1. 性別

(%)

	男性	女性
全体(N=400)	47.3	52.8

2. 年代

(%)

	10代 (15~19歳)	20代	30代	40代	50代	60代	70代
全体(N=400)	3.0	12.8	23.3	23.0	22.3	12.5	3.3

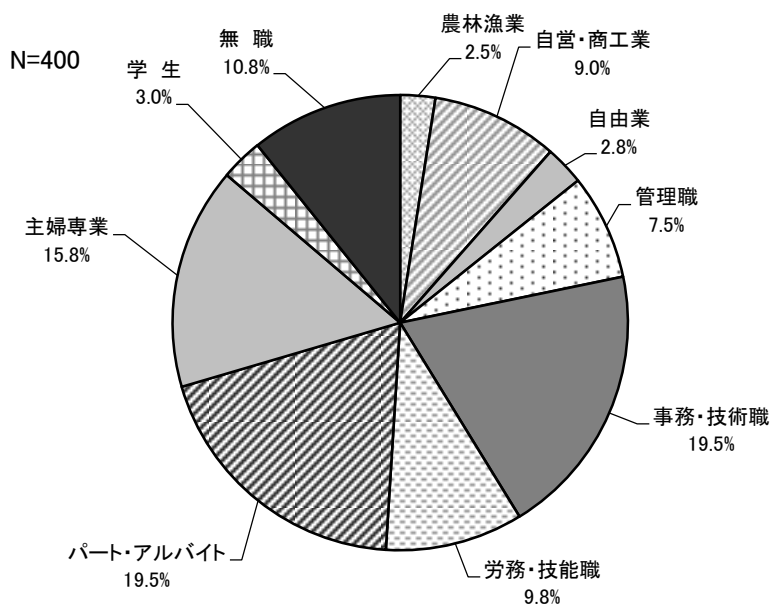
3. 居住地(川内原子力発電所30km圏内)

	全体(N=400)
薩摩川内市	14.0
いちき串木野市	4.8
阿久根市	1.5
鹿児島市	44.8
出水市	9.5
日置市	8.8
始良市	13.3
薩摩郡さつま町	1.8
出水郡長島町	1.8

(%)

<Web調査(薩摩川内地域)>

4. 職業



5. 未既婚

	既婚	別居	離婚	死別	未婚	無回答
全体(N=400)	58.3	0.5	7.0	0.8	33.5	-

6. 学歴

	短大卒以下	大学卒以上	無回答
全体(N=400)	67.2	33.0	-

7. 子どもの有無

	子どもあり	小さい子どもあり*	子どもなし	無回答
全体(N=400)	49.8	19.8	41.5	8.7

*0~14歳の子ども

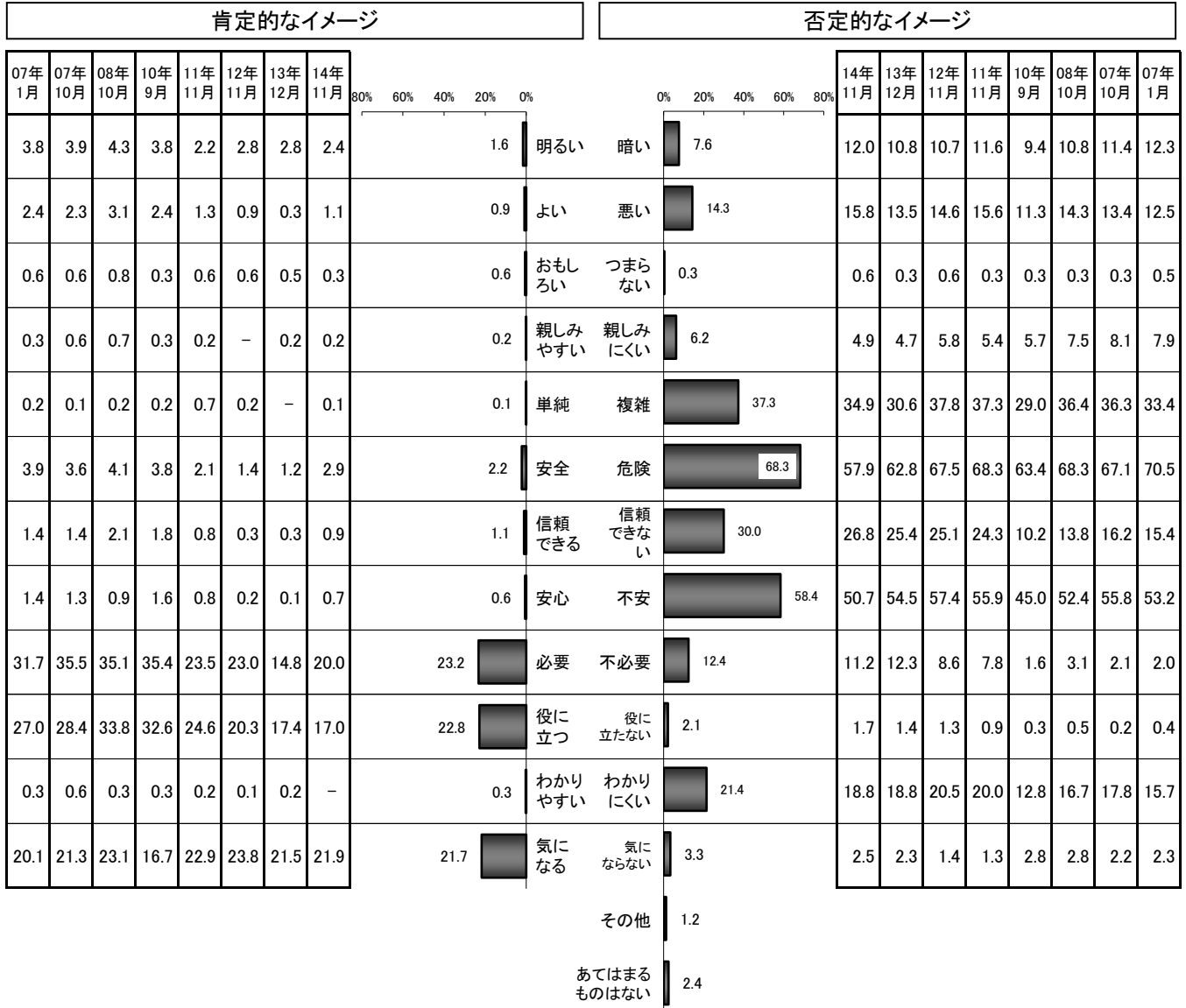
Ⅱ章 原子力・放射線に対する イメージ

●原子力に対するイメージ

「原子力」という言葉から思い浮かぶイメージを尋ねたところ、全体として肯定的なイメージより否定的なイメージの反応が高く、「危険」(68.3%)、「不安」(58.4%)、「複雑」(37.3%)に回答が集中。一方、肯定的なイメージは、「必要」(23.2%)、「役に立つ」(22.8%)、「気になる」(21.7%)という回答が多く、他の項目はきわめて低い反応水準にある。肯定的／否定的イメージとも上位3項目は前回と同様。「危険」「不安」という認識は増加傾向。同様に「信頼できない」という認識も増加傾向である。一方、「必要」「役に立つ」という認識は福島事故後から減少傾向が底を打ち、昨年引き続き回復傾向にある。

問1. あなたは「原子力」という言葉を聞いたときに、どのようなイメージを思い浮かべますか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

全体 N=1200



<調査方法による比較>

問1. あなたは「原子力」という言葉を聞いたときに、どのようなイメージを思い浮かべますか。
次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

N=400					N=1200			N=400		
15年 薩摩川内 Web	15年 全国Web	15年 全国留置			15年 全国留置	15年 全国Web	15年 薩摩川内 Web			
2.8	2.0	1.6	明るい	暗い	7.6	9.5	9.5			
2.3	0.8	0.9	よい	悪い	14.3	11.0	13.3			
0.8	0.5	0.6	おもしろい	つまらない	0.3	0.3	0.8			
1.0	0.8	0.2	親しみやすい	親しみにくい	6.2	7.3	6.8			
0.5	-	0.1	単純	複雑	37.3	31.5	31.8			
3.0	0.8	2.2	安全	危険	68.3	49.0	46.8			
2.3	1.5	1.1	信頼できる	信頼できない	30.0	27.3	32.3			
2.0	1.5	0.6	安心	不安	58.4	54.8	53.0			
18.3	16.0	23.2	必要	不必要	12.4	14.5	18.3			
20.8	18.3	22.8	役に立つ	役に立たない	2.1	2.0	3.5			
0.5	0.5	0.3	わかりやすい	わかりにくい	21.4	9.5	12.3			
18.3	15.8	21.7	気になる	気にならない	3.3	0.5	2.5			
				その他	1.2	2.3	1.0			
				あてはまるものはない	2.4	7.8	4.8			

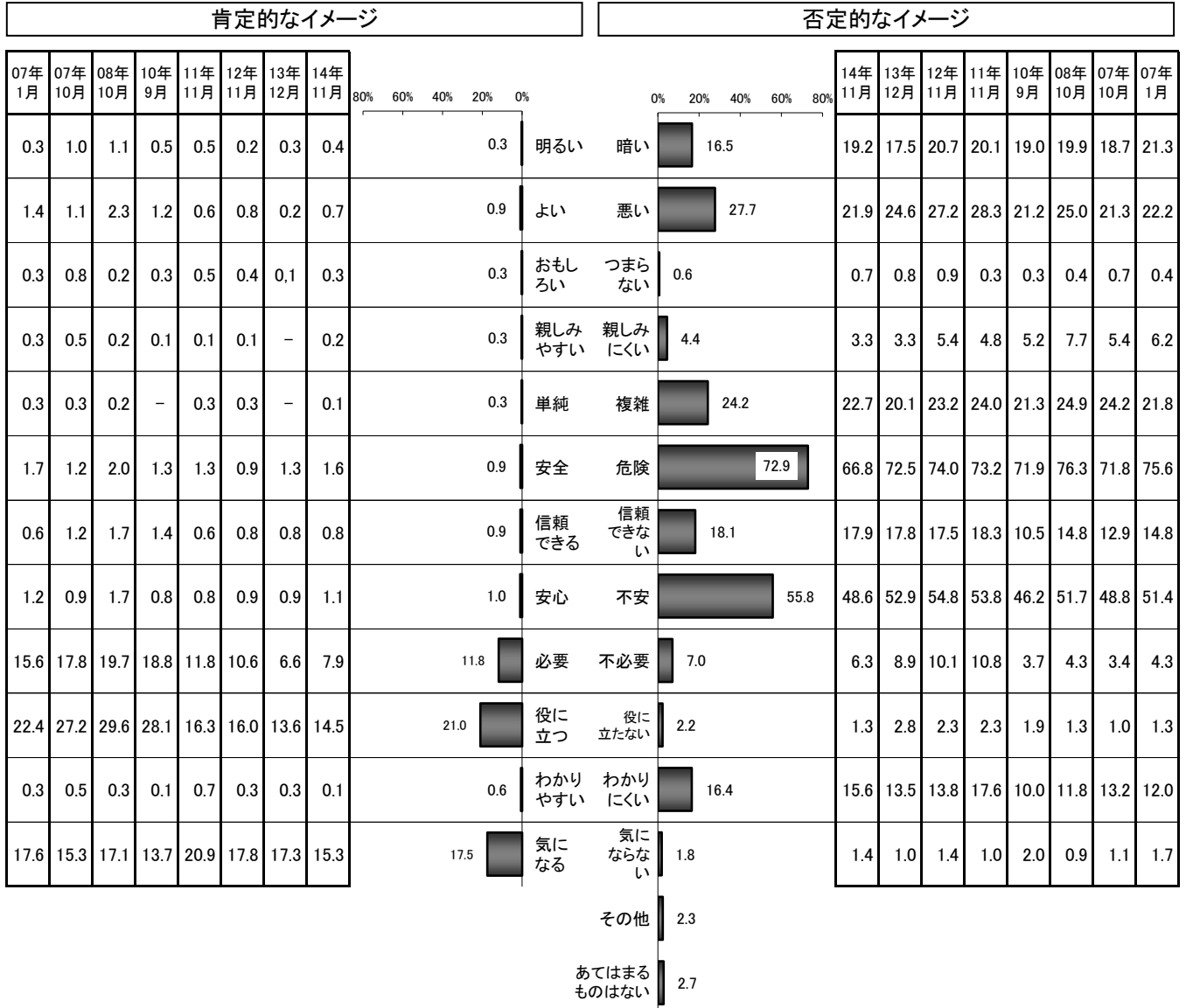
(%)

●放射線に対するイメージ

「放射線」という言葉から思い浮かぶイメージを尋ねたところ、全体として肯定的なイメージよりも否定的なイメージの反応が圧倒的に高く、「危険」(72.9%)、「不安」(55.8%)という回答が突出している。一方、肯定的なイメージでは「役に立つ」(21.0%)、「気になる」(17.5%)という回答が高いが、否定的イメージと比べるとポイント数が圧倒的に低い。否定的イメージは高いポイントで安定している。一方、「役に立つ」イメージは増加している。

問2. あなたは「放射線」という言葉を聞いたときに、どのようなイメージを思い浮かべますか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

全体 N=1200



<調査方法による比較>

問2. あなたは「放射線」という言葉を聞いたときに、どのようなイメージを思い浮かべますか。
次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

N=400					N=1200					N=400		
15年 薩摩川内 Web	15年 全国Web	15年 全国留置			15年 全国留置	15年 全国Web	15年 薩摩川内 Web			15年 全国留置	15年 全国Web	15年 薩摩川内 Web
-	-	0.3	明るい	暗い	16.5	13.3	21.3					
0.5	0.8	0.9	よい	悪い	27.7	18.3	26.8					
-	0.5	0.3	おもしろい	つまらない	0.6	0.5	1.3					
-	-	0.3	親しみやすい	親しみにくい	4.4	2.8	4.5					
0.5	0.5	0.3	単純	複雑	24.2	17.0	20.5					
1.3	1.5	0.9	安全	危険	72.9	62.8	69.3					
1.3	1.5	0.9	信頼できる	信頼できない	18.1	15.5	20.5					
2.0	1.0	1.0	安心	不安	55.8	45.8	46.5					
9.3	5.8	11.8	必要	不必要	7.0	8.8	11.8					
11.3	11.3	21.0	役に立つ	役に立たない	2.2	3.0	5.3					
0.5	0.5	0.6	わかりやすい	わかりにくい	16.4	8.3	8.5					
10.0	12.0	17.5	気になる	気にならない	1.8	0.8	1.8					
				その他	2.3	1.0	1.5					
				あてはまるものはない	2.7	8.0	5.3					

(%)

Ⅲ章 原子力・放射線・エネルギーについての 関心・知識

●原子力・放射線・エネルギー分野への関心

原子力やエネルギーの分野について関心のあることを尋ねた。

突出して関心が高い項目は「地球温暖化」(54.5%)である。次いで、「放射線による人体の影響」(37.6%)、「原子力施設のリスク」(37.2%)、「放射性廃棄物の処分」(36.4%)、「日本のエネルギー事情」(36.3%)、「太陽光発電の開発状況」(32.6%)。

前回に比べて、「地球温暖化」の関心が増加した。それに次ぐ5項目は高いポイントで安定している。その中でも、原子力に関わる項目の関心は増加して見える。

問3. 原子力やエネルギーの分野において、あなたが関心のあることはどれですか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

全体 N=1200

	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	14年 11月	13年 12月	12年 11月	11年 11月	10年 9月	08年 10月	07年 10月	07年 1月
石油や石炭など化石資源の消費	22.2							17.2	17.8	20.7	22.3	23.3	24.1	23.3	13.3
地球温暖化	54.5							49.5	45.9	52.1	55.8	62.8	64.7	65.3	60.1
世界のエネルギー事情	21.6							21.1	20.7	23.4	27.0	25.9	25.3	23.1	25.3
日本のエネルギー事情	36.3							36.7	36.8	41.6	41.0	36.1	39.1	35.4	35.9
太陽光発電の開発状況	32.6							33.5	38.3	39.9	44.2	37.8	38.9	32.9	35.5
風力発電の開発状況	20.9							21.0	27.8	27.5	29.8	21.9	23.8	25.0	25.3
バイオマス発電の開発状況	14.1							13.2	14.0	12.4	15.5	8.6	9.9	9.2	7.8
核分裂のしくみ	6.1							4.9	4.7	4.0	5.3	3.3	4.0	4.9	4.3
原子力発電の安全性	30.4							25.0	26.8	22.2	23.8	24.3	25.5	25.8	25.6
プルサーマル・核燃料サイクル	8.1							6.8	8.7	6.4	7.3	10.6	9.8	9.6	10.1
放射線による人体の影響	37.6							30.5	41.7	37.3	40.5	32.0	32.3	31.7	32.8
放射線の工業利用	4.8							3.8	5.8	4.8	5.0	5.1	5.0	6.3	5.9
放射線の医療利用	21.3							14.5	22.1	28.5	29.8	36.0	36.2	33.9	35.9
放射線の農業利用	3.7							3.9	5.2	5.7	5.8	5.2	5.3	4.8	6.1
核不拡散	9.4							8.0	8.7	6.8	7.4	8.3	8.3	9.8	10.2
高速増殖炉「もんじゅ」のしくみ	5.7							5.3	6.7	6.3	5.0	7.6	5.6	4.8	4.0
高速増殖炉「もんじゅ」の安全性	11.0							9.1	11.4	9.8	8.4	10.9	11.8	11.8	10.9
核燃料の製造加工	4.7							3.8	4.0	3.1	4.2	3.4	4.0	4.3	3.2
省エネルギー	25.4							22.3	15.8	20.2	24.0	28.1	30.9	30.0	30.2
放射性廃棄物の処分	36.4							33.3	35.4	29.0	32.8	23.3	27.4	30.3	28.5
使用済燃料の貯蔵	23.4							20.1	24.7	18.9	18.1	14.5	16.8	16.3	18.0
原子力施設のリスク(事故・トラブルなど)	37.2							32.2	37.9	29.0	32.4				
原子力発電所の再稼働	25.8							21.2							
原子力発電所の防災体制	21.5							19.0							
各発電方法の発電コスト比較	13.2							10.1							
その他	0.8							1.6	0.9	0.3	0.8	0.2	0.3	0.3	0.4
特にない／わからない	16.0							18.7	18.6	14.1	11.2	14.8	14.8	14.6	19.3

* 07年1月の選択肢は「化石資源の消費」、07年10月からは「石油や石炭など化石資源の消費」に変更

* 07年1月、07年10月の選択肢は「高速増殖炉のしくみ」、08年10月からは「高速増殖炉「もんじゅ」のしくみ」に変更

* 「原子力施設のリスク(事故・トラブルなど)」は、11年11月から追加

* 「原子力発電所の再稼働」「原子力発電所の防災体制」「各発電方法の発電コスト比較」は、14年11月から追加

<調査方法による比較>

問3. 原子力やエネルギーの分野において、あなたが関心のあることはどれですか。
次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

N→	15年 全国留置 1200	15年 全国Web 400	15年 薩摩川内Web 400
石油や石炭など化石資源の消費	22.2	20.8	23.8
地球温暖化	54.5	43.3	49.5
世界のエネルギー事情	21.6	21.8	26.8
日本のエネルギー事情	36.3	31.8	41.3
太陽光発電の開発状況	32.6	28.3	42.0
風力発電の開発状況	20.9	22.8	30.3
バイオマス発電の開発状況	14.1	23.8	24.5
核分裂のしくみ	6.1	6.5	7.8
原子力発電の安全性	30.4	24.3	31.5
プルサーマル・核燃料サイクル	8.1	13.0	11.5
放射線による人体の影響	37.6	25.0	31.3
放射線の工業利用	4.8	6.0	10.5
放射線の医療利用	21.3	12.8	15.5
放射線の農業利用	3.7	4.8	8.0
核不拡散	9.4	10.0	9.0
高速増殖炉「もんじゅ」のしくみ	5.7	7.5	8.0
高速増殖炉「もんじゅ」の安全性	11.0	10.3	11.8
核燃料の製造加工	4.7	5.5	6.5
省エネルギー	25.4	23.8	25.8
放射性廃棄物の処分	36.4	29.5	32.5
使用済燃料の貯蔵	23.4	20.5	23.5
原子力施設のリスク(事故・トラブルなど)	37.2	30.5	38.3
原子力発電所の再稼働	25.8	20.5	25.5
原子力発電所の防災体制	21.5	16.3	19.3
各発電方法の発電コスト比較	13.2	13.3	17.0
その他	0.8	1.0	0.3
特になし／わからない	16.0	18.3	13.8

(%)

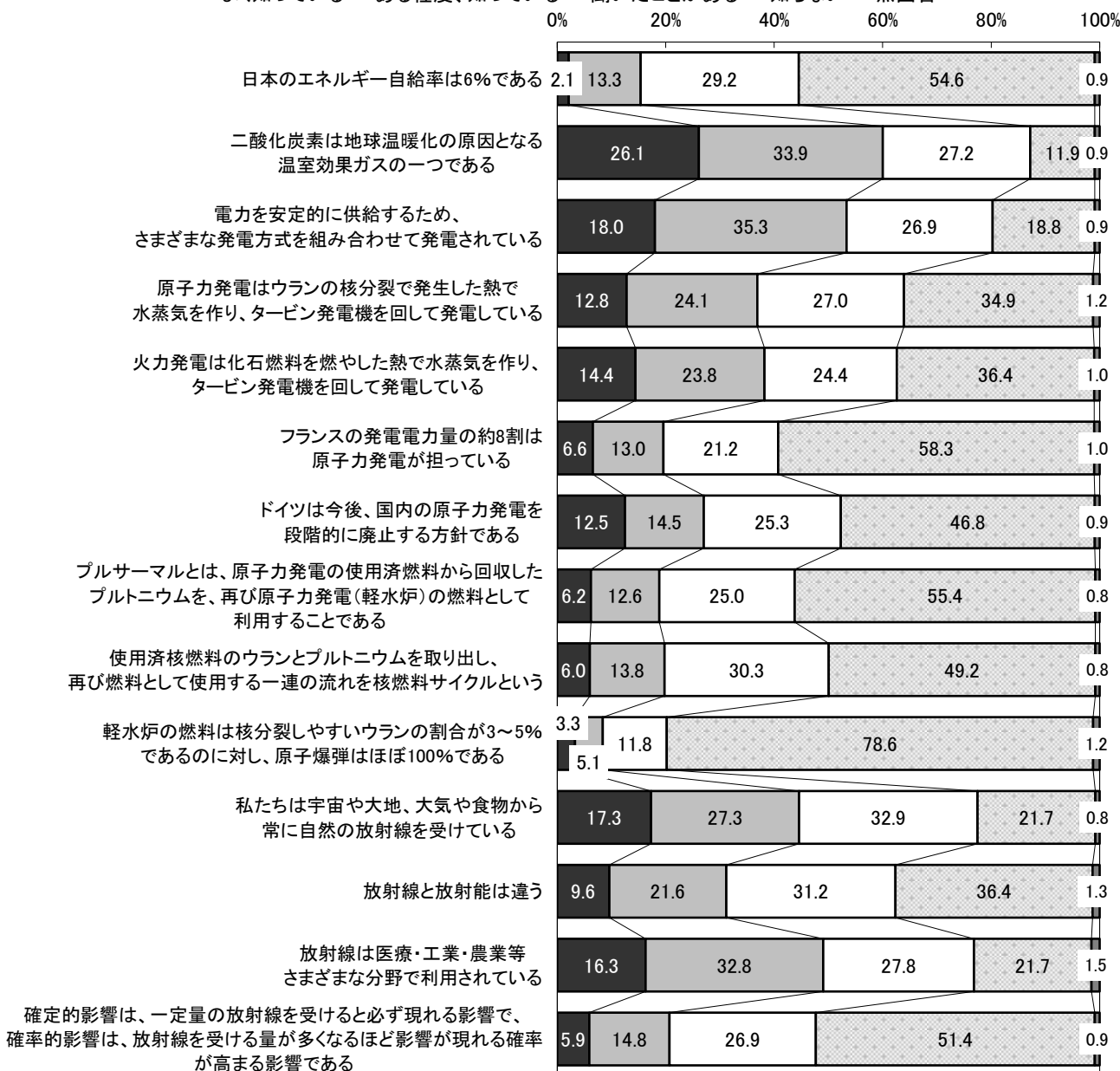
●原子力・エネルギー分野に関する知識

原子力やエネルギー分野で認知率が高い項目は、「二酸化炭素は地球温暖化の原因となる温室効果ガスの一つである」(よく知っている・ある程度知っている 60.0%)、「電力を安定的に供給するため、さまざまな発電方法を組み合わせて発電されている」(よく知っている・ある程度知っている 53.3%)。その他、放射線利用、自然放射線が知られている。一方で、認知率の低い項目として、「軽水炉の燃料は核分裂しやすいウランの割合が3~5%であるのに対し、原子爆弾はほぼ100%である」(知らない 78.6%)が突出している。その他、日本のエネルギー自給率、フランスの原子力事情、プルサーマル、放射線の確定的影響と確率的影響の違いが知られていない。全体の傾向は前回と変わらない。

問4. 原子力やエネルギーに関する次の事柄について、あなたはどの程度ご存知ですか。それぞれについてお答えください。(○はそれぞれ1つずつ)

全体 N=1200

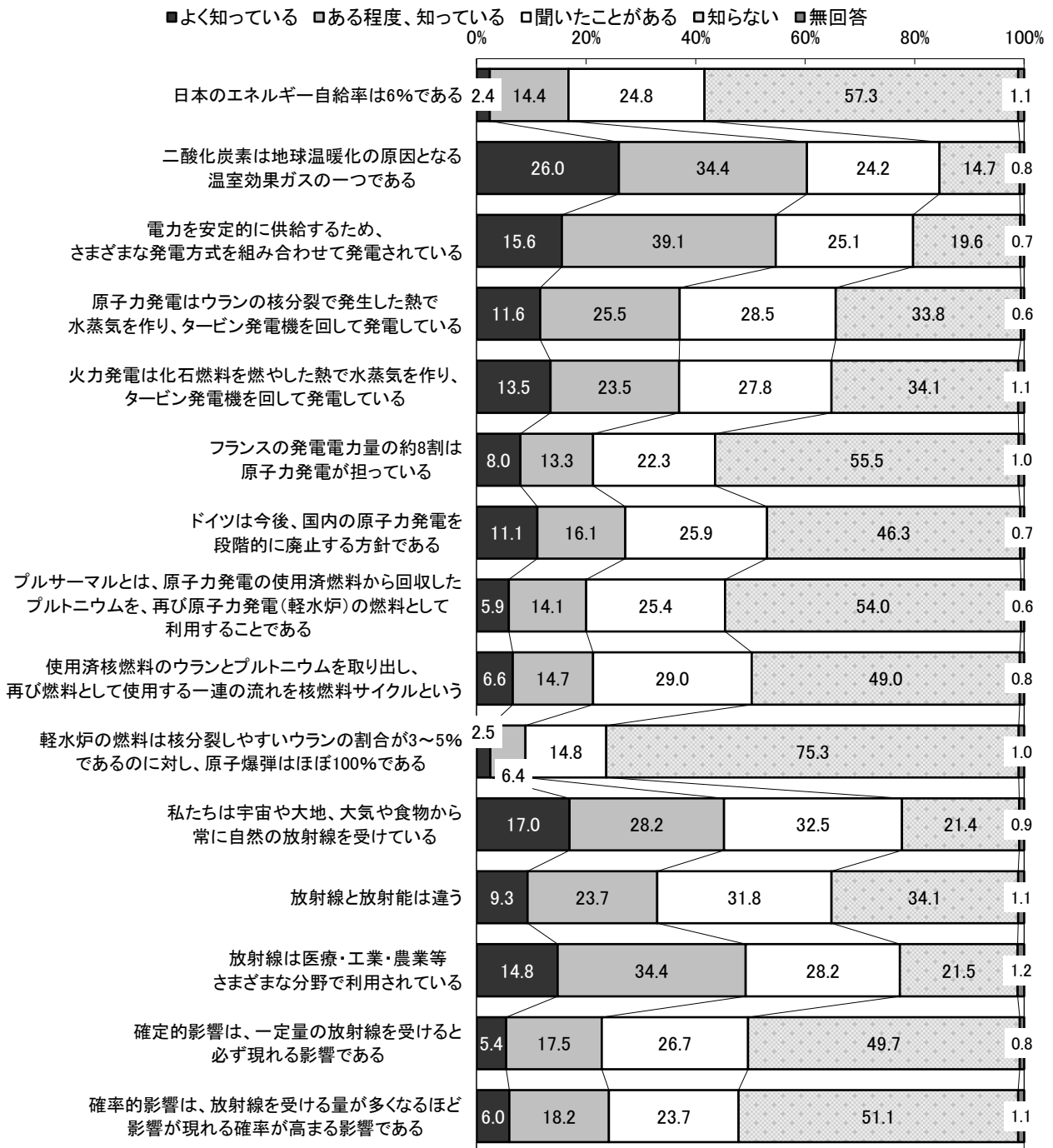
■よく知っている □ある程度、知っている □聞いたことがある □知らない ■無回答



<経年変化> 2014年11月

問. 原子力やエネルギーに関する次の事柄について、あなたはどの程度ご存知ですか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

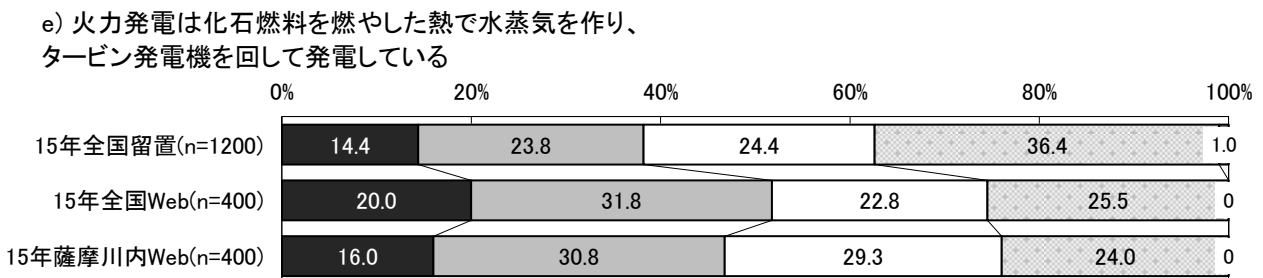
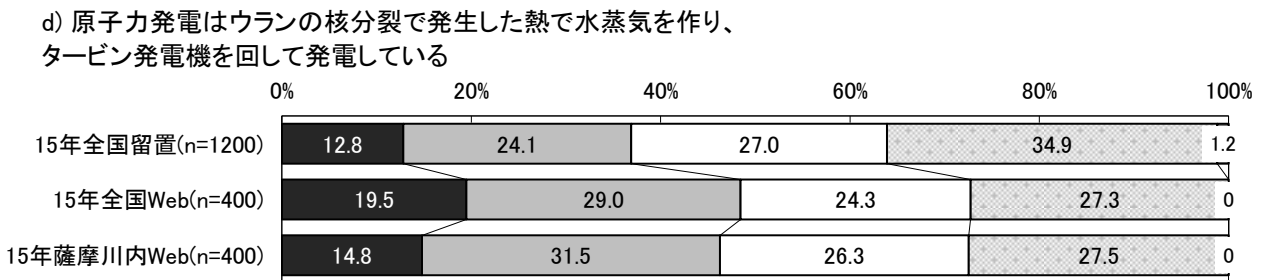
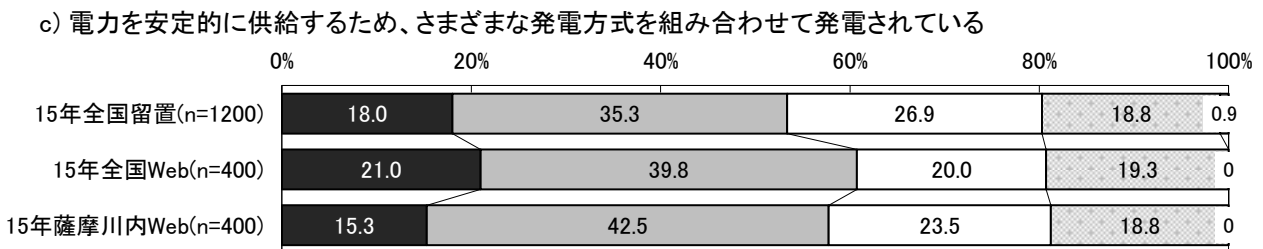
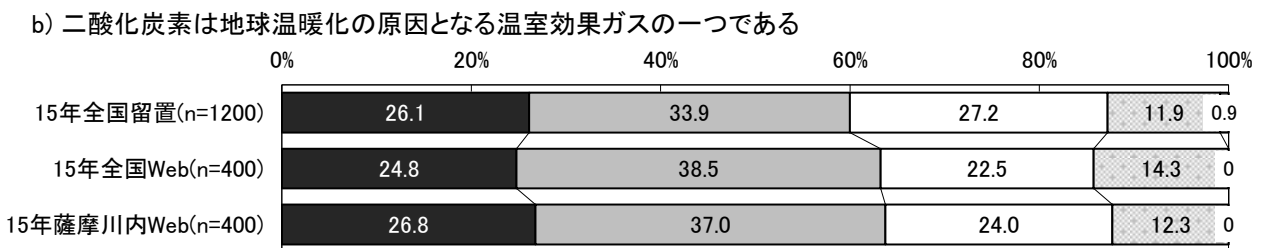
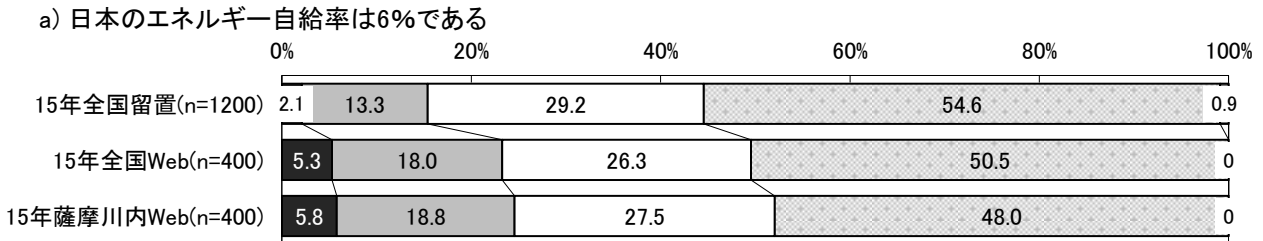
全体 N=1200



<調査方法による比較>

問4. 原子力やエネルギーに関する次の事柄について、あなたはどの程度ご存知ですか。それぞれについてお答えください。(○はそれぞれ1つずつ)

■よく知っている □ある程度、知っている □聞いたことがある □知らない ■無回答

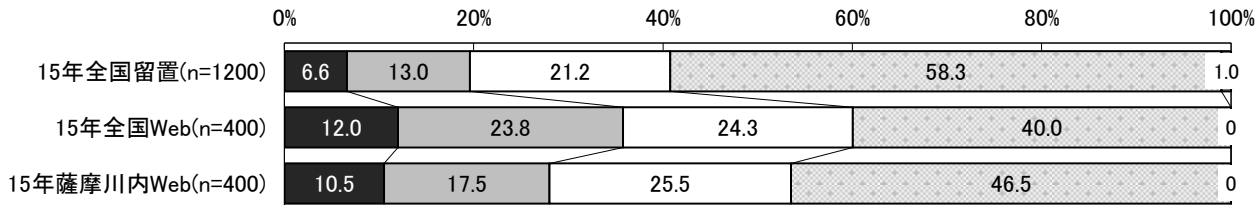


<調査方法による比較>

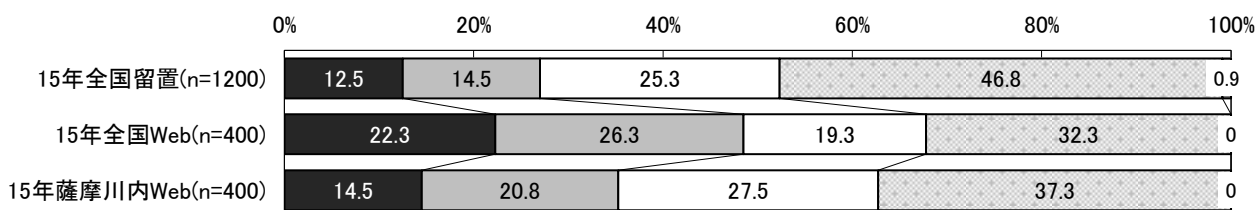
問4. 原子力やエネルギーに関する次の事柄について、あなたはどの程度ご存知ですか。それぞれについてお答えください。(○はそれぞれ1つずつ)

■よく知っている □ある程度、知っている □聞いたことがある □知らない □無回答

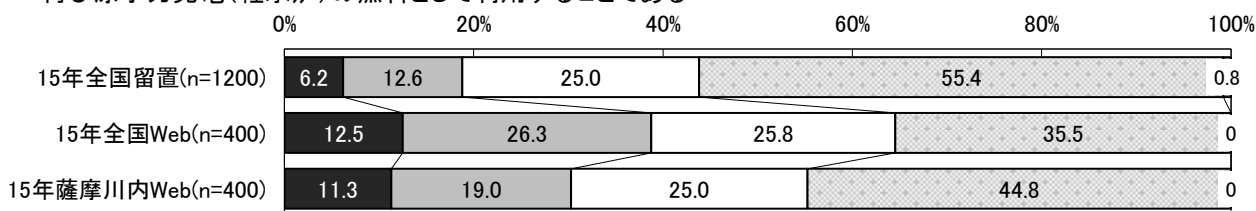
f) フランスの発電電力量の約8割は原子力発電が担っている



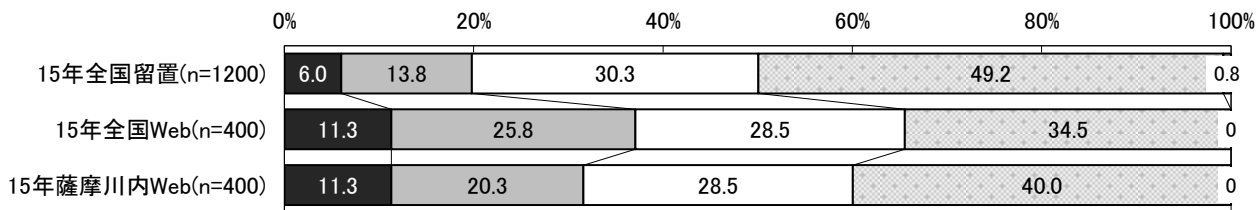
g) ドイツは今後、国内の原子力発電を段階的に廃止する方針である



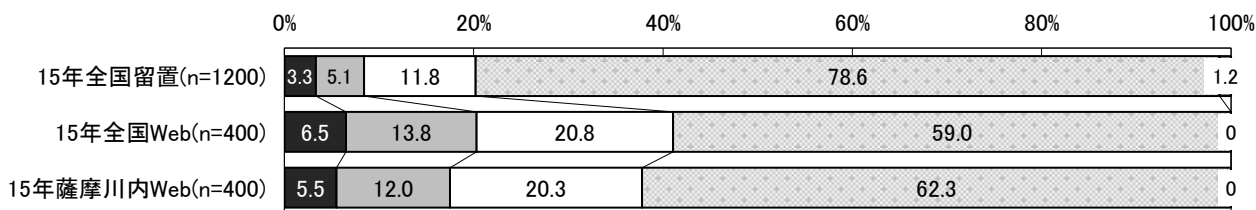
h) プルサーマルとは、原子力発電の使用済燃料から回収したプルトニウムを、再び原子力発電(軽水炉)の燃料として利用することである



i) 使用済核燃料のウランとプルトニウムを取り出し、再び燃料として使用する一連の流れを核燃料サイクルという



j) 軽水炉の燃料は核分裂しやすいウランの割合が3~5%であるのに対し、原子爆弾はほぼ100%である

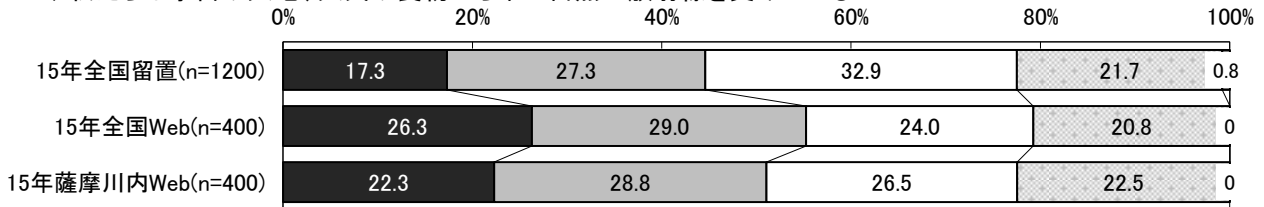


<調査方法による比較>

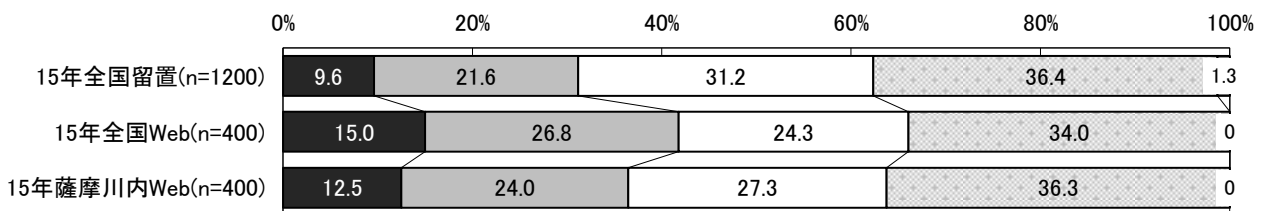
問4. 原子力やエネルギーに関する次の事柄について、あなたはどの程度ご存知ですか。それぞれについてお答えください。(○はそれぞれ1つずつ)

■よく知っている □ある程度、知っている □聞いたことがある □知らない ■無回答

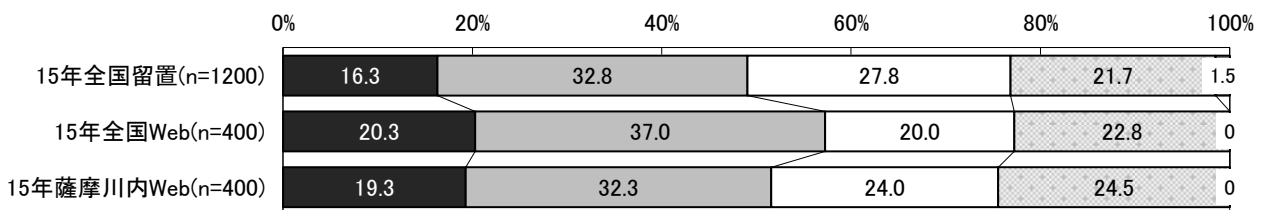
k) 私たちは宇宙や大地、大気や食物から常に自然の放射線を受けている



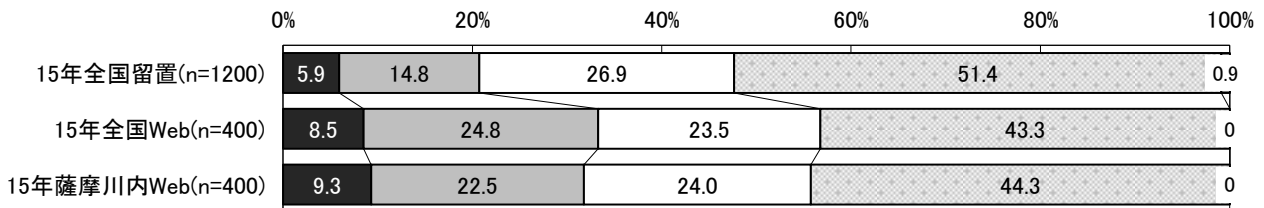
l) 放射線と放射能は違う



m) 放射線は医療・工業・農業等さまざまな分野で利用されている



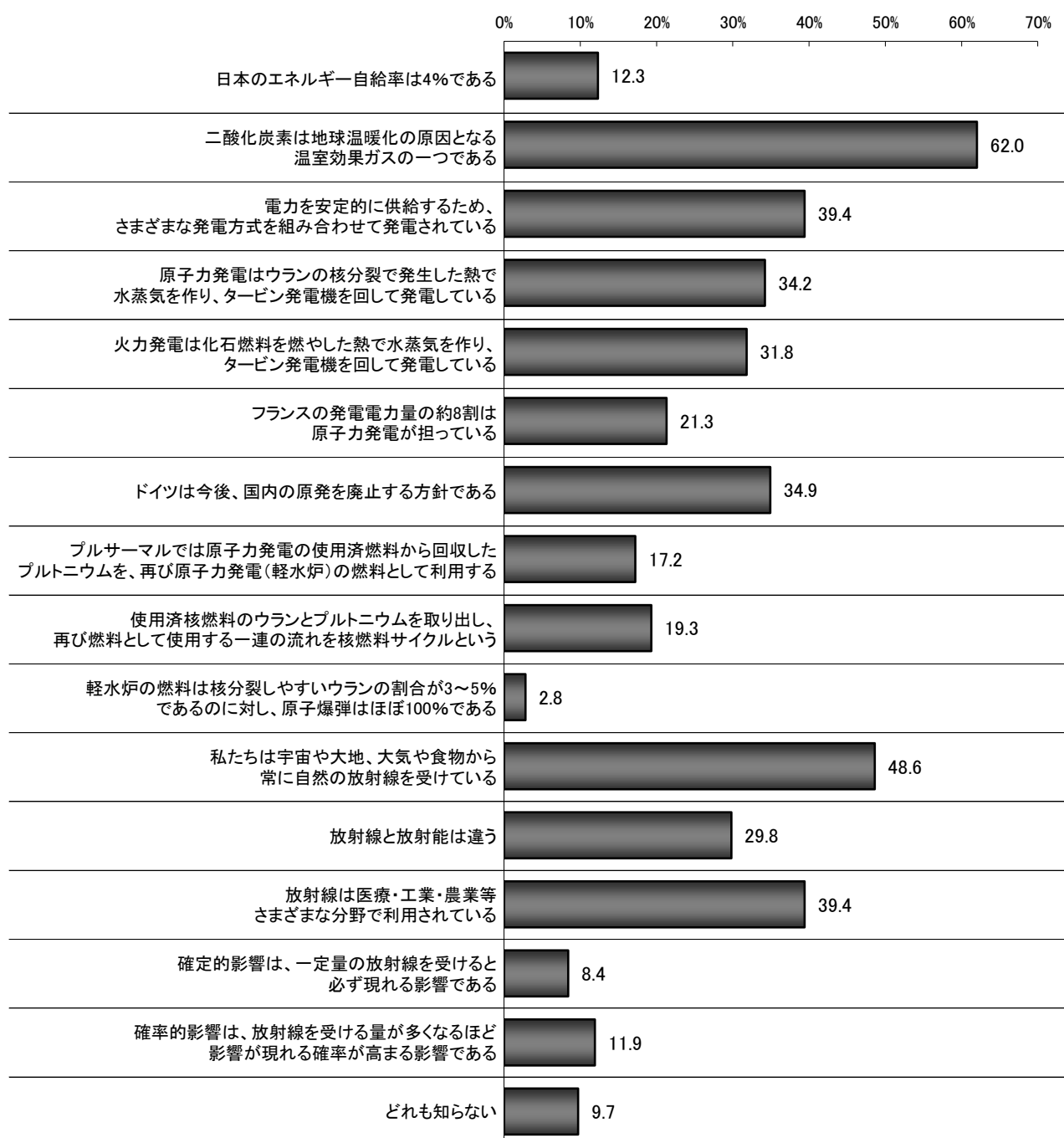
n) 確定的影響は、一定量の放射線を受けると必ず現れる影響で、
確率的影響は、放射線を受ける量が多くなるほど影響が現れる確率が高まる影響である



<参考> 2013年12月

問. 原子力やエネルギーの分野において、あなたをご存知のものはどれですか。ご存知のものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

全体 N=1200



<参考>

問. 以下にあげる事柄について、あなたをご存知のものはどれですか。
ご存知のものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

全体 N=1200

	12年 11月	11年 11月	10年 9月	08年 10月	07年 10月	07年 1月
自然界にある放射線について	42.3	41.9	26.9	23.8	25.4	24.1
放射線と放射能の違い	23.3	25.1	17.2	20.3	19.0	17.5
様々な分野での放射線の利用	39.3	41.2	37.6	37.7	36.5	35.0
放射線の量と人体への影響 の関係	39.1	34.9	38.5	36.5	40.4	41.3
原子力発電と原子爆弾の違い	26.3	31.3	28.8	30.3	28.8	27.6
プルサーマルや 核燃料サイクルのしくみ	14.1	14.7	17.5	14.6	14.8	11.9
どれも知らない	26.9	23.7	31.3	33.9	29.7	33.8

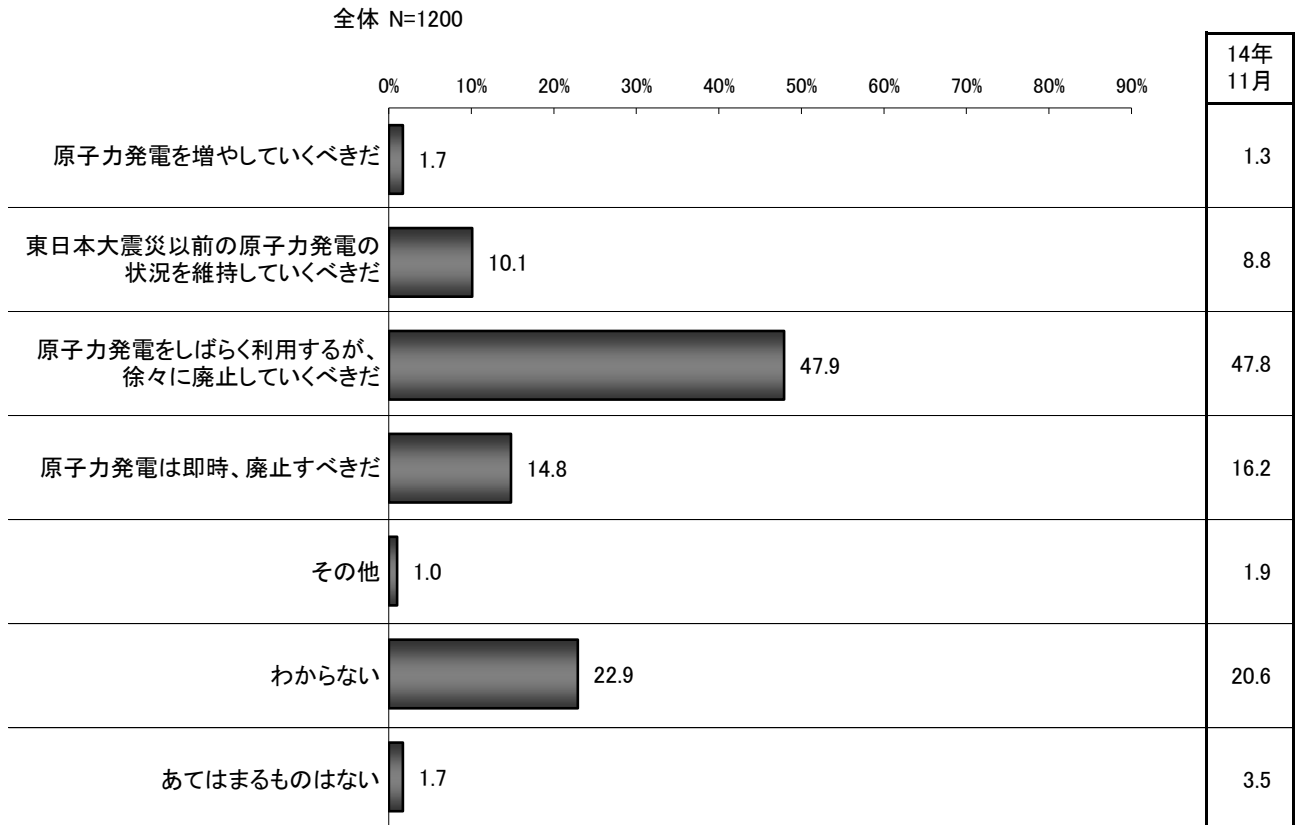
(%)

IV章 原子力・エネルギーに対する態度

●原子力利用に対する態度

原子力の利用に関して、もっとも大きい意見は「原子力発電をしばらく利用するが、徐々に廃止していくべきだ」(47.9%)。次いで、「原子力発電は即時、廃止すべきだ」(14.8%)。一方、原子力発電維持の意見は1割強程度である。また、「わからない」の回答が22.9%ある。前回と大きな差はない。

問6-1. 今後日本は、原子力発電をどのように利用していけばよいと思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○は1つだけ)



<調査方法による比較>

問6-1. 今後日本は、原子力発電をどのように利用していけばよいと思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○は1つだけ)

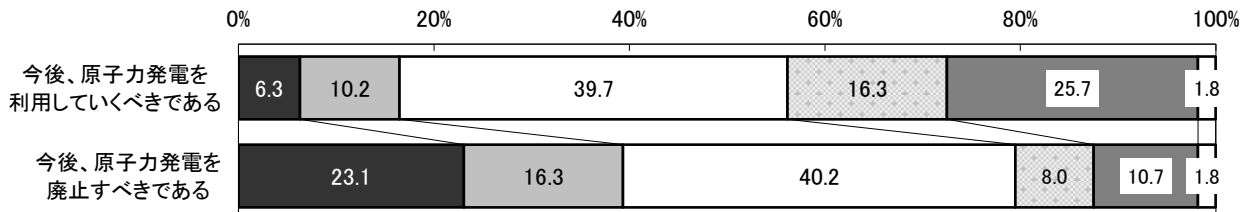
	15年 全国留置	15年 全国Web	15年 薩摩川内Web
N→	1200	400	400
原子力発電を増やしていくべきだ	1.7	3.0	2.0
東日本大震災以前の原子力発電の 状況を維持していくべきだ	10.1	11.3	9.3
原子力発電をしばらく利用するが、 徐々に廃止していくべきだ	47.9	47.0	50.3
原子力発電は即時、廃止すべきだ	14.8	19.0	18.8
その他	1.0	0.5	0.5
わからない	22.9	11.3	11.5
あてはまるものはない	1.7	8.0	7.8

(%)

<参考> 2013年12月 全体 N=1200

問. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

■ そう思う □どちらかといえばそう思う □どちらともいえない □どちらかといえばそう思わない □そう思わない □無回答



<2015年10月のクロス集計結果(1/2)>

問6-1. 今後日本は、原子力発電をどのように利用していけばよいと思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○は1つだけ)

	全体	性別		年代別							子供の有無別		UPZ圏内・圏外	
		男	女	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	小さい 子供あり	子供 なし	原発 UPZ圏 内	原発 UPZ圏 外
N	1200	596	604	72	149	194	214	182	219	170	302	382	84	1116
原子力発電を増やしていくべきだ	1.7	2.3	1.0	4.2	2.0	1.5	1.4	1.1	1.8	1.2	1.3	1.6	-	1.8
東日本大震災以前の原子力発電の 状況を維持していくべきだ	10.1	13.8	6.5	15.3	13.4	11.9	7.9	11.5	7.3	7.6	9.9	10.7	8.3	10.2
原子力発電をしばらく利用するが、 徐々に廃止していくべきだ	47.9	48.0	47.8	36.1	41.6	45.9	46.3	47.3	56.6	52.4	44.7	49.0	47.6	47.9
原子力発電は即時、廃止すべきだ	14.8	15.1	14.4	8.3	7.4	9.3	14.0	20.9	17.4	21.2	13.6	17.3	9.5	15.1
その他	1.0	0.5	1.5	2.8	2.0	2.6	0.5	-	-	0.6	2.0	-	2.4	0.9
わからない	22.9	18.8	27.0	31.9	29.5	27.3	28.0	17.6	16.0	16.5	26.8	19.9	28.6	22.5
あてはまるものはない	1.7	1.5	1.8	1.4	4.0	1.5	1.9	1.6	0.9	0.6	1.7	1.6	3.6	1.5

(%)

<2015年10月のクロス集計結果(2/2)>

問6-1. 今後日本は、原子力発電をどのように利用していけばよいと思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○は1つだけ)

	全体	知識の程度別				社会性の程度別				情報収集積極性			
		知識 高	知識 中	知識 低	知識 無	社会 性高	社会 性中	社会 性低	社会 性無	積極 性高	積極 性中	積極 性低	積極 性無
N	1200	132	465	328	275	172	469	394	162	217	639	247	95
原子力発電を増やしていくべきだ	1.7	4.5	1.9	1.2	0.4	3.5	0.6	2.0	1.9	1.4	1.7	2.0	1.1
東日本大震災以前の原子力発電の 状況を維持していくべきだ	10.1	17.4	11.8	8.8	5.1	9.3	10.7	9.4	11.1	11.5	9.5	10.5	9.5
原子力発電をしばらく利用するが、 徐々に廃止していくべきだ	47.9	47.7	60.0	43.3	33.1	54.7	53.5	44.7	32.7	52.1	52.1	43.7	21.1
原子力発電は即時、廃止すべきだ	14.8	20.5	12.7	17.1	12.7	23.8	14.3	12.4	11.1	19.4	14.4	11.7	13.7
その他	1.0	2.3	0.9	1.2	0.4	0.6	1.5	0.8	0.6	1.8	1.3	-	-
わからない	22.9	6.1	11.4	27.7	44.7	8.1	18.1	28.7	38.9	12.4	19.7	30.0	50.5
あてはまるものはない	1.7	1.5	1.3	0.6	3.6	-	1.3	2.0	3.7	1.4	1.3	2.0	4.2

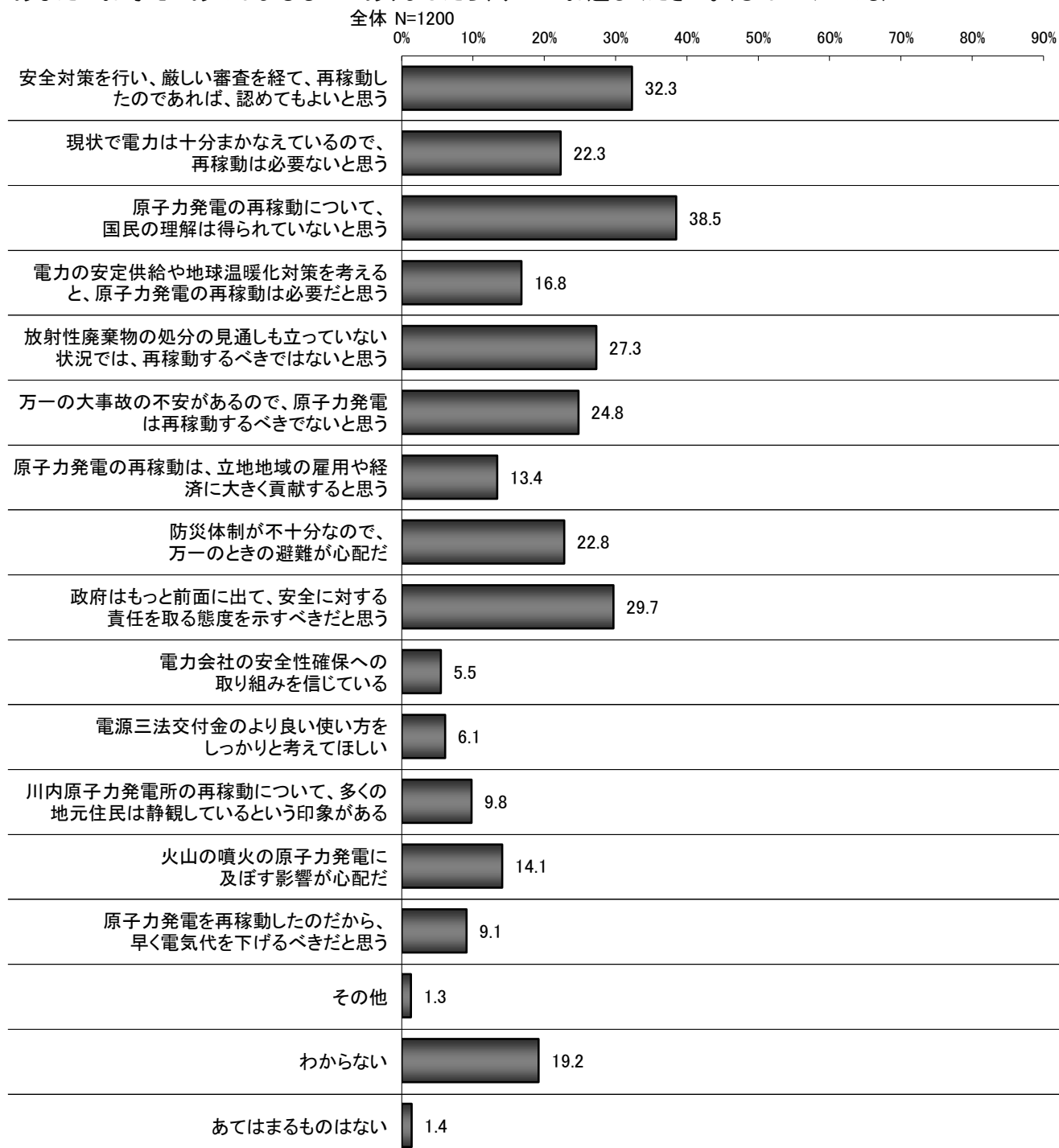
(%)

●原子力発電の再稼働に対する考え

再稼働に関する意見として多く見られるのは、「原子力発電の再稼働について、国民の理解は得られていないと思う」(38.5%)、「安全対策を行い、厳しい審査を経て、再稼働したのであれば、認めてもよいと思う」(32.3%)、「政府はもっと前面に出て、安全に対する責任を取る態度を示すべきだと思う」(29.7%)。一方、少ない意見は、「電力会社の安全性確保への取り組みを信じている」「電源三法交付金のより良い使い方をしっかりと考えてほしい」。

薩摩川内Webは、全国Webに比べて、再稼働が必要という意見や立地地域での恩恵に関する項目でポイントが高い。川内原発の再稼働は、地元では、冷静に受け止められているようだ。

問6-2. 九州電力(株)川内原子力発電所1号機は、原子力規制委員会の新規制基準への適合確認を経て、2015年8月11日に再稼働しました。以下のような再稼働に関するご意見について、あなたのお考えにあてはまるものがありましたら、すべてお選びください。(○はいいくつでも)



<調査方法による比較>

問6-2. 九州電力(株)川内原子力発電所1号機は、原子力規制委員会の新規規制基準への適合確認を経て、2015年8月11日に再稼働しました。以下のような再稼働に関するご意見について、あなたのお考えにあてはまるものがありましたら、すべてお選びください。(〇はいくつでも)

	15年 全国留置	15年 全国Web	15年 薩摩川内Web
N→	1200	400	400
安全対策を行い、厳しい審査を経て、再稼働したのであれば、認めてもよいと思う	32.3	25.3	34.5
現状で電力は十分まかなえているので、再稼働は必要ないと思う	22.3	26.0	24.0
原子力発電の再稼働について、国民の理解は得られていないと思う	38.5	34.0	41.0
電力の安定供給や地球温暖化対策を考えると、原子力発電の再稼働は必要だと思う	16.8	13.5	21.0
放射性廃棄物の処分の見通しも立っていない状況では、再稼働するべきではないと思う	27.3	29.0	27.8
万一の重大事故の不安があるので、原子力発電は再稼働するべきでないと思う	24.8	24.8	28.0
原子力発電の再稼働は、立地地域の雇用や経済に大きく貢献すると思う	13.4	14.5	24.5
防災体制が不十分なので、万一のときの避難が心配だ	22.8	25.0	29.8
政府はもっと前面に出て、安全に対する責任を取る態度を示すべきだと思う	29.7	22.3	29.5
電力会社の安全性確保への取り組みを信じている	5.5	5.3	8.8
電源三法交付金のより良い使い方をしっかりと考えてほしい	6.1	6.8	10.0
川内原子力発電所の再稼働について、多くの地元住民は静観しているという印象がある	9.8	9.3	27.0
火山の噴火の原子力発電に及ぼす影響が心配だ	14.1	16.0	24.5
原子力発電を再稼働したのだから、早く電気代を下げるべきだと思う	9.1	11.3	19.5
その他	1.3	0.5	3.8
わからない	19.2	9.5	6.3
あてはまるものはない	1.4	9.8	4.8

(%)

<2015年10月のクロス集計結果(1/2)>

問6-2. 九州電力(株)川内原子力発電所1号機は、原子力規制委員会の新規規制基準への適合確認を経て、2015年8月11日に再稼働しました。以下のような再稼働に関するご意見について、あなたのお考えにあてはまるものがありましたら、すべてお選びください。(○はいくつでも)

	全体	性別		年代別							子供の有無別		UPZ圏内・圏外	
		男性	女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	小さい子供あり	子供なし	原発UPZ圏内	原発UPZ圏外
N	1200	596	604	72	149	194	214	182	219	170	302	382	84	1116
安全対策を行い、厳しい審査を経て、再稼働したのであれば、認めてもよいと思う	32.3	37.1	27.6	34.7	45.0	33.5	23.4	29.7	30.1	35.9	29.8	35.9	33.3	32.3
現状で電力は十分まかなえているので、再稼働は必要ないと思う	22.3	22.7	21.9	9.7	9.4	16.5	20.1	26.4	34.2	28.2	16.6	28.5	16.7	22.7
原子力発電の再稼働について、国民の理解は得られていないと思う	38.5	38.9	38.1	26.4	28.9	32.0	36.4	47.3	45.2	44.1	34.4	41.9	33.3	38.9
電力の安定供給や地球温暖化対策を考えると、原子力発電の再稼働は必要だと思う	16.8	21.6	12.1	16.7	14.8	16.5	14.5	14.8	20.1	20.0	15.6	20.2	20.2	16.6
放射性廃棄物の処分の見通しも立っていない状況では、再稼働するべきではないと思う	27.3	27.0	27.6	11.1	14.8	19.1	25.7	32.4	37.9	37.6	22.2	31.9	20.2	27.9
万一の重大事故の不安があるので、原子力発電は再稼働するべきでないとと思う	24.8	21.8	27.8	9.7	17.4	17.0	26.6	30.2	32.4	28.8	22.2	27.2	14.3	25.6
原子力発電の再稼働は、立地地域の雇用や経済に大きく貢献すると思う	13.4	16.8	10.1	8.3	10.1	14.4	11.7	15.4	17.4	12.4	11.6	18.1	19.0	13.0
防災体制が不十分なので、万一のときの避難が心配だ	22.8	22.8	22.7	15.3	19.5	16.5	22.4	25.8	27.9	26.5	17.5	24.1	27.4	22.4
政府はもっと前面に出て、安全に対する責任を取る態度を示すべきだと思う	29.7	30.5	28.8	22.2	23.5	21.1	25.7	30.2	38.8	40.6	22.8	32.2	27.4	29.8
電力会社の安全性確保への取り組みを信じている	5.5	6.2	4.8	8.3	2.7	3.1	5.1	6.0	6.4	8.2	3.3	8.1	6.0	5.5
電源三法交付金のより良い使い方をしっかりと考えてほしい	6.1	6.0	6.1	4.2	5.4	7.7	2.8	8.2	5.9	7.6	5.0	7.9	7.1	6.0
川内原子力発電所の再稼働について、多くの地元住民は静観しているという印象がある	9.8	12.8	6.8	1.4	5.4	6.2	6.5	8.8	14.2	20.6	5.3	14.9	4.8	10.1
火山の噴火の原子力発電に及ぼす影響が心配だ	14.1	13.6	14.6	8.3	10.7	7.7	15.9	14.3	19.6	17.1	8.9	18.3	13.1	14.2
原子力発電を再稼働したのだから、早く電気代を下げるべきだと思う	9.1	10.2	7.9	-	4.7	12.4	11.2	6.0	10.0	12.4	10.3	10.2	10.7	9.0
その他	1.3	2.0	0.7	1.4	2.0	2.6	0.5	1.1	1.4	0.6	1.3	0.8	3.6	1.2
わからない	19.2	14.9	23.3	36.1	26.2	24.2	19.6	15.4	10.0	15.3	21.9	13.9	20.2	19.1
あてはまるものはない	1.4	1.7	1.2	2.8	2.0	1.5	3.7	-	0.5	-	2.0	0.5	1.2	1.4

<2015年10月のクロス集計結果(2/2)>

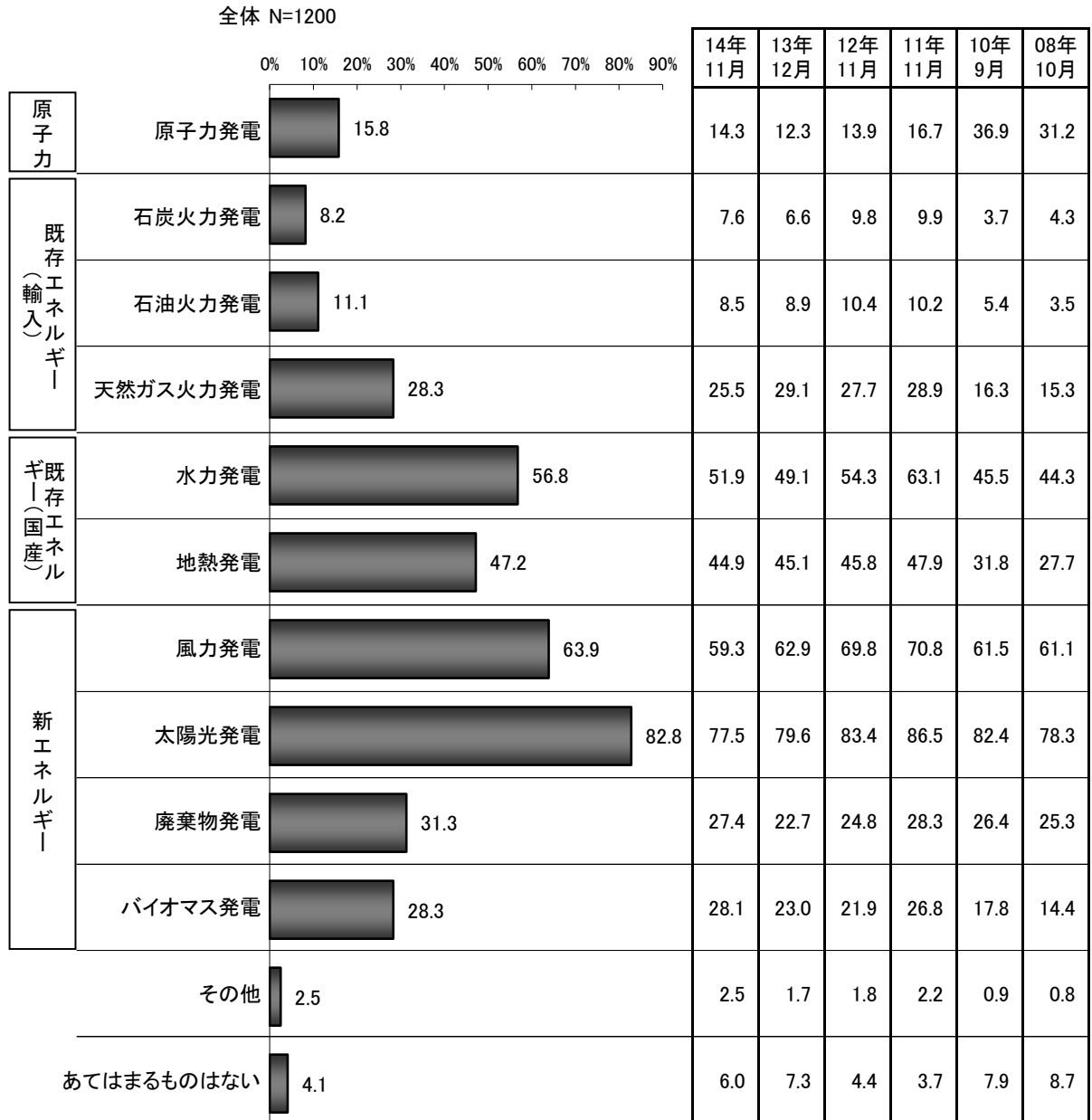
問6-2. 九州電力(株)川内原子力発電所1号機は、原子力規制委員会の新規制基準への適合確認を経て、2015年8月11日に再稼働しました。以下のような再稼働に関するご意見について、あなたのお考えにあてはまるものがありましたら、すべてお選びください。(〇はいくつでも)

	全体	知識の程度別				社会性の程度別				情報収集積極性			
		知識高	知識中	知識低	知識無	社会性高	社会性中	社会性低	社会性無	積極性高	積極性中	積極性低	積極性無
N	1200	132	465	328	275	172	469	394	162	217	639	247	95
安全対策を行い、厳しい審査を経て、再稼働したのであれば、認めてもよいと思う	32.3	43.2	39.6	26.2	22.2	36.6	36.5	30.2	21.0	35.5	34.9	27.1	21.1
現状で電力は十分まかなえているので、再稼働は必要ないと思う	22.3	25.8	24.7	23.5	14.9	33.7	24.1	18.8	13.0	25.3	23.0	19.8	16.8
原子力発電の再稼働について、国民の理解は得られていないと思う	38.5	45.5	46.5	39.3	20.7	63.4	41.4	34.0	14.8	53.9	44.6	19.8	11.6
電力の安定供給や地球温暖化対策を考えると、原子力発電の再稼働は必要だと思う	16.8	39.4	22.2	10.1	5.1	28.5	19.0	12.9	7.4	24.0	18.6	8.5	9.5
放射性廃棄物の処分の見通しも立っていない状況では、再稼働するべきではないと思う	27.3	36.4	32.9	26.8	14.2	45.9	31.3	20.6	12.3	39.2	29.1	17.8	13.7
万一の重大事故の不安があるので、原子力発電は再稼働するべきでないと思う	24.8	24.2	27.5	29.9	14.5	46.5	26.2	17.3	15.4	33.6	25.4	20.6	11.6
原子力発電の再稼働は、立地地域の雇用や経済に大きく貢献すると思う	13.4	26.5	18.5	9.5	3.3	23.8	16.6	9.1	3.1	21.2	13.6	7.3	9.5
防災体制が不十分なので、万一のときの避難が心配だ	22.8	28.0	25.4	26.5	11.3	40.1	26.7	15.0	11.7	31.3	24.7	15.8	8.4
政府はもっと前面に出て、安全に対する責任を取る態度を示すべきだと思う	29.7	37.1	36.1	29.6	15.3	51.7	33.0	21.1	17.3	40.1	32.9	19.0	12.6
電力会社の安全性確保への取り組みを信じている	5.5	9.8	6.9	5.2	1.5	12.2	6.2	3.0	2.5	6.0	7.2	1.6	3.2
電源三法交付金のより良い使い方をしっかりと考えてほしい	6.1	9.8	8.6	5.2	1.1	18.6	5.1	2.5	4.3	10.1	6.3	3.6	2.1
川内原子力発電所の再稼働について、多くの地元住民は静観しているという印象がある	9.8	21.2	12.9	6.7	2.5	22.7	10.4	5.8	3.7	16.6	10.8	4.0	2.1
火山の噴火の原子力発電に及ぼす影響が心配だ	14.1	18.9	18.3	13.7	5.1	27.9	15.1	11.9	1.9	24.4	14.4	8.1	4.2
原子力発電を再稼働したのだから、早く電気代を下げるべきだと思う	9.1	12.1	10.5	9.5	4.7	15.1	10.9	6.1	4.9	10.1	10.8	5.3	5.3
その他	1.3	4.5	1.3	0.9	0.4	2.3	1.1	1.3	1.2	2.3	1.3	0.8	1.1
わからない	19.2	3.8	8.2	21.6	42.2	5.2	12.8	24.4	40.1	11.5	13.9	29.6	45.3
あてはまるものはない	1.4	1.5	0.9	0.6	3.3	-	0.4	1.8	4.9	0.9	0.8	2.0	5.3

●エネルギーに対する態度

今後、わが国が利用・活用していくべきと思うエネルギーを尋ねたところ、「太陽光発電」(82.8%)、「風力発電」(63.9%)、「水力発電」(56.8%)、「地熱発電」(47.2%)と続く。前回までの結果と同様の傾向を示しているが、ポイントが高い。
一方、石炭火力、石油火力は経年的にも低いポイントである。原子力発電も福島事故後から低いポイントであり、この傾向は維持されている。

問5. 今後日本は、どのようなエネルギーを利用・活用していけばよいと思いますか。
以下にあげているエネルギーの中から、お選びください。(○はいくつでも)



* 08年10月までの質問文は「今後わが国は～」、10年9月から「今後日本は～」に変更

<調査方法による比較>

問5. 今後日本は、どのようなエネルギーを利用・活用していけばよいと思いますか。
以下にあげているエネルギーの中から、お選びください。(〇はいくつでも)

	N→	15年 全国留置 1200	15年 全国Web 400	15年 薩摩川内Web 400
原子力	原子力発電	15.8	16.8	20.0
既存 エネルギー (輸入)	石炭火力発電	8.2	13.0	10.3
	石油火力発電	11.1	14.3	9.3
	天然ガス火力発電	28.3	34.3	28.5
既存 エネルギー (国産)	水力発電	56.8	56.0	55.3
	地熱発電	47.2	61.0	62.5
新 エネルギー	風力発電	63.9	60.8	66.3
	太陽光発電	82.8	65.0	77.3
	廃棄物発電	31.3	38.3	36.5
	バイオマス発電	28.3	42.8	39.8
	その他	2.5	2.5	2.5
	あてはまるものはない	4.1	11.8	7.0

(%)

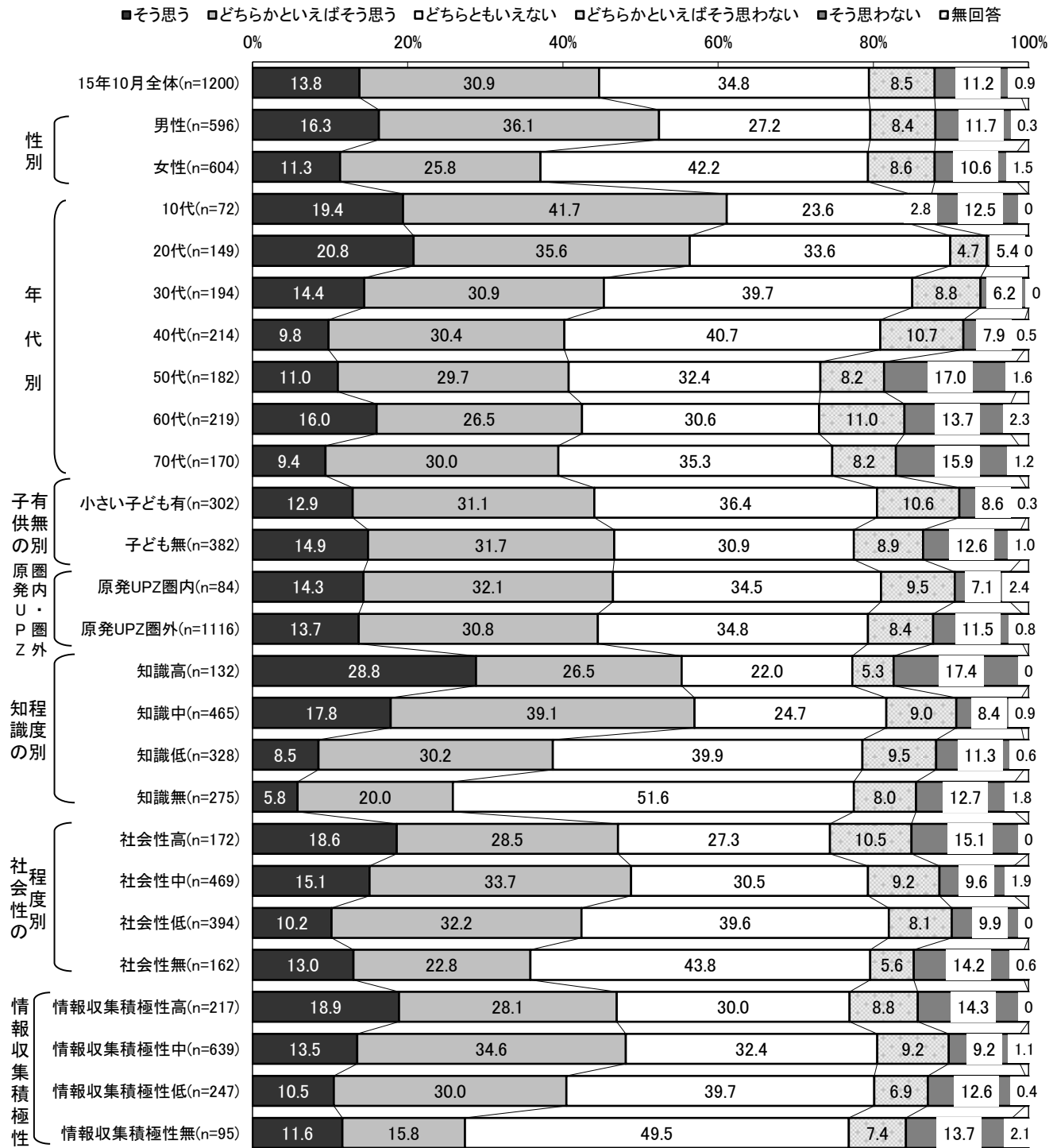
V章 原子力・放射線・エネルギーについての
ベネフィット認知

●原子力発電のベネフィット認知(有用性)

「原子力発電は役に立つ」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は44.7%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は19.7%。前回と比べて、大きな変化はない。
性別では、肯定的回答は女性(37.1%)よりも男性(52.4%)の方が高め。年代別にみると、若年層で肯定的意見が多く、高齢層では、若年層に比べて否定的意見がやや多くなる。知識高・社会性高・情報収集高で、肯定的意見が多い。一方、否定的意見については、知識・社会性・情報収集のそれぞれ中程度で小さくなる。

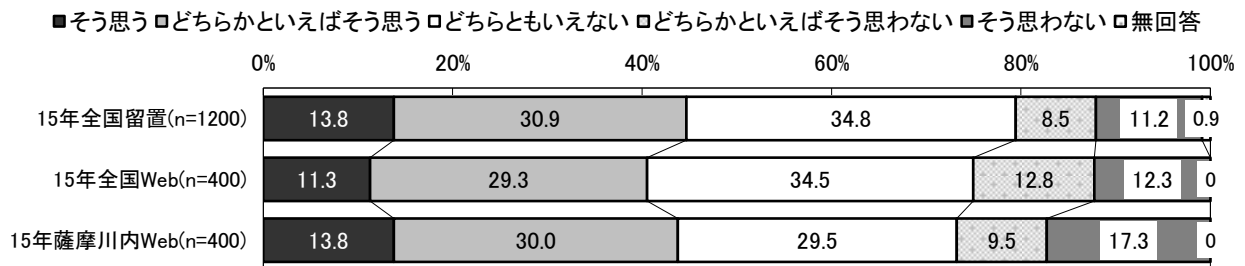
問7. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

【a】原子力発電は役に立つ】



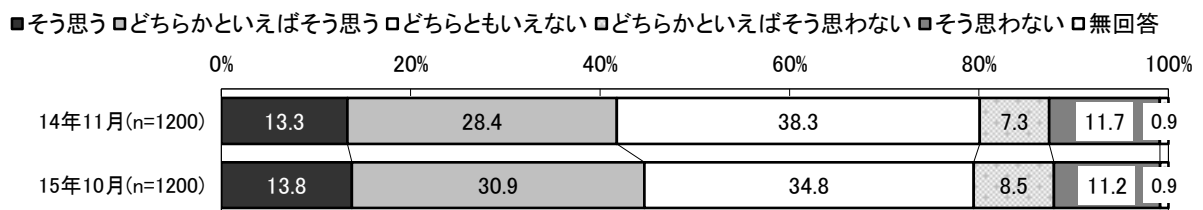
＜調査方法による比較＞

問7. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)
【a) 原子力発電は役に立つ】



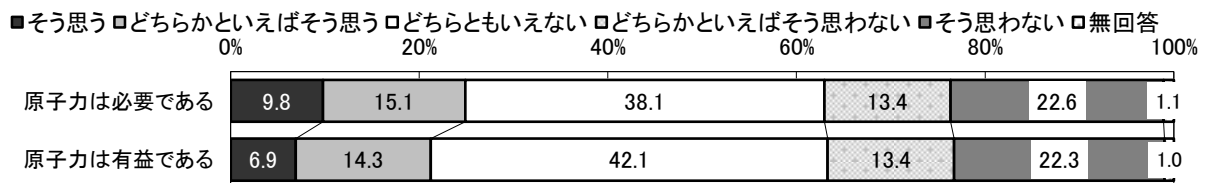
＜経年変化＞

問. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)
【原子力発電は役に立つ】



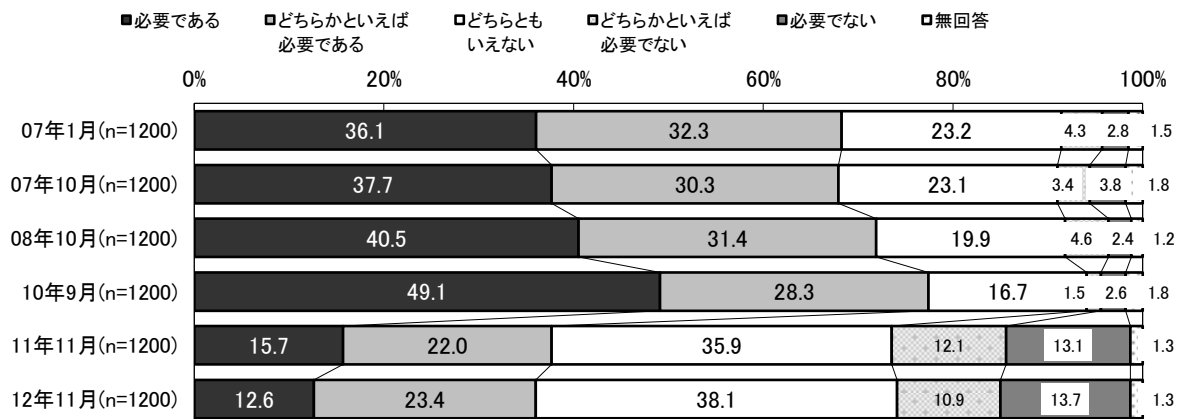
＜参考＞

問. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)
2013年12月 全体N=1200



＜参考＞

問. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)
【原子力発電】

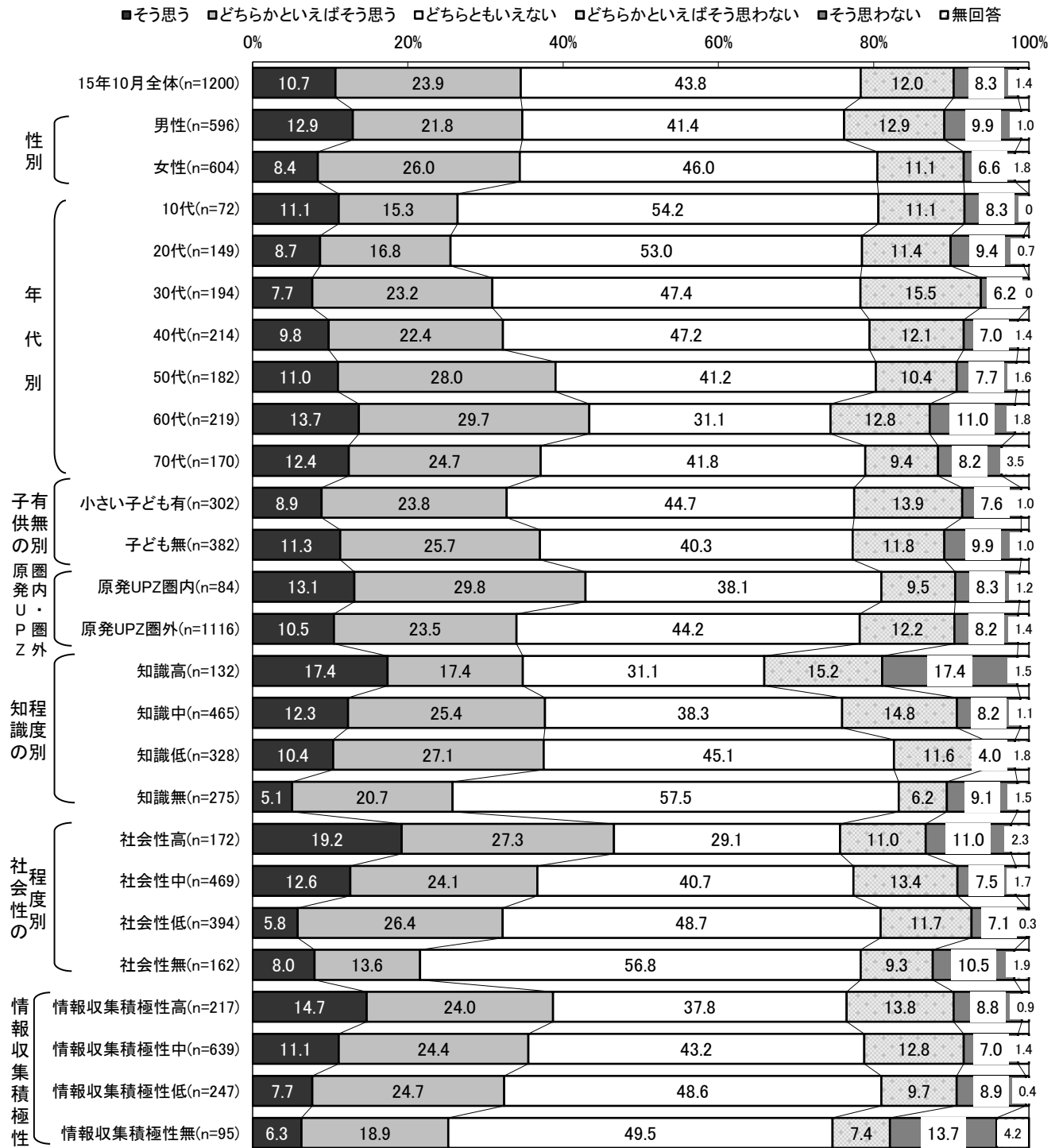


* 07年1月の選択肢は「そう思う／どちらかといえばそう思う」、07年10月からは「必要である／どちらかといえば必要である」

●原子力発電のベネフィット認知(経済性)

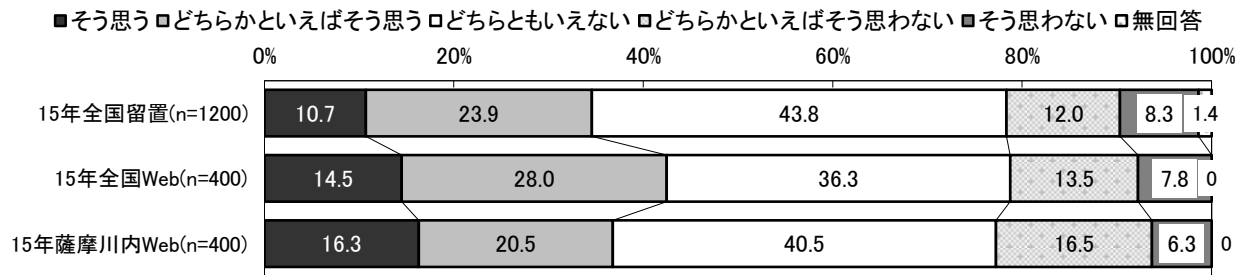
「原子力発電がなくても、日本は経済的に発展できる」に肯定的な回答(原子力に否定的な意見)「(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は34.6%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は20.3%。(原子力の必要性に関しては、逆転項目であることに注意する。)
 「どちらともいえない」という回答が4割強である。前回と比べて大きな差はない。
 10~60代で、年齢と共に肯定的意見が増える。また、Nが小さく参考意見だが、UPZ圏内の方が、圏外に比べて肯定的意見が高い。社会性高・情報収集高で、肯定的意見が大きくなる。一方、知識高では、肯定/否定的意見に回答が二分する傾向が見える。

問7. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
 あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)
 【c】原子力発電がなくても、日本は経済的に発展できる】



<調査方法による比較>

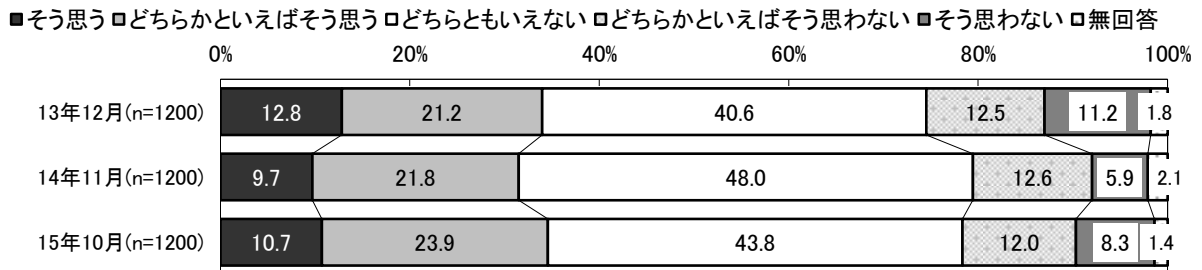
問7. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)
【c) 原子力発電がなくても、日本は経済的に発展できる】



<経年変化>

問. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)
【原子力発電がなくても、日本は経済的に発展できる】

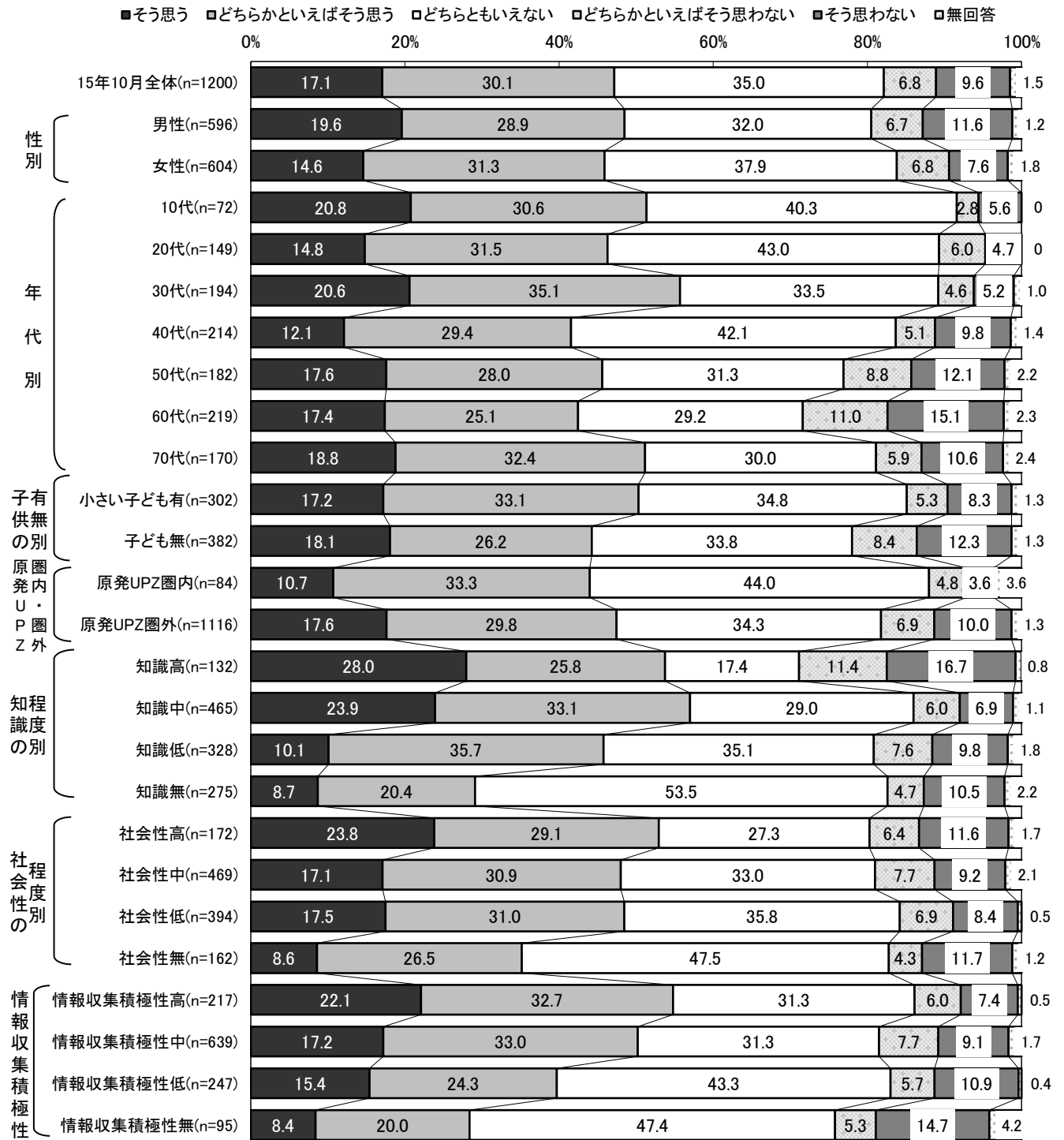
* 13年12月は、「あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。」と聴取。



●原子力発電のベネフィット認知(経済性)

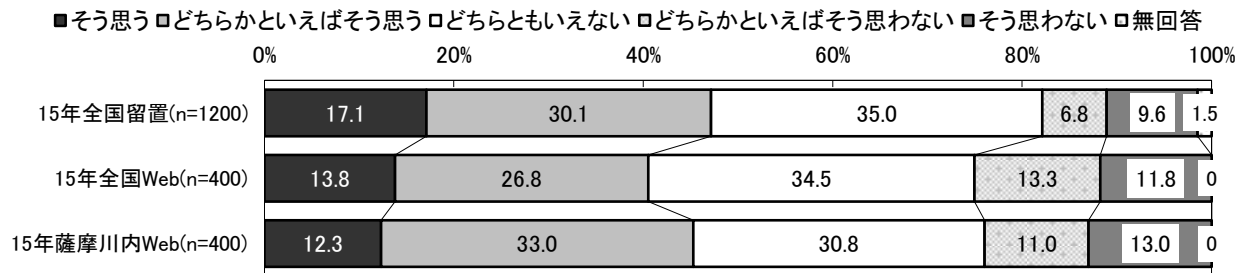
「原子力発電がないと、電気料金が上がる」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は47.2%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は16.4%。前回と大きく変わらない。年代別にみると、30代で肯定的回答が多く、30~60代で、年齢と共に否定的意見が増加する。知識高、社会性高、情報収集高では、肯定的意見が多い。また、知識高、情報収集無では否定的意見も多くなっている。

問7. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)
【d】原子力発電がないと、電気料金が上がる】



＜調査方法による比較＞

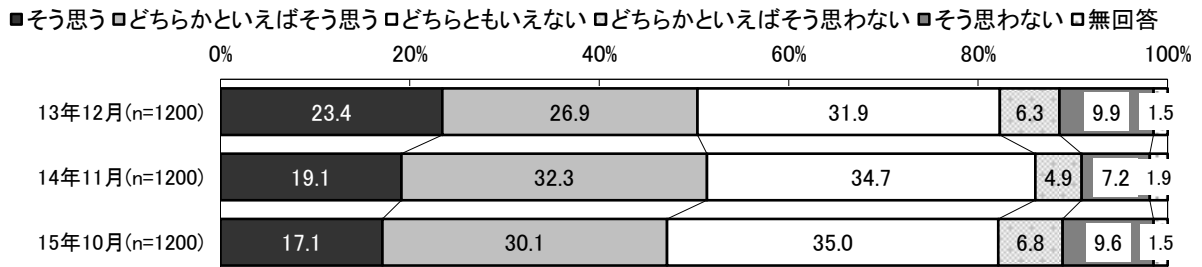
問7. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
 あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)
 【d) 原子力発電がないと、電気料金が上がる】



＜経年変化＞

問. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
 あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)
 【原子力発電がないと、電気料金が上がる】

* 13年12月は、「あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。」と聴取。

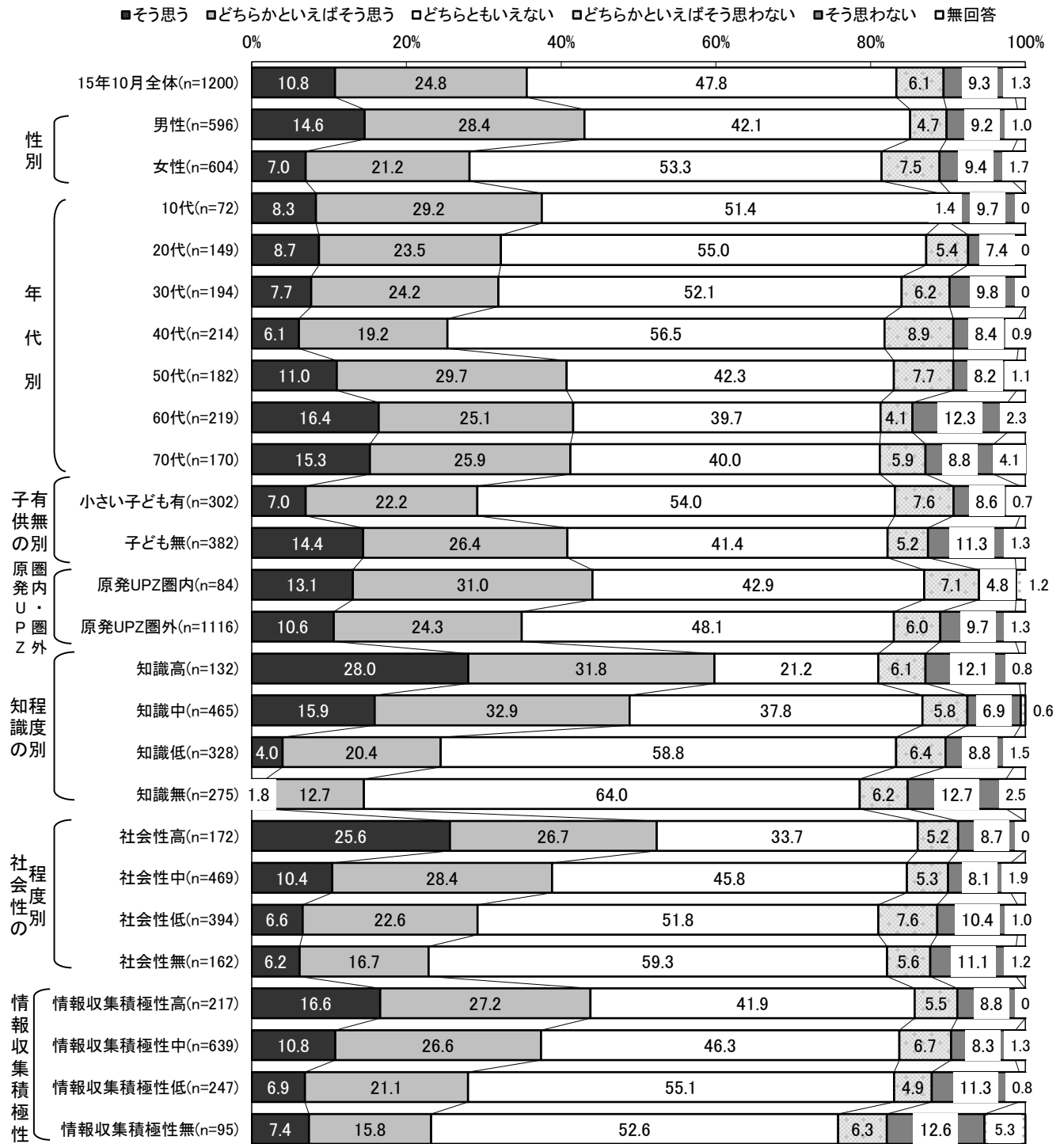


●原子力発電のベネフィット認知(地球温暖化)

「原子力発電は発電の際に二酸化炭素を出さないので、地球温暖化防止に有効である」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は35.6%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は15.4%。「どちらともいえない」という回答が5割弱。前回と比べると、若干、中庸意見が減ったように見える。性別では、肯定的回答は女性よりも男性が多い。年代別にみると、10~40代にかけては、年齢と共に肯定的意見が減少、否定的意見が増加するが、50代以上で、肯定的意見が高く安定する。知識、社会性、情報収集について、高から無にしたがって、肯定的意見が大きく減少する。一方、否定的意見については、知識高/無の層で若干高い。また、情報収集無の層も高く現れる。

問7. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

【e】原子力発電は発電の際に二酸化炭素を出さないので、地球温暖化防止に有効である

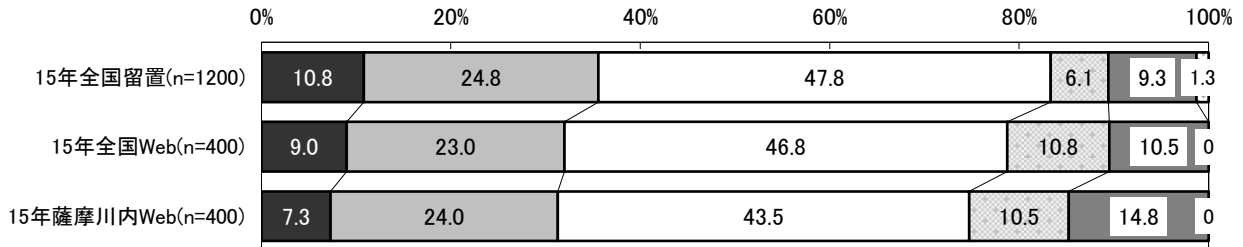


＜調査方法による比較＞

問7. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

【e) 原子力発電は発電の際に二酸化炭素を出さないので、地球温暖化防止に有効である】

■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ 無回答



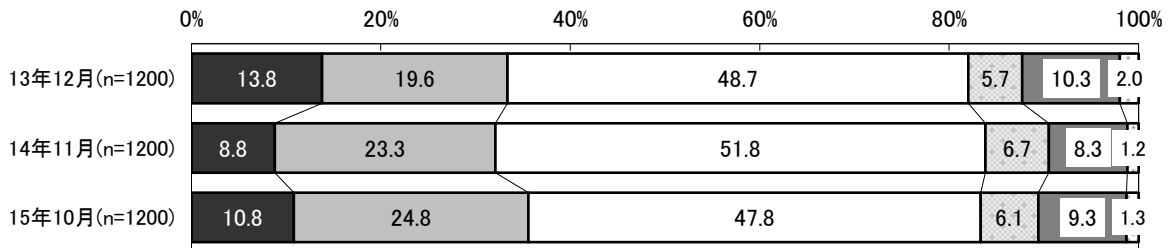
＜経年変化＞

問. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

【原子力発電は発電の際に二酸化炭素を出さないので、地球温暖化防止に有効である】

* 13年12月は、「あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。」と聴取。

■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ 無回答

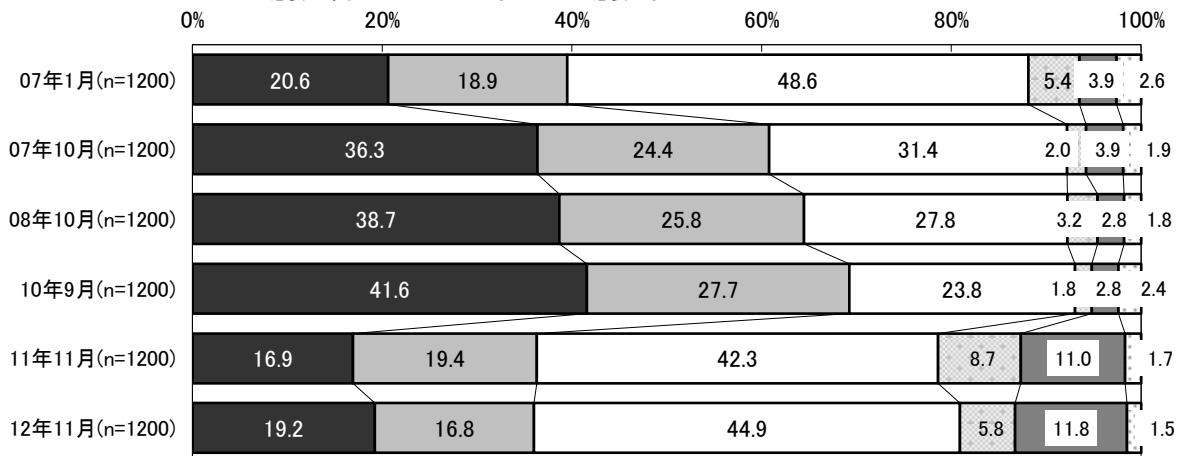


＜参考＞

問. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

【地球温暖化防止のために原子力発電を活用すること】

■ 必要である □ どちらかといえば必要である □ どちらともいえない □ どちらかといえば必要でない □ 必要でない □ 無回答

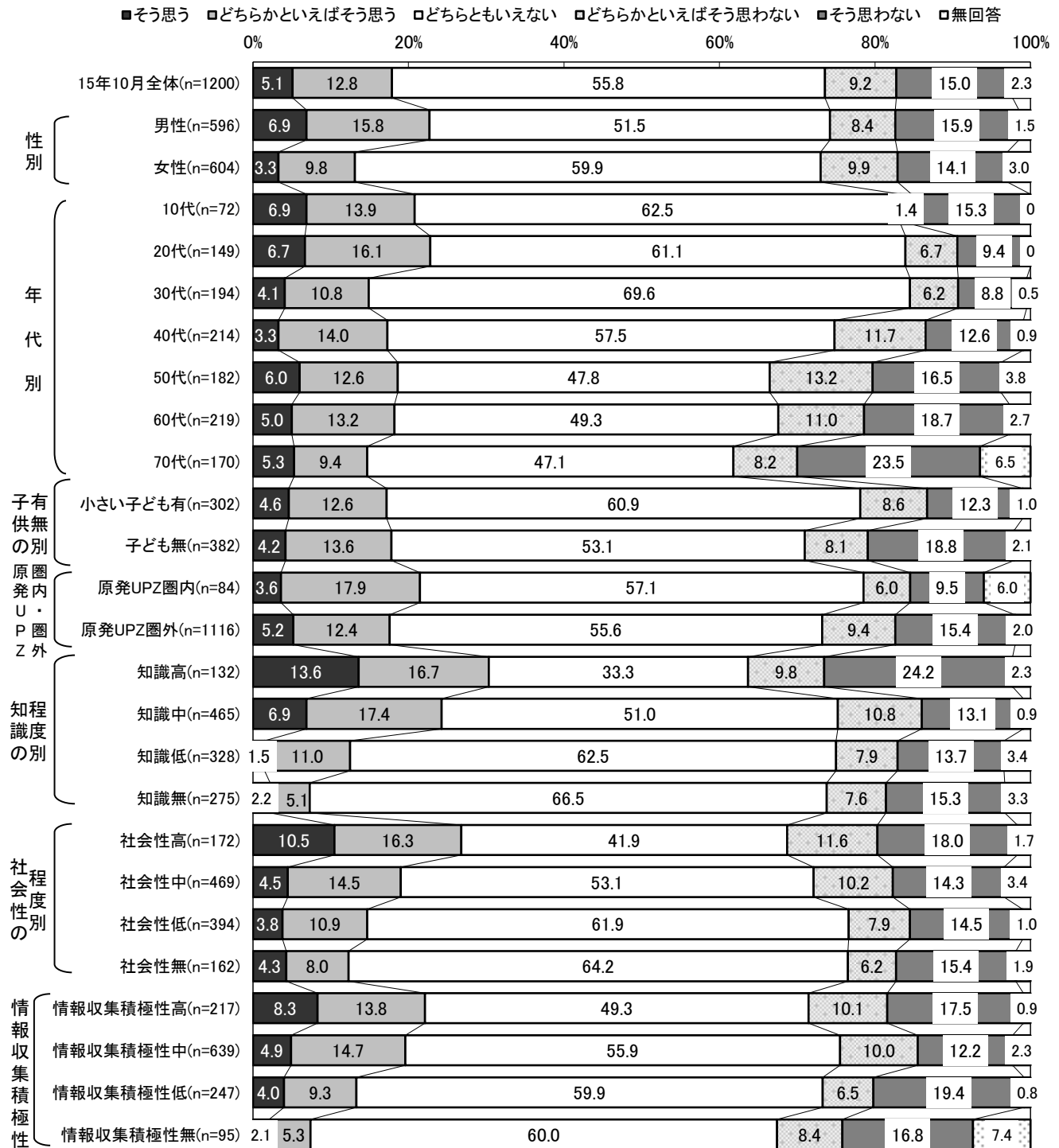


* 07年1月の選択肢は「そう思う／どちらかといえばそう思う」、07年10月からは「必要である／どちらかといえば必要である」

●核燃料サイクル・プルサーマルのベネフィット認知

「核燃料サイクルは有益である」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は17.9%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は24.2%。前回の参考データ(去年は2つの項目であった)と傾向は大きくは変わらない。
 年代で見ると、40代以降の層について、年齢が上がると共に、否定的意見が増加する。
 知識、社会性、情報収集について、高から無にしたがって、肯定的意見が減少し、中庸意見が増加する。否定的意見については、知識高、情報収集無の層でやや高く現れる。

問7. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
 あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)
 【b】核燃料サイクル、プルサーマルは役に立つ

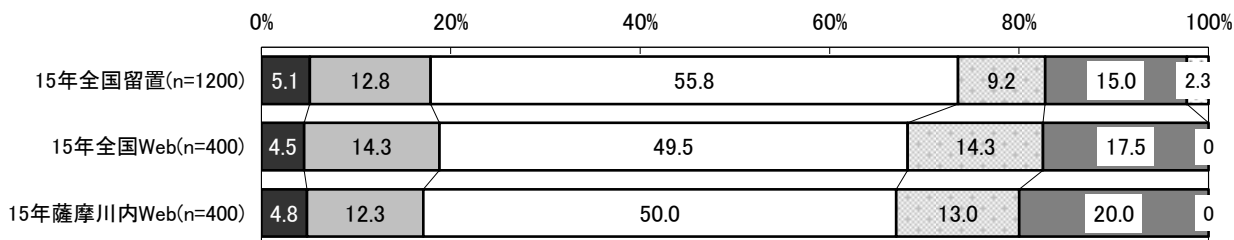


<調査方法による比較>

問7. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

【b) 核燃料サイクル、プルサーマルは役に立つ】

■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない □ 無回答



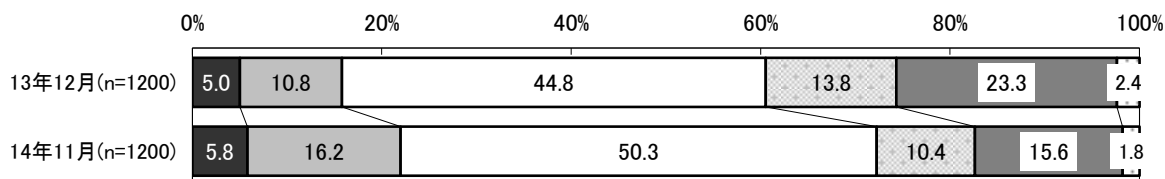
<参考>

問. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

13年12月【核燃料サイクルは有益である】、14年11月【核燃料サイクルは役に立つ】

* 13年12月は、「あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。」と聴取。

■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない □ 無回答

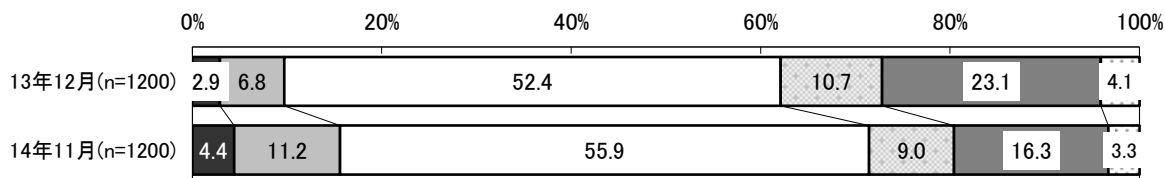


問. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

13年12月【プルサーマルは有益である】、14年11月【プルサーマルは役に立つ】

* 13年12月は、「あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。」と聴取。

■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない □ 無回答



●放射線利用のベネフィット認知

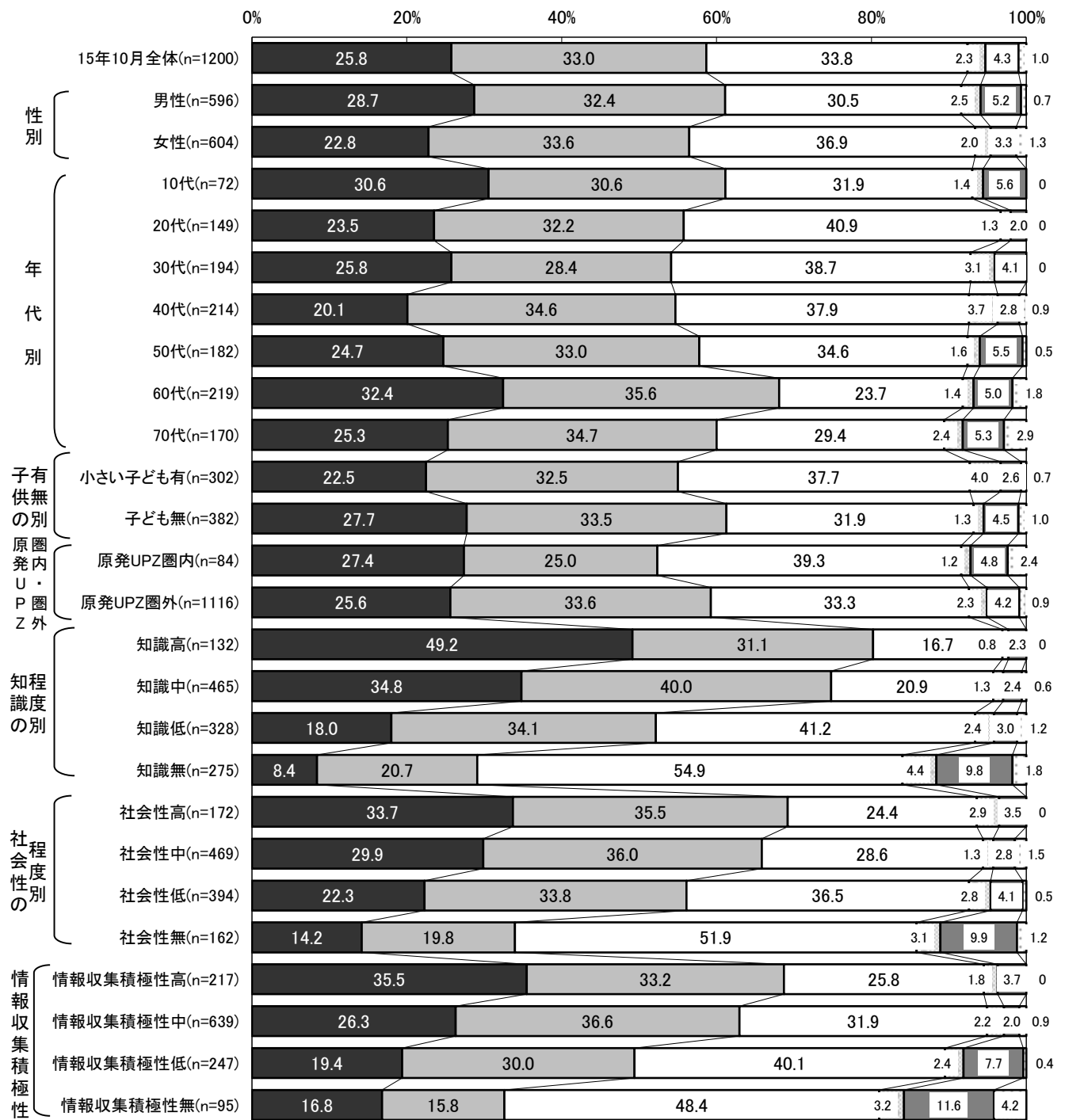
「医療、工業、農業等における放射線利用は必要である」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は58.8%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は6.6%。前回と同様の結果を示している。

年代では、60代の肯定的意見が他の年齢層と比べるとやや高い。
また、知識、社会性、情報収集について、高から無につれて、肯定的意見が大きく減少する。否定的意見は、知識無、社会性無、情報収集無の各層で若干多めに見られる。

問7. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

【n】医療、工業、農業等における放射線利用は必要である】

■そう思う □どちらかといえばそう思う □どちらともいえない □どちらかといえばそう思わない ■そう思わない □無回答

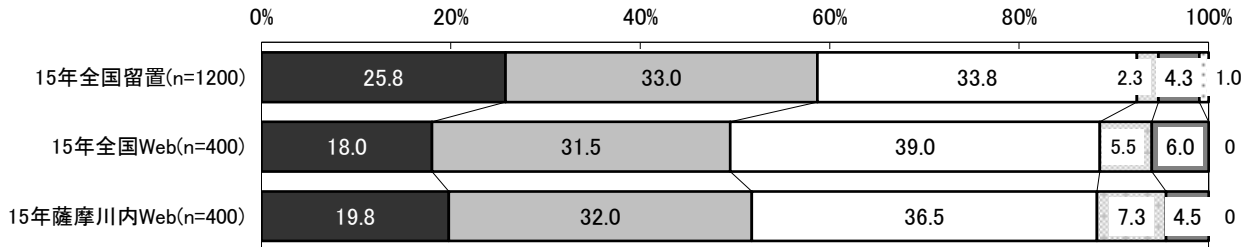


＜調査方法による比較＞

問7. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

【(n) 医療、工業、農業等における放射線利用は必要である】

■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ 無回答



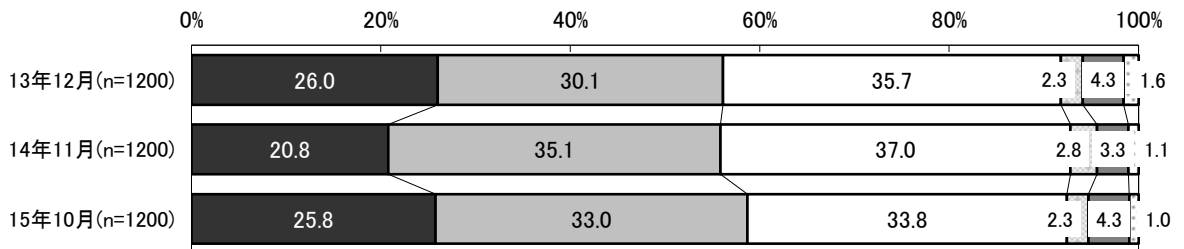
＜経年変化＞

問. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

【医療、工業、農業等における放射線利用は必要である】

* 13年12月は、「あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。」と聴取。

■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ 無回答

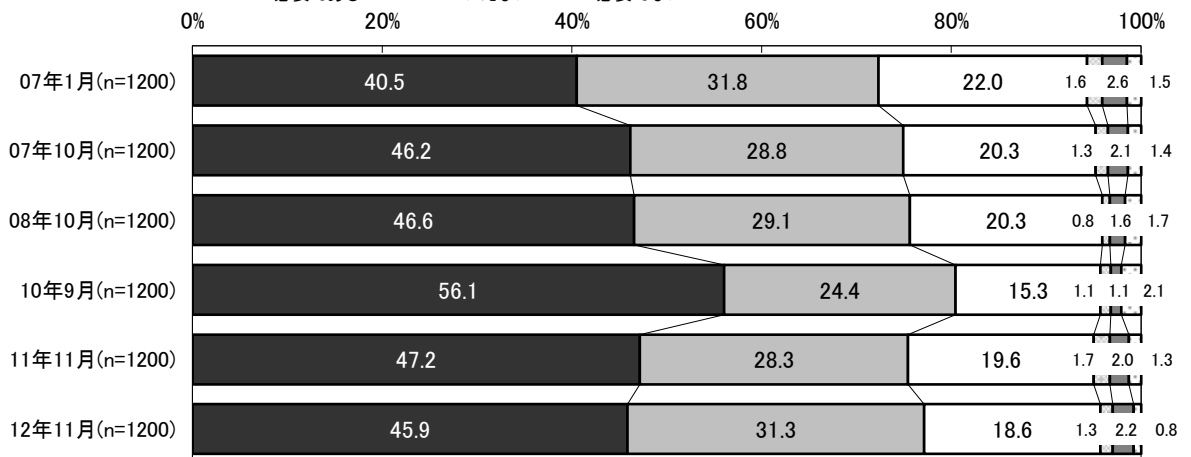


＜参考＞

問. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

【医療、工業、農業等における放射線利用】

■ 必要である □ どちらかといえば必要である □ どちらともいえない □ どちらかといえば必要でない □ 必要でない □ 無回答



* 07年1月の選択肢は「そう思う／どちらかといえばそう思う」、07年10月からは「必要である／どちらかといえば必要である」

VI章 原子力・放射線・エネルギーについての リスク認知

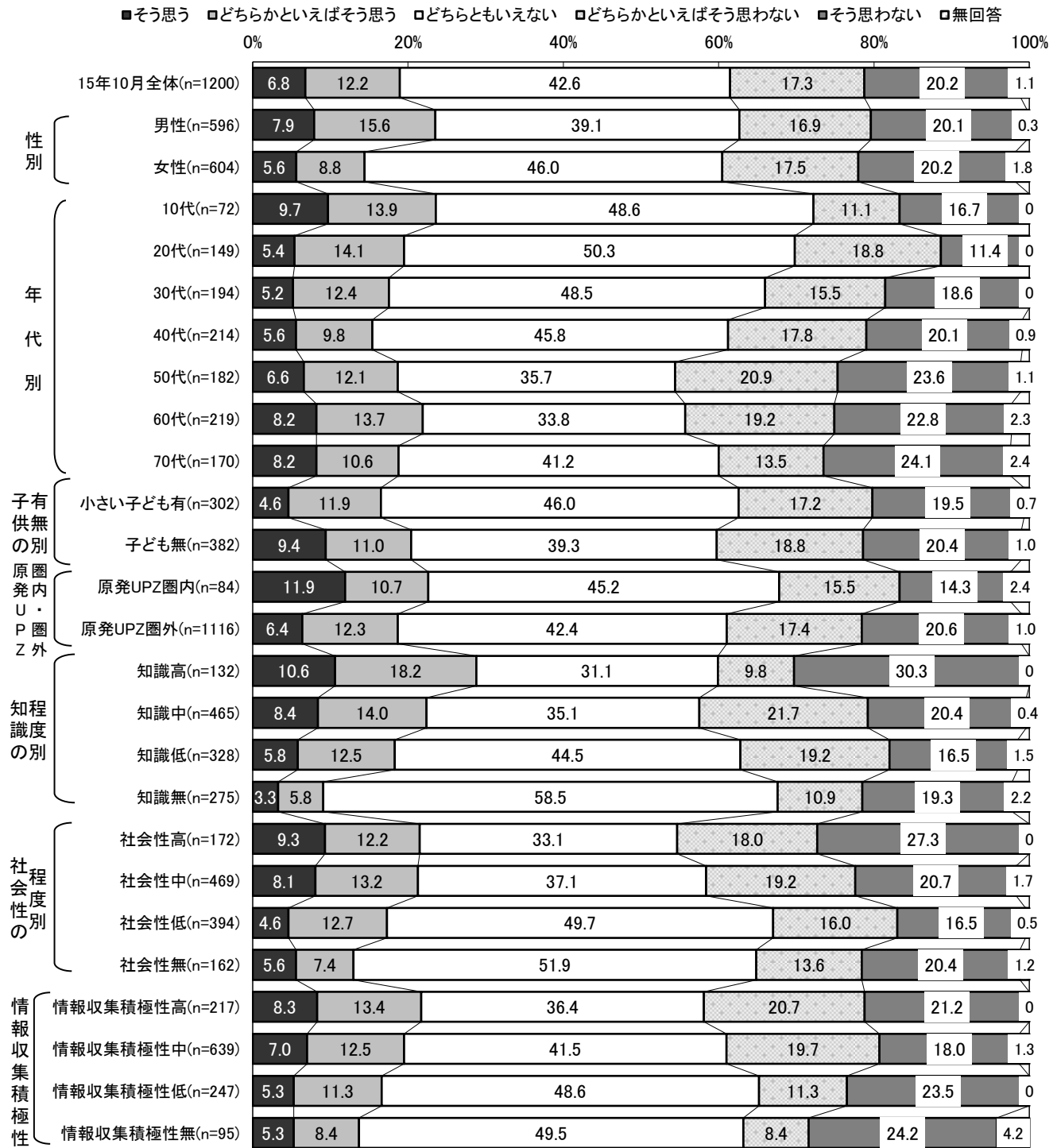
●原子力発電のリスク認知(安全性)

「今後、原子力発電の安全を確保することは可能であると思う」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は19.0%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は37.5%。前回と大きな変化はない。

男性よりも女性の方が、肯定的な回答が低い。年代別に見ると、10~40代で年齢と共に肯定的意見が減少し、否定的意見が増加する。知識、社会性、情報収集について、高から無につれて、肯定的意見、否定的意見が減少し、中庸意見が増える。

問7. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

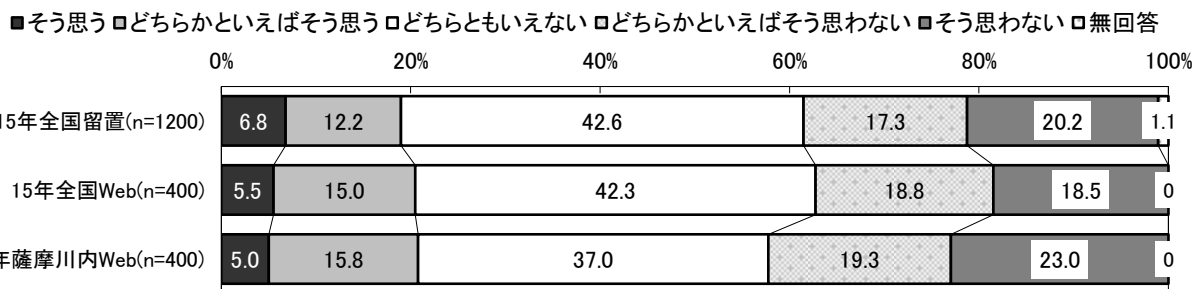
【f】 今後、原子力発電の安全を確保することは可能であると思う



<調査方法による比較>

問7. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

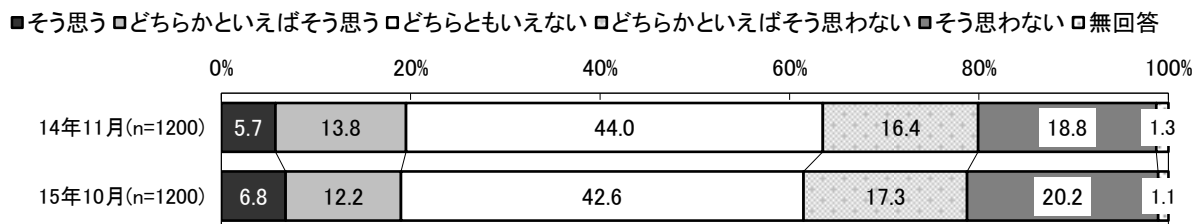
【f) 今後、原子力発電の安全を確保することは可能であると思う】



<経年変化>

問. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

【今後、原子力発電の安全を確保することは可能であると思う】



<参考>

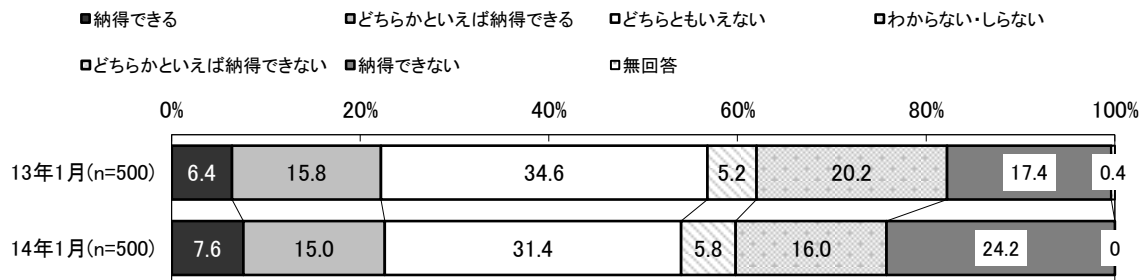
日本原子力学会「エネルギーと原子力に関するアンケート」

問. 原子力発電の利用に係わる意見として、たとえば以下のような意見が聞かれます。

それぞれの意見に対して、あなたは納得できますか、納得できませんか。

あなたのお考えにもっとも近いと思われる数字の個所にそれぞれ1つだけ○をつけてください。

【今後、原子力発電の安全を確保することは可能であると思う】



●原子力発電のリスク認知(地震)

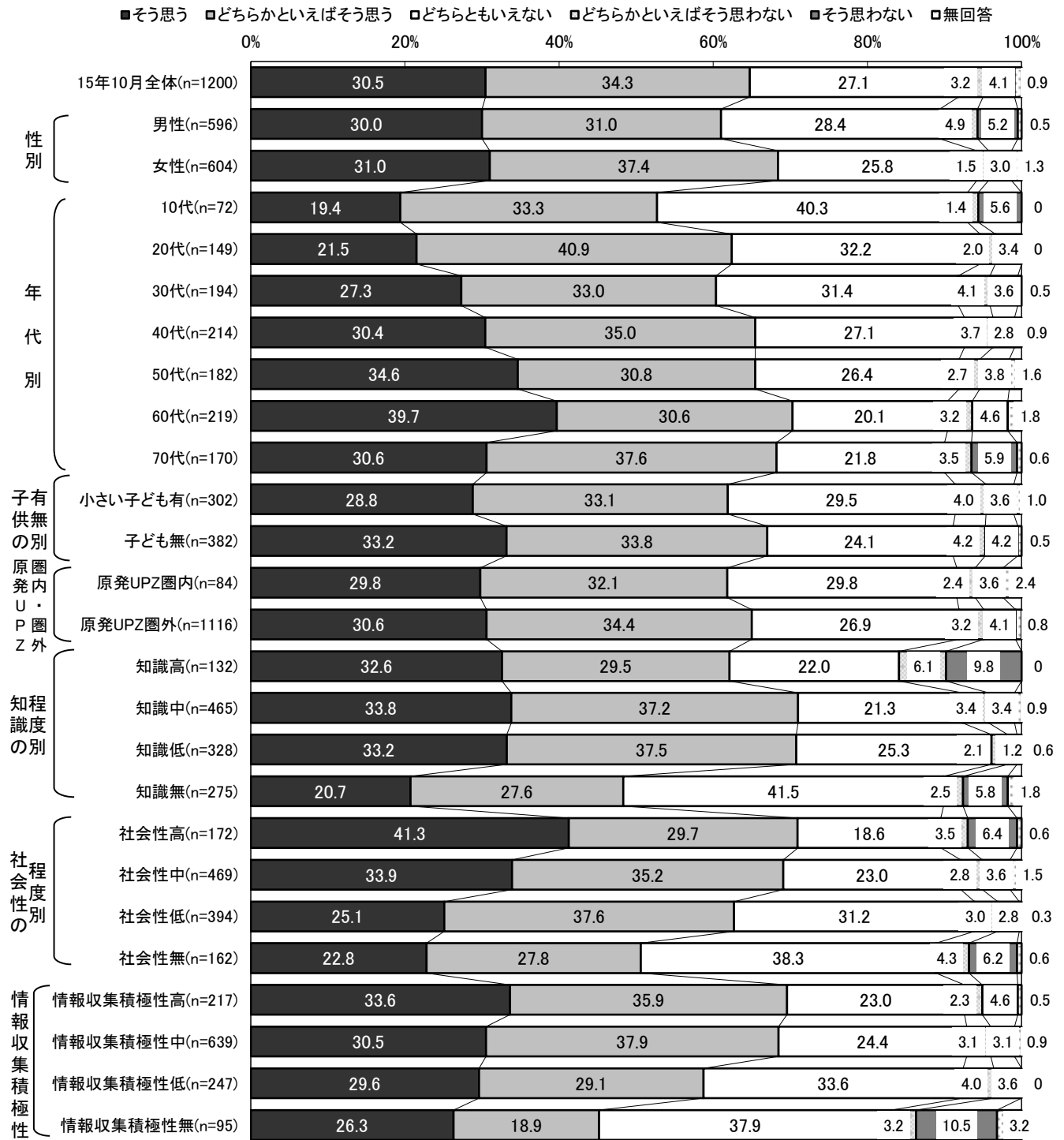
「わが国のような地震国に原子力発電所は危険である」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は64.8%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は7.3%。前回と大きな変化はない。

年代別に見ると、10~60代で、年齢と共に、強い肯定的意見が増加する。

社会性、情報収集について、高から無につれて、肯定的意見が大きく減少する。また、知識高、情報収集無の各層では、他の分類に比べると否定的意見がやや多い。

問7. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

【g】わが国のような地震国に原子力発電所は危険である】

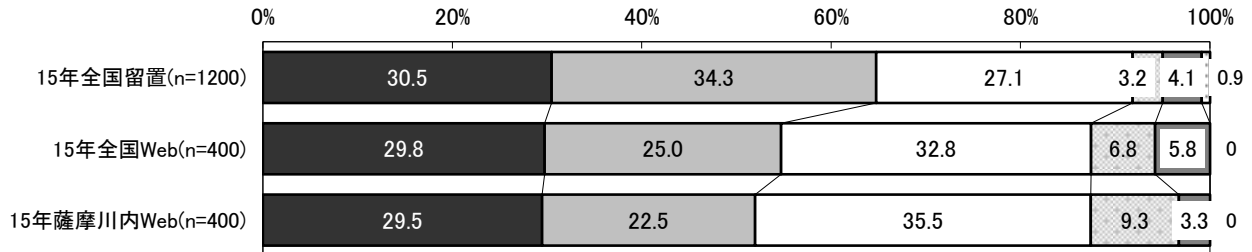


＜調査方法による比較＞

問7. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

【g】わが国のような地震国に原子力発電所は危険である】

■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ 無回答

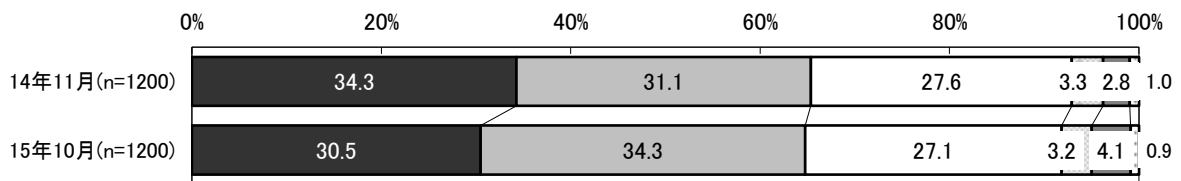


＜経年変化＞

問. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

【わが国のような地震国に原子力発電所は危険である】

■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ 無回答



＜参考＞

日本原子力学会「エネルギーと原子力に関するアンケート」

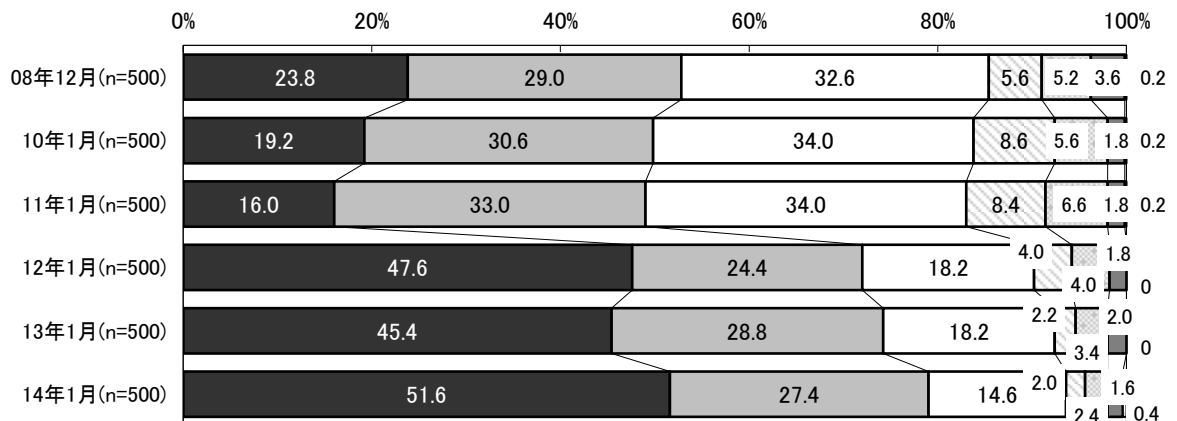
問. 原子力発電の利用に係わる意見として、たとえば以下のような意見が聞かれます。

それぞれの意見に対して、あなたは納得できますか、納得できませんか。

あなたのお考えにもっとも近いと思われる数字の個所にそれぞれ1つだけ○をつけてください。

【わが国のような地震国に原子力発電所は危険である】

■ 納得できる □ どちらかといえば納得できる □ どちらともいえない □ わからない・しらない
□ どちらかといえば納得できない ■ 納得できない □ 無回答



●原子力発電のリスク認知(防災)

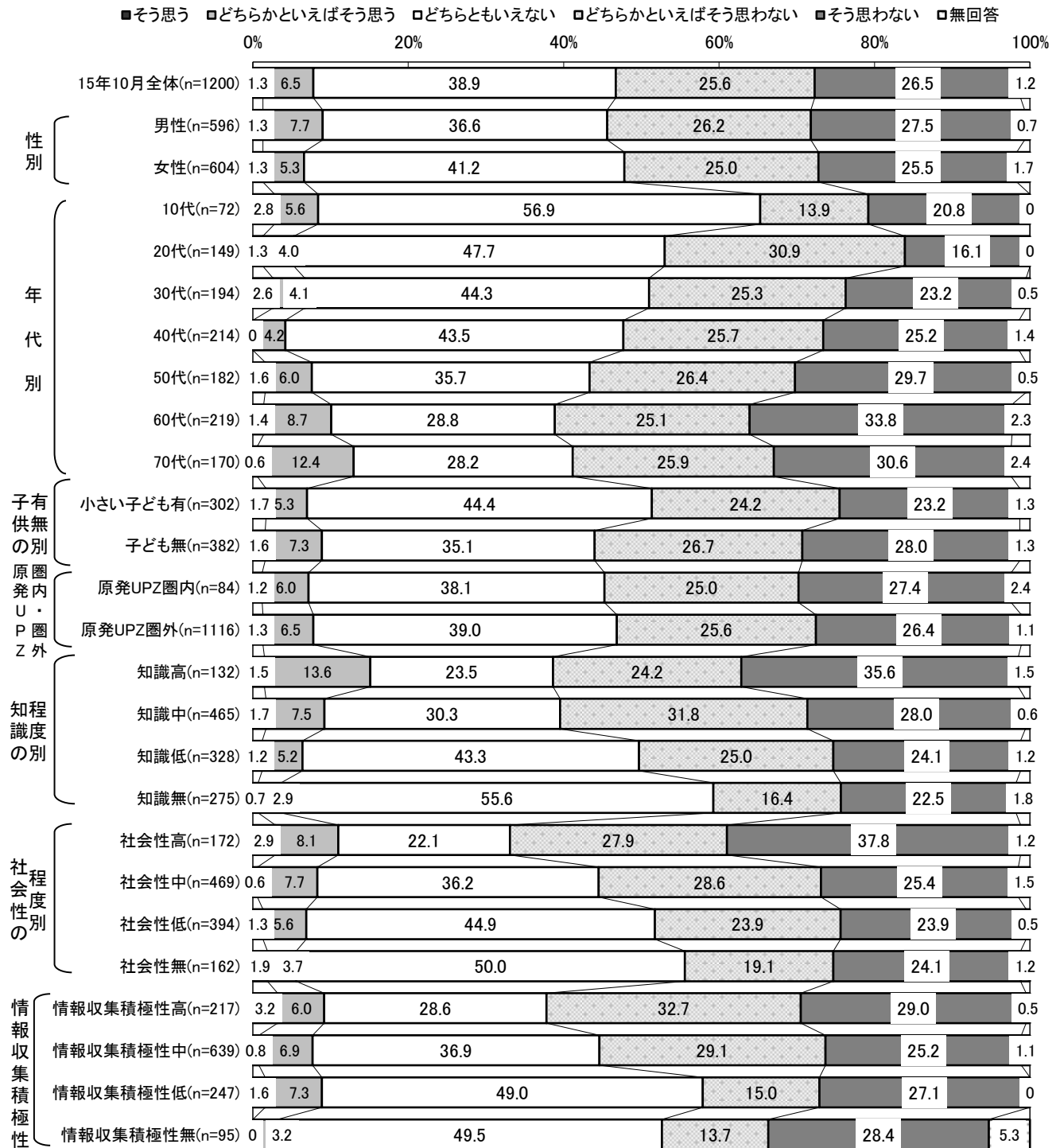
「原子力発電所の周辺地域の防災体制は整備されていると思う」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は7.8%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は52.1%。前回の質問文「原子力発電所の周辺地域の防災体制は十分でないと思う」とは意図が逆転しているの、参考データであるが、その傾向は大きく変わらないと思われる。

年齢別に見ると、10～60代で、年齢と共に、否定的意見が増加する。また、40～60代では、年齢と共に肯定的意見も増加する。

知識、社会性、情報収集について、高から無につれて、肯定的意見が減少し、否定的意見も大きく減少する。

問7. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

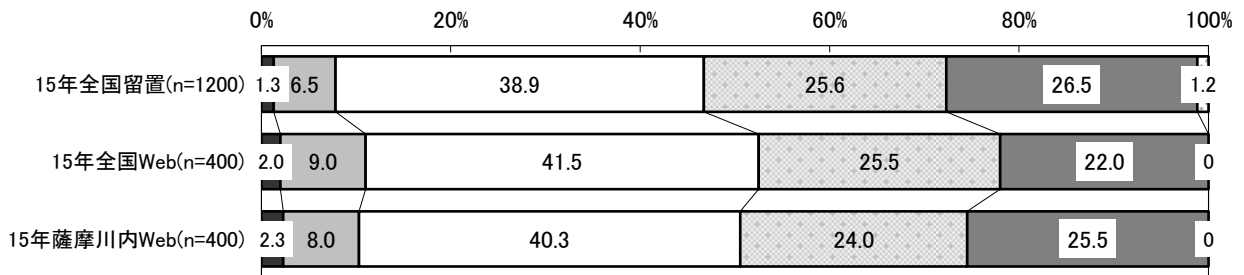
【h) 原子力発電所の周辺地域の防災体制は整備されていると思う】



<調査方法による比較>

問7. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)
【h) 原子力発電所の周辺地域の防災体制は整備されていると思う】

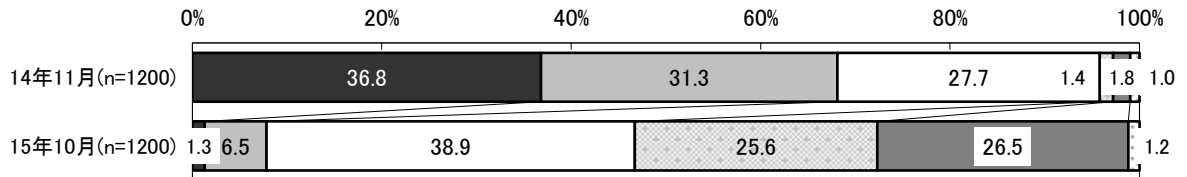
■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ 無回答



<参考>

問. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)
14年11月【原子力発電所の周辺地域の防災体制は十分でないと思う】
15年10月【原子力発電所の周辺地域の防災体制は整備されていると思う】

■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ 無回答



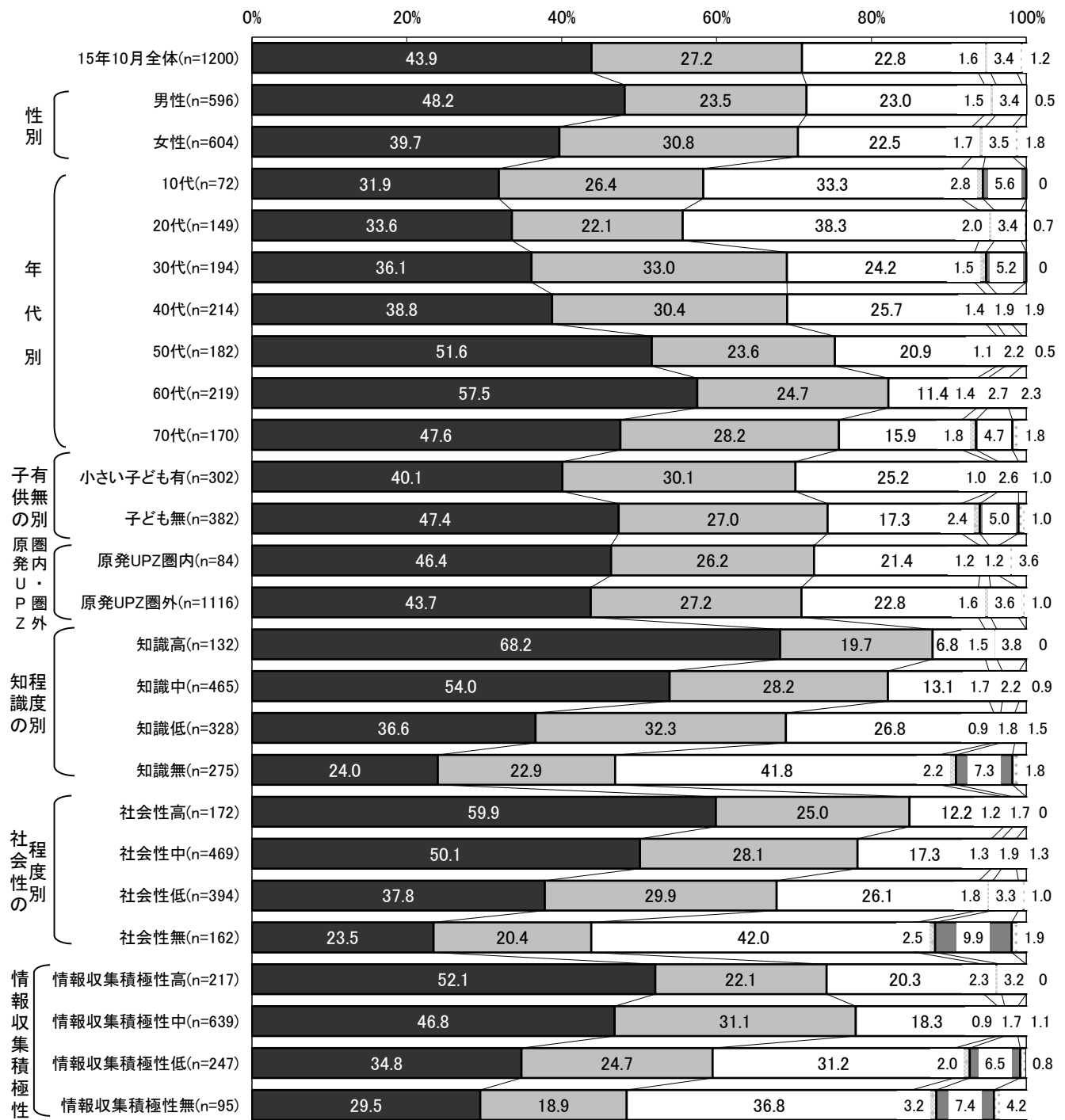
●原子力発電のリスク認知(放射性廃棄物処分)

「原子力発電所から発生する高レベル放射性廃棄物の最終処分地を早急に決定しなければならない」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は71.1%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は5.0%。日本原子力学会の参考データと同様の傾向であるといえる。
年齢別に見ると、10~60代で、年齢と共に、肯定的意見が増加する。知識、社会性、情報収集について、高から無につれて、肯定的意見が大きく減少する。

問7. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

【i) 原子力発電所から発生する高レベル放射性廃棄物の最終処分地を早急に決定しなければならない】

■そう思う □どちらかといえばそう思う □どちらともいえない □どちらかといえばそう思わない ■そう思わない □無回答

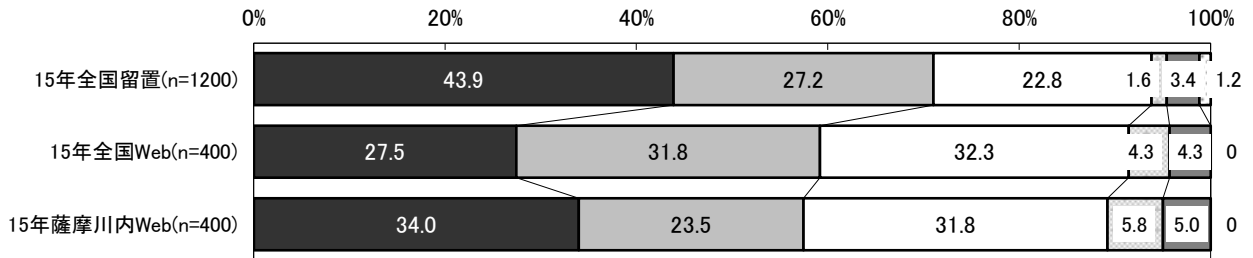


<調査方法による比較>

問7. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

【(i) 原子力発電所から発生する高レベル放射性廃棄物の最終処分地を早急に決定しなければならない】

■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ 無回答



<参考>

日本原子力学会「エネルギーと原子力に関するアンケート」

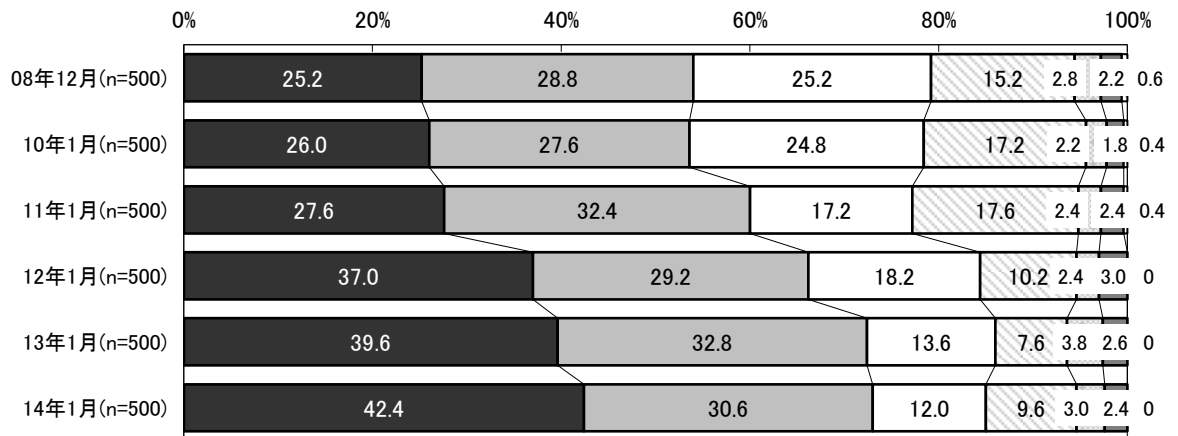
問. 原子力発電の利用に係わる意見として、たとえば以下のような意見が聞かれます。

それぞれの意見に対して、あなたは納得できますか、納得できませんか。

あなたのお考えにもっとも近いと思われる数字の個所にそれぞれ1つだけ○をつけてください。

【高レベル放射性廃棄物の最終処分地を早急に決定しなければならない】

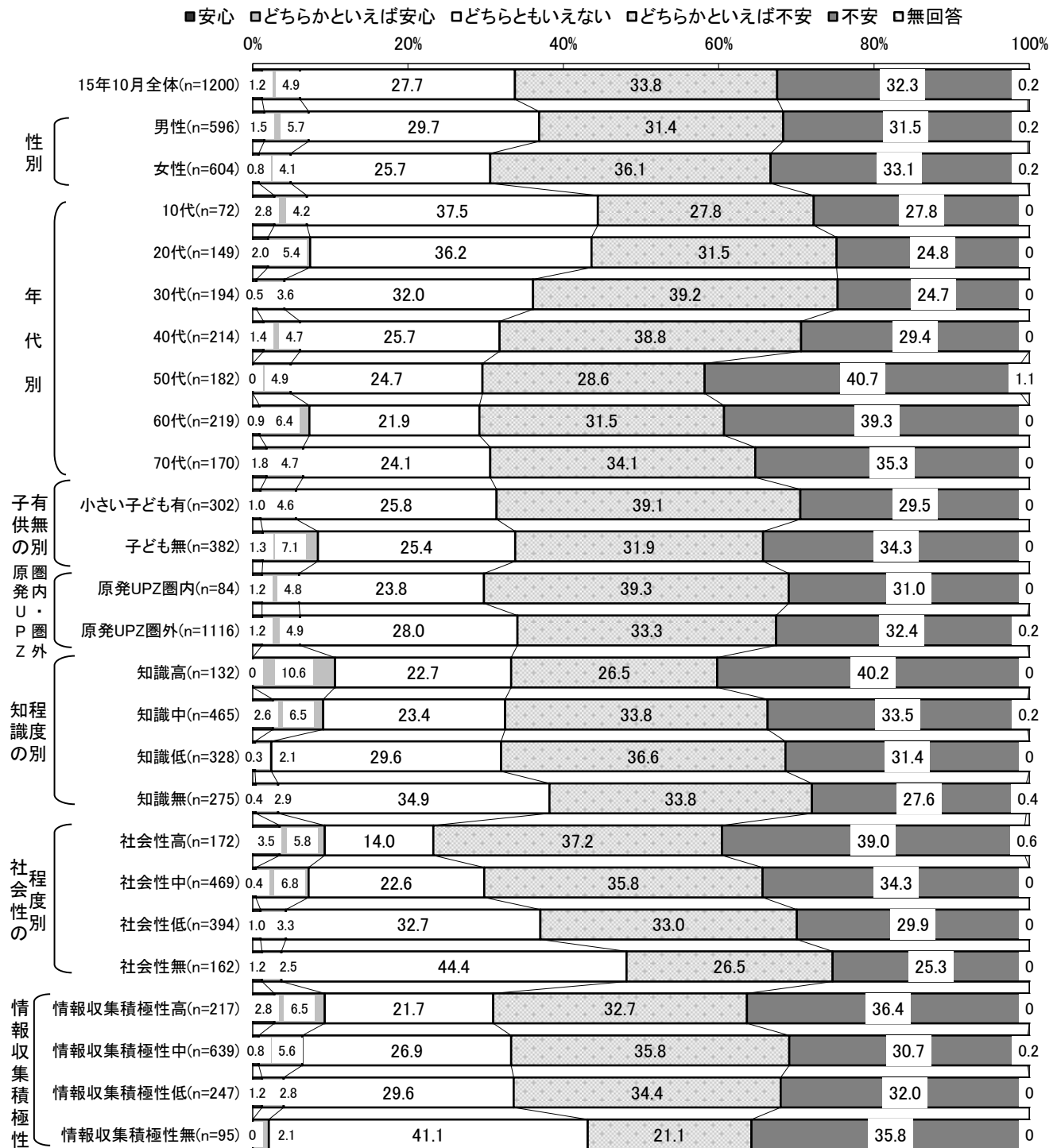
■ 納得できる □ どちらかといえば納得できる □ どちらともいえない □ わからない・しらない
□ どちらかといえば納得できない □ 納得できない □ 無回答



●原子力発電のリスク認知(放射性廃棄物処分)

放射性廃棄物処分の検討について、安心(「安心」+「どちらかといえば安心」という回答は6.1%であるのに対し、不安(「不安」+「どちらかといえば不安」という回答は66.1%と、不安層が圧倒的に多い。福島事故以降、不安感が徐々に増加しているように見える。年代別にみると、10～50代で、年齢と共に、不安との回答が増加する。60代以上では7割近くが不安と回答している。知識、社会性、情報収集について、高から無につれて、不安との回答が減少する。知識と社会性では、強い不安感も減少している。一方、安心回答についてはももとの割合が小さいが、知識、社会性、情報収集について、高から無につれて減少する。

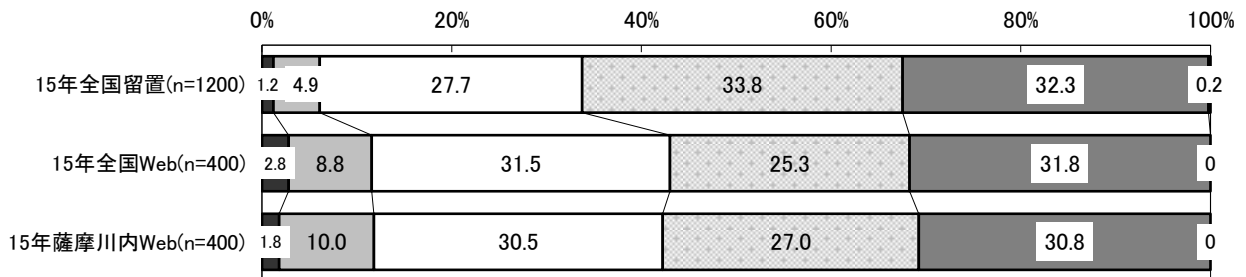
問8. 現在、高レベル放射性廃棄物の処分について検討が行なわれています。あなたは、そのことについてどのように感じますか。(○は1つだけ)



<調査方法による比較>

問8. 現在、高レベル放射性廃棄物の処分について検討が行なわれています。
あなたは、そのことについてどのように感じますか。(○は1つだけ)

■安心 □どちらかといえば安心 □どちらともいえない □どちらかといえば不安 ■不安 □無回答

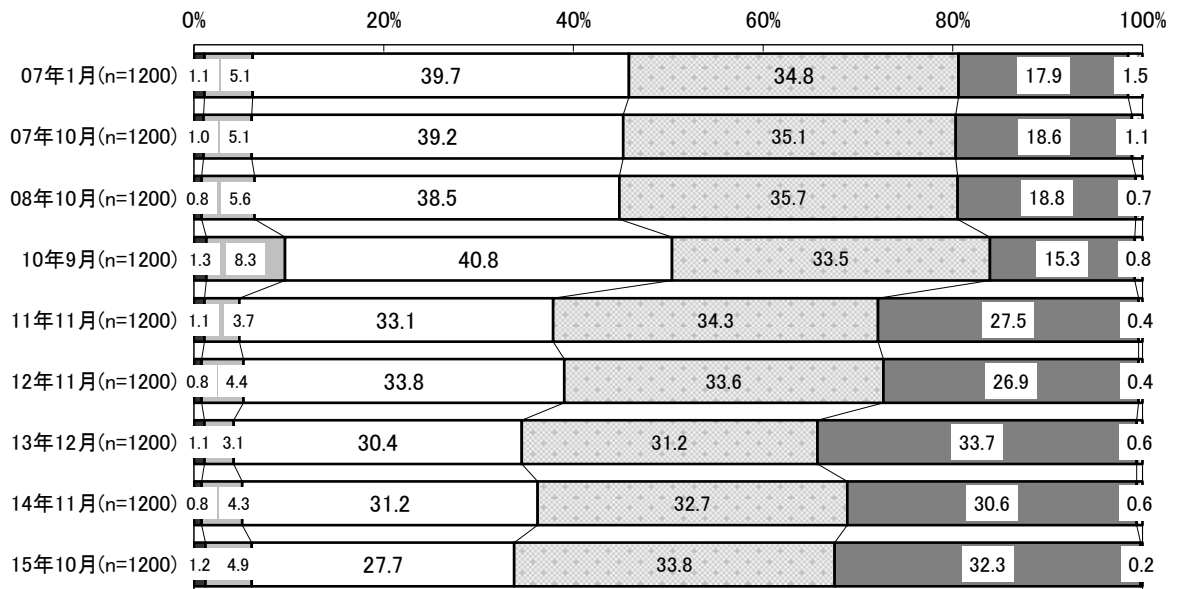


<経年変化>

問. 現在、高レベル放射性廃棄物の処分について検討が行なわれています。
あなたは、そのことについてどのように感じますか。(○は1つだけ)

* 11年11月までの質問文は、「放射性廃棄物」として聴取

■安心 □どちらかといえば安心 □どちらともいえない □どちらかといえば不安 ■不安 □無回答



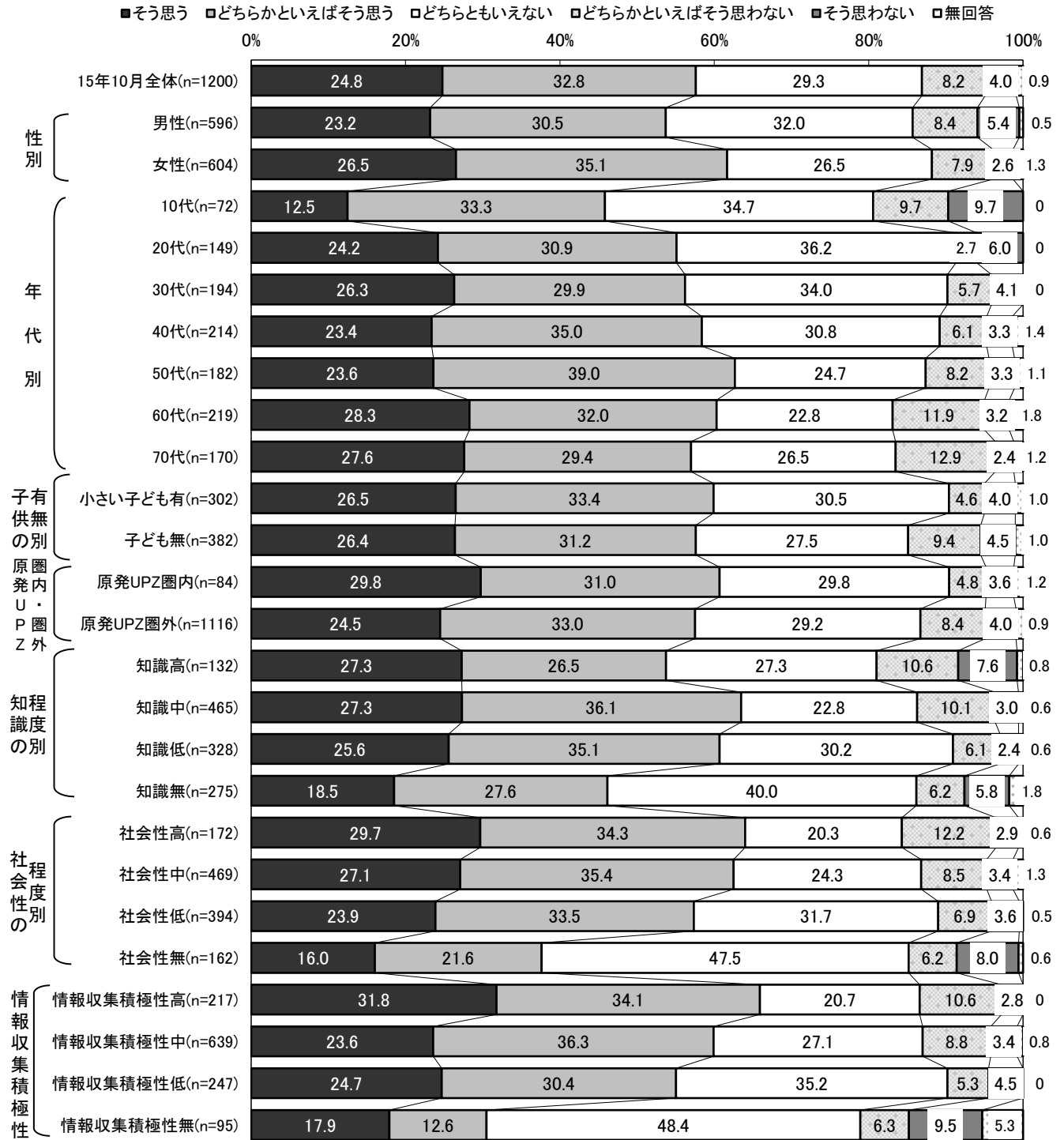
●放射能・放射線のリスク認知(汚染)

「自分のまわりの土壌や食品・水の放射能汚染のことが心配だ」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は57.6%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は12.2%。前回と比べて、若干ではあるが、否定側に变化したように見える。

年代別に見ると、10～50代で、年齢と共に肯定的意見が増加する。また、10代、60～70代で、他の年齢層と比べて、否定的な意見が多い。知識について、中程度で、肯定的意見が多く、否定的意見が小さい。逆に、知識高・無では、肯定的意見が比較的に小さく、否定的意見が比較的高くなる。社会性、情報収集について、高から無につれて、肯定的意見が大きく減少する。情報収集無の層では、他の分類と比べて、否定的意見が高め。

問7. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

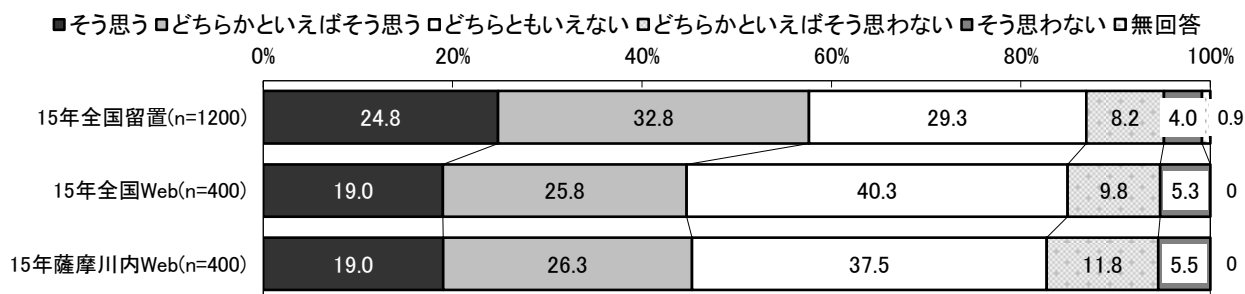
【k】自分のまわりの土壌や食品・水の放射能汚染のことが心配だ】



<調査方法による比較>

問7. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

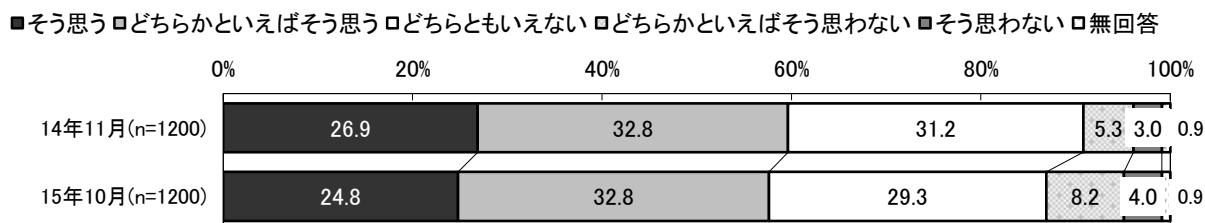
【k) 自分のまわりの土壌や食品・水の放射能汚染のことが心配だ】



<経年変化>

問. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

【自分のまわりの土壌や食品・水の放射能汚染のことが心配だ】



<参考>

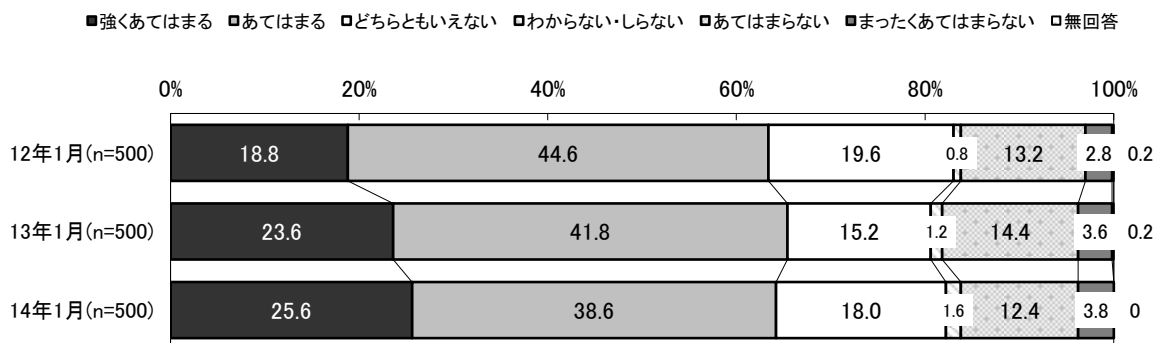
日本原子力学会「エネルギーと原子力に関するアンケート」

問. 以下は、放射能や放射線についてよく聞かれる意見です。

これらの意見は、あなたのお考えにあてはまりますか、あてはまりませんか。

あなたのお考えにもっとも近いと思われる数字の個所にそれぞれ1つだけ○をつけてください。

【自分のまわりの土壌や食品・水の放射能汚染のことが心配だ】

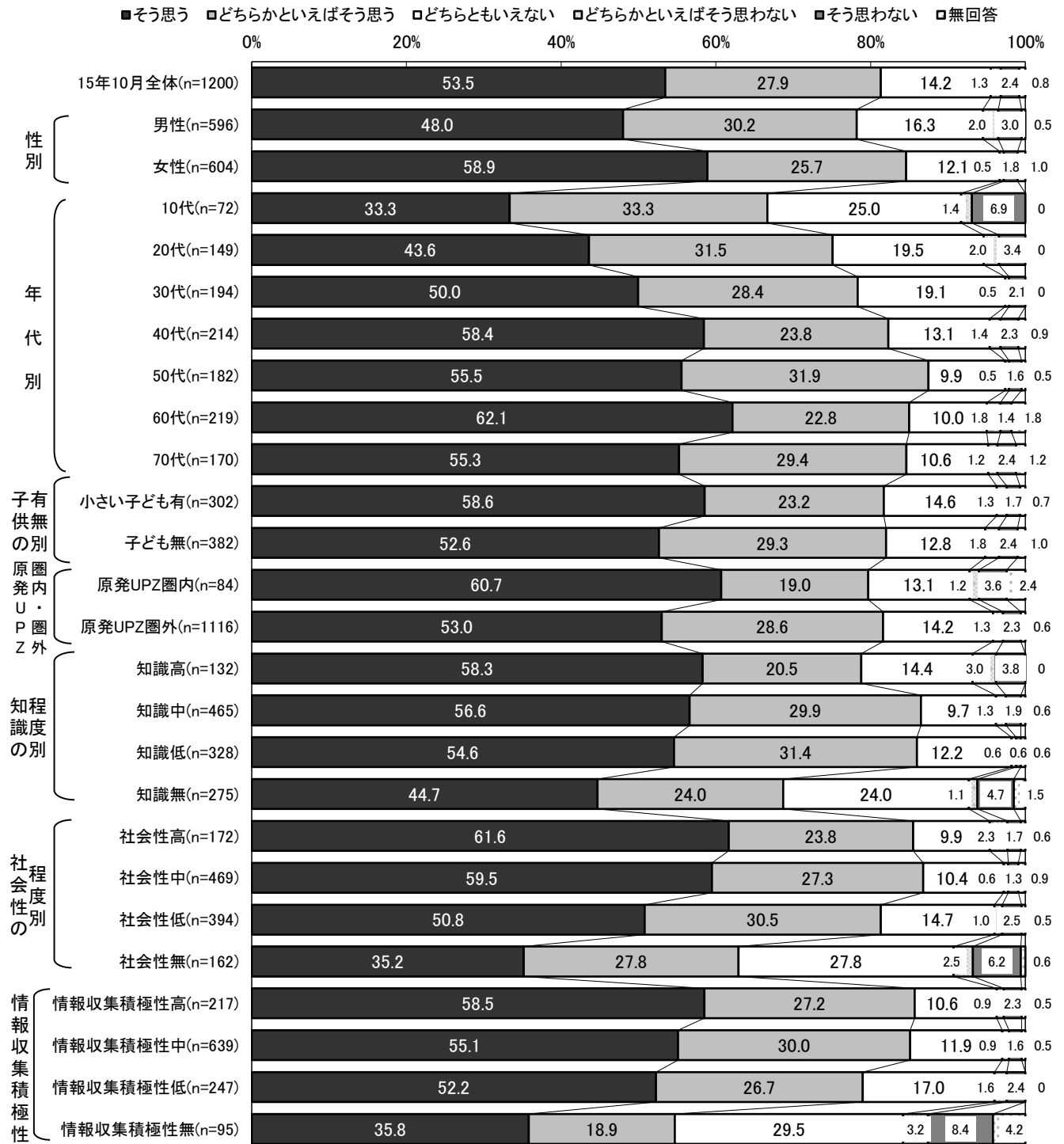


●放射能・放射線のリスク認知(影響)

「子供たちや将来の世代への放射能や放射線の影響はゼロにしてほしい」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は81.4%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は3.7%。前回と比べて、肯定的意見が若干増えているように見える。
 年代別に見ると、10~60代で、年齢と共に、肯定的意見が増加する。
 知識、社会性、情報収集について、無の層では、肯定的意見が他の分類に比べて低め。

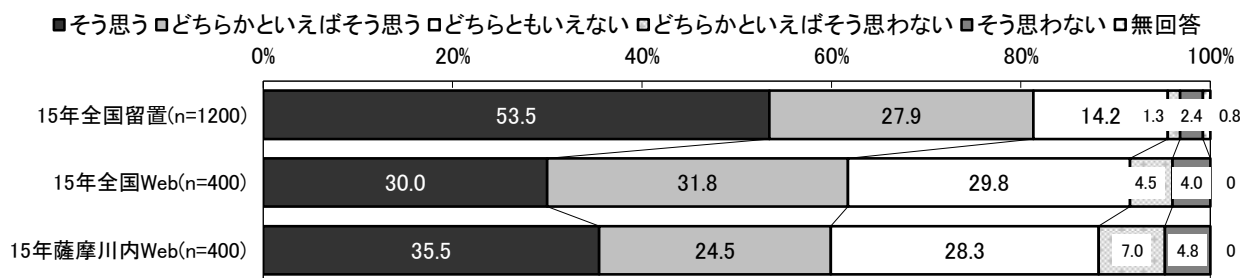
問7. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
 あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

【1】子供たちや将来の世代への放射能や放射線の影響はゼロにしてほしい】



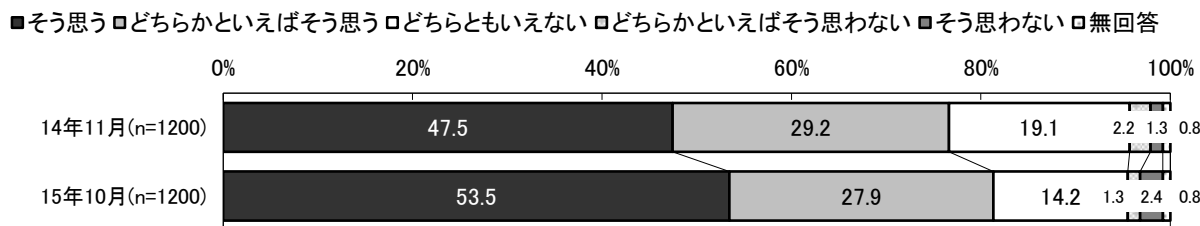
<調査方法による比較>

問7. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)
【(1) 子供たちや将来の世代への放射能や放射線の影響はゼロにしてほしい】



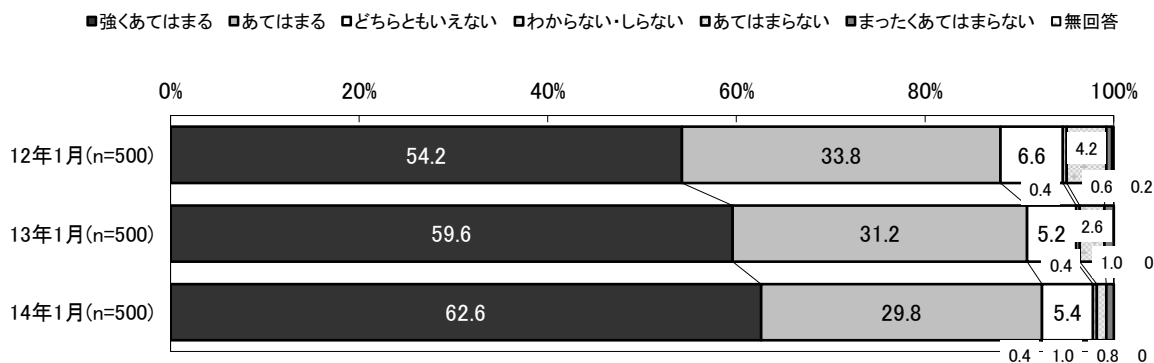
<経年変化>

問. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)
【子供たちや将来の世代への放射能や放射線の影響はゼロにしてほしい】



<参考>

日本原子力学会「エネルギーと原子力に関するアンケート」
問. 以下は、放射能や放射線についてよく聞かれる意見です。
これらの意見は、あなたのお考えにあてはまりますか、あてはまりませんか。
あなたのお考えにもっとも近いと思われる数字の個所にそれぞれ1つだけ○をつけてください。
【子供たちや将来の世代への放射能や放射線の影響はゼロにしてほしい】



●放射能・放射線のリスク認知(食品)

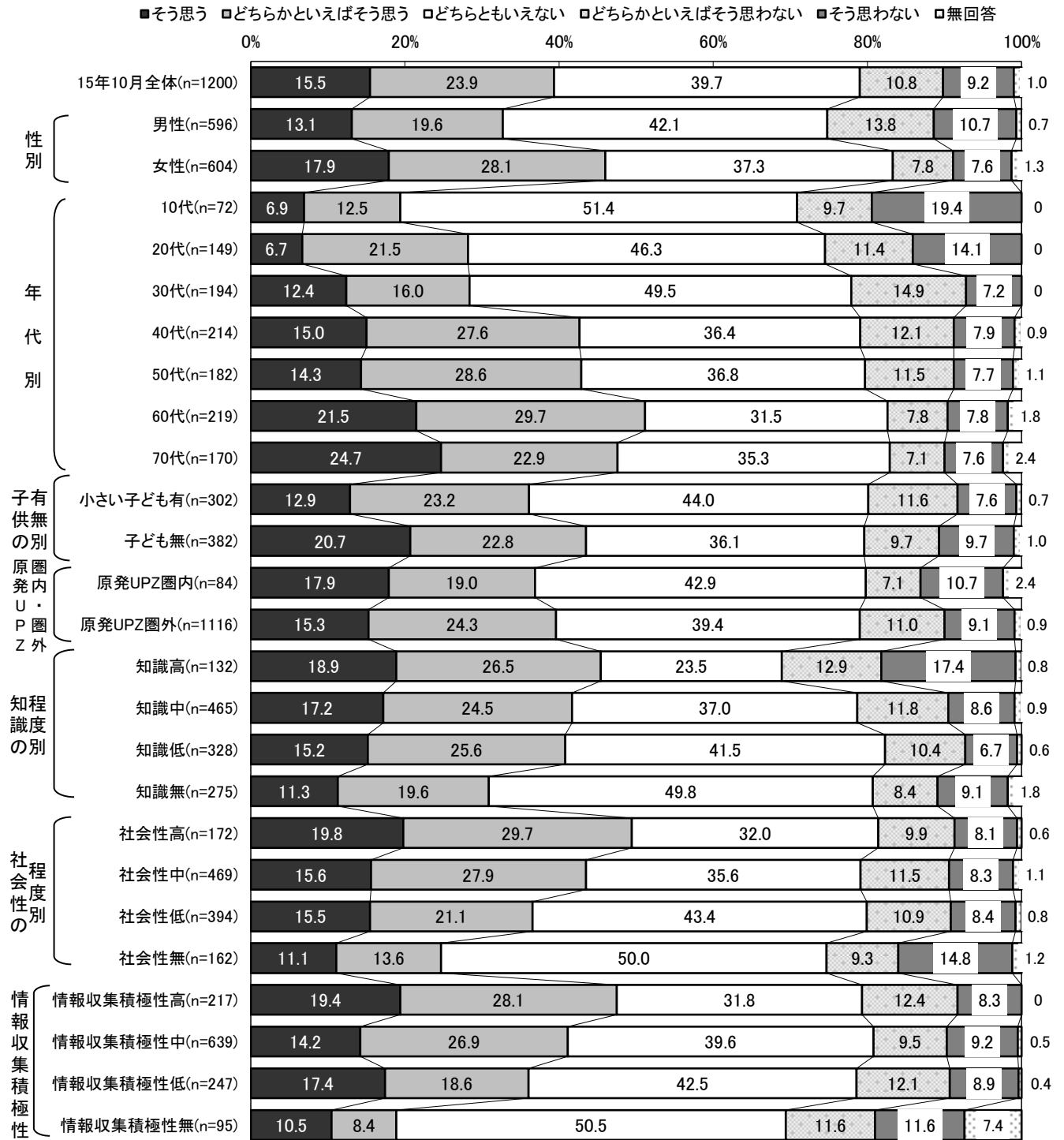
「食品を選ぶときは、放射能について気をつけている」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は39.4%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は20.0%。前回と比べると、若干否定的意見が増えているように見える。

年代別に見ると、10~60代で、年齢と共に、肯定的意見が増加し、否定的意見が減少する。

知識、社会性、情報収集について、高から無につれて、肯定的意見が減少する。一方、否定的意見については、知識高、情報収集無の層では、他の分類と比べて、高めにしている。

問7. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

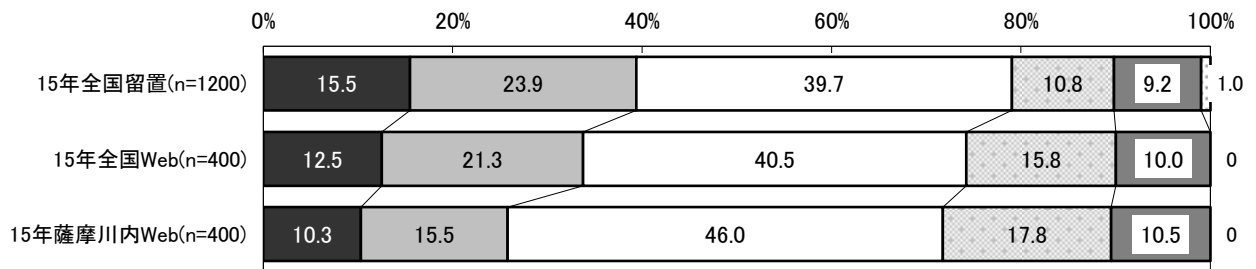
【m】食品を選ぶときは、放射能について気をつけている



<調査方法による比較>

問7. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
 あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)
 【(m) 食品を選ぶときは、放射能について気をつけている】

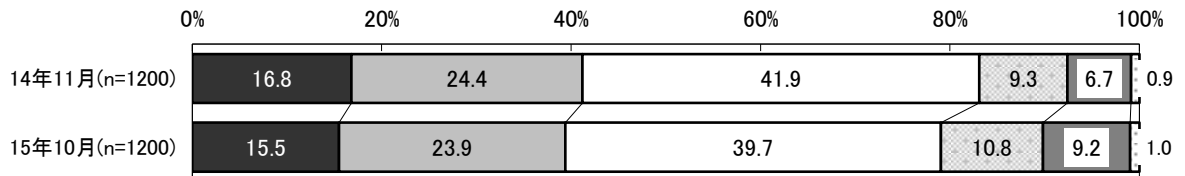
■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない □ 無回答



<経年変化>

問. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
 あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)
 【食品を選ぶときは、放射能について気をつけている】

■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない □ 無回答



●エネルギー供給のリスク認知

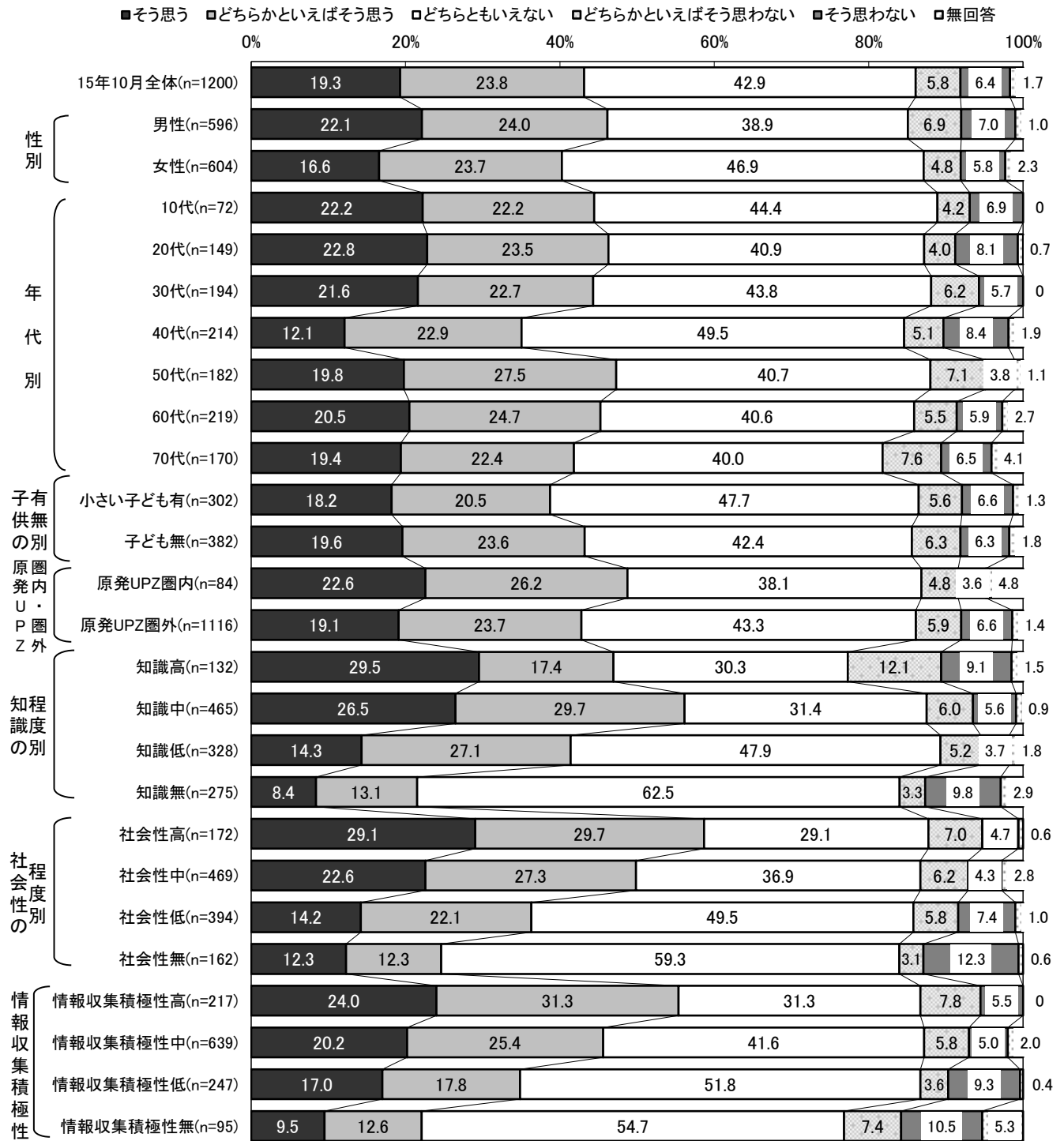
「化石資源を使い切ることやオイルショックが心配だ」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は43.1%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は12.2%。前回と大きな変化はない。

年代別に見ると、40代で肯定的意見が低い。

知識について、中から無につれて、肯定的意見が減少する。知識高の層では、肯定的意見と否定的意見が二極化する。社会性、情報収集について、高から無につれて、肯定的意見が大きく減少し、中庸意見が増加する。

問7. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

【j) 化石資源を使い切ることやオイルショックが心配だ】

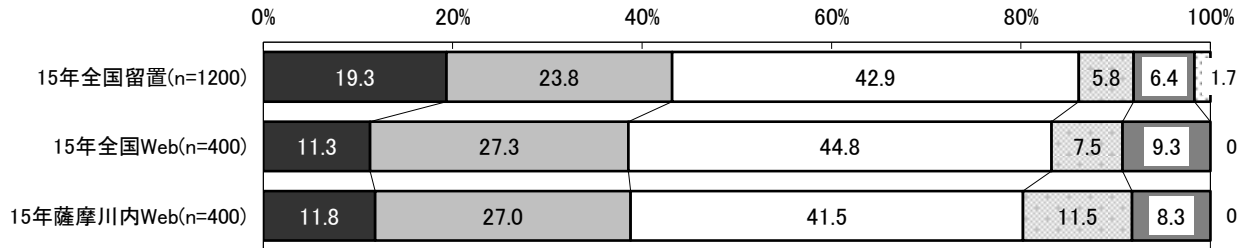


＜調査方法による比較＞

問7. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

【(i) 化石資源を使い切ることやオイルショックが心配だ】

■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ 無回答



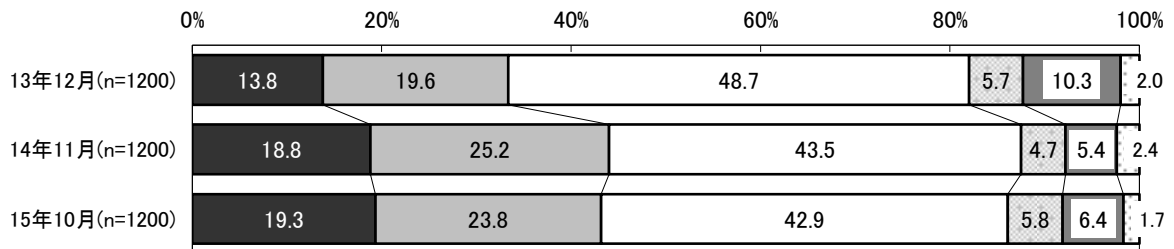
＜経年変化＞

問. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

【化石資源を使い切ることやオイルショックが心配だ】

* 13年12月は、「あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。」と聴取。

■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ 無回答

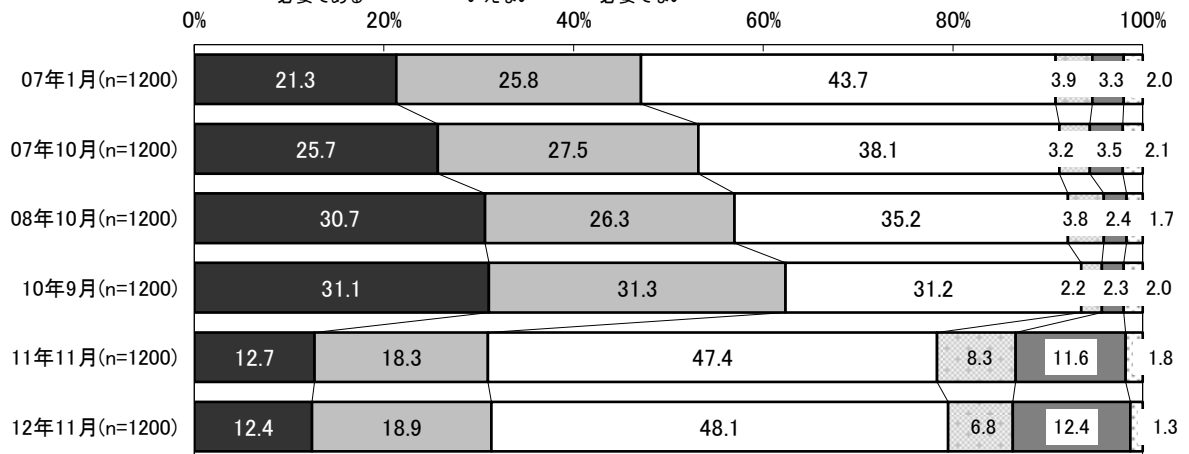


＜参考＞

問. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

【化石資源を使い切ることやオイルショックに備え、原子力を活用すること】

■ 必要である □ どちらかといえば必要である □ どちらともいえない □ どちらかといえば必要でない □ 必要でない □ 無回答



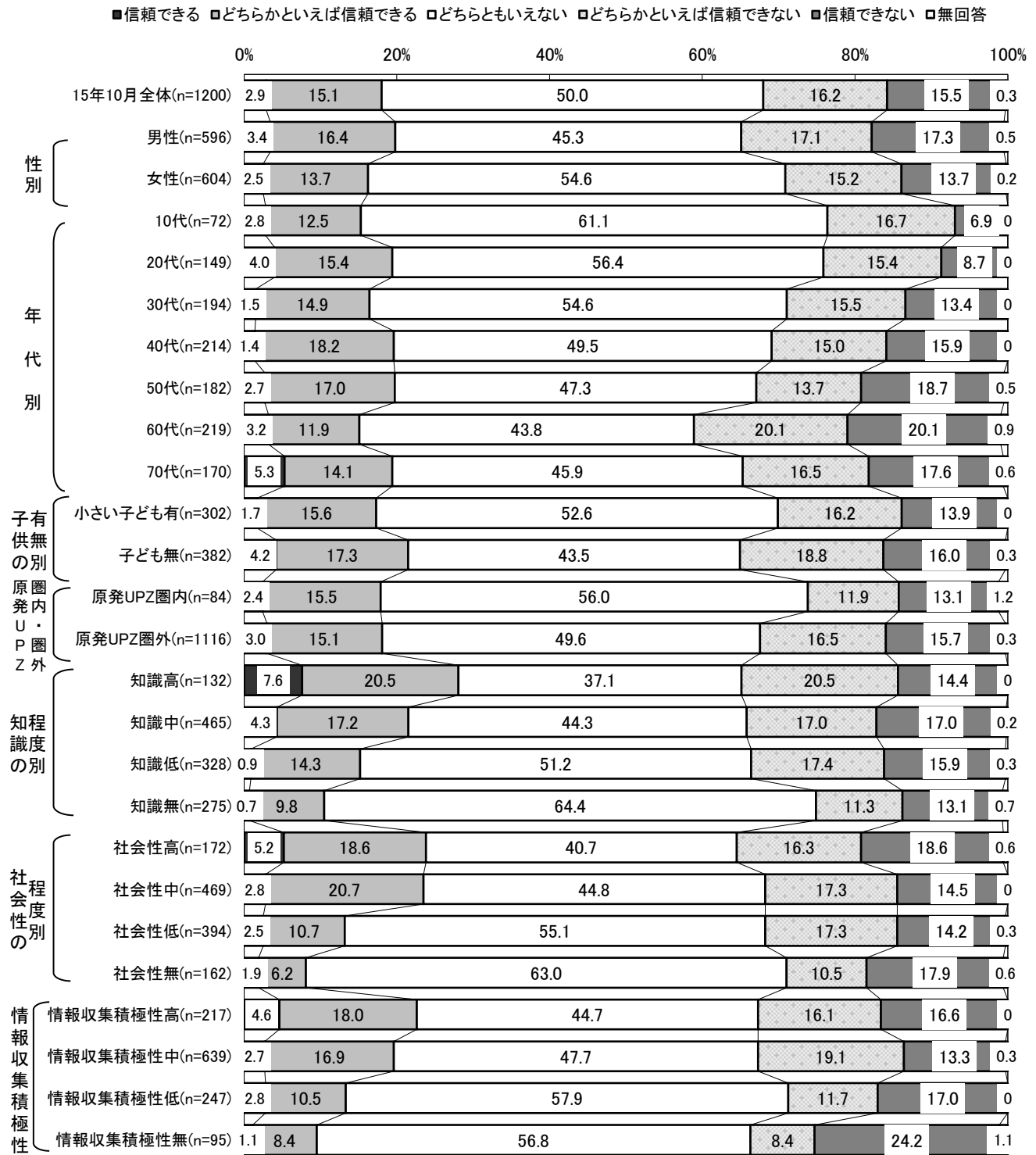
* 07年1月の選択肢は「そう思う／どちらかといえばそう思う」、07年10月からは「必要である／どちらかといえば必要である」

VII章 原子力に対する信頼について

●原子力の専門家に対する信頼

原子力の専門家についての信頼を聞いたところ、信頼できる(「信頼できる」+「どちらかといえば信頼できる」という回答は18.0%、信頼できない(「信頼できない」+「どちらかといえば信頼できない」という回答は31.7%。「どちらともいえない」という回答が50.0%を占めている。原子力事業者、国(前回)や自治体(今回)に比べると、信頼感が高め。年代別にみると、10~60代で、年齢と共に、否定的意見が若干増加する。知識、社会性、情報収集について、高から無につれて、肯定的意見が減少する。

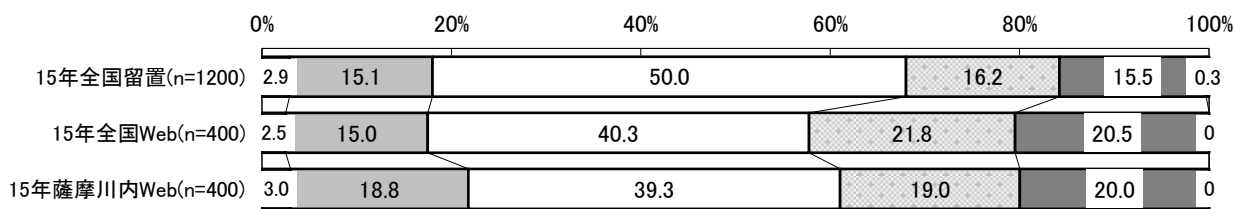
問9-1. 原子力に関して、あなたは「原子力の専門家」を信頼できると思いますか。(○は1つだけ)



<調査方法による比較>

問9-1. 原子力に関して、あなたは「原子力の専門家」を信頼できると思いますか。(○は1つだけ)

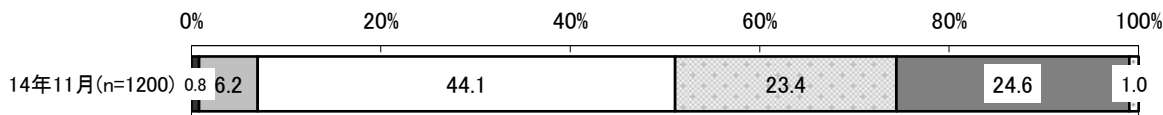
■信頼できる □どちらかといえば信頼できる □どちらともいえない □どちらかといえば信頼できない □信頼できない □無回答



<参考>

問. 原子力に関して、あなたは「原子力の事業者」を信頼できると思いますか。(○は1つだけ)

■信頼できる □どちらかといえば信頼できる □どちらともいえない □どちらかといえば信頼できない □信頼できない □無回答

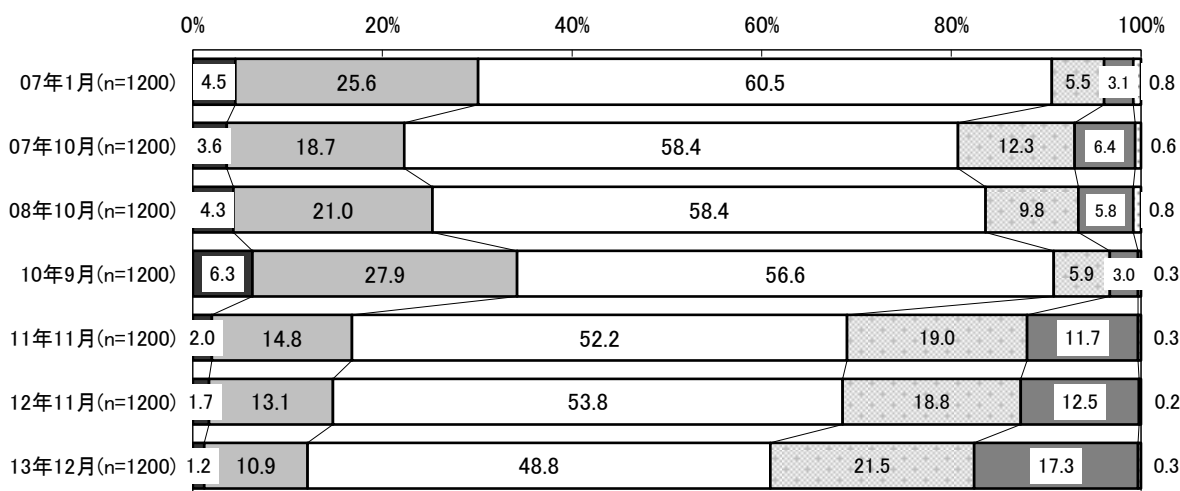


<参考>

問. 原子力に関して、あなたは専門家や原子力関係者を信頼できると思いますか。(○は1つだけ)

*07年1月～12年11月までは「あなたは、原子力に携わる専門家や原子力関係者を信頼できると思いますか」と聴取

■信頼できる □どちらかといえば信頼できる □どちらともいえない □どちらかといえば信頼できない □信頼できない □無回答



●原子力の専門家に対する信頼(理由)

原子力の専門家を「信頼できる」とする回答者については、「専門的な知識を持っているから」が突出して多く、次いで「信頼したいから」「熱意を持って、原子力に携わっているから」と続く。
 一方、「信頼できない」とする回答者については、「情報公開が不足しているから」「正直には話していないから」「管理体制や安全対策が不足しているから」が多く、「偏った見方をしているから」「私たちのことには配慮していないから」「私たちと考え方が違うから」と続く。
 「どちらともいえない」とする回答者は、「情報公開が不足しているから」のポイントが高く、「管理体制や安全対策が不足しているから」「正直には話していないから」と続く。「信頼できない」とする回答者と類似の項目を選択することが多いが、そのポイント数はかなり低いことがわかる。

問9-2. あなたが、問9-1でそう答えた理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。
 (○はいくつでも)

N→	全体N=1200			全体N=400			全体N=400		
	15年全国留置			15年全国Web			15年薩摩川内Web		
	信頼できる	どちらともいえない	信頼できない	信頼できる	どちらともいえない	信頼できない	信頼できる	どちらともいえない	信頼できない
	216	600	380	70	161	169	87	157	156
原子力の専門家は、専門的な知識を持っているから	94.0	15.2	2.4	81.4	10.6	1.8	87.4	16.6	1.3
原子力の専門家は、専門的な知識が不足しているから	0.9	5.5	11.8	2.9	7.5	5.3	3.4	2.5	9.6
原子力の専門家は、偏った見方をしているから	2.8	17.3	37.6	1.4	14.9	39.1	2.3	19.1	46.2
原子力の専門家は、公平な見方をしているから	15.7	2.8	1.3	15.7	3.7	2.4	19.5	5.7	1.3
原子力の専門家は、正直に話しているから	10.2	1.7	0.3	12.9	3.1	0.6	16.1	2.5	1.9
原子力の専門家は、正直には話していないから	2.3	22.2	51.6	4.3	18.0	44.4	2.3	18.5	37.2
原子力の専門家は、私たちのことを配慮しているから	11.6	3.2	0.5	5.7	1.2	1.8	12.6	3.2	0.6
原子力の専門家は、私たちのことには配慮していないから	0.9	10.0	28.7	1.4	9.3	23.7	1.1	13.4	25.6
原子力の専門家は、私たちと考え方が似ているから	1.9	0.8	0.3	2.9	1.2	0.6	4.6	-	-
原子力の専門家は、私たちとは考え方が違うから	4.6	13.8	22.4	2.9	11.8	18.3	2.3	16.6	26.3
原子力の専門家は、熱意をもって、原子力に携わっているから	30.1	4.5	0.8	30.0	2.5	1.8	31.0	2.5	0.6
原子力の専門家は、熱意が感じられないから	0.9	4.8	19.2	-	6.2	10.7	-	5.1	18.6
原子力の専門家は、管理体制や安全対策ができていないから	8.3	1.5	1.1	7.1	0.6	1.8	16.1	1.3	1.9
原子力の専門家は、管理体制や安全対策が不足しているから	3.7	27.7	48.7	1.4	19.3	32.0	2.3	17.8	40.4
原子力の専門家は、情報公開ができていないから	5.6	2.0	1.3	5.7	-	3.6	10.3	0.6	-
原子力の専門家は、情報公開が不足しているから	6.5	46.2	59.5	2.9	25.5	53.8	3.4	33.8	48.7
原子力の専門家を信頼したいから	42.1	6.0	1.1	32.9	6.8	1.2	32.2	8.3	1.3
原子力の専門家を信頼したくないから	-	6.0	16.8	-	6.2	21.9	1.1	5.1	25.6
その他	1.9	15.2	6.6	-	13.0	2.4	1.1	10.2	6.4

(%)

<参考> 2014年11月

問. あなたが、前の間でそう答えた理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。
(○はいくつでも)

※対象が「原子力の事業者」

	全体 N→	原子力事業者を信頼できるかどうか		
		信頼 できる	どちらとも いえない	信頼 できない
	1200	83	529	576
原子力の事業者は、専門的な知識を持っているから	13.1	78.3	16.3	0.9
原子力の事業者は、専門的な知識が不足しているから	10.9	1.2	5.9	17.2
原子力の事業者は、偏った見方をしているから	19.3	-	10.2	30.9
原子力の事業者は、公平な見方をしているから	1.6	7.2	1.7	0.7
原子力の事業者は、正直に話しているから	0.9	4.8	0.9	0.2
原子力の事業者は、正直には話していないから	43.6	3.6	31.2	61.6
原子力の事業者は、私たちのことを 配慮しているから	2.1	10.8	3.0	-
原子力の事業者は、私たちのことには 配慮していないから	23.9	-	10.6	40.1
原子力の事業者は、私たちと考え方が似ているから	0.7	1.2	0.9	0.3
原子力の事業者は、私たちとは考え方が違うから	16.2	1.2	9.6	24.7
原子力の事業者は、熱意をもって、 原子力に携わっているから	4.2	32.5	4.2	0.2
原子力の事業者は、熱意が感じられないから	12.9	1.2	7.6	19.8
原子力の事業者は、管理体制や安全対策が できているから	2.7	21.7	2.1	0.5
原子力の事業者は、管理体制や安全対策が 不足しているから	43.5	1.2	30.1	62.7
原子力の事業者は、情報公開ができているから	1.1	2.4	1.9	0.2
原子力の事業者は、情報公開が不足しているから	52.5	2.4	43.1	69.4
原子力の事業者を信頼したいから	8.1	49.4	9.1	1.4
原子力の事業者を信頼したくないから	11.3	-	4.3	19.4
その他	7.2	6.0	10.8	4.2

(%)

<参考> 2013年12月

問. あなたが、前の問でそう答えた理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。
(○はいくつでも)

※対象が「専門家や原子力関係者」

N→	全体 1200	専門家を信頼できるかどうか		
		信頼 できる 145	どちらとも いえない 585	信頼 できない 466
専門的な知識を持っているから	16.0	84.8	10.1	2.1
専門的な知識が不足しているから	17.0	3.4	19.3	18.5
偏った見方をしているから	19.8	2.8	16.8	29.2
公平な見方をしているから	2.7	9.0	2.2	1.3
正直に話しているから	2.3	9.7	1.7	0.6
正直には話していないから	37.0	-	27.4	60.9
私たちのことを配慮しているから	3.1	11.0	3.2	0.4
私たちのことには配慮していないから	17.3	0.7	10.1	31.8
私たちと考え方が似ているから	0.7	2.8	0.5	0.2
私たちとは考え方が違うから	10.7	-	9.4	15.7
熱意をもって、原子力に携わっているから	4.8	24.8	3.4	0.2
熱意が感じられないから	13.4	0.7	9.2	22.7
管理体制や安全対策ができていないから	1.8	8.3	1.0	0.6
管理体制や安全対策が不足しているから	40.8	2.8	34.2	61.4
情報公開ができていないから	1.5	4.8	1.5	0.4
情報公開が不足しているから	52.4	4.8	49.4	71.5
信頼したいから	8.3	37.9	5.3	3.0
信頼したくないから	7.9	-	4.8	14.4
その他	4.5	2.8	6.0	3.2

(%)

<参考>

問. あなたが、前の問でそう答えた理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。
(○はいくつでも) ※対象が「原子力に携わる専門家や原子力関係者」

	12年11月			11年11月			10年9月		
	専門家を信頼できるかどうか			専門家を信頼できるかどうか			専門家を信頼できるかどうか		
	信頼 できる	どちらとも いえない	信頼 できない	信頼 できる	どちらとも いえない	信頼 できない	信頼 できる	どちらとも いえない	信頼 できない
N→	177	646	375	202	626	368	410	679	107
情報公開が十分されているから	7.9	1.5	0.8	8.4	1.0	2.4	13.2	1.8	0.8
情報公開が十分されていないから	7.9	53.4	76.0	9.4	59.4	74.5	8.0	47.9	57.0
事故の経験を踏まえて安全対策を講じることができるから	36.2	3.3	1.1	30.2	1.9	0.8			
大きな事故が起きたから	15.8	40.9	46.7	14.4	37.7	44.6			
管理体制や安全対策が十分だから	3.4	0.3	0.3	4.0	1.3	0.5	14.6	1.2	-
管理体制や安全対策が不十分だから	7.9	36.7	57.3	6.4	39.0	60.1	3.9	21.2	44.9
専門的な知識を持っている人だから	59.9	4.2	0.3	67.3	3.7	0.3	45.9	2.1	1.9
専門家にも間違いはあるから	13.0	27.6	33.1	5.4	31.9	32.1	8.3	26.2	31.8
信頼したいから	34.5	5.4	0.3	42.1	4.5	1.1	50.2	5.2	-
信頼できないから	1.1	17.5	56.5	1.0	17.4	57.9	-	11.3	49.5
その他	1.1	3.3	2.9	1.5	4.0	7.1	0.7	4.9	4.7

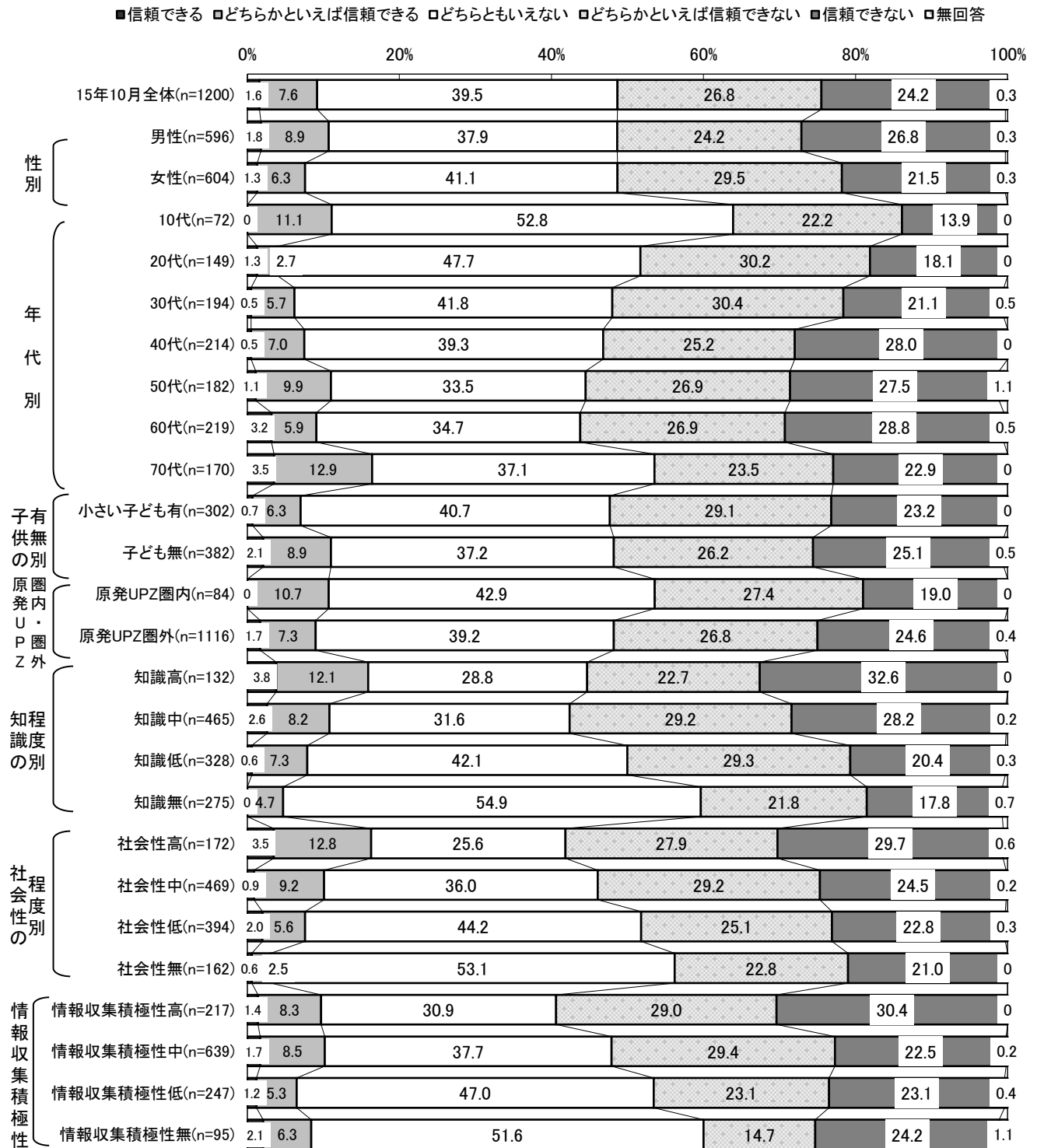
*「事故の経験を踏まえて安全対策を講じることができるから」「大きな事故が起きたから」は、11年11月から追加

(%)

●国に対する信頼

原子力について、国の信頼を聞いたところ、信頼できる(「信頼できる」+「どちらかといえば信頼できる」という回答は9.2%であるのに対し、信頼できない(「信頼できない」+「どちらかといえば信頼できない」という回答は51.0%。また、「どちらともいえない」という回答が39.5%。自治体(前回)と比べると、より信頼されていない。
年代別に見ると、10~60代で、年齢と共に、否定的意見が増加している。肯定的意見については、全体の数が少ないものの、年齢と共に、微増している。
知識、社会性、情報収集について、高から無につれて、全体として否定的意見が減少し、中庸意見が増加する。また、肯定的意見については、知識、社会性について、高から無につれて、減少する。

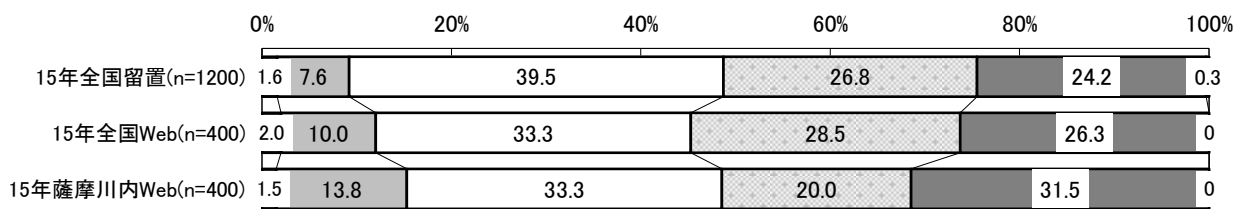
問10-1. 原子力に関して、あなたは「国」を信頼できると思いますか。(○は1つだけ)



<調査方法による比較>

問10-1. 原子力に関して、あなたは「国」を信頼できると思いますか。(○は1つだけ)

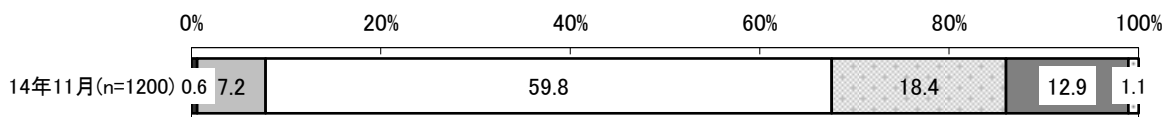
■信頼できる □どちらかといえば信頼できる □どちらともいえない □どちらかといえば信頼できない ■信頼できない □無回答



<参考>

問. 原子力に関して、あなたは「自治体」を信頼できると思いますか。(○は1つだけ)

■信頼できる □どちらかといえば信頼できる □どちらともいえない □どちらかといえば信頼できない ■信頼できない □無回答



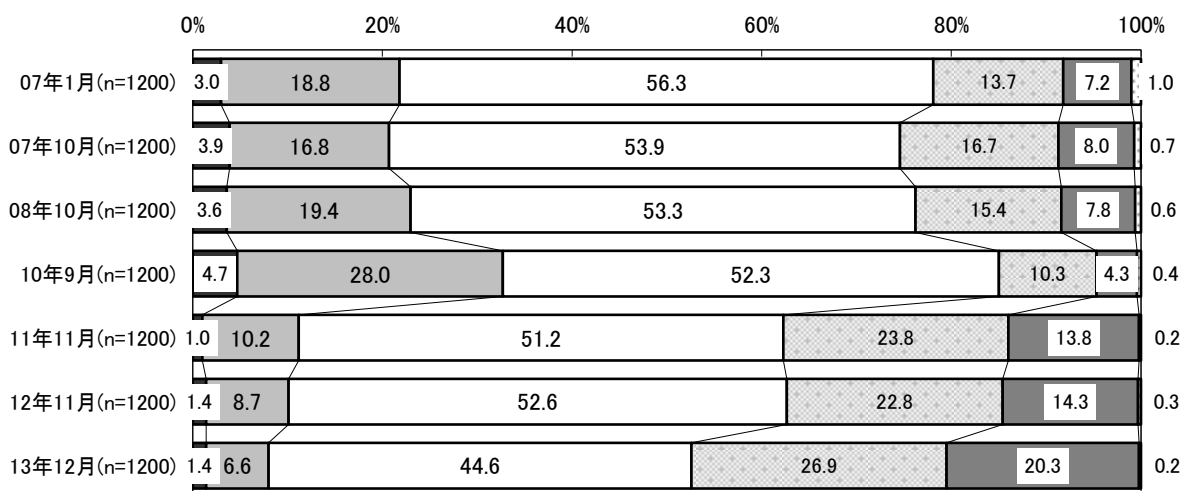
<参考>

問. 原子力に関して、あなたは国や自治体を信頼できると思いますか。(○は1つだけ)

*07年1月～12年11月までは

「原子力の安全管理や規制は国や自治体によって行なわれています。あなたは、国や自治体を信頼できると思いますか」と聴取

■信頼できる □どちらかといえば信頼できる □どちらともいえない □どちらかといえば信頼できない ■信頼できない □無回答



●国に対する信頼(理由)

国を「信頼できる」とする回答者については、「信頼したいから」が最も多く、次いで「専門的な知識を持っているから」「私たちのことを配慮しているから」「熱意を持って、原子力に携わっているから」と続く。
 一方、「信頼できない」とする回答者については、「情報公開が不足しているから」「管理体制や安全対策が不足しているから」「正直には話していないから」が多く、「自分たちの利益優先に感じるから」「私たちのことには配慮していないから」と続く。
 「どちらともいえない」とする回答者は、「情報公開が不足しているから」「管理体制や安全対策が不足しているから」「正直には話していないから」のポイントが高く、「信頼できない」とする回答者と類似の項目を選択することが多いことがわかる。

問10-2. あなたが、問10-1でそう答えた理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。
 (〇はいくつでも)

	全体N=1200			全体N=400			全体N=400		
	15年全国留置			15年全国Web			15年薩摩川内Web		
	信頼 できる	どちらとも いえない	信頼 できない	信頼 できる	どちらとも いえない	信頼 できない	信頼 できる	どちらとも いえない	信頼 できない
N→	110	474	612	48	133	219	61	133	206
国は、専門的な知識を持っているから	44.5	4.2	0.5	31.3	3.8	-	44.3	3.0	1.0
国は、専門的な知識が不足しているから	-	17.5	28.8	8.3	15.8	21.0	-	12.8	25.2
国は、偏った見方をしているから	2.7	13.3	29.9	8.3	13.5	35.2	1.6	14.3	41.7
国は、公平な見方をしているから	19.1	1.7	0.7	14.6	1.5	0.9	31.1	2.3	1.5
国は、正直に話しているから	10.9	0.8	1.0	16.7	2.3	1.8	14.8	1.5	1.0
国は、正直には話していないから	5.5	31.4	65.2	6.3	24.8	50.7	1.6	24.1	53.4
国は、私たちのことを配慮しているから	28.2	2.7	0.5	16.7	1.5	0.9	24.6	4.5	1.0
国は、私たちのことには配慮していないから	0.9	11.6	40.7	-	7.5	30.6	1.6	10.5	43.2
国は、私たちと考え方が似ているから	4.5	1.3	0.2	6.3	1.5	0.5	8.2	1.5	-
国は、私たちとは考え方が違うから	0.9	10.5	25.7	4.2	6.8	21.0	-	15.0	28.2
国は、熱意をもって、原子力に携わっているから	26.4	3.2	0.2	16.7	2.3	2.7	31.1	3.8	1.9
国は、熱意が感じられないから	-	13.1	26.8	2.1	12.0	15.5	-	6.0	26.7
国は、管理体制や安全対策ができていないから	20.9	1.3	0.5	6.3	3.0	1.4	31.1	3.8	0.5
国は、管理体制や安全対策が不足しているから	1.8	34.8	62.7	4.2	18.0	49.8	-	16.5	53.4
国は、情報公開ができていないから	12.7	0.8	0.3	4.2	1.5	0.5	9.8	1.5	-
国は、情報公開が不足しているから	4.5	47.0	70.3	4.2	34.6	57.1	1.6	38.3	61.2
国を信頼したいから	60.0	7.0	1.3	37.5	7.5	2.3	52.5	8.3	0.5
国を信頼したくないから	-	4.2	13.4	-	2.3	11.4	-	3.8	18.4
国は、営利目的ではないから	20.9	2.1	0.8	12.5	2.3	1.4	8.2	3.0	4.4
国は、自分たちの利益優先に感じるから	5.5	21.1	46.6	-	15.0	37.9	3.3	15.8	47.1
その他	2.7	8.2	3.4	2.1	4.5	3.2	1.6	5.3	4.9

(%)

<参考> 2014年11月

問. あなたが、前の間でそう答えた理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。
(○はいくつでも)

※対象が「自治体」

	全体 N→	自治体を信頼できるかどうか		
		信頼 できる	どちらとも いえない	信頼 できない
	1200	93	718	376
自治体は、専門的な知識を持っているから	3.2	26.9	1.5	0.3
自治体は、専門的な知識が不足しているから	29.1	-	27.4	40.4
自治体は、偏った見方をしているから	13.5	1.1	10.3	23.1
自治体は、公平な見方をしているから	3.7	28.0	1.9	0.8
自治体は、正直に話しているから	2.2	14.0	1.5	0.5
自治体は、正直には話していないから	24.8	1.1	17.4	45.5
自治体は、私たちのことを配慮しているから	4.6	24.7	3.8	1.1
自治体は、私たちのことには配慮していないから	14.9	1.1	7.1	33.8
自治体は、私たちと考え方が似ているから	2.3	9.7	2.2	0.8
自治体は、私たちとは考え方が違うから	12.0	1.1	7.7	23.4
自治体は、熱意をもって、原子力に携わっているから	1.8	9.7	1.7	0.3
自治体は、熱意が感じられないから	11.3	1.1	6.8	22.9
自治体は、管理体制や安全対策ができていないから	0.9	7.5	0.6	-
自治体は、管理体制や安全対策が不足しているから	33.4	-	26.5	56.1
自治体は、情報公開ができていないから	0.9	7.5	0.6	-
自治体は、情報公開が不足しているから	37.8	4.3	32.9	56.6
自治体を信頼したいから	8.4	51.6	6.5	1.3
自治体を信頼したくないから	4.9	-	2.6	10.6
自治体は、営利目的ではないから	6.5	31.2	5.2	3.2
自治体は、自分たちの利益優先に感じるから	21.6	2.2	15.5	38.8
その他	8.3	2.2	12.1	2.7

(%)

<参考> 2013年12月

問. あなたが、前の問でそう答えた理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。
(○はいくつでも)

※対象が「国や自治体」

N→	全体 1200	国や自治体を信頼できるかどうか		
		信頼 できる 96	どちらとも いえない 535	信頼 できない 567
専門的な知識を持っているから	6.8	56.3	4.3	0.7
専門的な知識が不足しているから	22.4	4.2	20.0	27.9
偏った見方をしているから	19.1	2.1	10.8	29.6
公平な見方をしているから	3.0	18.8	1.9	1.4
正直に話しているから	1.7	10.4	1.1	0.7
正直には話していないから	41.2	2.1	27.1	61.2
私たちのことを配慮しているから	3.3	24.0	2.8	0.2
私たちのことには配慮していないから	21.0	1.0	11.2	33.7
私たちと考え方が似ているから	0.5	3.1	0.2	0.4
私たちとは考え方が違うから	11.3	-	9.2	15.2
熱意をもって、原子力に携わっているから	3.1	30.2	0.9	0.5
熱意が感じられないから	16.5	-	11.0	24.5
管理体制や安全対策ができていないから	2.0	16.7	0.7	0.7
管理体制や安全対策が不足しているから	43.7	1.0	33.6	60.5
情報公開ができていないから	1.5	8.3	1.3	0.5
情報公開が不足しているから	56.3	5.2	49.9	71.1
信頼したいから	6.8	53.1	4.7	0.9
信頼したくないから	5.8	-	2.6	9.7
国や自治体は営利目的ではないから	2.6	9.4	2.1	1.9
自分たちの利益優先に感じるから	25.7	-	13.8	41.3
その他	3.0	2.1	4.7	1.6

(%)

<参考>

問. あなたが、前の問でそう答えた理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。
(○はいくつでも) ※対象が「国や自治体」

	12年11月			11年11月			10年9月		
	国や自治体を信頼できるかどうか			国や自治体を信頼できるかどうか			国や自治体を信頼できるかどうか		
	信頼 できる	どちらとも いえない	信頼 できない	信頼 できる	どちらとも いえない	信頼 できない	信頼 できる	どちらとも いえない	信頼 できない
N→	121	631	445	134	614	450	392	628	175
情報公開が十分されているから	14.0	1.1	0.4	11.9	1.1	1.6	15.8	2.9	1.7
情報公開が十分されていないから	5.8	55.6	76.2	6.0	63.4	71.1	7.7	54.1	62.9
事故の経験を踏まえて安全対策を講じることができるから	38.8	3.3	1.1	34.3	2.3	0.4			
大きな事故が起きたから	21.5	38.4	44.0	11.9	37.5	42.2			
管理体制や安全対策が十分だから	5.8	0.6	0.2	6.7	0.2	1.3	16.3	1.1	1.7
管理体制や安全対策が不十分だから	5.8	37.7	58.9	5.2	42.2	61.1	3.6	20.1	37.1
専門的な知識を持っている人だから	34.7	1.7	-	28.4	1.8	0.7	28.6	1.1	0.6
専門家にも間違いはあるから	9.9	22.0	25.6	5.2	21.5	24.4	6.1	22.1	27.4
信頼したいから	51.2	6.0	1.1	52.2	5.7	0.2	55.9	5.7	1.7
信頼できないから	-	16.5	51.2	0.7	16.0	50.0	0.8	11.6	48.0
国や公的機関は営利目的ではないから	14.0	2.9	1.8	13.4	2.8	1.3	17.6	2.2	4.0
自分達の利益優先に感じるから	3.3	17.0	44.9	1.5	21.2	51.6	2.8	15.4	34.9
その他	-	2.7	2.2	3.0	2.0	3.1	0.3	2.5	2.3

*「事故の経験を踏まえて安全対策を講じることができるから」「大きな事故が起きたから」は、11年11月から追加 (%)

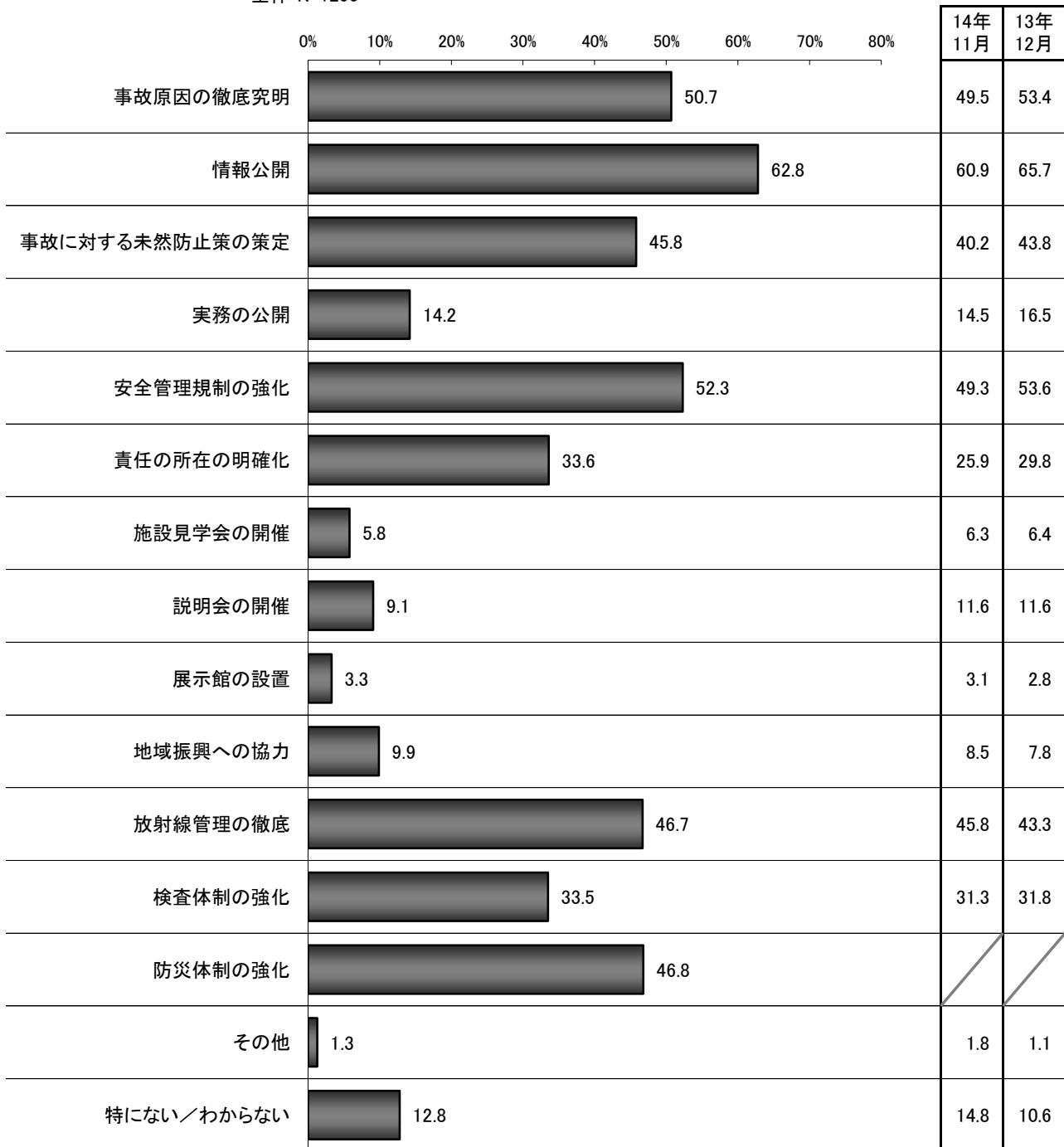
Ⅷ章 原子力・放射線・エネルギーについての
広聴・広報

●原子力についての広聴・広報(国や自治体の取り組み)

原子力について、国や自治体に望む取り組みは、「情報公開」(62.8%)がもっとも多く、次いで、「安全管理規制の強化」(52.3%)、「事故原因の徹底究明」(50.7%)、ややポイントを落として「防災体制の強化」(46.8%)「放射線管理の徹底」(46.7%)、「事故に対する未然防止策の策定」(45.8%)と続く。「防災体制の強化」は今回からの項目であるが、その他の項目については、前回と大きく変わらない。

問11. 原子力に関して、あなたは国や自治体にどのような取り組みを望みますか。
次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

全体 N=1200



* 2015年10月から「防災体制の強化」を追加

<調査方法による比較>

問11. 原子力に関して、あなたは国や自治体にどのような取り組みを望みますか。
次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

N→	15年 全国留置 1200	15年 全国Web 400	15年 薩摩川内Web 400
事故原因の徹底究明	50.7	43.3	44.3
情報公開	62.8	54.8	59.3
事故に対する未然防止策の策定	45.8	35.5	49.3
実務の公開	14.2	18.5	21.3
安全管理規制の強化	52.3	41.3	49.0
責任の所在の明確化	33.6	36.8	40.0
施設見学会の開催	5.8	8.8	11.0
説明会の開催	9.1	10.8	13.5
展示館の設置	3.3	5.0	5.8
地域振興への協力	9.9	11.0	16.8
放射線管理の徹底	46.7	38.5	43.8
検査体制の強化	33.5	30.5	34.5
防災体制の強化	46.8	38.0	44.8
その他	1.3	2.5	2.5
特にない／わからない	12.8	13.3	10.3

(%)

<参考>

問. 原子力の安全管理を国や自治体に安心して任せるためには、どういった点が配慮されるべきだと思いますか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

全体 N=1200

	12年 11月	11年 11月	10年 9月	08年 10月	07年 10月	07年 1月
事故原因の徹底究明	68.6	70.1	61.5	71.8	68.2	65.8
情報公開	71.0	70.7	69.6	71.8	68.8	67.4
事故に対する未然防止策	49.5	50.9	48.6	55.1	55.5	55.3
実務の公開	19.3	18.3	17.2	23.2	20.1	24.8
安全管理規制の強化	54.2	56.3	50.5	56.5	55.4	58.0
責任の所在の明確化	37.4	36.6	34.8	43.7	37.3	40.6
見学会や説明会の開催	10.6	9.9	16.7	19.4	19.3	18.1
展示館の設置	2.8	3.0	4.5	6.3	6.2	6.8
地域振興	4.8	5.3	5.8	7.8	7.0	7.3
放射線管理の徹底	40.7	44.8	40.0	50.3	48.8	46.3
検査体制の強化	32.8	36.3	31.5	44.3	41.4	41.6
その他	1.2	2.5	0.5	0.9	1.4	0.7
特になし／わからない	7.8	7.1	10.3	9.0	10.9	12.8
職員の姿勢	29.3	28.4	30.5	41.2	38.3	39.3

(%)

●原子力・エネルギーについての広聴・広報(情報源)

原子力やエネルギーに関する日頃の情報源を訪ねたところ、「テレビ(ニュース)」(85.8%)、「新聞」(55.3%)、「テレビ(情報番組)」(40.6%)が主な情報源。インターネットでは、ニュースサイトが情報源としてやや高めのポイントを有する(19.9%)。また、「家族、友人、知人との会話」も17.0%の回答がある。前回と比べて今回は、テレビを詳細に調べているが、その中でも、ニュースと情報番組という結果になり、CMはあまり見られていないという結果になった。また、「ニュースアプリ」も新設項目であるが、「ニュースサイト」のポイントには及ばない。その他は、大きな変化が無い。

問12. あなたは、ふだん原子力やエネルギーに関する情報を何によって得ていますか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

情報源	14年11月								
	14年11月	13年12月	12年11月	11年11月	10年9月	08年10月	07年10月	07年1月	
新聞	55.3	56.4	61.1	53.7	58.5	53.0	55.6	49.4	59.1
テレビ(ニュース)	85.8	85.6	87.7	86.4	88.7	81.0	81.2	77.7	77.8
テレビ(情報番組)	40.6								
テレビ(ドラマ)	1.0								
テレビ(CM)	3.6								
ラジオ	7.8	12.8	7.8	9.4	10.6	8.8	7.6	9.0	9.5
雑誌(週刊誌・月刊誌等)	9.6	10.4	8.9	11.7	11.6	12.7	13.7	15.3	16.1
自治体の広報紙	6.5	6.8							
事業者の広報紙	1.9								
本・パンフレット	4.9	3.8	6.0	7.2	7.6	7.6	9.1	9.8	10.5
ビデオ・DVD	0.2	0.2							
講演会・説明会・セミナー等のイベント	2.0	2.6							
学校	2.6	2.3	1.8						
博物館・展示館・PR施設	1.3	1.3	1.8	1.7	1.8	3.4	3.7	9.9	11.6
家族、友人、知人との会話	17.0	15.5							
回覧板	1.3	2.3							
国、自治体のホームページ	2.8	3.7							
原子力事業者、研究機関等のホームページ	1.6	2.6							
インターネット上のニュースサイト	19.9	23.3							
スマートフォンのニュースアプリ	9.8		23.5	24.6	27.6	16.2	12.1	11.3	10.3
ツイッター	2.6	2.1							
フェイスブック	2.1	1.7							
メール配信(メールマガジン等)	0.7	0.7							
その他のインターネット情報	0.7	1.5							
その他	0.4	0.3	0.8	1.3	1.6	1.6	2.3	1.3	1.3
特になし/わからない	6.8	8.6	6.7	4.2	2.3	9.3	7.8	7.9	7.2

*07年10月までの選択肢は「国や電力会社などのPR施設」、08年10月からは「博物館・展示館・PR施設」に変更

*12年11月までの選択肢は「あてはまるものはない」、13年12月からは「特になし/わからない」に変更

*「学校」は13年12月から追加

*「自治体の広報紙」「ビデオ・DVD」「講演会・説明会・セミナー等のイベント」「家族、友人、知人との会話」「回覧板」は14年11月から追加

*13年12月までは「インターネット」だけだった選択肢を、14年11月では細分化した

*14年11月までは「テレビ」だけだった選択肢を、15年10月では細分化した

<2015年10月のクロス集計結果(1/2)>

問12. あなたは、ふだん原子力やエネルギーに関する情報を何によって得ていますか。
次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

	全体	性別		年代別							子供の有無別		UPZ圏内・圏外	
		男性	女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	小さい子供あり	子供なし	原発UPZ圏内	原発UPZ圏外
N	1200	596	604	72	149	194	214	182	219	170	302	382	84	1116
新聞	55.3	58.2	52.5	20.8	28.2	38.7	50.5	65.9	77.2	79.4	43.0	64.7	57.1	55.2
テレビ(ニュース)	85.8	84.6	87.1	76.4	75.8	84.0	85.5	92.3	90.9	87.6	86.1	86.4	86.9	85.8
テレビ(情報番組)	40.6	40.3	40.9	30.6	35.6	34.0	36.4	44.0	47.9	48.8	35.1	44.2	42.9	40.4
テレビ(ドラマ)	1.0	1.0	1.0	-	-	0.5	0.9	0.5	1.4	2.9	1.0	1.6	-	1.1
テレビ(CM)	3.6	2.9	4.3	-	4.0	1.5	4.2	1.6	4.1	7.6	2.3	3.4	2.4	3.7
ラジオ	7.8	9.2	6.5	1.4	4.7	4.6	6.1	7.1	13.2	12.9	4.0	11.0	8.3	7.8
雑誌(週刊誌・月刊誌等)	9.6	13.3	6.0	4.2	4.0	7.2	6.1	13.7	12.8	15.3	6.6	10.5	6.0	9.9
自治体の広報紙	6.5	6.5	6.5	1.4	2.0	2.6	4.7	6.6	9.6	15.3	3.0	9.4	16.7	5.7
事業者の広報紙	1.9	2.5	1.3	-	-	1.0	1.4	2.7	3.2	3.5	1.7	2.4	7.1	1.5
本・パンフレット	4.9	6.0	3.8	6.9	2.7	3.1	2.3	6.0	7.3	7.1	3.6	6.0	1.2	5.2
ビデオ・DVD	0.2	0.2	0.2	-	-	0.5	-	-	-	0.6	0.3	-	-	0.2
講演会・説明会・セミナー等のイベント	2.0	1.7	2.3	-	-	0.5	0.5	2.7	4.6	4.1	0.3	2.6	2.4	2.0
学校	2.6	2.2	3.0	25.0	5.4	1.5	0.9	-	-	-	1.3	0.8	1.2	2.7
博物館・展示館・PR施設	1.3	2.0	0.7	-	0.7	1.5	0.5	1.1	2.7	1.8	1.0	1.3	2.4	1.3
家族、友人、知人との会話	17.0	13.9	20.0	13.9	17.4	13.4	15.4	14.3	20.1	22.9	14.6	18.6	21.4	16.7
回覧板	1.3	0.8	1.8	-	2.0	-	-	0.5	2.3	4.1	0.3	2.1	3.6	1.2
国、自治体のホームページ	2.8	4.2	1.5	1.4	1.3	2.6	1.9	3.3	4.6	3.5	2.0	2.9	1.2	3.0
原子力事業者、研究機関等のホームページ	1.6	2.9	0.3	-	1.3	2.1	1.9	1.6	2.3	0.6	2.3	1.3	-	1.7
インターネット上のニュースサイト	19.9	25.7	14.2	12.5	33.6	24.2	27.1	18.1	13.7	7.1	27.2	14.9	10.7	20.6
スマートフォンのニュースアプリ	9.8	9.6	9.9	12.5	20.1	16.5	14.5	4.4	1.4	2.4	14.2	7.3	7.1	9.9
ツイッター	2.6	2.9	2.3	9.7	9.4	2.1	1.4	1.1	0.5	-	1.3	1.6	1.2	2.7
フェイスブック	2.1	2.2	2.0	-	5.4	6.2	1.9	0.5	-	-	4.3	2.1	2.4	2.1
メール配信(メールマガジン等)	0.7	0.7	0.7	-	0.7	1.0	0.9	1.1	0.5	-	0.3	0.8	1.2	0.6
その他のインターネット情報	0.7	1.0	0.3	1.4	1.3	0.5	0.5	0.5	0.9	-	-	1.3	-	0.7
その他	0.4	0.7	0.2	1.4	-	-	-	0.5	0.5	1.2	0.3	0.5	-	0.4
特になし/わからない	6.8	6.7	7.0	19.4	14.8	7.2	6.5	3.3	1.8	4.7	5.6	6.0	7.1	6.8

(%)

<2015年10月のクロス集計結果(2/2)>

問12. あなたは、ふだん原子力やエネルギーに関する情報を何によって得ていますか。
次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

	全体	知識の程度別				社会性の程度別				情報収集積極性			
		知識高	知識中	知識低	知識無	社会性高	社会性中	社会性低	社会性無	積極性高	積極性中	積極性低	積極性無
N	1200	132	465	328	275	172	469	394	162	217	639	247	95
新聞	55.3	78.8	59.1	51.2	42.5	80.2	60.3	49.7	27.8	66.8	61.3	33.6	44.2
テレビ(ニュース)	85.8	82.6	89.9	89.6	76.0	91.3	89.3	86.3	68.5	88.9	89.5	78.9	71.6
テレビ(情報番組)	40.6	53.8	42.8	41.2	29.8	61.6	46.7	32.5	19.1	54.8	43.3	27.1	23.2
テレビ(ドラマ)	1.0	1.5	1.3	-	1.5	3.5	0.4	1.0	-	0.9	1.3	0.4	1.1
テレビ(CM)	3.6	3.8	4.1	2.1	4.4	6.4	4.3	2.5	1.2	5.1	3.9	2.0	2.1
ラジオ	7.8	13.6	9.7	5.2	5.1	14.0	8.5	5.6	3.7	11.5	8.3	4.5	4.2
雑誌(週刊誌・月刊誌等)	9.6	29.5	9.5	6.1	4.4	27.9	9.8	4.3	1.9	19.4	9.4	3.6	3.2
自治体の広報紙	6.5	13.6	6.9	5.8	3.3	18.6	6.6	3.6	0.6	10.6	7.2	2.4	3.2
事業者の広報紙	1.9	5.3	2.6	0.9	0.4	5.8	2.3	0.5	-	3.7	2.0	0.8	-
本・パンフレット	4.9	19.7	5.4	1.5	1.1	13.4	4.7	2.8	1.2	9.7	5.2	1.2	1.1
ビデオ・DVD	0.2	-	-	0.6	-	-	0.2	-	0.6	-	0.3	-	-
講演会・説明会・セミナー等のイベント	2.0	5.3	2.2	1.8	0.4	7.0	2.1	0.5	-	3.7	2.0	1.2	-
学校	2.6	3.0	4.7	0.9	0.7	2.9	3.0	1.5	3.7	5.1	2.5	1.2	1.1
博物館・展示館・PR施設	1.3	6.1	1.5	0.3	-	4.1	1.9	-	-	2.8	1.4	0.4	-
家族、友人、知人との会話	17.0	16.7	17.6	17.4	15.6	26.7	20.5	11.9	8.6	27.6	16.7	9.3	13.7
回覧板	1.3	0.8	1.5	1.5	1.1	1.2	2.6	-	1.2	1.4	1.6	0.8	1.1
国、自治体のホームページ	2.8	8.3	2.6	2.7	0.7	5.2	3.4	1.8	0.6	3.7	3.4	1.2	-
原子力事業者、研究機関等のホームページ	1.6	7.6	1.7	-	0.4	1.2	2.3	1.0	0.6	3.2	1.4	0.8	-
インターネット上のニュースサイト	19.9	32.6	27.5	15.9	5.8	20.3	24.5	17.3	13.0	38.2	20.3	9.3	3.2
スマートフォンのニュースアプリ	9.8	11.4	12.9	8.2	5.5	9.9	10.7	9.6	7.4	20.7	9.4	4.0	2.1
ツイッター	2.6	3.0	4.7	1.2	0.4	-	3.6	3.0	1.2	6.9	2.2	0.8	-
フェイスブック	2.1	2.3	2.4	2.7	0.7	2.3	2.1	2.3	1.2	4.1	2.2	0.8	-
メール配信(メールマガジン等)	0.7	-	1.1	0.6	0.4	1.2	0.9	0.3	0.6	0.9	0.8	0.4	-
その他のインターネット情報	0.7	3.0	0.4	0.6	-	0.6	0.9	0.5	0.6	0.9	0.6	0.8	-
その他	0.4	2.3	0.4	-	-	0.6	0.4	0.3	0.6	0.5	0.5	-	1.1
特になし/わからない	6.8	2.3	1.3	6.1	19.3	2.3	2.8	6.1	25.3	3.2	3.9	12.1	21.1

(%)

<調査方法による比較>

問12. あなたは、ふだん原子力やエネルギーに関する情報を何によって得ていますか。
次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

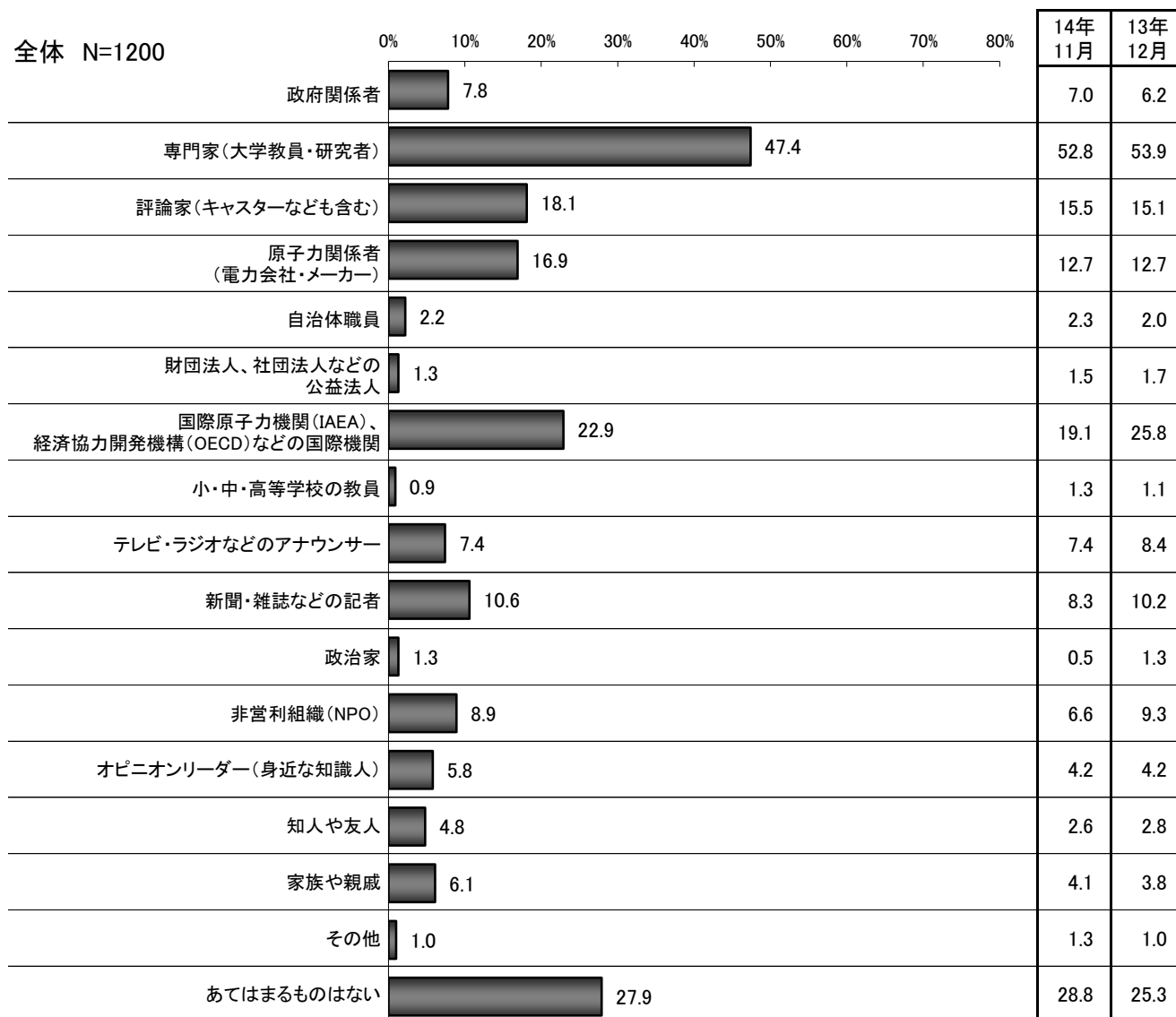
	15年 全国留置	15年 全国Web	15年 薩摩川内Web
N→	1200	400	400
新聞	55.3	50.5	48.5
テレビ(ニュース)	85.8	73.3	81.5
テレビ(情報番組)	40.6	33.5	41.5
テレビ(ドラマ)	1.0	1.5	2.3
テレビ(CM)	3.6	3.3	5.0
ラジオ	7.8	5.8	6.5
雑誌(週刊誌・月刊誌等)	9.6	6.8	5.5
自治体の広報紙	6.5	6.5	18.5
事業者の広報紙	1.9	3.3	5.5
本・パンフレット	4.9	5.8	5.3
ビデオ・DVD	0.2	1.0	0.8
講演会・説明会・セミナー等のイベント	2.0	3.8	4.8
学校	2.6	1.0	2.0
博物館・展示館・PR施設	1.3	0.8	4.3
家族、友人、知人との会話	17.0	6.5	9.3
回覧板	1.3	1.3	3.5
国、自治体のホームページ	2.8	5.5	7.8
原子力事業者、研究機関等のホームページ	1.6	4.0	8.0
インターネット上のニュースサイト	19.9	28.5	32.5
スマートフォンのニュースアプリ	9.8	3.8	7.5
ツイッター	2.6	2.0	2.8
フェイスブック	2.1	0.3	3.0
メール配信 (メールマガジン等)	0.7	0.8	1.3
その他のインターネット情報	0.7	-	0.8
その他	0.4	0.8	-
特になし／わからない	6.8	10.3	5.0

(%)

●原子力についての広聴・広報(情報発信者への信頼)

情報源の信頼としては、「専門家(大学教員・研究者)」(47.4%)が多く、次いで「国際機関」「評論家」「原子力関係者」である。「あてはまるものはない」という回答も27.9%ある。前回と比べ、専門家の信頼が若干減少しているが、大きな傾向は変わらないと言える。年代別に見ると、国際機関に対する信頼は、40～70代で高い。知識、社会性、情報収集が無の層は、「あてはまるものはない」という回答が多い。

問13. あなたは、原子力やエネルギーに関する情報について、どのような人や組織の発言を信頼しますか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)



<調査方法による比較>

問13. あなたは、原子力やエネルギーに関する情報について、どのような人や組織の発言を信頼しますか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

	15年 全国留置	15年 全国Web	15年 薩摩川内Web
N→	1200	400	400
政府関係者	7.8	8.3	9.0
専門家(大学教員・研究者)	47.4	34.5	43.0
評論家(キャスターなども含む)	18.1	10.0	14.0
原子力関係者 (電力会社・メーカー)	16.9	10.0	19.0
自治体職員	2.2	2.3	3.5
財団法人、社団法人などの 公益法人	1.3	3.8	5.3
国際原子力機関(IAEA)、 経済協力開発機構(OECD)などの国際機関	22.9	21.0	19.5
小・中・高等学校の教員	0.9	2.3	1.3
テレビ・ラジオなどのアナウンサー	7.4	4.0	4.0
新聞・雑誌などの記者	10.6	8.3	7.0
政治家	1.3	1.5	0.8
非営利組織(NPO)	8.9	13.5	10.8
オピニオンリーダー(身近な知識人)	5.8	7.3	9.0
知人や友人	4.8	3.5	7.0
家族や親戚	6.1	2.5	6.0
その他	1.0	1.8	1.3
あてはまるものはない	27.9	35.3	33.3

(%)

<2015年10月のクロス集計結果(1/2)>

問13. あなたは、原子力やエネルギーに関する情報について、どのような人や組織の発言を信頼しますか。
次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

	全体	性別		年代別							子供の有無別		UPZ圏内・圏外	
		男	女	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	小さい 子供 あり	子供 なし	原発 UPZ 圏内	原発 UPZ 圏外
N	1200	596	604	72	149	194	214	182	219	170	302	382	84	1116
政府関係者	7.8	8.2	7.5	8.3	6.7	8.2	8.9	4.9	5.0	13.5	7.3	9.2	11.9	7.5
専門家(大学教員・研究者)	47.4	47.0	47.8	34.7	46.3	40.7	48.1	55.5	49.3	49.4	44.7	49.7	42.9	47.8
評論家(キャスターなども含む)	18.1	19.0	17.2	9.7	12.8	18.6	18.2	17.6	21.9	21.2	16.9	19.6	9.5	18.7
原子力関係者 (電力会社・メーカー)	16.9	18.0	15.9	19.4	16.8	18.0	12.6	15.9	17.8	20.0	15.6	18.8	22.6	16.5
自治体職員	2.2	2.2	2.2	1.4	3.4	2.6	3.3	1.6	0.9	1.8	3.0	2.6	1.2	2.2
財団法人、社団法人などの 公益法人	1.3	1.3	1.3	-	0.7	1.5	0.9	1.6	1.8	1.8	1.0	1.0	-	1.4
国際原子力機関(IAEA)、 経済協力開発機構(OECD)などの国際機関	22.9	25.5	20.4	12.5	14.8	17.0	12.6	32.4	32.9	31.2	13.2	30.9	25.0	22.8
小・中・高等学校の教員	0.9	0.3	1.5	4.2	2.7	1.0	0.5	0.5	-	-	1.3	0.5	-	1.0
テレビ・ラジオなどのアナウンサー	7.4	6.9	7.9	4.2	8.1	5.7	5.1	6.0	6.8	15.3	5.6	9.4	4.8	7.6
新聞・雑誌などの記者	10.6	11.6	9.6	2.8	6.7	8.2	8.9	10.4	13.2	18.8	9.3	12.3	10.7	10.6
政治家	1.3	1.7	1.0	1.4	1.3	1.5	0.9	1.1	0.9	2.4	0.7	1.6	-	1.4
非営利組織(NPO)	8.9	9.7	8.1	8.3	3.4	5.7	6.5	13.2	11.9	12.4	5.6	9.7	7.1	9.1
オピニオンリーダー(身近な知識人)	5.8	6.2	5.5	2.8	5.4	6.7	3.3	9.3	6.8	4.7	5.3	5.0	4.8	5.9
知人や友人	4.8	4.7	5.0	1.4	8.1	3.6	4.7	3.3	3.2	8.8	5.3	3.7	7.1	4.7
家族や親戚	6.1	3.5	8.6	5.6	9.4	7.7	3.7	6.0	2.7	8.8	6.6	3.9	9.5	5.8
その他	1.0	1.0	1.0	-	2.0	1.5	0.9	-	1.4	0.6	1.0	1.3	1.2	1.0
あてはまるものはない	27.9	28.7	27.2	50.0	29.5	34.0	29.0	19.2	24.2	22.9	31.5	23.6	27.4	28.0

(%)

<2015年10月のクロス集計結果(2/2)>

問13. あなたは、原子力やエネルギーに関する情報について、どのような人や組織の発言を信頼しますか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

	全体	知識の程度別				社会性の程度別				情報収集積極性			
		知識高	知識中	知識低	知識無	社会性高	社会性中	社会性低	社会性無	積極性高	積極性中	積極性低	積極性無
N	1200	132	465	328	275	172	469	394	162	217	639	247	95
政府関係者	7.8	12.1	9.0	5.8	6.2	16.3	7.7	6.1	3.7	12.9	8.8	3.2	2.1
専門家(大学教員・研究者)	47.4	60.6	51.8	45.7	35.6	62.2	53.3	41.1	29.6	55.8	51.5	36.0	29.5
評論家(キャスターなども含む)	18.1	18.9	18.5	19.2	15.6	26.2	20.9	14.7	9.3	23.5	19.7	12.6	8.4
原子力関係者 (電力会社・メーカー)	16.9	22.0	19.1	16.2	11.6	29.7	16.0	16.0	8.6	24.0	17.4	13.4	7.4
自治体職員	2.2	5.3	1.5	1.5	2.5	2.9	2.1	2.3	1.2	3.2	2.3	1.2	1.1
財団法人、社団法人などの 公益法人	1.3	3.0	1.3	0.6	1.5	4.1	1.5	0.3	0.6	2.8	1.3	0.8	-
国際原子力機関(IAEA)、 経済協力開発機構(OECD)などの国際機関	22.9	45.5	26.0	18.6	12.0	40.7	28.4	15.2	7.4	34.1	24.1	16.2	7.4
小・中・高等学校の教員	0.9	-	1.3	0.9	0.7	1.2	1.3	-	1.9	2.3	0.6	0.8	-
テレビ・ラジオなどのアナウンサー	7.4	6.8	7.3	7.6	7.6	8.7	7.7	7.4	5.6	9.2	6.7	6.9	9.5
新聞・雑誌などの記者	10.6	12.1	13.3	9.1	6.9	16.3	12.4	7.9	6.2	13.4	10.8	7.3	11.6
政治家	1.3	1.5	1.5	0.9	1.5	2.3	1.3	1.3	0.6	1.8	1.4	1.2	-
非営利組織(NPO)	8.9	16.7	9.9	8.5	4.0	18.0	10.9	5.6	1.9	10.6	11.1	4.0	3.2
オピニオンリーダー(身近な知識人)	5.8	11.4	7.5	3.4	3.3	8.1	8.1	4.3	0.6	9.2	5.9	4.5	1.1
知人や友人	4.8	3.8	5.8	4.3	4.4	5.8	4.9	3.6	6.2	6.0	5.0	2.4	6.3
家族や親戚	6.1	3.8	6.0	6.1	7.3	7.0	7.2	3.6	7.4	10.1	5.2	5.7	3.2
その他	1.0	3.0	0.9	0.3	1.1	1.2	1.1	1.0	0.6	0.9	1.3	-	2.1
あてはまるものはない	27.9	15.9	23.9	29.0	39.3	17.4	20.7	31.7	50.6	21.2	23.5	38.1	47.4

(%)

<参考>

問. あなたは、この1年間に原子力やエネルギーに関して「有益性に関する情報」をどのような人の発言から得ましたか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

問. あなたは、この1年間に原子力やエネルギーに関して「事故やトラブルなどに関する情報」をどのような人の発言から得ましたか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

※ テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・インターネットなどのメディアから得る、もしくは直接聞くかは問いません。

全体 N=1200	有益性に関する情報					事故やトラブルなどに関する情報				
	12年 11月	11年 11月	10年 9月	08年 10月	07年 10月	12年 11月	11年 11月	10年 9月	08年 10月	07年 10月
政府関係者	18.8	23.3	5.8	5.1	8.8	25.4	36.0	3.3	4.1	8.7
専門家 (大学教員・研究者)	36.6	43.5	16.8	13.0	19.3	38.0	46.3	11.4	11.2	17.5
評論家 (キャスターなども含む)	43.0	45.2	23.1	20.3	20.8	54.0	55.8	23.7	24.8	28.3
原子力関係者 (電力会社・メーカー)	16.8	21.1	9.8	9.4	10.9	20.9	31.1	3.8	4.1	6.8
自治体職員	0.9	1.0	0.6	0.8	1.1	1.8	1.9	0.4	0.6	1.1
小・中・高等学校の教員	2.6	2.0	1.8	1.8	2.2	2.3	2.1	2.0	1.8	2.3
テレビ・ラジオなどの アナウンサー	57.1	53.8	44.9	43.4	42.3	73.8	75.8	54.2	59.3	64.5
新聞・雑誌などの記者	27.5	29.1	20.0	21.9	25.8	35.6	40.6	25.1	30.3	35.8
政治家	9.7	8.9	1.8	3.1	5.3	10.8	13.2	2.3	2.8	5.0
オピニオンリーダー (身近な知識人)	1.8	3.1	1.9	2.3	3.1	1.8	2.9	1.3	2.4	2.7
知人や友人	7.9	8.5				9.9	11.8			
家族や親戚	7.3	8.2				8.2	10.8			
その他	0.6	0.7	1.5	1.3	0.8	0.4	0.7	0.9	0.6	0.5
あてはまるものはない/この 1年間に情報は得ていない	12.8	11.4	34.0	35.9	34.1	5.0	2.8	29.9	25.8	18.0

(%)

* 07年10月は、全ての選択肢に「の発言」を付けた表記で聴取

* 07年10月は、「テレビ」は「TV」の表記で聴取

* 「知人や友人」「家族や親戚」は11年11月から追加

* 10年9月までの質問文は、「原子力やエネルギーに関する「よい情報(安全性、有益性に関する情報)」を～」「原子力やエネルギーに関する「悪い情報(トラブルなどに関する情報)」を～」として聴取

<参考>

問. 今後の安全な原子力の利用を続けていくために、どのような立場の人の活躍を期待しますか。
次の中から、あなたが期待している人をすべてお選びください。(○はいくつでも)

全体 N=1200

	12年 11月	11年 11月	10年 9月	08年 10月	07年 10月	07年 1月
国	50.7	50.6	53.9	52.0	53.5	48.8
自治体	26.5	24.2	53.9	52.0	53.5	48.8
電力会社などの事業者	29.9	33.0	42.7	46.5	44.8	41.1
大学や研究所	41.6	43.9	45.8	53.9	44.8	51.8
財団法人、社団法人などの 公益法人	5.8	6.1	6.5	7.3	6.3	8.0
非営利組織(NPO)	18.5	19.6	15.8	24.9	23.3	21.5
国際原子力機関(IAEA)、 経済協力開発機構(OECD)などの国際機関	37.5	42.9	41.8			
その他	1.8	2.2	0.9	1.0	0.8	1.1
あてはまるものはない	12.3	12.3	10.8	12.3	14.5	15.8

(%)

* 08年10月までの選択肢は「公益法人(財団法人、社団法人)」、10年9月は「財団法人、社団法人などの公益法人」に変更

* 08年10月までの選択肢は「NPO(非営利組織)」、10年9月は「非営利組織(NPO)」に変更

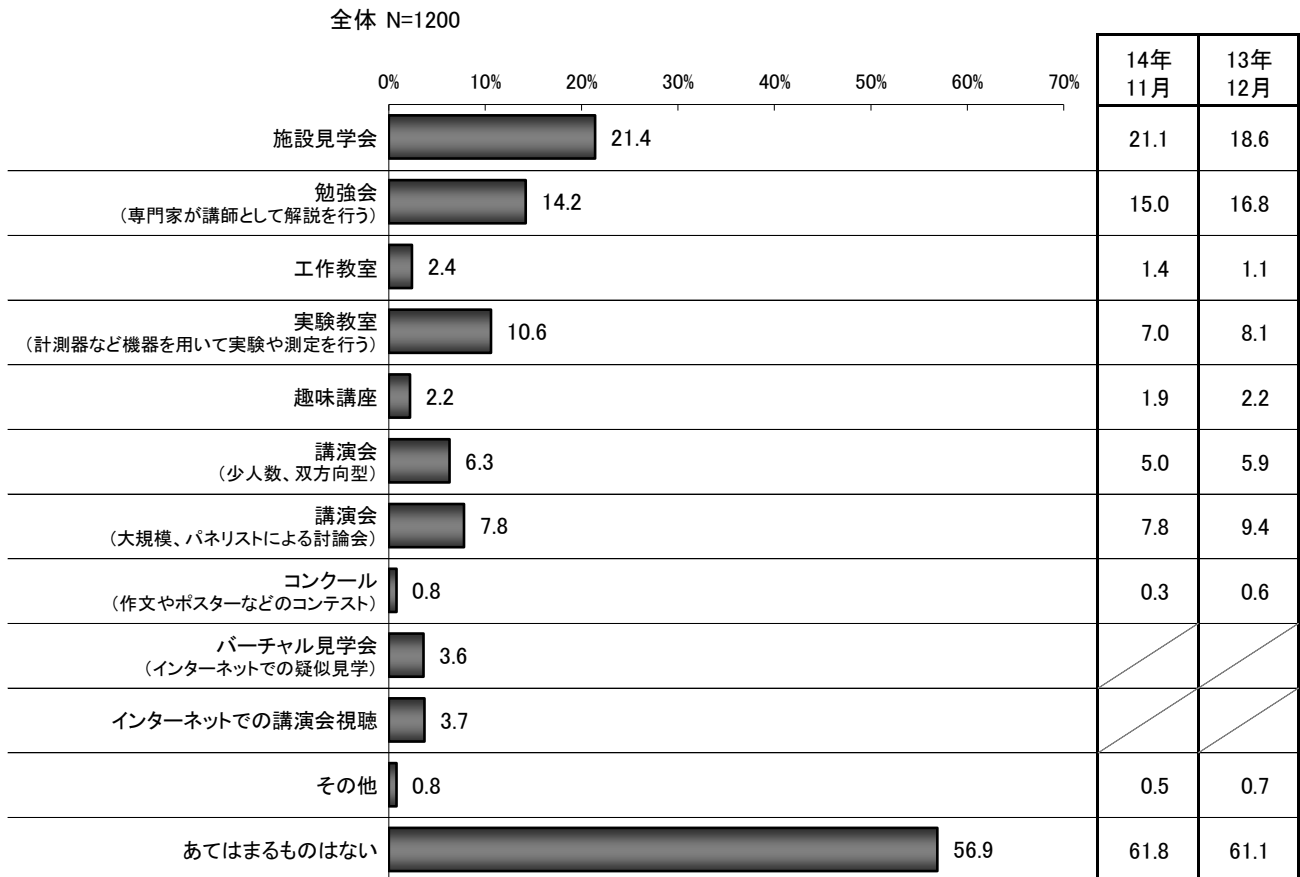
* 「国際原子力機関(IAEA)、経済協力開発機構(OECD)などの国際機関」は10年9月から追加

* 「国」「自治体」は、10年9月まで「国や自治体」として聴取。「国」「自治体」の10年9月までの数値は、参考として「国や自治体」の数値を掲載。

●原子力についての広聴・広報(イベント)

原子力やエネルギーに関するイベント・施設の中で参加してみたいものとして、「施設見学会」(21.4%)、「勉強会」(14.2%)がやや高い。なお、「あてはまるものはない」がもっとも多く、56.9%を占める。前回の結果と同様の傾向である。
「実験教室」には、高齢層に比べて、若年層の参加意欲がやや高い。また、知識、社会性、情報集について、高から無につれて、「あてはまるものはない」の回答が大きく増加する。

問14. 以下に挙げている「原子力やエネルギーに関するイベント」の中で、参加してみたいものはどれですか。あてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)



*「バーチャル見学会」「インターネットでの講演会視聴」は15年10月に追加

<調査方法による比較>

問14. 以下に挙げている「原子力やエネルギーに関するイベント」の中で、参加してみたいものはどれですか。あてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

	15年 全国留置 N→ 1200	15年 全国Web 400	15年 薩摩川内Web 400
施設見学会	21.4	20.5	25.3
勉強会 (専門家が講師として解説を行う)	14.2	14.0	18.0
工作教室	2.4	3.5	1.8
実験教室 (計測器など機器を用いて実験や測定を行う)	10.6	11.0	11.3
趣味講座	2.2	3.0	4.0
講演会 (少人数、双方向型)	6.3	10.0	6.5
講演会 (大規模、パネリストによる討論会)	7.8	10.0	8.3
コンクール (作文やポスターなどのコンテスト)	0.8	1.5	1.3
バーチャル見学会 (インターネットでの疑似見学)	3.6	8.3	6.3
インターネットでの講演会視聴	3.7	8.5	6.5
その他	0.8	-	0.3
あてはまるものはない	56.9	54.5	50.8

(%)

<2015年10月のクロス集計結果(1/2)>

問14. 以下に挙げている「原子力やエネルギーに関するイベント」の中で、参加してみたいものはどれですか。あてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

	全体	性別		年代別							子供の有無別		UPZ圏内・圏外	
		男	女	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	小さい子供あり	子供なし	原発UPZ圏内	原発UPZ圏外
N	1200	596	604	72	149	194	214	182	219	170	302	382	84	1116
施設見学会	21.4	24.2	18.7	15.3	22.8	17.5	16.8	26.4	22.4	26.5	17.2	22.8	25.0	21.1
勉強会 (専門家が講師として解説を行う)	14.2	13.9	14.4	11.1	13.4	5.7	11.2	14.8	20.1	21.2	8.3	19.9	17.9	13.9
工作教室	2.4	2.3	2.5	6.9	6.0	2.1	3.7	1.1	0.5	-	5.3	0.5	1.2	2.5
実験教室 (計測器など機器を用いて実験や測定を行う)	10.6	9.9	11.3	12.5	14.1	11.9	11.7	9.3	8.7	7.6	14.2	7.3	11.9	10.5
趣味講座	2.2	1.8	2.5	4.2	2.0	1.0	0.9	3.3	3.2	1.8	1.0	2.4	1.2	2.2
講演会 (少人数、双方向型)	6.3	6.9	5.6	1.4	4.0	3.1	3.7	10.4	9.6	8.2	2.6	8.9	6.0	6.3
講演会 (大規模、パネリストによる討論会)	7.8	9.1	6.6	2.8	5.4	5.7	4.7	9.3	10.0	14.1	3.0	12.0	8.3	7.8
コンクール (作文やポスターなどのコンテスト)	0.8	1.2	0.5	-	1.3	-	0.9	0.5	1.8	0.6	0.3	1.0	-	0.9
バーチャル見学会 (インターネットでの疑似見学)	3.6	3.4	3.8	5.6	6.7	5.2	1.9	4.4	1.8	1.8	5.0	2.6	7.1	3.3
インターネットでの講演会視聴	3.7	4.5	2.8	6.9	4.7	3.1	2.8	5.5	3.2	1.8	2.3	2.9	3.6	3.7
その他	0.8	0.5	1.2	-	-	0.5	0.5	2.2	0.9	1.2	-	1.3	1.2	0.8
あてはまるものはない	56.9	56.2	57.6	59.7	57.7	67.5	61.2	48.9	52.1	52.4	63.6	54.5	56.0	57.0

(%)

<2015年10月のクロス集計結果(2/2)>

問14. 以下に挙げている「原子力やエネルギーに関するイベント」の中で、参加してみたいものはどれですか。あてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

	全体	知識の程度別				社会性の程度別				情報収集積極性			
		知識高	知識中	知識低	知識無	社会性高	社会性中	社会性低	社会性無	積極性高	積極性中	積極性低	積極性無
N	1200	132	465	328	275	172	469	394	162	217	639	247	95
施設見学会	21.4	31.1	27.3	19.2	9.5	36.6	26.0	16.2	4.9	28.6	23.8	15.0	6.3
勉強会 (専門家が講師として解説を行う)	14.2	25.0	15.1	15.5	5.8	25.0	19.4	8.4	1.9	24.9	14.7	7.3	4.2
工作教室	2.4	0.8	4.1	2.7	-	4.1	2.6	2.3	0.6	5.5	2.3	0.8	-
実験教室 (計測器など機器を用いて実験や測定を行う)	10.6	12.1	13.5	11.0	4.4	17.4	11.9	8.1	5.6	17.5	11.6	4.0	5.3
趣味講座	2.2	1.5	3.2	1.5	1.5	4.7	2.6	1.5	-	4.1	1.9	2.0	-
講演会 (少人数、双方向型)	6.3	17.4	8.0	3.0	1.8	15.1	8.1	2.5	0.6	12.4	5.5	4.9	1.1
講演会 (大規模、パネリストによる討論会)	7.8	16.7	8.8	6.1	4.0	20.3	9.2	3.0	1.9	16.1	7.7	3.2	1.1
コンクール (作文やポスターなどのコンテスト)	0.8	-	1.5	0.6	0.4	1.7	0.9	0.5	0.6	1.8	0.8	0.4	-
バーチャル見学会 (インターネットでの疑似見学)	3.6	6.1	4.1	4.0	1.1	5.8	4.1	3.3	0.6	4.6	4.2	2.0	1.1
インターネットでの講演会視聴	3.7	6.8	4.5	3.4	1.1	5.8	4.5	3.0	0.6	7.8	3.8	1.2	-
その他	0.8	1.5	0.6	0.6	1.1	-	1.7	0.5	-	0.5	0.9	1.2	-
あてはまるものはない	56.9	38.6	48.2	59.8	77.1	32.6	48.0	64.7	89.5	40.1	53.4	70.4	84.2

(%)

<参考>

問. 以下に挙げている「原子力やエネルギーに関するイベント・施設・情報源」の中で、参加してみたいもの、理解に役立つものはどれですか。

あてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

全体 N=1200

	12年 11月	11年 11月	10年 9月	08年 10月
施設見学会	36.2	32.0	43.8	37.1
勉強会 (専門家が講師として解説を行う)	18.2	21.8	11.4	14.8
工作教室	4.0	4.0	4.6	6.3
実験教室 (計測器など機器を用いて実験や測定を行う)	16.5	18.3	14.4	15.9
趣味講座	7.1	7.3	6.6	9.4
講演会 (少人数、双方向型)	7.8	9.0	5.2	5.3
講演会 (大規模、パネリストによる討論会)	9.9	12.3	7.5	8.8
コンクール (作文やポスターなどのコンテスト)	2.2	1.3	1.9	2.3
その他	0.3	0.7	0.4	0.5
あてはまるものはない	14.1	14.9	18.6	16.2

(%)

区章 自由記述

●原子力やエネルギーに関する情報についての所感

原子力やエネルギーに関する情報について感じることを自由に記入してもらった結果は以下の通り。

<個別訪問留置調査(全国)>

問15. 最後に原子力やエネルギー、放射線、またこれらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えがあればお書き下さい。(ご自由に)

回答内容			
持続可能な社会にできるならよい？	男性	15歳	埼玉
学校で教えるべき。	男性	15歳	宮崎
全世帯にリーフやパンフレットで情報提供しても見えていない。クイズ、プレゼント形式にすれば、もっと積極的に知識を取り入れる。知識を入れることによる、先の職業目標や環境配慮へ繋げるべき。	男性	16歳	福岡
もっと公平に色々な人の話を聞きたい。	男性	18歳	千葉
原子力に関する情報はしっかり公開して、国民全体で検討していくべきだ。	男性	19歳	奈良
もっと政府は情報発信してほしい。	男性	20歳	北海道
原子力発電は危険かもしれないが、今、日本が一番利用している発電源なのは間違いないと思う。早急に原子力発電以上の発電源を発見してもらいたい。	男性	21歳	鹿児島
情報をしっかりと公開してほしい。	男性	22歳	東京
直接話す機会。	男性	23歳	大阪
祖父が関電OBなので、色々話は聞いていますが、一人一人の考えが違うのでなんとも言えない。	男性	23歳	京都
詳しくわからないが、原子力発電は必要で維持していけないと思う。安全対策を徹底的に強化していくべき。	男性	25歳	北海道
専門知識のある人が、答えを出すべきである。	男性	25歳	山形
自分の身体に悪影響を及ぼす情報はいち早く全て知りたい。	男性	26歳	神奈川
もっとメディアに情報を正しく出してほしい。	男性	26歳	埼玉
池上彰氏に説明してほしい。	男性	27歳	東京
いい加減な情報ばかり流すマスメディアにはうんざりです。同様に、国民自身も原子力や放射線に対してあまりにも無知で無理解です。	男性	28歳	埼玉
専門家の先生の発言を信用して対応してほしい。	男性	28歳	奈良
電力の需要に見合った分だけ、原子力エネルギーを必要としている現在安全性なのかどうか不安をなくす努力が必要だと思う。うその情報は信頼を失ってしまうので、正しい情報を常に私たちに知らせてほしい。広報等身近な新聞で知らせてほしい。テレビでは常に現在の原子力発電所の様子がわかるチャンネル等、常に今の状況を国民に発信してほしいです。	男性	29歳	埼玉
信用できる情報源がない。メリット、デメリット、全て説明すべきだし、情報公開すべき。	男性	30歳	山梨
組織(法人)として情報を公開するのではなく、人間(自然人)として頭の中、心の中、人間関係などを公開すること。ポジショントークではなく、全人的にオープンな対話でなければ本当に信頼に値する情報は作りだせません。	男性	31歳	千葉
ニュースでしか知ることができないので、長い時間の特番等を作ってほしい。	男性	31歳	岐阜
核エネルギーを使うことに関しては、まだ実験段階のようなものである。研究室を出てはいけないレベルだと思う。	男性	33歳	東京
世論に流されず、無駄のないエネルギー政策を行ってほしい。そのためには、外部(海外)の強い意見等を使い、正しい理解を広める理解が必要。	男性	34歳	千葉
放射線は目に見えないので、真実を伝えていかなければならない。	男性	34歳	福島
原子力発電は必要。安全とわかればすぐに再度動かすべき。周辺の人、文句言うなら近くに住まなければ良い。	男性	35歳	東京
エネルギー事情を考えると、原子力発電は必要。	男性	35歳	香川
エネルギーの確保の為に原子力は有効だと思う。しかしその為に見切り発車で危険を先延ばしするのは認められない。子どもたちに負の遺産を残すようなことはしたくない。	男性	36歳	埼玉
不確定な情報なら必要ないと思うが、発信は密に行うべきだと思う。	男性	36歳	宮崎
スマホやPCで、簡単に稼働率や土地の放射線量を表示できるようなソフトを作って欲しい。	男性	36歳	大分
東日本大震災で危険性は十分理解できているので、有効な対策を確実に説明し理解を得ることが必要だと思う。また再稼働したなら早急に値下げを実施して頂くと、理解は得やすいと思う。	男性	37歳	北海道
真実を伝えてほしい。なかなか情報が伝わらない事がある(物事をかくす事がある)。	男性	37歳	千葉
新聞、ニュースなど、公平に報道できる機関が世の中にはないのではないかと思います。全てスポンサー次第ではないのか(NHKも)。	男性	38歳	栃木

●原子力やエネルギーに関する情報についての所感

原子力やエネルギーに関する情報について感じることを自由に記入してもらった結果は以下の通り。

<個別訪問留置調査(全国)>

問15. 最後に原子力やエネルギー、放射線、またこれらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えがあればお書き下さい。(ご自由に)

回答内容			
原子力はエネルギー状況を考えると不可欠。しかし、安全性に不安があるので、別の発電方法にスイッチしていく必要がある。	男性	39歳	東京
インターネットを利用した情報発信。	男性	39歳	東京
若者たちに身近に感じてもらえるように、ツイッターなどのSNSを充実させてみてはどうか。	男性	39歳	東京
政府が正直に、メディアを通して説明してほしい。	男性	39歳	埼玉
正直よく理解していない。	男性	39歳	長野
専門的な知識があるかどうかは最低限で、そこに携わっている人自体が信頼できるかどうかが大変。	男性	39歳	広島
ビラの配布。	男性	41歳	奈良
一部報道機関が、偏った見解を主張し過ぎではないか。	男性	41歳	大阪
・安全な国であってほしい。・正直に話してほしい。	男性	41歳	東京
隠さないで全部公表してほしい。	男性	41歳	青森
国による情報操作を感じる。	男性	41歳	広島
今はインターネットがあるので、こういったことが簡単に行えるようになったと思う。アプリなどももっと活用していったらよいと思う。	男性	42歳	埼玉
地球、国レベルでエネルギーをどのように供給していくべきなのか方向性を多くの人々が認知できるように責任者が情報発信していくべき。	男性	43歳	東京
情報も信用性に×なので、なんともいえない。	男性	44歳	東京
国の言う、発信する情報はウソにまみれている。	男性	46歳	大阪
情報をきちんと開示してほしい。	男性	46歳	東京
私の家の近くは浜岡ですが、近いと言っても普通の生活の中で、見える範囲ではないので、普段考えて生活はしていないのが現実です。その為地域の情報は一切ないので、何か間に情報を得る手段があればと思います。	男性	46歳	静岡
賛成と反対の両方の考えが知りたい。もっと身近に。	男性	46歳	兵庫
国(政治家)による情報、発言等について全くといって信頼できない。専門家による情報提供にとまった発信を願いたい。	男性	47歳	北海道
原子力エネルギーは日本のエネルギー事情においては必要だと思います。でも専門家は、いつでも後からの結果論を言うだけであると思います。ちゃんと責任を取る人がいてほしい。	男性	48歳	東京
キャスターや記者の偏った意見を伝えるべきではないと思う。肯定的・否定的両方の専門家の意見が必要。利害がはっきりしているの、利のない反対は大きな声を出せるのに対し、恩恵のある否定できない人の事も考えて報道をするべき。	男性	48歳	埼玉
放射線放射能が人体に与える影響がないわけではないことから、有事の際は当然公表すべき(あらゆる手段で)。また、早急に封じ込める体制を講じるとともに、IAEA等他の有識者に情報を提供し、意見を求めること。	男性	49歳	千葉
新聞、テレビ、インターネットに情報をどんどん発信してほしい。	男性	49歳	奈良
情報公開の徹底。	男性	49歳	福岡
メリット・デメリット全て公開すべき。	男性	49歳	山梨
専門家がいろいろなことを協力しないで発言しているだけでしかないことが情けない。発言力のない専門家にも発言できるシステムに変更しなければ、何事も後手後手になってしまう。	男性	50歳	愛知
防災対策の進歩について公開していくべき。	男性	50歳	静岡
スマホなど。	男性	51歳	埼玉
政府、自治体から発信。	男性	51歳	大阪
どんな情報発信があろうと、個人が関心を持たなければ意味がない。	男性	52歳	埼玉
情報開示は詳細にお願いします。決して隠し事はしないでください。さきの震災の時は結局政府が「嘘の」情報を流したことが後からわかり、かなり失望しました。	男性	52歳	千葉
安全第一	男性	52歳	愛知
「100%の安全を求める。」等の極論を廃し、合理的に今後の安全性を高めるための議論や手段を考えるための情報発信を行ってほしい。	男性	53歳	神奈川
問題が発生したら、早急に正しい情報を知らせてほしい(緊急エリアメール等)。	男性	53歳	神奈川
原発は心配。	男性	53歳	千葉

●原子力やエネルギーに関する情報についての所感

原子力やエネルギーに関する情報について感じることを自由に記入してもらった結果は以下の通り。

<個別訪問留置調査(全国)>

問15. 最後に原子力やエネルギー、放射線、またこれらに関する情報源、情報発信の手段などに対する
お考えがあればお書き下さい。(ご自由に)

回答内容			
都市には、安全であれば必要と思う。	男性	53歳	沖縄
福島第一原発の放射線濃度のデータを、TV等で毎日表示すべき。発生後の事後報告しか印象にない。国民に日々の報告、公開は国としての義務!!	男性	54歳	神奈川
3.11により、原子力発電の安全神話は崩壊している現況に於いて、同様のことも起こりうる確率、現況の改善で、どの程度まで押さえ込むこともできるようになったかの情報を積極的に発信すべき。	男性	56歳	愛知
情報の発信者(個人、組織、団体等)を確実に、明らかにするべきで、「ある専門家によると」といった不確実な情報は慎むべきである。	男性	56歳	山形
国は日本のエネルギー事情についてもっと国民に知らせるべき。	男性	57歳	北海道
諸外国が原爆を持つように、いざ戦争となった時、抑止力として利用できるのも、すべて0にするのではなく最低限の数にて、原発は必要と考える。	男性	57歳	奈良
原子力の早期の廃止。原子力発電の早期廃止。	男性	58歳	神奈川
国、自治体、電力会社からの正直な報告。	男性	58歳	北海道
電気代が上がることは良くないので、原子力発電も必要ですが、情報が一本化していないので、何を信じたら良いのかわかりません。	男性	59歳	新潟
緊急原子力速報等、パソコンや携帯等に随時発信して情報提供するシステムがあればよい。	男性	61歳	埼玉
原子力エネルギー情報はテレビ、新聞などで見るくらい。必要であるが、危険でもある。	男性	61歳	埼玉
原子力技術が完成されていない。・事故の場合の影響大。・他の技術分野に課題が公開されず。	男性	61歳	愛知
東京電力福島原発事故の教訓が生かされていない。情報開示も後手後手で信用できない。	男性	61歳	鹿児島
テレビで伝える司会者等も、勉強して欲しい。	男性	62歳	山形
難しい問題だと思うが、原子力以外のエネルギーどうするか。電気なるべく使わずに生活するよう、24時間営業を業者によってはやめて欲しい。	男性	64歳	京都
・テレビが一番見る機会が多いと思う。・最近つまらない内容が多いので、民放も、考えるべきでは。	男性	64歳	熊本
なぜ原子力エネルギーが必要であるか、もっと具体的な数値を示すべきと思う。	男性	65歳	兵庫
何を信じていいのか? 政府関係者、専門家はウソつきばかり。原発を作った会社がおかしいでしょ。止められない車作るな!	男性	65歳	山形
TV、新聞	男性	65歳	神奈川
発電コストの安い物が必要。原子力をなくしてしまうと技術、人も育たない。競争力も。	男性	65歳	千葉
原子力エネルギーは廃棄にも困るし、コストもかかる。良い所まったくなし。	男性	66歳	東京
新聞、テレビ、自治体などの情報、詳細に。	男性	66歳	大阪
情報がどこまで信頼できるか? 自分達に都合の良い発言や発表がなされているように思える。専門家の意見や思い、考えをわかりやすく国民に知らせてほしい。	男性	67歳	岡山
・原子炉はトータルコストは高い(安くはないのに安いと)。・廃棄のコストは今もって不明。・規制(委)は全くの後追いで、地震・水害対策をしているだけ。欧米の最新原子炉の安全対策の話が日本では全くでてこない。なぜか。	男性	68歳	神奈川
「真実を伝える姿勢」がどのような立場の人であろうと必要だ。個人個人にその意識がなければ、どのような情報も無効だし、無用だ。	男性	68歳	岩手
当事者が「これぐらい」と思わず、異常はすぐに発表すること。「確認して」「原因が判って」などは言い訳にしか聞こえない。	男性	68歳	長野
・原子力発電においては核燃料の不測の事態における、冷却機器(設備)を2~3重に確保が絶対条件。・エネルギーについては全てに限りはあるが、化石燃料によるCO2増加(温暖化)速度を遅らせるためにも当面、安全な運用を条件に核燃料を使用し、その間に次のエネルギーを開発する。・放射線の影響が詳しく説明されていない面がある(強さ、量、時間、日、月、年間被曝量)の定義が大事。・情報源発信の仕方は、一言では言えないが、国や所管する経産省、環境省、県市町村、研究所、大学等、討議、討論、会議を通して、集約し方針なり、情報発信が必要。	男性	69歳	神奈川
放射線は恐ろしいので、情報をわかりやすくテレビなどで、伝えて欲しい。	男性	69歳	徳島
原子力の平和利用=原発推進に騙された、二度と騙されないぞ、という思いが強い。	男性	69歳	愛知

●原子力やエネルギーに関する情報についての所感

原子力やエネルギーに関する情報について感じることを自由に記入してもらった結果は以下の通り。

<個別訪問留置調査(全国)>

問15. 最後に原子力やエネルギー、放射線、またこれらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えがあればお書き下さい。(ご自由に)

回答内容			
原子力は安全、安心ではダメ。常に危険である事が第一です。万が一問題発生した場合には、国の機関がいかに速く国民に情報を発信するかが問題。全て隠さず公開する事。	男性	70歳	宮城
国民に電気の安定供給をしっかりと守ってほしい。海外の原子力発電の情報を知らせてほしい。	男性	70歳	福岡
福島第1原発災害の放射能は、コントロールされていると言って東京オリンピック開催を勝ち取った総理。どこからどこまでコントロールされているのか国民はわからない。またこの間の水害で、放射能汚染を除去した貯蔵袋が流されてしまったらしいが、その調査もこれからの影響なども知らされないままになっている。信用できない。	男性	71歳	東京
安全が第一。	男性	71歳	三重
何を言っても、国は都合良く隠して、自分の都合に合わせて進めてしまう。	男性	71歳	山梨
原子力に関してどこからの情報を信じればいいのか、本当のことを知りたくても、信頼性に欠けてしまっている。	男性	72歳	岩手
高レベル放射性廃棄物の最終処分地の選定もできていない現状では、原発の稼働により使用済み燃料が増すばかりです。国内に埋設処分地はあるのでしょうか疑問です。将来的には廃止の方向で。いくら技術が発達してもヒューマンエラーは付き物。	男性	72歳	北海道
放射性廃棄物の最終処分場もないのに、原子力発電所を動かすのは大便を溜めているが捨てる所がないのと同じで、非常に危険である。処分場は偉い人の地元を作るべきである。	男性	73歳	東京
資源の乏しい日本では想定外の策を考えて、政治家の学者だけでなく、一般の人良識のある人など幅広く見当して行く事が大事だ。	男性	73歳	東京
何かやると総理に金が入るのでいや。国のやつらに絶対金が入っている。	男性	73歳	埼玉
TV、新聞、ラジオ等での報道をすみやかに確実に行うように。	男性	73歳	広島
とにかくよくわからないし知識もないが、言えるのは安全対策と経済発展を目指し強化してほしい。	男性	74歳	京都
現状で動いているので、廃棄物の処理をどうするのかを早急にする事。	男性	74歳	広島
すぐ情報公開してほしい。	男性	75歳	愛知
耳にしたくなく、考えたくもない。	男性	75歳	群馬
情報が遅いので、もっと早く知りたい。	男性	75歳	愛知
国のエネルギー政策は、不動であって欲しい。	男性	76歳	千葉
知識人の話を聞いてみたい。	男性	76歳	奈良
前段にもあったが、情報公開を徹底することに尽きる。そのことによって、住民の理解、協力にもつながって、電源地その他種々な作業等がスムーズに行くことにもなると思う。	男性	77歳	新潟
正直に説明すること。	男性	78歳	千葉
電源に原子力はいらぬ。他に水力、風力等をもっと使うべきだ。日本には水力、風力、バイオやいろいろと使えるものが多い。	男性	78歳	大阪
定期的には各原発のレポートが見る事とそれぞれの情報が知りたい。	男性	79歳	東京
福島原発の非常電源を地下室に設けていたのが不可解だ。	男性	79歳	新潟
もう二度と原子力でこわい思いはしたくない。	女性	15歳	愛媛
常に情報を発信していく。1日に何度も更新していく。	女性	17歳	神奈川
災害時に迅速に対応し、情報公開をあますことなく伝えなければ、うわさや間違えた情報にだまされてしまう人々が増えてしまうから。SNSや地方役場など情報発信が盛んな所へ流して、対応の手段を取るべきだと思う。過去の失敗から学ぶことをして頂きたい。	女性	17歳	東京
福島原発の現在の状況や原発によって被害を受けた人たちの声、政府の考えをもっと正確に詳しく知りたい。	女性	17歳	福岡
再稼働をするかしないかではなく、使い終わった燃料をどうするのかをまず考えるべきだと思う。使い終わった燃料をそのままにして施設の動きを止めても、そこに災害が起こってしまったら同じことになると思う。	女性	18歳	高知
自分達のような若い世代はまだ「原子力」「放射能」についての知識が不足していると思う。	女性	18歳	岡山
学校時代に先生から話を聞いたような気がしますが、難しくてわかりませんでした。	女性	19歳	長崎
偏っていない公平な意見を知りたいが、無理なのだと思う。結局、原子力に対する信頼を取り戻せないと思うから廃止するより他にない。	女性	20歳	東京

●原子力やエネルギーに関する情報についての所感

原子力やエネルギーに関する情報について感じることを自由に記入してもらった結果は以下の通り。

<個別訪問留置調査(全国)>

問15. 最後に原子力やエネルギー、放射線、またこれらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えがあればお書き下さい。(ご自由に)

回答内容			
もう少しこの件に、メディアはたくさん取り上げるべきだと思う。	女性	20歳	東京
わかりやすい言葉を使って、説明してほしい。	女性	21歳	京都
正しい情報を伝えてほしい。	女性	21歳	静岡
包み隠さずに、市民のみんなに情報を伝えて欲しい。	女性	21歳	兵庫
学校までの教育機関で、原子力についてきちんと教えるべきだと思う。	女性	22歳	千葉
誠実さが大切だと思う。	女性	22歳	島根
わかりやすい情報がないので、興味が持てない。	女性	23歳	兵庫
重要なことは、テレビでするだけでなく、ケータイで全配信するようにしてほしい。	女性	23歳	島根
原発はとてもおそろしいもの。でもそれで生計を立てている地域もある。すごく複雑な気持ちである。友人に何人もそれに関わる仕事をする人がいるので、心配になる。	女性	25歳	滋賀
CM	女性	25歳	愛媛
小さな子供がいるので、原子力発電所などの見学会などに行けないので、小さな子供がいても見学会に行けるようにしてほしい。	女性	25歳	静岡
もう少し情報開示をしたり、TVで特集を組んだりした方が良いと思う。	女性	27歳	香川
匿名で、でも正しい情報を与えてくれるようなサイトがあればいいと思う。	女性	28歳	東京
電気やガス、水道のある暮らしが当たり前のように感じてしまい、大切な資源のことは、全然無知であることに気付かされました。もっと自分から知ろうとしなければいけないと感じた。その分、情報をしっかり公開してほしいです。もっと身近な問題のはずなのに。普通に生活しているだけでは、情報が何も入ってこない。自分達の生活、子供(未来)の為にも、大切なことだと思うので、もっと勉強し、それぞれが協力できることはしていかなきゃいけないと思う。普通に生活していても考えるきっかけになるようなものがなければいけないと思いました。	女性	29歳	広島
報道番組の偏りに疑問を感じる。原子力発電に対する危険性はよくわかるが、安全性やプラスの意味での発信がなく、一個人として、どちらが良いのか判断できない。	女性	30歳	兵庫
真実を伝えてほしい。	女性	31歳	福岡
実際自分ではわかることのできない専門的部分で、テレビや新聞で流れている情報、良い物も悪い物も「正しい」を、判断できないので、誰も信じられないし、全部を信じるしかない。という状況だと思う(一般人のほとんどが)。これが正解!!という、正しい答えを言っていると信じられる人がいて欲しい。もしくは、浅いなりにも自分で判断できる位の正しい知識が付く情報が欲しい。	女性	31歳	岡山
わかりやすく伝えてほしい。	女性	32歳	秋田
情報の公開が早くて正確なものであることが大事だと思う。	女性	33歳	東京
皆に理解してもらいたいなら、わかりやすく説明する等が必要で、ネット等ない人もいるのだから、テレビでいいと思う。	女性	34歳	大阪
もう少しわかりやすく説明してほしい。頭が悪いから、理解できない。	女性	34歳	北海道
肯定・否定、あまり偏りのないように気を付けている。	女性	37歳	東京
放射線等は生活上、全くなしにはできないものなので、学校教育においても正しい知識を伝えていくべきだと思う。	女性	37歳	埼玉
TVCM 子供でもわかるくらいの内容のものを頻りにTVCMで流す。	女性	37歳	千葉
安全第一	女性	37歳	奈良
定期的にテレビ等で現状や、これからの対策について放送してほしいです。	女性	38歳	長野
内容が難しくてよくわからない。	女性	39歳	広島
日本では安全に使用できないと思う。全て廃炉の方向へ行してほしい。	女性	40歳	神奈川
情報入手して自分の中で吟味しなくてもいいようにしてほしい。	女性	40歳	千葉
インターネットによるリアルタイムの現状(ホームページなど)。	女性	40歳	熊本
地球のエネルギーを完全に管理することは人間にはできない。	女性	42歳	東京
真実をわかりやすく、敏速に伝えてほしい。	女性	42歳	神奈川
他国に比べ、日本は関心が低く、関心を持つ環境ではない。学校の授業等に積極的に取り入れ、たくさんの情報、意見を考える機会があった方がよい。	女性	42歳	大阪
政府やマスコミは、真実を話してほしいです。わからないことが多すぎます。	女性	42歳	愛知
詳しい知識がないので、ありません。	女性	43歳	岐阜

●原子力やエネルギーに関する情報についての所感

原子力やエネルギーに関する情報について感じることを自由に記入してもらった結果は以下の通り。

<個別訪問留置調査(全国)>

問15. 最後に原子力やエネルギー、放射線、またこれらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えがあればお書き下さい。(ご自由に)

回答内容			
発信する人も、情報を得た人も、正確な心理の上で理解すること。	女性	43歳	山形
原子力やエネルギー放射線等で事故などがあった場合、正確に説明して欲しい。	女性	44歳	東京
リスクについての説明をしてほしい。	女性	45歳	愛知
国は電力会社に全ての責任を押し付けるのではなく、国策としてきた以上、国が責任を負うべき。	女性	46歳	東京
現在TVでも放射能の事と取扱いがされなくなったので、食品の汚染の情報発信をTVやニュースで毎日扱ってほしい。今の状態だと国は汚染を隠していると思う。	女性	48歳	千葉
原子力エネルギーは、なくてはならないエネルギーだと思う。だから作り続け、研究し続けることが大切だと思う。だからこそ、早急に最終処分地を決め、安全で私たちの納得するような処分方法、説明をしてもらい、国民私たちも受け入れていきたいと思う。	女性	48歳	兵庫
太陽光発電を利用することを、国が国民に委ねると良いと思う。	女性	49歳	宮崎
どのような発電方法にも、安全と言い切れるものはない。省エネとリサイクルに力を入れるべきと思う。	女性	50歳	神奈川
がんばって発信して下さい。	女性	50歳	大分
情報の開示すべきだと思う。	女性	51歳	山梨
テレビなどは偏向報道している様子を感じられるので、気を付けるようにしたい。	女性	52歳	三重
3.11の日から日本は考えるべきだった。未来の子どもたちが安心して暮らせる日本、世界にしていきたいので、誰かいい方法を考えて下さい。	女性	52歳	鹿児島
テレビやスマートフォンが情報が簡単に入る時代だからこそ、情報を発信する側は、その正確性や信用度をしっかりみきわめた上で発信してもらいたい。	女性	53歳	埼玉
誰にでもわかりやすい、具体的な内容を取り入れた説明を、テレビやインターネット等で示してほしい。	女性	53歳	東京
安全第一であればよし。	女性	53歳	長崎
隠したりしないで、知らせてほしい。	女性	54歳	宮城
東京電力、政府、信用出来ない。自分達の事しか考えてない。	女性	55歳	埼玉
原子力推進派、反対派の公正な情報公開。	女性	56歳	大阪
国の情報は、100%信用できない。	女性	57歳	福島
処理できなくて後に危険物になるものは、初めから使わないでほしい。	女性	58歳	愛知
大きな放射線事故が起きて、福島の方々は大変なご苦勞をされています。このような中で、何故日本は原子力の廃止の方向にならないのか、とても不思議で残念です。企業のエコの技術は大きく伸び、まだ原子力が必要なのでしょうか。	女性	58歳	石川
今直ちに廃止すべき。人体に悪影響することがわかっているのに、なぜ再稼働するのか。地球自体の滅亡にもつながると思う。	女性	59歳	静岡
重大事故が起きてしまい、孫子の時代、将来に渡って、難題山積なので、あらゆる情報網を使い国民に対しては随時ありとあらゆる情報を開示発信し、恒に意識してられるような環境作りをしてもらいたいと思います。	女性	59歳	千葉
環境等にきちんと対処できるなら大いに使用したら良いと思う。	女性	59歳	東京
発信の手段を問うよりも、信頼を取り戻す方が先です！	女性	60歳	岩手
まだまだ家に帰れずに苦しんでいる人や、補償のもらえない人がいます。そういう人達は、どうすればいいのかきちんと説明するべきだし、風評被害で仕事が減少して生活が苦しくなっている地域への支援や補償を打ち切りにするって、死活問題です。他の県と違い、復興しにくい点をわかって欲しい。今だに「福島県の食べ物なんか買わない」と言う人もいるのです。こんな風に発言できるアンケートも、ありがたいと思いました。	女性	60歳	福島
どれほど備えとかしていても、完全だと言うことがないし、自然相手なのだから、最悪のことから考えていくべきだと思う。	女性	61歳	青森
現在原発を稼働していない時でも、電力不足がおこることはなかった。暑い夏にも、原発は廃止すべきと思っている。	女性	62歳	千葉
政府の息がかかった人たちが、会議しても答えは決まっているようなものなので、時間とお金の無駄だと思います。	女性	62歳	静岡
医療に関しては必要だが、それ以外は必要なし。	女性	62歳	広島

●原子力やエネルギーに関する情報についての所感

原子力やエネルギーに関する情報について感じることを自由に記入してもらった結果は以下の通り。

<個別訪問留置調査(全国)>

問15. 最後に原子力やエネルギー、放射線、またこれらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えがあればお書き下さい。(ご自由に)

回答内容			
すべての人に判りやすい説明をして頂きたいと思います。	女性	64歳	京都
公民館等、地域の人達が良く利用する施設等にパンフを置いてくれると良い。	女性	65歳	東京
受動的な情報収集が多いので、メリット、デメリットどちらも一方的、表層的な知識しか得ることができないと思うので、自分の判断に自信が持てないし、わからない。	女性	65歳	大阪
テレビ、新聞。	女性	66歳	埼玉
原子力発電での事故の怖さを自覚して廃止していくべきである。他の発電方法をもっと活用するとともに無駄な電力の消費を考えるべきである。少し不便になっても原子力発電は廃止すべきである。	女性	66歳	埼玉
現在、将来の生活に重要な問題であることは十分に理解していますが、余りに大きな課題すぎて、難しくわかりません。	女性	67歳	東京
私に知識がないので、よく理解できていないのが事実です。	女性	67歳	大阪
専門家や研究者が説明する時に、メリットだけでなくデメリット面もちゃんと説明すべきである。	女性	67歳	千葉
現実に即した対応、安全第一に考えて行動すべき。	女性	67歳	新潟
地震国である日本は、地熱発電にもっと力を入れてほしい。太陽光を利用して太陽電池を一般家庭でも利用できると良い。	女性	68歳	奈良
何でも隠さず、早めに伝えて欲しい。	女性	69歳	青森
詳しいことはわかりませんので、特に意識はありません	女性	69歳	千葉
信頼できる情報は、探せばありますが、新聞やテレビがもっと発信してくれたら助かります。	女性	70歳	埼玉
東日本大震災は考えられないことが起こって、国も電力会社も住民も皆が被害者。考えられるだけの防備は東電もしていたはず。(想像以上のことが起こって)。ただただお気の毒です。	女性	70歳	熊本
TVも新聞も偏向報道が多すぎる(朝日、毎日等)。	女性	70歳	京都
事故に対して非常に不安に思う。	女性	70歳	北海道
何かあれば、正しい事実を知らせて欲しい。	女性	70歳	広島
こわいので、特には考えない。	女性	71歳	兵庫
私たち国民は、専門的知識がないため、くわしく理解出来てませんので、NHK特集などで実情を放送していただくとありがたいです。	女性	72歳	神奈川
公平で信頼できる情報をTVで放送してもらおうのがいいと思う。本当はNHKがすべきだと思うが、それも信頼できない。私自身は信頼できそうな本を購入して読みました。	女性	73歳	北海道
原発で事故が万が一起きた場合、非常に大変な問題が起こるので、憂慮しますが、事業者は絶対に安全を忘れないで下さるようお願いしたい。	女性	73歳	岡山
医療等には必要ではあるが安全面では何とも言えないので、自分達も勉強しなければいけないし、専門家の方も情報を正しく伝えていただきたい。	女性	75歳	東京
原子力が必要な時もあるかもしれないが、基本は反対。	女性	75歳	栃木
廃物処理が出来ない物を作り続けて、将来、人間はどうなるのか、明確にした上で使うべきで、企業の利益追求の為だけに使うのはやめてほしい。	女性	76歳	神奈川
テレビ番組から得たいと思っております。	女性	76歳	千葉
安全確保の上、原子力は必要である！	女性	76歳	愛知
正確な情報を、発信して欲しい。	女性	76歳	山形
地域的にも影響ないから特別考えたことがない。	女性	78歳	岡山
原子力のことはむずかしく、よくわからない。	女性	79歳	大阪
エネルギーは必要だけど、もっと一人一人が謙虚に使うべきだと思う。	女性	79歳	宮城

●原子力やエネルギーに関する情報についての所感

原子力やエネルギーに関する情報について感じることを自由に記入してもらった結果は以下の通り。

<Web調査(全国)>

問15. 最後に原子力やエネルギー、放射線、またこれらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えがあればお書き下さい。(ご自由に)

回答内容			
全てが全てわかっている訳ではないことをもっと知らしめるべき。	男性	18歳	大阪
原子力についてわかりやすく、楽しく解説するスマホアプリがあるとよい	男性	20歳	石川
公平に伝えてほしい。	男性	20歳	広島
情報源や情報発信に関しては現状で事足りていると思います。	男性	26歳	東京
原子力の危険性がこれだけ広まっているのに使い続けるにはそれなりのメリットがあるはず、それをもっと知りたい。	男性	29歳	福岡
インターネットのニュースに取り上げる機会を増やす	男性	29歳	徳島
もっときちっと報告すべき	男性	35歳	福井
もっと情報を開示してほしい	男性	36歳	香川
やはり原子力のある現地の専門家の声を聞きたい	男性	36歳	大阪
第三者的な人の意見が聞きたい	男性	36歳	北海道
もっと国民を信じてしっかり双方向の議論を行って欲しい。原発賛成派の国民の声を取り上げて欲しい。	男性	37歳	東京
隠さず発信してほしい	男性	38歳	奈良
非営利団体などの情報は公平な情報だと思うが、電力会社などはバイアスのかかった情報しか公開していないと思うから信用できない	男性	38歳	北海道
私の会社は原子力発電所の再稼働を待ちわびている会社です。しかし、私のいる会社の存続よりも今後の原子力発電所の事故が心配です。社内では賛成があたりまえの社風ですが、社外では堂々と共産党に投票し原子力に対しNOと言おうと思っています。	男性	39歳	埼玉
核融合炉の実用化が急務	男性	42歳	埼玉
安倍総理が選挙の時のように積極的に訴えるべき	男性	43歳	福井
誰でも知っていそうな番組に直接関係者や専門家が 分かりやすく噛み砕いて説明すると良いと思う。	男性	43歳	三重
情報公開の徹底	男性	43歳	埼玉
ゴミ問題をもっと分かりやすく取り上げるべき	男性	43歳	静岡
ジャーナリストによる取材	男性	44歳	北海道
廃止	男性	45歳	兵庫
とにかくネットで常に情報公開	男性	47歳	東京
全ての情報を明らかにする	男性	47歳	岡山
あやしい	男性	47歳	神奈川
日本の国土は今の世代の人々だけのものではありません国土を汚してしまったこと農産物や海産物を安心して食べる事が出来なくなってしまったことは私たち世代の恥なのだと思っています。今、火力発電所を新設・立て替えれば従来の2倍の高率で発電できるものがあると聞きました。国は原発を稼働させたいために建てることを許可しないと聞きました。今までの火力発電所をすべて立て替えれば従来の燃料で2倍の電力を得られるという事なので原発は必要なくなることとなります。原発の事故を2度と起こさないためには原発をすべて廃炉にすることが唯一の策だと思います。二酸化炭素の排出も今の気候変動には関係のないものと考えていますし現に冬には大雪も降っ多いいのが温暖化のせいで大雪が降っているとか言っている人がいましたが寒くなるのが温暖化ですか？ 原発を稼働させたい人の中にはいざとなったら核爆弾を作りたいと思っている人がいるようですが、それなら正々堂々と核保有というテーマで議論するべきだと思います。これ以上国土を汚さずに次の世代に引き継ぐことが私の望みです。	男性	47歳	神奈川
いらない	男性	49歳	岩手
必要なものである。	男性	50歳	千葉
ミックスを考えて安定を優先してほしい 絶対安全などと言わないで欲しい	男性	51歳	千葉
工夫が得意な日本人、エネルギーにも競争原理を取り入れれば 電気料金は原子力を活用すればもっと安定・安価に供給できるはず。	男性	52歳	神奈川
短期定期報告	男性	53歳	兵庫
政府や電力会社による情報の隠匿を罰するシステムを構築しなくてはならない。子供には東日本産の野菜や魚介類は今も食べさせていません。お米も近畿地方で作られたものを食べています。関東以東の土壌はかなり汚染されているように思います。	男性	53歳	大阪

●原子力やエネルギーに関する情報についての所感

原子力やエネルギーに関する情報について感じることを自由に記入してもらった結果は以下の通り。

<Web調査(全国)>

問15. 最後に原子力やエネルギー、放射線、またこれらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えがあればお書き下さい。(ご自由に)

回答内容			
既得権益	男性	53歳	大阪
情報がどう正しいのかを見極めるしかないと思う	男性	54歳	宮崎
プラスでもマイナスでも何でも公開してほしい	男性	54歳	北海道
真実を隠さず曲げず偽らず正確に情報開示してほしいです。秘密保護法ができますます隠されていくと思います。	男性	55歳	愛知
福島原発事件の反省から	男性	55歳	山口
必要なかもしれないと思う	男性	55歳	静岡
ヒステリックに反原発を叫んでいる人を黙らせてほしい。	男性	56歳	福島
原子力関係のチャンネルをテレビに割り当てて、24時間放送すれば良いと思う。	男性	56歳	秋田
どれが本当のことなのか分からない	男性	57歳	山口
原発は暫時廃止にすべき	男性	57歳	神奈川
なし、考えてもどうしようもないので極力考えないようにしています。	男性	58歳	兵庫
新たなエネルギー源を早く発掘してほしい	男性	59歳	岐阜
国や関係者は自分たちに都合のいいことしか言わないので、ひたすら廃止を叫ぶだけ。	男性	59歳	東京
本当にそれでいいのかをさらに考える必要がある。	男性	60歳	愛知
事業者による即座の情報公開や通報を怠った場合のペナルティーを厳正化しないと被害を被るのは取り残された住民であり、裏切りである。住民のことを第一に考え情報公開を速やかにしてほしい。また、自治体担当者の知識に対する勉強不足も問題である。徹底して知識習得に努め、しっかりとした知識を身に着けた人材がいなければ事業者の施設受け入れはは行うべきではない。	男性	60歳	茨城
徹底した情報公開がなされていない	男性	60歳	兵庫
原子力発電を、少しずつ廃止すべきです	男性	60歳	大阪
私情が入っていない、正確な情報のみを発信してほしい。	男性	61歳	富山
大部分の国民は学ぶのが嫌い。でも、正確な情報を知りたいという矛盾した考えや姿勢をとっている。それでも、どうかして現状の進捗や改善点を広報していかなければならない。大変ですね。	男性	62歳	福島
原子力発電は危険なので即時廃止すべき。CO2の排出は発電時にはないが、原発の建造、ウランの採掘、精製時にはCO2を排出している。また核燃料になる精製ウラン作るためにはその数倍のウランが必要。	男性	62歳	東京
もっと情報を公開すべきだ	男性	63歳	新潟
未来のエネルギーに必要であろうが、完全にコントロールできるまで 研究すべきではある。活用はその先にある。	男性	63歳	奈良
正確さ	男性	63歳	埼玉
きめ細やかな情報	男性	63歳	東京
徹底した情報公開が絶対条件。今の大手マスコミは政府の提灯にしか過ぎない。	男性	64歳	愛媛
あまりにも知らなさ過ぎた、という反省を強く持っている。あれほど原発に対する専門家の方たちの能力、危機管理意識がひどいものだとは思わなかった。困ったことに、何を見ても書かれていること、話されていることが、どの程度正しいのかということが判断できない。恐ろしい物が自然災害の多発するこの国に多数存在する、という事実を考え直すべきだと思う。	男性	64歳	神奈川
現状、原発は必要悪だと思います。	男性	64歳	大阪
技術立国として必要	男性	65歳	兵庫
自由な意見表明の保証	男性	66歳	福岡

●原子力やエネルギーに関する情報についての所感

原子力やエネルギーに関する情報について感じることを自由に記入してもらった結果は以下の通り。

<Web調査(全国)>

問15. 最後に原子力やエネルギー、放射線、またこれらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えがあればお書き下さい。(ご自由に)

回答内容			
直流である太陽光発電の電気は直接蓄電池に蓄えることができるので、地産地消に都合が良く、長距離を送電することによるエネルギーロス削減できる。最近、家庭で使用する機器に、アダプターが付属しているものが増えているので、直流のまま使用する方式の技術開発を進めることを期待したい。現在の消費地から遠く離れた場所に設置された巨大発電所を前提にした図式でなく、小規模発電を消費地近くに多くつくる方式への発想の転換を進めるべきである。このような情報の発信が必要かと思う。巨大発電所がなければ電力の安定供給ができないというのは、電力会社が一方的に発信していることで、送電時のエネルギーロス、常時発電しておく必要から生じるロスなどの情報はあまり発信されていない。これらの情報も提示して、将来どうあるべきかを検討すべきである。そうしないと、持続可能な社会をつくり出すことはできないと考える。	男性	66歳	岩手
政府の情報が信頼できなくなれば、反対意見に耳を向けるべきだと思う。信頼を得ようとの政府の熱意は感じられない。電気事業者に、信頼の置ける情報提供を求めるのは、所詮はじめから無理だと思えます。	男性	66歳	愛知
日本は火山国だから、もっと地熱発電の利用を推進すべきと思う！ 水力発電を活かす為に、ダム底の堆積物除去をして、もっと活用すべきと思う!	男性	67歳	兵庫
テレビや新聞で情報を得ているがあまり信用はできない	男性	67歳	静岡
偏らないメディア全て	男性	67歳	千葉
遠慮することはない、今の原子力施策をどんどん進めてほしい	男性	68歳	福岡
電力会社は都合の悪い情報は公開していないと思えます。	男性	68歳	熊本
国、行政機関にとって不利益な情報でも速やかに公開すべきだ。	男性	68歳	福井
隠蔽体質からの脱却	男性	69歳	大阪
専門家の賛成反対それぞれの主張を詳しく聞きたい	男性	72歳	神奈川
最終処分場が解決しなければ原子力の撤退をすると期限を切って決めるべきだ。	男性	73歳	広島
原子力の平和利用は必要だが現在の安全対策は見直すべきだ。	男性	73歳	東京
マスコミ・地元自治体の広報等を得ることから知識を増やしてゆく	男性	75歳	埼玉
マスコミ、新聞・テレビなどでエネルギー分野だけでなく地震・火山・地質など幅広い分野の専門家からの色々な意見を広く発信してもらいたい。	男性	77歳	神奈川
小泉、細川、菅などは売名のために、原子力発電に反対している面が見える。マスコミはこういうやつらの発言を大きく取り上げるが、賛成する人の意見は報道しないことが多い。	男性	79歳	愛知
鉄道の車内広告	女性	19歳	兵庫
ネット	女性	22歳	岡山
原子力などに携わっている人の話を信頼する	女性	22歳	広島
ニュースで現在の原子炉状況などわかりやすくいってくれるとうれしい	女性	26歳	北海道
広報誌よく読むので、その中に特集があれば。	女性	28歳	北海道
最近新聞に記事がないと思う。	女性	29歳	福岡
テレビが一番良いです。たくさんの方が目にするし、一番頭に残りやすそうなので。	女性	31歳	愛知
原子力に替わる新たな安定的エネルギーを早急に開発および運用すべき	女性	32歳	宮城
いまだにわからないことがおおいのでわかりやすく、説明してくれる場がほしい	女性	33歳	東京
色々知らなくてはいけないと思う。けど知ろうとするには勇気がいるし気力もいるししんどい。重くて辛い情報と軽くて楽しい情報を並べられたら軽い方を選んでしまう。	女性	33歳	埼玉
全面的な情報公開。	女性	34歳	大阪
原子力に代わる安全なエネルギーの安定した供給ができることを願います。	女性	34歳	埼玉
必要だとは思いますが怖さがある	女性	35歳	長崎
包み隠さず、正確な情報を正直に発信する機関が必要	女性	36歳	千葉
テレビからの情報発信はコメントされる方の主観が入るのだと誤った情報が耳に入るので注意してほしい	女性	37歳	山口
将来の温暖化なども気になります	女性	37歳	兵庫
これからの子供達にも原子力のメリットとデメリットをわかりやすく伝えて行くべきだと思う。	女性	40歳	栃木
もっと読みやすいフリーペーパーがほしい	女性	40歳	佐賀
自治体も積極的に情報を発信してほしい	女性	41歳	大阪
とにかくこれから育てて行く子供たちのことを考えてほしい	女性	42歳	栃木

●原子力やエネルギーに関する情報についての所感

原子力やエネルギーに関する情報について感じることを自由に記入してもらった結果は以下の通り。

<Web調査(全国)>

問15. 最後に原子力やエネルギー、放射線、またこれらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えがあればお書き下さい。(ご自由に)

回答内容			
原発はないほうがいい	女性	43歳	石川
情報があまり入ってこないので詳しくわからない	女性	44歳	滋賀
マスコミ報道のあり方に嫌気がさす。偏向放送が激しくてニュースさえ信じられない。それぞれがそれぞれの利害で成立し、意見を視聴者に押し付け、タレントが原発反対を煽る。自分で幅広く情報を収集できない情報弱者は鵜呑みにする。政権が気に入らないと特にその傾向はひどい。自分が考え、情報を調べて信頼できるものを選別して各々考えて欲しい。情報操作されずに。電力会社の殿様商売のツケ、マスコミの原発キャンペーン・・・本当に被災者や国民のことを考えている人はどこに居るんだろうか。	女性	45歳	大分
原爆の被害を受けている唯一の国であるのに、原爆や放射能に対する知識を知らしめないし、知ろうともしない。政府も、国民も危機感がなかったと思う。そして、被害を受けた国だからそこに研究成果があるはずだと思うし、それを生かしていないのならば勿体ないと思う。	女性	46歳	千葉
テレビ	女性	47歳	富山
福島原発の石棺化されることを早期に望みます。	女性	48歳	神奈川
事実を知らせて欲しい	女性	49歳	山口
なにに手を付ければいいのかわからない	女性	50歳	岡山
難しい問題で、よくわからないので分かりやすく説明して欲しいです。	女性	51歳	埼玉
核分裂は暴走しようとする牛をなだめつつ適度な速さで走らせる技術で、核融合は眠ろうとする牛を起こしながら適度な速さで走らせる技術だと聞きました。核融合による発電はどこまで研究されているのでしょうか。技術大国であった日本なら、何とか確率できそうな気もするのですが。	女性	51歳	愛知
パンフばかり作って、暗い役所の隅にひっそり置いただけ、イベントで配るだけで仕事をやったつもりになってほしくない	女性	52歳	愛知
うそをつかないで欲しい。企業優先の考えはやめてほしい。東京に建設すればいいんです	女性	53歳	福島
特にない、どうせ変わらないから	女性	54歳	北海道
チェルノブイリやスリーマイル島で相当被害が出ているにもかかわらず、日本が原子力発電を推進していった結果が福島日本がつながったのだと思う。国民の安全より国益優先の政策が続いていると思う。	女性	54歳	神奈川
日本は地震国であるため、原子力発電の危険を考えてほしい	女性	54歳	熊本
即時廃止	女性	56歳	福岡
原子力関連だけではなく、すべてのニュースに関して「真実か どうか」をできるだけ検証するようにしたいと思う。特にインターネット上で情報はあふれており、選別しないと危険。テレビ・雑誌・新聞などの媒体は、私たちの目に触れる前に情報を 選別しており、それがいつも公正な情報とは限らない。	女性	60歳	東京
ニュースなどで開発中のエネルギーをもっと積極的に紹介してほしい。	女性	60歳	東京
定期的に発信をしてほしい	女性	60歳	埼玉
人間の英知を結集して 原子力を 使いこなせる社会にしてほしい	女性	61歳	沖縄
日本のように地震が多い国での原子力発電が本当に必要なかもうあるから使わないと損をするからとゆうことで、再稼働の道を選んでいるのかそのあたりを詳しく聞きたい	女性	61歳	福岡
放射性廃棄物の処理がきちんとできていない状態で原子力発電をやるべきでない。将来、それも気の遠くなるような遠い将来までも、危険にさらすことになる。	女性	61歳	埼玉
電気が今のように必要であれば、どうしても原子力発電に頼らなければならないと思う。だが可能な限り早急に蓄電能力の高い蓄電池などの開発を進め、一刻も早く原子力発電に頼らずに済む生活ができるようにすべきと思う。	女性	62歳	秋田
震災後原子力発電なしでやってきた。このまま原子力を使わなくても努力次第でやっていけると思う。	女性	62歳	福岡
情報を正確に	女性	62歳	愛知
国は国民に対して情報公開をして欲しい手段は誰の目にも止まる方法で	女性	62歳	神奈川
国は最初から原子力ありきの立場にいるから、反対意見を聞こうともしない	女性	63歳	大分
きちんと理解できるように情報発信を包み隠さずしてほしい。	女性	63歳	大阪

●原子力やエネルギーに関する情報についての所感

原子力やエネルギーに関する情報について感じることを自由に記入してもらった結果は以下の通り。

<Web調査(全国)>

問15. 最後に原子力やエネルギー、放射線、またこれらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えがあればお書き下さい。(ご自由に)

回答内容			
管理体制の中で、指導する立場の政府の原子力保安庁の人達の自分達に責任がないようにと、決定の必要なことは下にやらせる狡さが嫌い。情報発信云々の前に、ただただ威張り腐った態度を改め、お互いに安全のためにどうできるか、考えて欲しい。	女性	64歳	青森
原子力に頼るのではなく、費用は掛かるかもしれないがもっと自然のエネルギーを利用すべきだと思います。	女性	64歳	奈良
公平な立場で説明するNPOの講演	女性	65歳	静岡
良くわからないがもっと身近な所で情報を発信し、気軽に質問など受けてくれる所があればいい。	女性	65歳	東京
政府だけではなく、原子力関係者、専門家の情報開示を積極的にお願いたい。	女性	66歳	北海道
原子力エネルギーに関して正しい情報が発信されていないと思う。リスクをまず前面に出して今後それを回避しての運用を検討すべきだと だと思います。	女性	66歳	福岡
不安は多少あるが、現実問題として、原発にたよらざるを得ないと思うので、安全性の確認がとても大切だと思う。	女性	66歳	兵庫
所属する地域の情報誌、所属する生協の情報誌	女性	66歳	京都
危険なものには、近寄らない。	女性	67歳	東京
何を信頼してよいか分からない	女性	67歳	東京
原子力自体、適正に利用すればなんら問題はない、しかし現在廃棄問題が宙に浮いているし、福島の問題が、再度起きないように検証がまず大事である	女性	68歳	東京
信頼できる少数の人の意見を聴く	女性	68歳	福岡
原子力発電所は不要	女性	69歳	新潟
国、電力会社の発表は信頼できない。	女性	69歳	宮城
専門家による原子力に代わるエネルギーの研究を今以上にしていきたいと思っています。	女性	69歳	京都
今年の夏の暑さのピークの時ですえ1基も原子力発電所が稼動していない時ですえ電力は不足しなかった。それでも川内を認めた。来年から自由化され企業はいろんな方法を考えると思う日本の力の見せ所がいいことだと思う。まだ苦しんでいる人がたくさん居るのに 政府は輸出しようとしている。考えられない。	女性	69歳	大阪
市民レベルまで下がって、わかりやすく説明してほしい。	女性	69歳	神奈川
いままで以上に安全性に気にかけて、原子力発電に行ってほしい。	女性	69歳	北海道
自分自身でも原子力が良いのか廃止が良いのか本当の所分からない	女性	71歳	京都
原発地域では無い地域の人には、対岸の火事のような認識度しか 持てないのが現状	女性	72歳	三重
インターネット、新聞で情報を得る	女性	74歳	三重
原子力発電について、どの官庁と企業、その内容がどのように関連しているのかを図式化してわかりやすく説明してほしい	女性	75歳	埼玉
不都合なことは報道しない姿勢を改めてほしい	女性	76歳	東京

●原子力やエネルギーに関する情報についての所感

原子力やエネルギーに関する情報について感じることを自由に記入してもらった結果は以下の通り。

<Web調査(薩摩川内地域)>

問15. 最後に原子力やエネルギー、放射線、またこれらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えがあればお書き下さい。(ご自由に)

回答内容			
危ない	男性	17歳	鹿児島市
しっかりとした情報をニュースや新聞などで伝えて欲しいのと、どれだけの被害が出ているかを考えてこれから行動して国のことをしっかり考えて欲しいと私は考えています誤魔化さないでほしい。	男性	20歳	始良市
複数の視点からみた情報が必要	男性	23歳	鹿児島市
公的機関が自発的に情報発信すべき	男性	32歳	出水市
大震災以降今まで見えていなかった原子力発電の影が見えてきたので情報公開の透明性を確保しないと国民は納得しないと思う	男性	32歳	鹿児島市
地震があった時にすぐに異常がないかSNSを通じて知らせしてほしい	男性	34歳	鹿児島市
福島みたいになった場合の転居先の事前の公表と代替物件の提示	男性	35歳	いちき串木野市
地域別の情報誌は主な手段になると思う	男性	35歳	出水市
メディアの情報が一番確実	男性	35歳	出水市
原子力発電所は、僕が生まれた時から身近にあり、それほど危険なものとは思っていませんでした。しかし、東日本大震災、福島原発事故以来やはり原発は危険なものであることが分かってしまった。だからすぐに廃炉にしろとは言わないが次の事故が起こる前に段階的に減らしていったほうが良いのだと思う。事故に想定外はつきものだが、原子力発電に限ってはあってはならないと思う。それだけに電力会社にはがんばってもらいたい。	男性	36歳	鹿児島市
正確な情報が知りたい	男性	39歳	始良市
定期的に情報公開をしていると思うが、隠すことが無いようにしてほしい	男性	39歳	始良市
住民説明会など	男性	39歳	日置市
現在は原子力発電は必要だが、代替エネルギーの開発を促進すべき。	男性	39歳	鹿児島市
原子力の代替エネルギーの研究を進めるべきだ!	男性	40歳	鹿児島市
自分はテレビが見れないのでテレビの情報はわからない	男性	41歳	薩摩郡さつま町
とにかく再稼働はやめてほしい。	男性	41歳	阿久根市
安全に運営されていれば問題なし	男性	41歳	薩摩川内市
原子力は、日本の経済や立地地域の恩恵など、現実的に見て今のところ必要とせざるを得ないのだが、万が一、事故が起こった時に、その影響が、想像ができないくらい大きいという不安があるので、政府・自治体には、問題が発生した時、国民が混乱することを恐れず、正確かつ迅速に情報発信してくれることを切望する。	男性	41歳	日置市
もっと原子力について、いろいろな勉強会などを開催してほしい。	男性	42歳	鹿児島市
施設関係者からの情報開示	男性	43歳	薩摩川内市
独立した第三者委員会のようなものが必要	男性	43歳	鹿児島市
今のところ特に考えていることはない	男性	43歳	鹿児島市
再稼働有りきの国、電力会社は全く信用出来ないのも、それ以外の「脱原発」を目指す既得権益に囚われない専門家の意見が欲しい。	男性	44歳	鹿児島市
川内が地元ですので、関心は高いです。でももっと情報を発信してもいいのではないかと 思う	男性	45歳	薩摩川内市
福島を見て、原子力問題を解決出来ないことを知った。この事実が変わらない限り、全てが嘘である。	男性	46歳	鹿児島市
テレビや携帯のメールで情報発信する	男性	46歳	鹿児島市
ありとあらゆる意見が飛び交うネットの掲示板が一番。自分が信じる情報でさえ、それを理論的に否定される事もあり、目から鱗な情報もあり、それ故自分の考えが180度変わる事もあり、そういう過程を経て、真実に近づけると思っている。メディアなどの偏向情報が一番信用出来ない。	男性	47歳	始良市
メディアによる偏りのない情報発信	男性	47歳	日置市
原子力は必要悪で今後の技術に期待したい	男性	47歳	いちき串木野市
原子力発電についてのメディアの意見に偏りがある。意見交換のできるサイトがあれば利用したい。	男性	47歳	鹿児島市

●原子力やエネルギーに関する情報についての所感

原子力やエネルギーに関する情報について感じることを自由に記入してもらった結果は以下の通り。

<Web調査(薩摩川内地域)>

問15. 最後に原子力やエネルギー、放射線、またこれらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えがあればお書き下さい。(ご自由に)

回答内容			
国が中心になり対策をするべき 電力会社に責任を 押しつけている感じが大きい	男性	47歳	鹿児島市
もう、これだけの事故を起こすと恐らく隠すことが一杯あって僕らが生きている間に本当のことは公開されないだろう。 なので、情報発信も何があっても正確には行われずに違いない。	男性	47歳	鹿児島市
原発を廃止した場合のプラス面とマイナス面を公平に情報提供する。	男性	47歳	鹿児島市
不可能とは思いますが完全に中立の立場での情報発信	男性	48歳	いちき串木野市
自分は、川内原発から50Kmくらいの場所なので、よりそう感じてしまいますが、地元自治体はハザードマップなどを作成、配布していますが、九州電力の情報発信はとても少ないような印象を受けます。地元のTVCMなども含め、マスコミを通じての情報発信が、原発再稼働の認可が下りてから極端に少なくなりました。	男性	49歳	出水市
原発は即時全廃が望ましい	男性	50歳	日置市
原発に関する賛成派も反対派も、自分たちの利益ばかり唱えたり、代替案もなく、いたずらに不安をあおるのではなく、建設的に、しかも思い切った策に打って出るべき。そのために生活レベルを下げたり、経費の負担を負うことも含めて、政府も自治体も国民も受け入れるべき。それぐらいの覚悟がなくては、何も変わりはない。	男性	50歳	鹿児島市
見下した情報公開は不満 国民にはわからないからごまかす政策には怒り心頭	男性	50歳	鹿児島市
事故で判ったこと。これ以上危険なものが存在することが問題でそれを利用してはいけないこと。	男性	51歳	鹿児島市
日本の技術を駆使している原発でも100%安全とはいえないことから、何かあった時の避難体制や防災体制をしっかりと確立してもらいたい。	男性	51歳	鹿児島市
新聞やTVニュースなど、常に情報を開示し身近にそれを確認できる仕組みを電力会社に義務化	男性	52歳	出水市
九電の発表は全く信頼おけない	男性	52歳	鹿児島市
電力会社、国は情報を隠さず、正直に公表するべき	男性	53歳	薩摩川内市
これまでも「原子力発電所で事故が起ったら」の問いに「ですから、そうならないように日々安全管理を徹底しています」...、反対する人たちは気づいていなかったのだろうか、この時点で国や事業者は、そうなった時は知らないし手の施しようがない、ということを暗に言っていたことを...、反対する人たち、もっと頭使え。人間としての感性が推進派・反対派双方ともないな。	男性	53歳	鹿児島市
なるようにしかならない	男性	53歳	鹿児島市
国などが情報を隠し、修正して報道している。全く信用できない。	男性	54歳	薩摩川内市
廃炉への道筋を作っておかないと将来動けなくなる。	男性	54歳	薩摩川内市
国は安全面に最大の配慮をすべきだ。	男性	54歳	鹿児島市
原子力発電所を実際に見学したが、日本には必要なく、もっと太陽光発電の普及に政府は力を入れるべき。(税金の投入)	男性	55歳	日置市
原子力発電所は各電力会社ではなく、一つの組織が責任を持って管理運用すべき。	男性	55歳	出水市
特に無い、原子力を反対している方がおかしい。	男性	56歳	鹿児島市
核燃料廃棄物、将来に残してどうする	男性	57歳	日置市
完璧な次世代エネルギー装置設備が出来上がる迄は、これらのエネルギーは必要である	男性	57歳	鹿児島市
政府・自治体、電力会社ではなく、中立の立場が確保された第三者機関の情報がほしい。	男性	57歳	鹿児島市
インターネットなどを利用し情報発信を	男性	58歳	始良市
原子力エネルギーそのものは高く評価できるが人類はまだコントロールできる能力が無いのだから直ぐに廃棄するべきだ	男性	58歳	鹿児島市
難しい	男性	58歳	鹿児島市
地上波テレビ、御用学者は当てにならない。身の危険をかえりみず、真摯に訴えている学者、ジャーナリスト、市民の声こそ大切。	男性	59歳	鹿児島市

●原子力やエネルギーに関する情報についての所感

原子力やエネルギーに関する情報について感じることを自由に記入してもらった結果は以下の通り。

<Web調査(薩摩川内地域)>

問15. 最後に原子力やエネルギー、放射線、またこれらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えがあればお書き下さい。(ご自由に)

回答内容			
電力会社が住民の為に行う説明会の精度について、専門家やNPO法人代表などからの評価を示していただきたい。とくに東日本大震災の放射線被害について、実際の状況を包み隠さず公表してほしい。	男性	59歳	鹿児島市
いろいろな角度からの意見・考え方を参考にできるようにしてほしい。	男性	59歳	鹿児島市
原子力発電に限り国営や公営にして利潤追求型の運営を止めさせればよい。	男性	59歳	鹿児島市
テレビニュース	男性	60歳	鹿児島市
広報誌の作成	男性	60歳	鹿児島市
福島事故の時、国の情報がなかったので信用しない	男性	60歳	鹿児島市
兎に角、正直に話して欲しい。	男性	60歳	鹿児島市
地域の役所の情報	男性	62歳	始良市
未だ、隠そうとする体制があるので、正直に情報を発信する	男性	63歳	薩摩川内市
そもそも原子力をきちんと管理することは不可能だ。国土の喪失につながる。	男性	63歳	鹿児島市
放射線の危険性をあまりすぎ。	男性	63歳	鹿児島市
人間のコントロールできない核物質を、そもそもアメリカに言われる様に採用したことが間違いだ。だから、出来る限り早い段階で原子力発電をやめるべきだと思う。	男性	65歳	鹿児島市
そもそも、アメリカが作り出したものを核サイクルを制御できないのに日本に導入して、その利権に群がる政治家の思うまま原発を付くってきたのが間違いだった。	男性	65歳	鹿児島市
原発推進派は「世界一の安全基準を満たしているから大丈夫」という。安全基準は「原発を動かすことを前提」に人の都合で作られている。戦争やテロ、自然災害、ヒューマンエラーなど、何があっても安全と言えるのだろうか。そういう側が情報発信しても話にならない。	男性	66歳	日置市
宇宙は核融合のたまものであることを地球人は知るべき	男性	66歳	鹿児島市
子供のころから、それらについて考える機会を与えるべきである。日本の現状を説明して理解させ、エネルギーのあり方を考えさせる機会を国民に与えるべき。	男性	66歳	鹿児島市
新聞・テレビの偏向マスコミを糺して、一般の国民に正しく公正な情報が伝わるようにしてほしい。	男性	66歳	鹿児島市
インターネットを見れる国民にももっと情報発信をしてほしい。	男性	66歳	鹿児島市
格別に無い。	男性	66歳	鹿児島市
情報は正直に発信する。責任体制を明確にして違反したり情報を隠蔽した場合は厳罰に処する。	男性	68歳	いちき串木野市
セキュリティの関係で詳しい施設概要は公表できないと思うが、東電の対策に欠陥があった原因を究明・公表して、今後の対策に活かすべきと思う。福島では何故非常用電源が枯渇したのか。津波の襲来が想定されているにも拘わらず、何故水没の恐れがある地下室に非常用電源施設が設置されていたのか。などの情報を公開すべきだが、真実が隠されているような気がする。利害関係の無い中立の情報提供機関が必要と考える。	男性	68歳	始良市
福島原発の被災地で自宅に帰れない住民がいることをTVで放映されていたが、安全神話が崩壊した結果だと思う。	男性	68歳	始良市
原子力の汚染が解消するのに何年かかるのだろうか 雑草に覆われた我が家を見ても手の施しようのない現状 国は被災者に手助けはしないのか	男性	68歳	始良市
情報公開の徹底	男性	69歳	鹿児島市
まだ正式には福島原発の基本的な問題を出していない感じがする、再稼働した県民としては原発内部の本質的な問題である廃棄物の処理を解決するための施策を公表すべき。	男性	70歳	出水市
いつでも簡単に正確な情報が見れる。	男性	72歳	日置市
原子力の研究は必要だ。	男性	74歳	鹿児島市
漠然とした知識ではよくわからない。不安感が強い。	男性	75歳	鹿児島市
目下、どこの、誰を信じていいのかよく分からない！！	男性	77歳	出水市

●原子力やエネルギーに関する情報についての所感

原子力やエネルギーに関する情報について感じることを自由に記入してもらった結果は以下の通り。

<Web調査(薩摩川内地域)>

問15. 最後に原子力やエネルギー、放射線、またこれらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えがあればお書き下さい。(ご自由に)

回答内容			
原子力発電は、10年をめどに廃止が望ましい。他の電力への切り替えを推進すべきです。化石燃料発電は経済的な国力を減退させます。メタンハイドレードなどの開発を急ぐべきです。	男性	79歳	鹿児島市
再稼働したからには安全に行ってほしい	女性	15歳	薩摩川内市
もう少しわかりやすく説明して欲しい	女性	18歳	出水市
福島原発のような事故が起こるのはこわいが、薩摩川内市の経済は原発に依存しているので廃止すれば川内のは廃れると思う。だから今すぐに川内原発を廃止することはできないと思うし、そういう事情を知らない県外、市外の人だけがただ原発反対運動に参加するのは薩摩川内市民は迷惑に思う人もいると思う。	女性	20歳	鹿児島市
日本では電気は足りているのでリスクを犯してまで原子力発電所を稼働する必要はないと思う。	女性	20歳	鹿児島市
CMなどで、安全性を伝えるものをつくる	女性	21歳	鹿児島市
国の情報公開の少なさに憤りを感じる。自民党には絶対票は入れない。	女性	24歳	始良市
国民の納得がないままの再稼働は早急すぎる。納得できるような説明をするべき。	女性	26歳	出水市
仕組みや物質自体、馴染みのない言葉が多いからか小難しく感じる。	女性	26歳	鹿児島市
メールマガジンとか。受動的に入ってくると思う	女性	27歳	始良市
インターネット等	女性	28歳	出水市
情報源はテレビのニュースです。全国ニュースの他に地元のニュースもよくみて自分の住んでいる県の取り組みについて知る努力をしています。	女性	30歳	鹿児島市
どの年代の人が見てもわかりやすい内容の情報を提供してほしい	女性	31歳	出水市
必要以上に恐れている人が多い気がする。	女性	32歳	鹿児島市
正しい情報を正しいメディアを利用して公表すべき	女性	33歳	始良市
一般市民がいつでも身近に、分かりやすい情報を入手できる環境が整えられるべき。	女性	33歳	薩摩川内市
必要な物なのかかもしれないが、リスクも高そうだから、国民が納得する様な説明をするべきだと思う	女性	34歳	鹿児島市
将来、原子力発電にたよらない生活をしなければならないと思う。	女性	34歳	薩摩川内市
ネットでの紹介を増やしてほしい	女性	36歳	いちき串木野市
公平な意見が聞けるようにしたい	女性	36歳	出水市
小学校などで授業の一環でもして欲しいですが、危険性を隠すことなく話して欲しい	女性	36歳	鹿児島市
火山活動も活発になり、影響が心配です。	女性	37歳	薩摩郡さつま町
原子力発電所は即、再稼働しないで欲しい。	女性	37歳	鹿児島市
薩摩川内市民は原発再稼働で恩恵を受けるが、原発から30キロ以内に住んでいる薩摩川内以外の住民への詳しい情報提供などは無いと思う。不満だ。	女性	37歳	薩摩郡さつま町
ニュースで頻繁に取り上げてほしい	女性	38歳	鹿児島市
もう少し国民が真剣に考える機会があればいいと思うので、テレビでも特集を組んでほしい。	女性	38歳	鹿児島市
各エネルギー専門家による、小学生にも分かり易いエネルギー知識(メリット・デメリット)をネットで閲覧できればと思う。	女性	39歳	薩摩川内市
東日本大震災に仙台市で被災し、当日妊娠中だった私は福島第一原発事故の怖さを実際に体験した後に鹿児島に引っ越して来ました。もう原発はいらないと思っているところに川内原発の再稼働は本当にショックでした。故郷の青森県下北半島も東通原発、大間原発、六ヶ所再処理センターの問題を抱えており、原発マネー無しでは本当に地方は立ち行かないのかと不安で仕方ありません。	女性	39歳	出水郡長島町
テレビはネット	女性	39歳	出水市
情報はインターネットで広く開示してほしい 見学会などは行くのが面倒	女性	39歳	鹿児島市
原子力に携わっている現場の方々の言葉、現実をブログのような形で生の情報をわかりやすく聞きたい できれば質疑応答もできるような感じで	女性	39歳	鹿児島市
学校でも積極的に教えていくべきだと思う	女性	39歳	鹿児島市
いろいろな利権があるのか、情報をあまり公開していないような気がします	女性	40歳	鹿児島市
ネットを使って本当のことを伝えて欲しい	女性	40歳	鹿児島市

●原子力やエネルギーに関する情報についての所感

原子力やエネルギーに関する情報について感じることを自由に記入してもらった結果は以下の通り。

<Web調査(薩摩川内地域)>

問15. 最後に原子力やエネルギー、放射線、またこれらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えがあればお書き下さい。(ご自由に)

回答内容			
川内原子力発電は、自分の小さいころから、社会科見学など身近に感じていた。また住民の大事な就労場所であるが 東日本大震災の件で一気に怖くなった。もう少し、この不安に対するあけらかさまな情報公開などをして、よく知り得る施設となしてほしい	女性	40歳	鹿児島市
不安がいっぱい	女性	41歳	出水郡長島町
市民に役立つ催しを積極的にして明るい未来をしめして欲しい	女性	41歳	始良市
特になし。結局、国も私たちも自分たちの事しか考えてないし、所詮子供や孫世代の為にだって我慢出来ないと思う。	女性	42歳	鹿児島市
たくさん新聞に目を通すようにしている	女性	42歳	鹿児島市
もう少し、分かりやすい言葉で説明してほしい	女性	43歳	鹿児島市
川内原発の資料館はとでも勉強になりました 多くの方に足を運んでもらいたいです	女性	43歳	鹿児島市
反対活動の話を知りたい	女性	44歳	薩摩川内市
既に、2011年3月1日以降 察知し分かっている人間は既に様々な方向での 全ての情報を得ている事だと思う。	女性	45歳	鹿児島市
国民に不安を与えないような情報発信の仕方をしてほしい。	女性	47歳	薩摩川内市
自治体の講演会等の参加	女性	47歳	薩摩川内市
他の方法があるのに、川内原発再稼働したのか意味が、わからない。安全性を考えたら、ない方が絶対良いと思います	女性	47歳	始良市
誰が何を言っても信用できないと思う。	女性	47歳	日置市
原子力発電所は必要と認識はしているが不安は大きい	女性	47歳	出水郡長島町
即時廃止して欲しい	女性	47歳	始良市
テレビ及びネット上での特集番組	女性	47歳	鹿児島市
ワイドショーで取り上げる	女性	48歳	日置市
他に変わるものを見つける	女性	49歳	始良市
国営放送によるドキュメンタリー番組。様々な専門家による討論番組。	女性	50歳	薩摩川内市
自治体での説明会など	女性	50歳	始良市
以前、原子力発電所の見学に行った事があります。当時は、事故など想像もしておらず施設の説明を聞きながら 電気のありがたみを感じたものでした。事故がおき、被害も大きく住み慣れた土地を離れなければならない 事態が生じた今、一番の気がかりは人体にたいする影響です。人々が苦しんでいる事を理解し不安を取り除けるような体制をとってほしいです。また、今後二度と放射能漏れなどおこしてはなりません。	女性	50歳	出水市
インターネット上で情報発信してもらえたら、みんなもっと手軽に情報を得られるのでは？	女性	50歳	鹿児島市
やはりテレビが手取り早く自分のタイミングで見れる。録画も出来る。有識者の意見を聞きたい。	女性	51歳	始良市
もっと私たちにわかる説明をしてほしい。なぜ急いで川内を稼働させたのか？核のゴミ処分、事故が起きたときの対応、いまだ故郷に帰れない福島の人たちのこと、福島の後、私たちが知らなければならないことが多いので参加しやすい説明会を増やしてほしい。	女性	51歳	始良市
鹿児島では身近な問題なので、日常の会話の中でも話題になったりするが、川内原発が始まる前の九電の説明会とかは、偏った考えの人達ばかりが参加しそうで、興味はあったが、行っていない。	女性	51歳	出水市
マスコミは公平な立場で情報発信するべき	女性	51歳	鹿児島市
安心完全と言える事は、何も無いのでは、ないかと思えます。ひけないギリギリの所に国自体がいて、安全だと思込み、安全なものとして伝えていきがします。安心安全が、完全な事なんてあり得ないと思えます。国に私たちは、殺されると私は、思っています。	女性	53歳	鹿児島市
もしもの事態を想定した管理体制や備えをみんなにわかりやすく地道にわからせることが必要。それ以外に理解を求めることは押しつけに等しい。	女性	53歳	鹿児島市
南日本新聞の原発問題の毎日のように載せている文は、積極的に意思発言をしない県民性に代わって代弁してくれていると思う。これを全国版のニュース、ワイドショーで取り上げるべきと思う。	女性	54歳	鹿児島市
何かあっても隠すから信じられない	女性	55歳	出水郡長島町

●原子力やエネルギーに関する情報についての所感

原子力やエネルギーに関する情報について感じることを自由に記入してもらった結果は以下の通り。

<Web調査(薩摩川内地域)>

問15. 最後に原子力やエネルギー、放射線、またこれらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えがあればお書き下さい。(ご自由に)

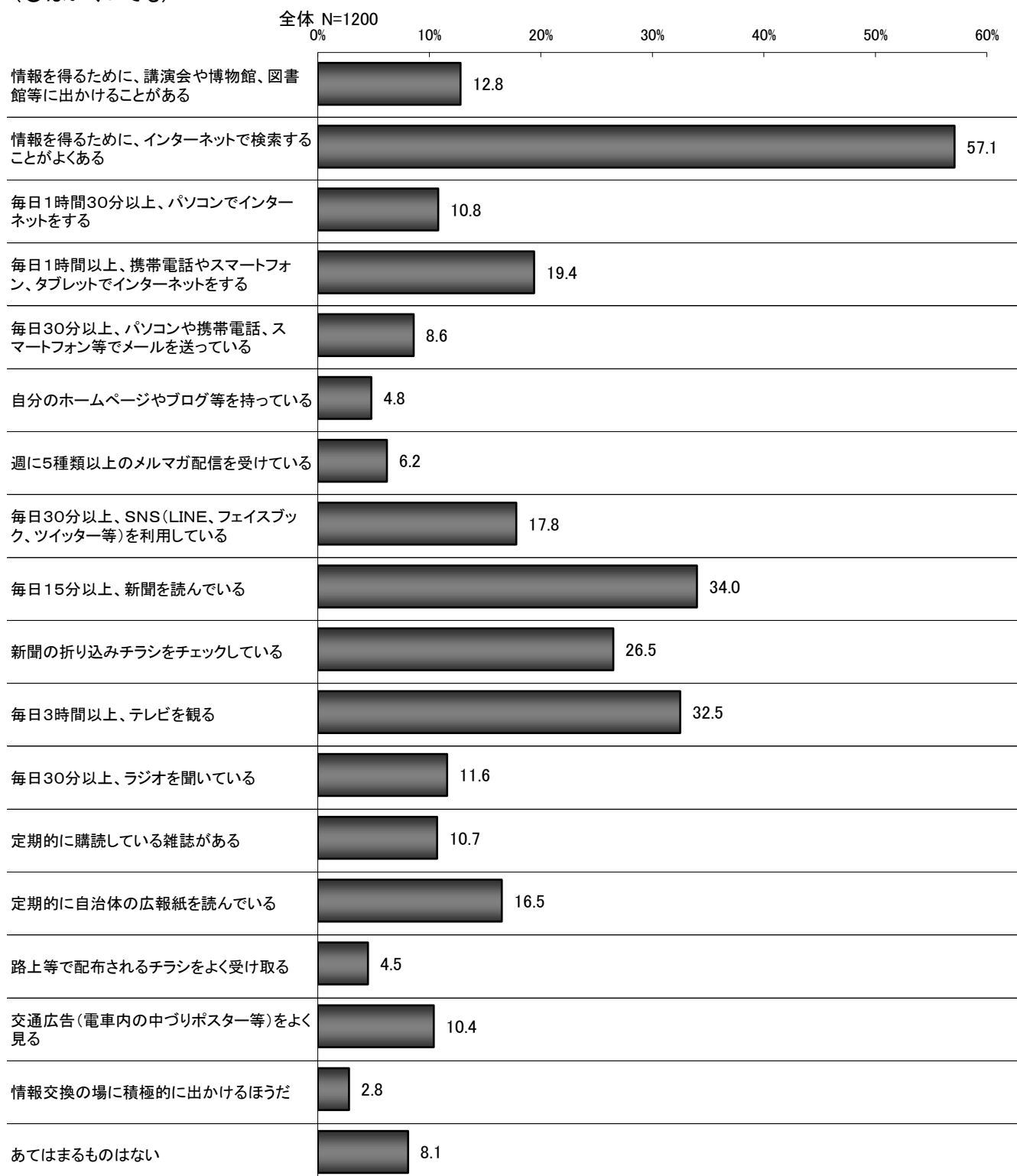
回答内容			
最低限、医療、農業、鋼業に必要ではあると思いますが、日本は火山列島上にあるのでできる限り自然エネルギーを使ってほしいと思います。	女性	55歳	鹿児島市
もっと簡単に情報がしりたい。	女性	56歳	薩摩川内市
川内原発が近い地域に暮らしているが、我々の意見は重要視されなかった。	女性	56歳	いちき串木野市
海水や地域周辺の環境を考えて即廃炉してほしいです。	女性	56歳	鹿児島市
今まで何気なく便利ということで危険だということを気にしたことがありませんでした。東北の震災で思い知らされました。新聞をちゃんと読めば少しは理解できるでしょうか。	女性	57歳	始良市
より安全な方へ	女性	59歳	始良市
原子力エネルギーには反対	女性	59歳	始良市
地元の人にすれば大変だと思います。	女性	60歳	始良市
ネットでの配信	女性	60歳	いちき串木野市
反対と馬鹿騒ぎしている人達の情報ばかりではなく、ちゃんとした情報を発信して欲しい	女性	60歳	始良市
情報をもっと密に書面等で知らせてほしい	女性	60歳	日置市
隠さないで真実を発表して欲しい。それを元に個々が判断すればいい	女性	60歳	鹿児島市
現実を注視してほしい。政治家は信用できない。	女性	63歳	鹿児島市
九電の原子力の冊子に詳しく対策など書かれて市の広報と共に配布されているのでそれを読んでる。 図やグラフも用いて状況を知る事が出来るが、最終処理施設についての考えがどうなっているのかが知りたい。	女性	66歳	薩摩川内市
ネットでの発信がキャッチしやすい	女性	68歳	鹿児島市
正確な情報公開をしてほしい。	女性	73歳	出水市
鹿児島の地元に住んでいるがやはり九電を信じている。	女性	76歳	鹿児島市

X章 情報収集や行動に関わる事項

●ふだんの情報収集や行動について

情報収集行動に関する質問である。
「インターネットの検索」(57.1%)がもっとも多く、次いで「新聞の購読」(34.0%)、「テレビの視聴」(32.5%)と続く。
「情報交換の場に出かける」回答者は少ない。

問1. ふだんの情報収集や行動について、次の中からあてはまるものをすべてお選びください。
(○はいくつでも)



<調査方法による比較>

問1. ふだんの情報収集や行動について、次の中からあてはまるものをすべてお選びください。
(○はいくつでも)

N→	15年 全国留置 1200	15年 全国Web 400	15年 薩摩川内Web 400
情報を得るために、講演会や博物館、図書館等に出かけることがある	12.8	15.0	12.5
情報を得るために、インターネットで検索することがよくある	57.1	59.0	61.3
毎日1時間30分以上、パソコンでインターネットをする	10.8	47.5	39.5
毎日1時間以上、携帯電話やスマートフォン、タブレットでインターネットをする	19.4	16.5	18.3
毎日30分以上、パソコンや携帯電話、スマートフォン等でメールを送っている	8.6	5.8	8.0
自分のホームページやブログ等を持っている	4.8	9.3	8.3
週に5種類以上のメルマガ配信を受けている	6.2	23.0	15.3
毎日30分以上、SNS(LINE、フェイスブック、ツイッター等)を利用している	17.8	9.3	11.5
毎日15分以上、新聞を読んでいる	34.0	29.8	21.3
新聞の折り込みチラシをチェックしている	26.5	26.3	17.0
毎日3時間以上、テレビを観る	32.5	29.0	26.3
毎日30分以上、ラジオを聞いている	11.6	9.0	7.0
定期的に購読している雑誌がある	10.7	8.5	5.5
定期的に自治体の広報紙を読んでいる	16.5	17.0	14.3
路上等で配布されるチラシをよく受け取る	4.5	4.0	3.0
交通広告(電車内の中張りポスター等)をよく見る	10.4	10.3	5.3
情報交換の場に積極的にかけるほうだ	2.8	2.8	2.5
あてはまるものはない	8.1	15.0	19.0

(%)

















●ふだんの生活意識や行動について

生活意識や行動に関する項目を質問している。

回答の高い項目は、「選挙はできるだけ欠かさずに投票したいと思っている」(56.3%)、「災害時には市民の助け合いが必要であり、ふだんから準備・訓練しておくべきだ」(42.8%)、「街の美化や美観の保全は大事だと考えている」(39.7%)が挙げられる。前回と大きな変化はない。

問2. ふだんの生活意識や行動について、あなたご自身のお考えについてお伺いします。
次の中からあなたの考えや行動に近いものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

全体 N=1200

	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	14年 11月	
現在、ボランティア活動をしている。 もしくは近年に活動したことがある								12.4	16.3
ボランティア活動の経験はないが、 機会があればぜひしたいと思っている								15.1	15.8
地域の行事・イベント、地域の祭りなどには よく参加するほうだ								26.7	25.0
選挙はできるだけ欠かさずに投票したいと 思っている								56.3	56.0
地域(コミュニティ)における 住民同士のふれあいを大切にしている								24.2	20.9
自治会・町内会、PTAなどの活動には 進んで参加している								23.5	19.8
街の美化や美観の保全は大事だと考えている								39.7	42.3
市民はだれも、外からの訪問者や観光客には 気を配り、もてなすべきだ								13.4	12.8
地域の伝統や文化は大事であり、 継承していくように努めている								19.1	20.5
地域の防犯や環境問題など、ご近所と 協力し合って具体的に対処している								12.8	12.8
児童や若者の公共心の希薄化が気がかりだ								22.0	24.9
地域の問題や課題を行政まかせにしないで、 市民も一緒に考え行動すべきだ								21.5	24.7
地域の出来事には常に注意して、さまざまな 情報を見聞きするようにしている								16.3	14.3
災害時には市民の助け合いが必要であり、 ふだんから準備・訓練しておくべきだ								42.8	45.7
地域の寺・神社などの文化財は 心のよりどころとして大切にすべきだ								26.5	28.6
あてはまるものはない								13.8	16.0

<調査方法による比較>

問2. ふだんの生活意識や行動について、あなたご自身のお考えについてお伺いします。
次の中からあなたの考えや行動に近いものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

N→	15年 全国留置 1200	15年 全国Web 400	15年 薩摩川内Web 400
現在、ボランティア活動をしている。 もしくは近年に活動したことがある	12.4	11.3	8.8
ボランティア活動の経験はないが、 機会があればぜひしたいと思っている	15.1	12.5	15.8
地域の行事・イベント、地域の祭りなどには よく参加するほうだ	26.7	9.8	15.8
選挙はできるだけ欠かさずに投票したいと 思っている	56.3	39.5	42.0
地域(コミュニティ)における 住民同士のふれあいを大切にしている	24.2	10.5	15.0
自治会・町内会、PTAなどの活動には 進んで参加している	23.5	11.5	17.0
街の美化や美観の保全是大事だと考えている	39.7	28.5	36.0
市民はだれも、外からの訪問者や観光客には 気を配り、もてなすべきだ	13.4	8.3	14.8
地域の伝統や文化は大事であり、 継承していくように努めている	19.1	13.8	19.3
地域の防犯や環境問題など、ご近所と 協力し合って具体的に対処している	12.8	8.0	10.0
児童や若者の公共心の希薄化が気がかりだ	22.0	18.8	20.0
地域の問題や課題を行政まかせにしないで、 市民も一緒に考え行動すべきだ	21.5	19.5	23.8
地域の出来事には常に注意して、さまざまな 情報を見聞きするようにしている	16.3	13.8	17.5
災害時には市民の助け合いが必要であり、 ふだんから準備・訓練しておくべきだ	42.8	28.5	32.0
地域の寺・神社などの文化財は 心のよりどころとして大切にすべきだ	26.5	21.3	24.3
あてはまるものはない	13.8	27.3	25.5

(%)

4.3 調査結果に関するインタビュー

(1) インタビュー調査の実施

「原子力利用に関する世論調査（2015年度）」の結果を用いたインタビューを7回、のべ23名の対象者について実施した。実施状況を表21に示す。今後の広聴・広報・コミュニケーションの方向性を分析するために、インタビューの対象者が様々なセクターに分布するように配慮した。

インタビューでは、2015年10月に実施した「原子力利用に関する世論調査」の結果を用いて、インタビュアー¹がその概要を紹介しながら、それぞれのトピックに関する意見や感想、また、広聴・広報・コミュニケーションに関する要望や方向性について聞いた。

なお、インタビュー対象者は、主に原子力等に対して関心が高い方へ依頼し、限られた人数に対して実施しているため、全国の世論調査の回答者を代表するものではない。

表21 「インタビューの実施状況」

インタビュー対象者	人数	実施日
原子力施設の立地地域住民	5名	2015年11月28日
事業者の広報担当	5名	2015年12月17日
メディア（TV）	2名	2016年1月15日
原子力の有識者	1名	2016年1月18日
首都圏10～20代	6名	2016年1月25日
首都圏10代	4名	2016年1月29日
【合計】	23名	

¹ インタビュアー：木村浩（NPO 法人パブリック・アウトリーチ）、記録：丸山剛史（株式会社 NV 研究所）

(2) インタビュー結果の整理

インタビューから得られた意見を、いくつかの観点（原子力に対するイメージ、原子力発電に対する態度、再稼働に対する態度、知識、信頼、情報源・広聴・広報）についてまとめて示す。

①原子力に対するイメージ

問 1 は本調査が始まったときから継続的に実施されているものである。原子力に対する認識の全体概要を知るためには意義深い。この調査結果について聞かれた意見は表 22 に示す。同表では、聞かれた意見を「必要」「不必要」イメージについて（≒原子力に対する態度）「不安」「危険」イメージについて（≒リスク認知）「信頼」「信頼できない」イメージについて（≒信頼）」という原子力に関する主要な認知軸と、広報に関すること、調査・分析に関することの5つに分類している。

「必要」「不必要」イメージについて」の意見には、その経年変化を見て、東日本大震災前後での変化（必要のポイントが大きく下がり、不必要のポイントが高まった）を指摘する意見がある。また、その理由として、不安が高まったこと、信頼が失われたこととする意見も聞かれた。

「不安」「危険」イメージについて」は、前年度の調査と今年度の調査を比較して、不安や危険のポイントが上昇していることを指摘する意見が多く見られる。その理由として、2015年8月の九州電力（株）川内原子力発電所の再稼働を挙げ、そのニュースによって、人々の関心が高まり（福島第一原子力発電所の事故を思い出させ）、不安・危険といったイメージを呼び起こしたのだろうとしている。その他にも、防災体制の不備や情報の不足などが指摘されている。

「信頼」「信頼できない」イメージについて」は、東日本大震災以降、信頼が回復していないどころか、下がりつつある傾向を指摘する。その理由として、福島第一原子力発電所の事故への対応が十分でなかったこと、必ずしも原子力の問題でなく、他の問題（たとえば安全保障法制など）の国の対応を見て、国に対する信頼感の低下があるだろうということが述べられている。

表 22 「原子力に対するイメージに関する調査結果を見て得られた主な意見」

「必要」「不必要」イメージについて

- 震災後、「必要」「役に立つ」などのポイントが減少している。信頼を一度失うと、このような結果になるのだろう。
- 3.11以降、「必要」のポイントが低下している。原発が止まったら電力が足りないという話があったが、足りているではないか、という市民の思いが表れているのだと思う。一方で、2014年11月以降、「必要」のポイントが回復している理由は、自分の感覚とは異なり、よく分からない。
- 「必要」「不必要」が興味深い。なぜ必要なのか、なぜ不必要なのか、というのは、誰かに教えられたわけではないので、マスコミの報道の影響が大きいか。ここをなんとかすれば、原子力のイメージがどちらに転ぶかは分からないが、国民の認識は高まるのではないか。

- 否定的なイメージが多いが、「必要」「役に立つ」のポイントが高いので、一般市民は原子力の役割は理解していると思う。
- 2013年調査の「必要」のポイントが低くなっているのが気になった。何か理由があったのだろうか。
- 原発が稼働していない時期が長期化し、当初は電力が足りないのではないかという不安もあったと思うが、その不安は徐々になくなってきている。原油安が続く、電力会社も黒字が続いている。また、日常生活の中で市民が電力不足を実感する場面もなかった。それらの要素が、「必要」「不必要」「役に立つ」「役に立たない」のポイント変動に寄与したのではないか。
- 「必要」と「役に立つ」はほぼポイントが同じだが、一方で、「不必要」と「役に立たない」はポイントが異なり、「役に立たない」のポイントが低いのは気になった。この差は、「不安」が原因だと思う（「不必要」≒「不安」なのではないか）。
- 電力供給のためには原子力が「必要」だと思う人が多いのではないか。「必要」と思う一方で、「不安」を感じている人も多いようだ。

「不安」「危険」イメージについて

- 「危険」のポイントは3.11前後で変わっていない。原子力には「危険」な面が確かにあるので、原子力政策を進めるという観点からは、このイメージを払しょくする必要はないのかもしれない。「安全です」というよりも、「危険を管理している」という情報を発信すべきだろう。むしろ、「必要」である、という情報を発信すべきか。
- 事故が起きて「不安」「危険」のポイントが高まるのは当然だと思う。2015年調査も、震災直後よりはポイントが下がっているが、高止まりの状態である。時間が経っても「不安」「危険」のポイントが減らないのは、再稼働など様々な動きがある中で、不安を感じる要素がまだあるためか。再稼働については、避難計画などが不安を感じる要素の例に挙げられるだろう。計画自体はあるが、その実行可能性に対する不安があるのだと思われる。訓練を重ね、実行可能性を高めていく必要があるだろう。（川内原発の場合も、再稼働の前に十分に訓練を繰り返していたわけではない。今後はこのような対応をしてはならないと思う）このような状況が続くのであれば、来年、再来年も同じような傾向（「不安」「危険」のポイントが高止まり）が続くのではないだろうか。
- 「安全」であるという認識がほとんどない。「危険」「不安」という人間の心理は、立地に住んでいる人間としても理解できるので、ポイントが高くなるのは仕方がないと思う。
- 原発は、震災後、全基がずっと停止していた。1基再稼働しただけで、急に不安が高まるとも思えない。防災面などに不安が残っている状況なのに再稼働が始まっているから、「不安」が高止まりしているのだと思われる。不安を解消するためには、地域住民の声に耳を傾ける必要があるだろう。薩摩川内市でも住民説明会が実施されたが、開催時間も短く、希望者が必ず参加できるわけでもなかった。住民の声にきちんと答えていくことができていないように思う。説明者も、想定問答通りの回答（杓子定規な回答）をしていて、住民と話がかみ合っていない。住民の不安を吸い上げ、それに対して真摯に答えていく姿勢を見せなければ、不安は消えないだろう。
- 「複雑」「危険」などは、原子力のことがよく分からないことが原因でポイントが上がっているのだろうが、一方で、「親しみにくい」は予想よりもポイントが低かった。「原子力」は、「親しみ」という要素からかけ離れているのだろう。
- 「危険」「不安」のポイントが前年より増加している。調査時期が2015年10月なので、川内原発の再稼働が関係しているのだろう。川内原発再稼働直後に、九州で火山活動があったことも影響しているか。2015年7月の国会答弁で、「ミサイル攻撃にどう備えるのか」という問いかけに対する明確な回答がなかったことも関係があるかもしれない。
- 「危険」「不安」のポイントが高いのにも関わらず、「必要」「役に立つ」のほうが、「不必要」「役に立たない」よりもポイントが高いのは興味深い。（理由はよく分からない）
- 安心と安全は異なる。「安心」は、この人が言っているのだったら、という「人」の側面（感情面）が大きく寄与している。

- 安全だから安心するわけではない。安心できる人がやっていることならば安全だと思える、ということはある。(例：立地地域における電力会社の全戸訪問など)
- 個人的には、不安がある事象が気になることが多い。「気になる」は、否定的なイメージで捉えられることが多いのではないか。
- 昨年度の結果は、やや特異である。昨年度は「不安」などのポイントが低下していたが、今年度は一昨年と同程度のポイントになっている。昨年度の調査時期にどのようなイベントがあったのかが気になる。
- 2014年調査と2015年調査の間に、否定的なイメージの多くでポイントが上昇している点は気になった。
- 3.11から時間が経ち、原子力に対する一時的な恐怖感は薄れたのだろうが、2015年は再稼働に関する報道が多かったため、関心が喚起され、改めて3.11のことを思い出し、2011年11月(3.11直後)の調査結果に近い傾向が表れたのではないだろうか。
- 原子力は核兵器にも用いられているので、どれだけ理解が進んでも、否定的なイメージがなくなることはないと思う。

「信頼」「信頼できない」イメージについて

- 「信頼」や「不安」は、現政権の政治に対する感情が表れている気がする。2013年、2014年は景気回復など、現政権に対していいイメージがあった。一方、2015年は安保法制など、不安が高まる要因があった。
- 30%の人が「信頼できない」と回答しているのは重視すべきだ。「信頼できない」の理由は個人によって異なると思われる。どのような理由で信頼できないのかが分かるような質問を設けてほしい。
- 「信頼できない」は、福島事故がなければ、低いポイントのままだったのだろう。また、事故への対応がしっかりしていて混乱がなければ、これほど高いポイントにならなかったのではないか。
- 震災後、「信頼できない」のポイントが増加している。時間が経って、さらに信頼が失われている理由が気になる。

イメージを受けて、広報のポイントなど

- 震災後、「わかりにくい」のポイントが増加している。一般市民の目線に立って広報・PRができていないことの表れなのだろうか。
- 火力発電の稼働率が上がり、電気料金が上がって、国民生活に跳ね返っている現実もあるので、事故があったから原発をやめていいかという点について、国民にはしっかり考えてほしい。また、エネルギー政策上の必要があって原子力を始めたということを広報していくべきだ。
- 我々が子供の頃から原子力発電所はあり、当時は発電所構内まで見学できた。しかし、アメリカ同時多発テロ以降は、立地地域住民でさえ原発構内に立ち入れなくなっている。現地を見学することで分かることも多い。今は、どこまで対策していれば安全なのか、という判断ができなくなっている人が多いのではないか。だとすれば、このような調査結果になるのは仕方がないのかもしれない。

分析の方向性について

- マルチアンサーで「イメージ」と聞かれているため、「不安」「危険」などの強い言葉に回答が集まりやすいのだろう。「よい」「悪い」「おもしろい」「つまらない」などは、「イメージ」とは言いづらいため、回答が集まりづらいのだと思われる。
- 「面白い」「つまらない」の双方のポイントが低い点が気になった。原子力に「興味がない」と感じていることが表われているのだと思う。
- 「複雑」のポイントが高い理由がよく分からない。
- 「わかりにくい」のポイントがそれなりに高い。「必要」「不必要」は、原子力に対する理解度・知識量とも関係があるのではないか。

- 3.11前後でポイントが大きく変わっている項目は、震災後のマスコミ報道の影響が大きいと思う。
- ポイントの変化率が大きい時点（例：12年11月、13年12月、14年11月の間の「複雑」）でどのようなイベント（政策など）があったのかを紐づけることができれば興味深い。

②原子力発電に対する態度

原子力発電に対する態度に関しては、調査結果で前年度との大きな差が見られなかったが、その結果を見たインタビューでは、大きな差があった。前年度では「原子力発電をしばらく利用するが、徐々に廃止していくべきだ」と回答する者がおよそ5割という結果について、多くのインタビューイが納得する結果だという意見が多かった。この点については今年度のインタビューでも同様であったが、今年度では、原子力発電所の再稼働と絡めた意見が多く見られた。

特に、原子力規制委員会の適合審査を経て、再稼働することについての人々の認識が、今後の原子力発電に対する態度に影響を及ぼすだろうとの意見が見られ、質問の選択肢に審査に適合した原子炉についての運転を認めるかどうかの項目を含んではどうかという意見も聞かれた。

また、若年層（10歳代・20歳代）の回答者においては、原子力発電を比較的受け入れるということについての指摘がなされ、現実的なエネルギー源としてみているのではないか等の意見が聞かれた。

表 23 「原子力発電に対する態度に関する調査結果を見て得られた主な意見」

原子力に対する態度

- 現実的な意見分布だと思う。
- 「震災以前の状況を維持」「増やすべき」が思ったより多く、興味深かった。
- 一般的な考えの方は「しばらく利用するが徐々に廃止」と回答すると思う。ただ、「東日本大震災以前の状況を維持」と「しばらく利用するが徐々に廃止」の中間の項目がないため、「しばらく利用するが徐々に廃止」に回答が集まっているのだとも思う。
- 廃止していくべき（「しばらく利用するが徐々に廃止」＋「即時廃止」）は6割だが、利用していくべき（「増加すべき」＋「現状維持」＋「しばらく利用するが徐々に廃止」）も6割である。メディアはネガティブな結果を報道しがちであるが、広報担当として、「利用していくべき」をいかに増やしていくかが大切だと思う。
- 政府の「安全が確認された炉は再稼働を目指す」という発言は、国民的にも理解が得やすいと思う。一方で、「東日本大震災以前の状況を維持」しようとする、今ある原発を全て再稼働させるということになる。この選択肢は、回答者を困惑させるのではないか。「東日本大震災以前の状況を維持」と「しばらく利用するが徐々に廃止」の間の項目として、「安全が確認された原発は再稼働すべきだ」という項目を加えてはどうか。
- 「しばらく利用するが」を、どの程度の期間と思っているのかが気になる。期間を限定すると、結果は大きく変わっていくだろう。「しばらく」の期間が分かるような質問を設けていただけるとありがたい。
- 再稼働については、そのプロセスも公開されているので、規制庁がどれだけ厳格に審査しているかということも国民に伝わっていると思う。今後再稼働が進むと、「即時廃止」のポイントが減っていく

のではないか。

- 原子力に関する講義を受ける前は、「しばらく利用するが、徐々に廃止」という考えだったが、講義を聞いた後は、日本は国土が狭く、エネルギー密度が高い電源を持つべきだと思うようになった。「技術的に安全性が確保できるならば、利用してもよい」という項目を選択肢に追加してはどうか。
- 「日本国民は原子力利用に反対する人が多い」と主張する人が多いが、私は、「わからない」と思っている人が多いのではないかと思っている。原子力文化財団の2013年の調査結果は、まさにそのことを示している。
- 「震災以前の状況を維持」という項目があるならば、「震災後の新規則に適用して、維持する」という項目があってもいいのではないか。
- 「しばらく利用するが、徐々に廃止」の対として、「一度廃止して、安全を確保してから利用する」という選択肢があってもいいのではないか。
- 「その他」があるのに、「あてはまるものはない」に回答する人がいるのは、理由がよく分からない。「その他」の具体的な内容を記入するのが面倒なため、「あてはまるものはない」を選んだのだろうか。
- 性別で比べると、女性より男性のほうが真面目に考えている人が多いようだ。
- 若年層は、他の年代と比較すれば「増加」「現状維持」のポイントが高いが、若年層全体を見ると、「わからない」のポイントが高い。広報担当者として、素直に安心材料にははならないと思う。若年層は、「なんとなく」で回答している人が多いように思われる。
- 若年層のほうが将来のことを気にしているので、原子力を現実的なエネルギー源として認知しているようだ。一方で、高齢層は、原子力を負の遺産として認知しているようだ。
- 10代・20代は、今後の安定供給を考えて回答しているのだろう。あるいは、世の中の動きと逆のことを言うのが「格好いい」と考えているかもしれない。(世の中のことを真剣に考え始めるのは30代以降ではないか)
- 40代以降の世代には、「男性は理系、女性は文系」という意識があるのではないか。そのため、理系的な話は端から聞かない女性もいるのではないか。
- 「徐々に廃止」とあるが、廃止はすぐにできることではない。半世紀ほどかかるのではないか。10代ならばまだ生きていたろうが、70代の方は生きていない可能性が高い。それに関わらず、年齢が上がるに従って「徐々に廃止」のポイントが上がるのは不思議だ。年齢が高い方の「徐々に廃止」は、「自分たちが生きている間に廃止する」というイメージで、10代・20代の「徐々に」より短い期間をイメージしているのではないか。
- 年齢が高い方は、東海村の事故、もんじゅの事故など、原子力に関する危険な事故を何度も経験したため、若い層よりも「即時廃止」を選ぶ方が多いのではないか。
- 一般の方なら、子供の将来のために、原発はなくしてほしいと思う人が多いのではないかと予想したのだが、「小さい子供あり」のほうが「即時廃止」が少なく「わからない」が多いのは不思議だ。
- Web調査で「即時廃止」のポイントが高めである理由が気になる。
- 日本は国産エネルギーがないのだから、原子力は「利用せざるを得ないエネルギー」という立ち位置だと思う。政府は必然性に迫られて政策を打ち出しているはずなのに、周囲の雑音に振り回されて、無責任な回答をしている方が多いように思える(それが日本人の国民性なのかもしれない)。
- 日本は、新しい原子力利用の仕組みを考える必要があるだろう。ロシアは、チェルノブイリ事故、政体の変化などの厳しい時代を経て、新たなシステムを構築してきた。日本の軽水炉の技術は非常に高いので、それを活かす方策を考えるべきだ。

エネルギーに対する態度

- 「太陽光発電」のポイントが高いのは、身近にあるためか。
- 「太陽光発電」を「メガソーラー(環境負荷高め)」と「各家庭の屋根の太陽光パネル(環境負荷低め)」に分けると、一般市民の太陽光発電に対する理解度が見えるかもしれない。「風力発電」にも様々

な種類がある。ただ、一般市民に向けて情報発信がなされていないので、よく分かっていない人が多いのではないかと。

- マルチアンサーなので、いろいろな項目に丸をつけてしまうのだろう。どうしても「太陽光発電」に流されていくのではないかと。シングルアンサーにしたらどの項目のポイントが高くなるのかは興味がある。
- 「メタンハイドレード」「シェールガス」「シェールオイル」などの項目を追加してはどうか。
- 一般市民は、発電効率がよく分かっていないのではないかと。（風力発電の発電量を過大評価されている方と会ったことがある）
- 「分かりやすい発電をしてほしい」という願望が表れているのではないかと。「太陽光発電」「風力発電」「水力発電」などは発電方法が分かりやすい。
- 固定価格買取制度が導入されたので、「太陽光発電」のポイントが増加したのは必然だと思う。ただ、一般市民は、一度太陽光を導入すれば設備の取り換えが必要ないと思っている人も多いのではないかと。
- 「廃棄物発電」「バイオマス発電」が具体的にどのような方法なのか、日本にどのくらいの数の設備があるのか、などをよく知らないまま丸を付けている人も多いのではないかと。
- 環境面・エネルギー面についても、根拠のあるリーズナブルな情報が提供されることが望ましい。地球環境問題への対策は、美しい話などではなく、対策にかかるコストを各国の国民がどこまで負担するかという問題である。
- 原子力を環境問題の中に位置付けましょう、という世界的な動きがある。一方、日本には解決しなければならない問題が山積している。

③再稼働に対する態度

原子力発電所の再稼働に関する調査結果からは、「政府はもっと前面に出て安全に対する責任を示すべきだ」という項目に関する意見が多く見られた。多くのインタビューは、この項目に対して同意を示し、国がもっと積極的なコミュニケーション活動を展開するべきとの意見も聞かれた。また、「電力会社の安全確保への取り組みを信じている」という項目への回答率が少ないことにも触れ、電力会社への信頼の低下を示しているとの意見も聞かれる。

全国 Web 調査と薩摩川内地域 Web 調査との比較について、多くの意見が聞かれた。薩摩川内地域 Web 調査の方が、全国 Web 調査に比べて、全体として回答率が高いことについて、この問題に対する立地地域での関心の高さを指摘する意見があった。

また、立地地域における雇用・経済の影響に関する意見もあり、その恩恵は実際にあるという立地地域のインタビューからの意見や、立地地域における原子力発電と生活との直結を指摘する意見も見られる。

表 24 「再稼働に対する態度に関する調査結果を見て得られた主な意見」

- 薩摩川内 Web 調査のほうが、多くの項目に丸を付けている。身近にあり、関心が高いためだろう。
- 薩摩川内地域は、全体的にポイントが高い。複数の項目に丸を付けている人が多いだろう。近くに原発があるため、関心が高いためと思われる。
- 薩摩川内地域は、再稼働容認の意見も、再稼働するべきでないとの意見も、ともに全国 Web 調査より

ポイントが高い。関心が高いためだろう。

- 「再稼働について、国民の理解は得られていないと思う」のポイントが、薩摩川内 Web 調査のほうが全国 Web 調査より高い。地元住民は、自身は再稼働を認めているが、「国民全体は反原子力のイメージが強いので、理解してくれないのだろう、もっと理解活動をすべきではないか」と思っているのだろう。
- 「政府はもっと前面に出て安全に対する責任を取る態度を示すべき」は、立地地域住民としては納得できる。国が原発は必要だと言わないから、このような調査結果になるのではないか。
- 「政府はもっと前面に出て安全に対する責任を取る態度を示すべき」は、その通りだと思う。「国としては、審査に合格した原発は動かしてほしい」と言っているのならば、各地域に総理や経産大臣が赴き、知事や首長に会いにいけないのではないか。そういう活動をしないと、「国民の理解」にはつながらないのではないか。
- 九州電力は薩摩川内地域において全戸訪問を行ったと聞いている。一方で、政府の人間が地域で全戸訪問をするわけではないから、地元の方が「政府の顔が見えない」と思うのは当然だと思う。
- 原子力の安全神話が崩壊し、市民は、電力会社を信用できなくなってしまった。市民は、他に頼るところがないので、(消去法的に) 政府を頼っているのではないか。電力会社を監督・指導できるのは政府だけだ。その取り組みがまだ足りないという思いが、回答に表れているのではないか。
- 「再稼働は立地地域の雇用や経済に貢献」の薩摩川内 Web 調査のポイントが、思ったよりも低かった。私の身の周りでも、原発が動いてくれないと困る、と言っている人は多い。
- 原子力の必要一不必要を考えると、真っ先に頭に浮かぶのは、「立地地域の雇用や経済に恩恵があるかどうか」だが、調査結果を見ると、川内地域の方も恩恵があると感じているようだ。今後、自分が原発の必要一不必要を判断する際にも、立地地域への恩恵を考慮する必要があると思う。
- 薩摩川内地域の経済活動は、原発への依存度が低いと聞いている。立地地域によって、ポイントは変動するかもしれない。
- 「国民の理解が得られていないと思う」は、再稼働を肯定的に考えている人も、否定的に考えている人も、丸をつけやすい項目だと思う。福島事故処理が完了していないため、「理解が得られていないと思う」と考える人は多いだろう。また、「地元住民は静観していると思う」という項目も、薩摩川内地域の方にとっては、静観しているのはいいことだ、悪いことだ、という両方の面から丸をつけやすいと思う。両方の立場の人が丸を付けやすい項目のポイントが高くなっているのではないか。
- 「電力会社の安全確保への取り組みを信じている」のポイントが低いと感じる。また、「原子力規制委員会は厳格な審査を行っていると思う」という項目を加えてもいいのではないか。
- 全国的には、原子力はエネルギーの選択肢の1つだから、嫌だったら他の方法を選択すればいいのだが、薩摩川内地域の方にとって原子力発電所は働く場であり、生活に直結しているので、不安を感じても仕方がない、と思っているのではないか(あきらめの感情もあるかもしれない)。
- 薩摩川内地域では、「火山の噴火が心配」のポイントが高く、「電力会社の安全確保への努力を信じている」のポイントが低い一方で、「厳しい審査を経たなら再稼働してもよい」も高く、矛盾を感じる。
- 薩摩川内地域 Web 調査では、「再稼働について多くの地元住民は静観している印象」「再稼働は立地地域の雇用や経済に貢献」などのポイントが高いが、地方紙は原子力反対の情報が多いと聞いている。Web 調査の回答者は、どのメディアの情報を基に判断しているのかが気になる。
- 「電力会社の安全確保への取り組みを信じている」が低い一方で、「政府は前面に出て責任を取る態度を示すべき」のポイントが高い。火力発電や水力発電で事故が起きても、政府が前面に出てくることはないと思う。原子力発電は特殊な分野なのだと思う。
- 社会性の程度によって、原子力に対する態度に差が出ることは興味深い。社会性が高い層は、原子力に対してネガティブなイメージを持っている方が多い。その理由が分析できるのならば、知りたい。
- 再稼働に対する認識が、知識の有無、社会性の有無で大きく異なっていることが分かった。今後、定量的な分析データが出されればありがたい。

- 国民の負担を減らすことを考えると、再稼働を進めていくことが重要だと考えている。
- 各報道機関の再稼働の世論調査を見ると、賛成：反対＝1：2で、この傾向は経時変化していない。

④信頼

今年度調査では、原子力専門家と国に対する信頼を問う調査が行われた。

福島第一原子力発電所の事故を契機として、信頼が失墜し、その後も回復していないということについて、信頼できない理由として、情報公開の不足に触れ、事故以降の対応が見えないことを指摘している意見がある。また、事故の対応について、国、原子力事業者の活動が共に見えないことも、その理由のひとつではないか、という意見も聞かれる。

これらを踏まえ、信頼を回復するためにどうしたらよいか、ということについても意見が多く聞かれた。人々には国や事業者の活動の裏に隠された意図のようなものを感じている場合が多いことから、「建前を排し、本音を語るというように、正直に話すことが大切」という意見や、「丁寧に説明する」こと、「根拠となる情報を示す」ことなど、情報公開のあり方に関する意見も示されている。

表 25 「信頼に関する調査結果を見て得られた主な意見」

- 何か事が起きたときには、専門家や国に説明してほしい、という気持ちが表れていると思う。専門家や国が丁寧に説明することは、信頼獲得において重要な役割を持っていると考えられる。逆に、日々の説明がおろそかになったり、隠しごとがあったりすると、信頼は低下してしまうだろう。
- 自治体や電力会社と規制委員会とで温度差があることは、逆に信頼が持てる。「原子力カムラ」だけで審査しているのではない、密室で決めているわけではない、という評価につながる。
- 「信頼」が設問にあるのが、日本文化の特徴が表れていると思う。「信頼」が設問にあって悪いというわけではないが、それが設問の多くを占めているのが日本的である（いい意味ではない）。たとえば NEI の世論調査の設問と比べてみればどうか。
- 年齢により、信頼できる理由が異なるようだ。世代の変化にも対応できるよう準備しなければならないだろう。
- 事故を契機に信頼は地に墮ちたと思う。その後も信頼が回復していないのは、事故以降、目に見える形で体制が変化していないためだと思う。大学における教授陣の顔ぶれも事故以前と何ら変わりがない。
- 「情報公開が不足している」のポイントが高いが、問 11 では「説明会」「展示館」などのポイントは低いし、問 1 では「不安」のポイントは経年で変化せず高い。一般市民は、情報公開を求めはするが、積極的に情報を獲得しようとはしないし、不安は不安、危険は危険のままなのではないか。
- 「原子力の専門家」にもいろいろな方がいると思う。「原子力の事業者」も、原子力に直接関係がない方もいる。この設問は、曖昧な聞き方になっていると思う。例えば、「規制委員会の委員」を信頼できるか、と聞くと、ポイントが変わってくるのではないか。
- 「信頼したいから」という回答は、日本的な考え方だと思う。日本人はどうしても所属している組織、国に寄りかかってしまいがちで、「信頼したい」という感情が表れるのだろう。
- 「信頼」の経年変化の理由がよく分からない（「専門家や事業者」「事業者」「専門家」と対象が毎年変わっているので、単純には比較できないが）。
- 今後、「信頼／不信の理由」の経年変化に期待したい。
- 信頼が経年で低下している理由を解明したいと思った。

- 震災後は、「情報公開の不足」が信頼に大きく効いているようだ。
- 事業者に対する信頼が最も低いのは、事故を起こした当事者だからだろう。また、事業者は、事故後何も体制が変わっていない。安全対策をしていますとPRしているが、組織としての変化が見えない。
- 原子力事業者や国がいかに信頼されていないか、ということが分かった。
- 「国」「自治体」を信頼する理由として「信頼したいから」が挙げられているのは、事業者は信頼できないから、国や自治体にしっかりしてほしいという期待・要望の表れかもしれない。
- 事故後の5年間で、国や政府が前面に立って目に見える形で対策を打ち出していれば、もう少し前向きな理由で信頼を得ていたのではないか。しかし、現実には、他の主体が信頼できないからという消極的な理由で信頼しているのだと思う。
- 原子力に関して、「国」のイメージは、官邸や経産省。官邸には政治家もいるが、全てを分かっている政治家は少ない。政治家に知恵を出しているのは官僚だ。
- 「自治体」への信頼度は、各自治体の動きも異なるため（再稼働に関する動きなど）、地域によって評価が変わってくると思う。また、「自治体」を市町村単位で捉える方、県単位で捉える方によって、回答は変わってくるだろう。

信頼を高めるためのアプローチ

- 正直に話すことが大切だろう。建前を排し、本音を言った上で、ようやくスタートラインに立つのだと思う。
- 信頼を高めるには、「丁寧な説明をする」ことに尽きると思う。信頼を高めることが、再稼働を認める世論にもつながっていく。しっかりと取り組んでいることを地道に伝えていくことが重要だ。
- 原子力について、国民の不信は容易には解消できないだろう。原子力業界としては、信頼回復を目標に努力をするしかないのではないだろうか。実績と成果、根拠のある情報を積み上げて、信頼を勝ち得ていくしかない。（みんなが反対しているからやめよう、と決めてしまうのは、国民負担の観点から望ましくない）
- 信頼関係を構築するために、地元とのコミュニケーションに真剣に取り組まなければならない。（地元のオピニオンリーダーは、普段から情報収集をしている。その際に、根拠のある情報があることが望ましい。一般向けの解説などが充実すると、地元コミュニケーションに役立つはず。）
- 「もんじゅ」が破たんしているとは言えないから、いろいろ取り繕った説明をしているが、国民には既に破たんしているということが見抜かれてしまっているのではないか。破たんしているけれども、のりくりとやっていけないこともない、しかしこういうリスクがある、というような議論は審議会ではされているが、公にされない。また、少数意見であるため、指摘してももみ消されてしまう。民主党政権時は審議会のメンバー構成のバランスが比較的取れていたため、本音も見え隠れしていたが、現政権になってからは本音が見えなくなってきた。
- アメリカ、イギリスでは、原子力に対する国民の信頼が高い。これまでの実績があることと、根拠のある情報が提供されているためだ。英語圏の情報には、専門的判断の結果だけでなく、その根拠となる情報も記載されている。一方、日本語の情報は、結果のみが示されていて、根拠が載っていない。根拠のある情報が出てこない限り、「信頼」は得られない（「腑に落ちる」状態にならない）と考えている。
- 日本においても、情報提供体制を強化し、様々な情報が得られるようにして、国民が主体的に選択できる状況にしなければならないだろう。そのために最も重要なのは、産業界や政府、原子力関係者の情報の作成と提供を、英米並みに抜本的に、組織的に強化せねばならない。

⑤知識

エネルギー自給率があまり知られていないということに対して、納得できるとする意見が多く聞かれた。その理由として、関心の低さが指摘された。また、フランスやドイツのエネルギー状況について、各国の状況は知られていても、EUとして全体でエネルギーや電気のやり取りをしていることまでは知らないのではないか、という意見もあった。

このような知識を伝えるアプローチとして、やはり教育が大切であって、もっとわかりやすく伝えるべきという意見も聞かれる。また若年層のインタビューからは、とにかく目の付くところに情報を出すべきである、という意見があり、例えば、電車内の宣伝動画やCMで情報を出すこと（＝見ようと思わなくても見る可能性が高い）、インターネットでも工夫次第で見られるようになる（＝見たくなるようなコンテンツにする）のでは、と述べていた。

表 26 「原子力・放射線・エネルギーの知識に関する調査結果を見て得られた主な意見」

- エネルギー分野に関心がない人が多いのだろう。停電が日常化するなど、エネルギーのない生活が恒常化すれば、エネルギーに対する関心が高まるだろうが、現在は日常生活で不満を感じることはないので、関心が高まらないのだと思う。
- 福島原発の事故以降、エネルギーや原子力は、関心が向かない分野になっているのではないかと（臭いものには蓋をする。ネガティブな事柄については積極的に考えない）。
- 一般的に、何か問題が起きたときにその分野に対する関心が高まるのだと思う。日本では、エネルギー分野で大きな問題が起きていないため、関心が向かないのだろう。その先の段階であり、また複雑な事柄でもある「プルサーマル」などは、なおさらポイントが低くなるのだろう。
- 「自給率 6%」の認知度がこれほど低いにも関わらず、原発の必要・不要の議論をしているのはおかしいと思う。
- 自給率 6%の認知率が低いなど、エネルギーに興味がない人が多いということを改めて感じた。
- 「自給率 6%」や、現在の化石燃料への依存率を知らないということは、事実ではなくイメージで回答している人が多いのだろう。
- 「日本のエネルギー自給率は 6%」は、知らなかった。大学生でも知らない人が多いのではないかと。（自給率は 1 割程度だと思っていた。自給率はもっと少ないと思っていた。「エネルギー自給率」という言葉そのものになじみがない）
- 授業で聞く前は、「エネルギー自給率」のことはよく知らなかった。授業で聞いて、意識するようになった。
- 「日本のエネルギー自給率は 6%」は、クラスのほとんどの人が知らないし、興味がないと思う。日常生活ができていれば、あまり気にしない人が多いのではないかと。
- 原油安が続いているため、コスト（電気料金）に関する関心が低下しているのだろう。原油危機が起これば、エネルギーに対する関心は高まると思うし、原子力発電の必要性の認識も変わってくると思う。
- ヨーロッパのように他国と陸続きで、かつ、電力のやり取りがあれば、他国の電力事情に関心を持つと思うが、日本は独立しているため、他国の電力事情への関心は高くないのだろう。
- 3.11 の後、ドイツは原発を廃止するから、日本も原発をやめよう、という報道が多かった。一方で、フランスの電力事情についての報道はほとんど聞いたことがなかった。その割には、「ドイツの電力事情」と「フランスの電力事情」のポイントにあまり差がないように感じる。
- 非常に難解な選択肢もある。ただ、「プルサーマル」のポイントが「日本のエネルギー自給率」よりも高いのは意外だ。

- 「原子力発電の仕組み」「火力発電の仕組み」の認知度が、予想よりも高かった。「タービン発電機」などを理解した上で丸をつけているのだろうか。3.11直後のテレビ報道で、原発の仕組みの解説が多かったためだろうか。

知識を伝えるためのアプローチ

- 教育が大切だと思う。20代以上は、学ぶ機会が与えられないので、自分から積極的に情報を取りに行くか、もしくは、マスコミの情報に影響されるか、だと思う。(重要な事柄は、入試問題に取り入れるというのもひとつの手か)
- 授業で、「分かりにくい専門知識を伝えるにはどうしたらいいか」という議論があった。テレビ番組で専門家が話せばいいのではないか、という意見があった。親しみを持てる先生や、身近な人の話のほうが、理解が得られやすいと思う。そういう視点からテレビ番組を作る必要があると思うが、テレビ局は視聴率を気にして番組を作成している。また、NHKの教育ドキュメンタリーも、視聴率はあまり高くなさそうだ。
- まずは人の目につくようにする必要があると思う。テレビ番組の他に、印象に残るCMを流すという手法もありうる。「今でしょ」の林修氏のように、専門家がタレントになるという手法もあるか。
- 自然と目につく場を活用してはどうか。例えば、電車の液晶パネルは、興味がなくても目につく。そういった場を活用して、豆知識として広報してはどうか。
- インターネットバナーは見ない。広告詐欺、冗談やでたらめだと思ってしまうかもしれない。
- YouTubeの冒頭のCMは、興味を引くものだったら、15秒くらいは見てもいいか、と思える。(見てもいいと思えるかどうかは、CMのクオリティに依存する)
- かつて、テレビ番組で、「六ヶ所村に核燃料関連施設を作ろう」というCMが繰り返し流れていたことが印象に残っている。エネルギー業界がバックアップして、エネルギー関係のCMを大量に流してはどうか。
- クイズ番組で、ある事柄に対して、それが何%かを予想する問題があった。「エネルギー自給率は6%」という問題を取り入れてはどうか。

⑥情報源

情報源（メディア）について今年度の調査では、昨年度の調査で詳細化したインターネットに加えて、テレビの内訳を詳細化した。この結果を見て、従来のメディア、インターネットを含めて、マスメディアの影響力が大きいことを再認識したという意見が見られた。また、「家族・友人・知人との会話」が予想以上に大きいという意見も聞かれた。

社会性の高い人（社会へのコミットメントを重要だと考える人）は、情報獲得も積極的であることから、情報獲得に関わる性質（受動的な情報源か、能動的な情報源か）によって分析をする可能性について述べた意見も見られた。

広聴・広報に関する意見としては、前提として、人々が原子力やエネルギーにあまり関心がないことを述べ、無関心層にどうにか情報を伝えていくことが大切であり、そのときには、やはりテレビの影響力が大きいことを指摘している。

ただし、福島第一原子力発電所の事故から5年経ち、事故の記憶が風化しているので、関心を持って聞いてもらう機会は減る一方であり、このような状況で、政府が「本音」を伝えるには、タイミングが重要になるとの指摘もあった。

表 27 「情報源・広聴・広報に関する調査結果を見て得られた主な意見」

- 原子力に関わらず、様々な社会事象に関して、この回答傾向はあまり変わらないのではないかと。徐々に「テレビ」や「新聞」のポイントが低下し、「インターネットのニュースサイト」や「ニュースアプリ」のポイントが高まっていくと思う。「家族・友人・知人との会話」のポイントは、今後もあまり経年変化しないと思う。
- 結局はテレビが強い、という印象を持った。日本の場合、「ニュース」と言っても、キャスターによっては偏った発言も多く、視聴者はその影響を受けているのではないかと。
- 「新聞」は、紙媒体のみなのだろうか。最近は電子版の新聞もあるし、インターネットのニュースサイトで記事がまとめられている場合もある。電子版の場合は、検索する単語によって、色付けをして表示してくれるものもある。
- 新聞の電子版の会員数はそれほど多くないと思われる。「スマートフォンのニュースアプリ」の利用者は多いと思う。
- 国民が接する情報源はテレビや新聞が多いが、記者が番組・記事を作る際には、インターネットで情報収集して確認する機会が多いのではないかと。根拠のある情報がインターネットで上位に出てくるような状態にする必要がある。現在は、これがないので、インターネット上の根拠のない情報が、マスメディアを通じて、広く国民に伝わってしまっている状態だ。
- 「テレビ」は点いていけば自然と情報が入ってくる。「新聞」は読まなければならない。興味・関心がなくなるほど、自然と入ってくる媒介からの情報入手が増えるのではないかと。「インターネットのニュースサイト」は、読むか読まないかを本人が選択するので、関心がないとそもそも読まない。ニュースサイトを用いて関心を喚起するのは難しい。テレビのニュースは、関心があればしっかり聞き、関心がなくても流れていけば耳に入ってくるので、情報を伝えるという意味では悪くないメディアだと思う。
- 「家族・知人・友人との対話」のポイントが、予想よりも高かった。特に、原発立地地域や周辺地域では、家族や知人と、原子力について会話する機会が多いのだろう。
- 「雑誌」「本・パンフレット」が長期的に減少傾向にあるのが気になった。
- 地元で原発があり、再稼働が迫っていれば、講演会などに参加したいと思うだろう。また、事故直後ならば、説明を聞きたいと思うだろう。事故から5年経って、人間の記憶はどんどん風化していくことを痛感している。近所に原発がない人にとっては原子力の問題は他人事で、それらの人々が積極的に情報を集めることは考えにくい。
- クロス集計結果の経年変化が気になる。今後の調査に期待したい。
- 情報収集への積極性が高い人は、全ての項目が高くなりそうだが、そうでもない。「知識の有無」とピークが似ているように思う。情報収集積極性が高い人や、知識の高い人は、いろいろな情報源から情報を得て、反芻して、自身の意見を固めているのだと思われる。
- 「社会性が低い」ということは、社会に対する関心が低いので、情報を取ろうとは思わないのだろう。
- 「家族・知人・友人との会話」の頻度は、本人の置かれている環境に依存するか（周りに関心が高い人がいれば、よく会話するだろう）
- 経年でポイントが減った項目もあるが、その代わりにインターネット関係の項目のポイントが増えている。情報を得るのにお金をかけたくないという人が増えているのだろう。
- 「小さい子供あり」は、関心が高い人が多い。
- 原発 UPZ 圏内では、「自治体の広報紙」のポイントが高い。立地地域では、自治体の広報紙を参照する人が多いのだろう。
- 「学校」において、原子力やエネルギー政策について、もう少しいろいろなことを教えてもいいのではないかと。学年に応じて内容を変えて、教育の中に取り入れて、教えていくべきだと思う。
- 能動的に獲得しなければいけない情報源と、受動的に得られる情報源とを分けて分析してみてもどうか。テレビやラジオは点けっぱなしにしていれば情報が流れてくる。新聞や雑誌は自ら読まなければいけない。「インターネット」は、能動的に獲得しなければいけない媒体だが、バナーなどもあるの

で、分類が難しいが。

- テレビに関わる身としては、原子力に関するニュースを通じて、福島の状態、規制委員会の活動、電力需給、世界的な情勢など、幅広い情報を与えることが、国民の判断の基準になるし、関心を高めるきっかけになると考えている。現時点では「テレビ」を情報源にしている人が多いので、果たせる役割は大きいと思う。
- 専門的な情報、社会的（一般的）な情報の両面について、根拠のある情報をどんどん作っていく必要があるだろう。
- 輿論（オピニオン）と世論（センチメント）とを区別して考える必要があるだろう。センチメントを基に、政策が変な方向に進まないように注意する必要がある。日本の歴史を見ると、後の時代に良かったと言われている政策は、当時は国民から大反対されていた、という意見もある。日本人の国民性も考慮しなければならないだろう。
- 慎重派の取材を受ける機会があるのだが、一部分を切り取られて報道されてしまうこともある。逆に、プラスの意見を伝えていく手段があればいいと思う。また、対象層（賛成層、保留層、反対層）に合わせた広報が必要だろう。特に、保留層に訴えかけていく必要があるだろう。

広聴・広報

- 世間一般では、原子力やエネルギーにあまり関心がない人が多いと思う。
- 原子力に関する情報を広めていくには、テレビの影響力が大きいと感じた。
- 現在は、何か物事を調べる際にインターネットを活用する人が多い。英語の情報は量も多いし、世界中で活用されている。一方、日本では、インターネットで検索されやすい情報提供を考慮していないホームページも多い。（キーワードで検索してもホームページが検索結果の上位に出ない）
- 日本語の報告書には、アブストラクトがないという欠点がある。また、日本での報告書の公開は、ホームページに報告書のPDFを載せているだけのことが多い。PDFでは、どこにどんな情報が載っているかが分からない。英語圏の報告書は、目次のキーワードをクリックすると該当箇所に飛べるような作りで公開されている。
- 国民に対する情報伝達の仕方に不備があったのではないかと思う。「原子力発電所の見学」というと躊躇してしまう面もあるが、広報活動によって、ポジティブな方向に影響を与えられればいいのではないか。
- 「1割の推進、1割の反対、8割の無関心」とよく言われているが、無関心の方々にいかに知らせていくかが大切だと思う。義務教育の中に、自国のエネルギー政策のことを組み込んでほしい。そうすれば、無関心層が減っていくのではないだろうか。
- 具体的な情報公開の手段が分からなかったのは悩ましい。意見が固まっている方に呼びかけていくことは難しいので、「どちらともいえない」「分からない」という方にいかに呼びかけていくかが大切だろう。
- 様々なクロス集計軸で調査結果を見ていくと、どのような層がどのような意見を持っているのかが分かるような気がする。対象者がどのような考え方をしているかを想像しながら、広報手段を考えていきたい。
- 事故から5年経ち、事故の記憶が風化しているので、関心を持って聞いてもらう機会は減る一方だと思う。このような状況で、政府が「本音」を伝えるには、タイミングが重要になる。（再稼働など関心が高まるタイミングで、政府の本音を伝えていく。もんじゅの問題が発生したが、そのタイミングで再処理について考えてもらう。最終処分場の有望地の公開に合わせて、政府としての考えを伝えていく、など）

(3) インタビュー結果の分析

調査結果の経年変化を見てみると、昨年度まで福島事故直後の感情的な反応は薄らいできていたものの、川内原子力発電所の再稼働によって、人々のこの問題に対する関心が一時的に高まっている状態であると言えるだろう。

原子力発電に対する態度に関するインタビューでも、前年度では「原子力発電をしばらく利用するが、徐々に廃止していくべきだ」と回答する者がおよそ 5 割という結果について、多くのインタビューイが納得する結果だという意見が多かったのに対し、今年度では、原子力発電所の再稼働と絡めた意見が多く見られている。また、若年層（10 歳代・20 歳代）の回答者においては、原子力発電を比較的受け入れるということについての指摘がなされ、現実的なエネルギー源として試みているのではないかな等の意見が聞かれている。

原子力発電所の再稼働に関する調査結果からは、「政府はもっと前面に出て安全に対する責任を示すべきだ」という項目に関する意見が多く見られた。多くのインタビューイは、この項目に対して同意を示し、国がもっと積極的なコミュニケーション活動を展開すべきとの意見も聞かれた。

特に、原子力規制委員会の適合審査を経て、再稼働することについての人々の認識が、今後の原子力発電に対する態度に影響を及ぼすだろうとの意見もあり、原子力発電所の再稼働に関わるプロセスに関して、原子力規制委員会の役割を含めて、十分に情報を発信していく必要があるだろう。

ただし、この一時的に関心が向上している状態は、当然、不安感や危険イメージも誘起していることに注意が必要だ。今年度の調査では、「不安」「危険」イメージについて、前年度の調査よりもポイントが上昇していることを指摘する意見が多く見られる。

同時に、福島第一原子力発電所の事故を契機として、信頼が失墜し、その後も回復していないということについて、信頼できない理由として、情報公開の不足に触れ、事故以降の対応が見えないことを指摘している意見がある。また、事故の対応について、国、原子力事業者の活動が共に見えないことも、その理由のひとつではないか、という意見も聞かれる。また、必ずしも原子力の問題でなく、他の問題（たとえば安全保障法制など）の国の対応を見て、国に対する信頼感の低下があるだろうという指摘もある。

これらを踏まえ、信頼を回復するためにどうしたらよいか、ということについても意見が多く聞かれた。人々には国や事業者の活動の裏に隠された意図のようなものを感じている場合が多いことから、「建前を排し、本音を語るというように、正直に話すことが大切」という意見や、「丁寧に説明する」こと、「根拠となる情報を示す」ことなど、情報公開のあり方に関する意見も示されている。

一方、福島第一原子力発電所の事故から 5 年経ち、事故の記憶が風化しているため、関心を持って聞いてもらう機会は減る一方であって、政府がこのような「本音」を伝えるには、タイミングが重要になるとの指摘もある。これらを考えると、原子力発電所の再稼働とは、人々の関心も向上する機会でもあり、適切な情報を伝えうるタイミングにもなるだ

ろう。

また、エネルギー自給率をあまり知られていないということに対して、納得できるとする意見が多く聞かれた。その理由として、関心の低さが指摘された。人々が原子力やエネルギーにあまり関心がないことが、知識を持っていない大きな理由であると考えられるので、無関心層にどうにか情報を伝えていくことが大切であるという意見が見られる。そして、そのメディアとしては、やはりテレビの影響力が大きいことを指摘している。

若年層のインタビューからは、とにかく目の付くところに情報を出すべきである、という意見があり、例えば、電車内の宣伝動画やCMで情報を出すこと（＝見ようと思わなくても見る可能性が高い）、インターネットでも工夫次第で見られるようになる（＝見たくないようなコンテンツにする）のでは、と述べていた。

一方、例えば、社会性の高い人（社会へのコミットメントを重要だと考える人）は、情報獲得も積極的であって、多くの情報源から情報を得る。このように、情報獲得に関わる性質（受動的な情報源か、能動的な情報源か）によって、そこから情報を獲得する人々の分類が異なる可能性もあるだろう。このように、情報を受け取る側の性質も考慮しつつ、情報を発信するタイミングを見ながら、できるだけ「本音」を分かりやすく含んだ情報を発信していくことが望まれている。